



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2024

令和 6 年度

シラバス

人間発達学部 子ども教育学科



本学の授業とSDGsとの関連

シラバス内で授業内容と「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」との関連を示しています。関連する目標は番号で示されておりますので、履修の参考にしてください。



17の持続可能な開発目標

目標 1.	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2.	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4.	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
目標 5.	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
目標 6.	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7.	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8.	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
目標 9.	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10.	各国内および各国間の不平等を是正する
目標 11.	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する
目標 12.	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13.	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14.	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15.	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16.	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

～シラバス内の表記について～

例として、授業内容が「目標 1」、「目標 3」、「目標 10」、「目標 16」と関連がある場合は下記のように表記します。特に関連のある目標を示しています。空欄であるからといって、いずれの目標にも全く関連しない、ということではありません。

SDGsとの関連	①	③	⑩	⑯

アクティブラーニング(AL)とは

文部科学省の用語集によれば、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とあります。具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれ、教室内でのディスカッション、グループワーク等も有効なアクティブラーニングの方法です。

これらを導入することにより、主体的対話的で、より質の高い学修効果を得ることが期待できます。

本学では以下のように、アクティブラーニング(AL)を定義しています。

PBL（Project Based Learning） （課題解決型学習）	テーマに沿ったプロジェクトまたは特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して様々な知識・スキルを学ぶ方法
反転授業	授業と予習を「反転」させ、事前に C-learning 等で知識取得を行っておき、授業では理解度の確認や課題解決型の演習等を行う方法
ディスカッション、ディベート	授業において、特定のテーマについて対話を通して理解を深める方法
グループワーク	学生を少人数グループにグループ分けし、与えられた課題の解決に向けて協同で取り組む方法。2人組によるペアワークを含む。
プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて、発表資料を作成し、他者の前で自ら発表を行う方法
演習、実験、実習、実技	能動的な学修方法を取り入れている場合には該当します。
フィールドワーク	学内外のフィールドを調査・観察場所として、調査や観察を通して情報収集を行う方法
指導案作成、模擬授業	教職課程科目において、自ら授業を実践する目的で、学習指導要領を参考に指導案を作成し、具体的な授業を実践し、教育実践力を育成する方法
リアクションペーパー	C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、毎授業後に学生の理解度や、反応、感想を書かせる方法
その他	上記以外のアクティブラーニングを用いる場合

～シラバス内の表記について～

実施するアクティブラーニングの種別に○印がついています。また、該当する種別が無い場合は、下記のように「その他」に○印があり、その実施方法が下段の“「その他」のアクティブラーニング実施方法”に記載されています。

アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテー ション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成 模擬授業	リアクシ ョン ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける、 ロールプレイング 等									

内容

健大で学ぶ Well-being(教養基礎)	5
基礎教養ゼミ(教養基礎)	8
日本語表現法(教養基礎)	11
日本国憲法(教養基礎)	13
法学(教養基礎)	15
経済学(教養基礎)	17
社会学(教養基礎)	20
生涯健康論(教養基礎)	22
生涯学習概論(教養基礎)	25
生命と環境の科学(教養基礎)	27
国際関係論(教養基礎)	31
体育理論(教養基礎)	34
体育実技(教養基礎)	36
キャリア形成論(教養基礎)	38
哲学(人間理解)	41
倫理学(人間理解)	43
心理学(人間理解)	45
文学と人間(人間理解)	48
芸術論(人間理解)	50
ボランティア・市民活動論(人間理解)	52
人権論(人間理解)	54
人間関係論(人間理解)	57
ジェンダー論(人間理解)	59
共生の倫理(人間理解)	61
チーム医療アプローチ論(人間理解)	63
国際保健医療論(人間理解)	65
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)	68

囲碁の世界(人間理解)	71
英語 IA(リテラシー)	73
英語 IB(リテラシー)	75
英語 IC(リテラシー)	77
英語 II A (リテラシー)	79
英語 IIB(リテラシー)	81
英語 IIC(リテラシー)	83
英語 IIIA(リテラシー)	85
英語 IIIB(リテラシー)	87
英語 IIIC(リテラシー)	90
英語 IVA (リテラシー)	92
英語 IVB (リテラシー)	94
英語 IVC(リテラシー)	96
Integrated English I (リテラシー)	98
Integrated English II (リテラシー)	100
ドイツ語(リテラシー)	102
フランス語(リテラシー)	104
ポルトガル語(リテラシー)	106
中国語(リテラシー)	109
ハングル語(リテラシー)	111
情報リテラシー I (基礎教養科目)	113
情報リテラシー II (基礎教養科目)	115
情報リテラシー III(リテラシー)	117
情報リテラシー IV(リテラシー)	119
情報リテラシー V	121
情報リテラシー VI(基礎教養科目)	123
レクリエーション論(専門教養)	125
子どもと医療(専門教養)	127
宗教と倫理(専門教養科目)	129

人間発達論(専門教養)	131	保育内容総論(保育・教育の内容)	196
人間行動学(専門教養)	133	保育内容健康(保育・教育の内容)	198
音楽基礎Ⅰ(幼・保)(専門教養)	135	保育内容人間関係(保育・教育の内容)	200
音楽基礎Ⅰ(小学校)(専門教養)	137	保育内容環境(保育・教育の内容)	202
音楽基礎Ⅱ(幼・保)(専門教養)	139	保育内容言葉(保育・教育の内容)	205
音楽基礎Ⅱ(小学校)(専門教養)	141	保育内容表現(保育・教育の内容)	208
現代教育論Ⅰ(専門教養)	144	子どもの食と栄養Ⅰ(保育・教育の内容)	211
現代教育論Ⅱ(専門教養)	148	子どもの食と栄養Ⅱ(保育・教育の内容)	213
世界と子ども(専門教養)	152	乳児保育Ⅰ(保育・教育の内容)	215
特別支援教育入門(専門教養)	154	乳児保育Ⅱ(保育・教育の内容)	217
教育における情報機器の操作Ⅰ(専門教養)	156	障害児保育Ⅰ(保育・教育の内容)	219
教育における情報機器の操作Ⅱ(専門教養)	159	障害児保育Ⅱ(保育・教育の内容)	221
保育原理(保育・教育の原理)	162	社会的養護Ⅱ(保育・教育の内容)	223
教育基礎論A(保育・教育の原理)	164	子どもの健康と安全(保育・教育の内容)	225
教育制度論A(保育・教育の原理)	166	幼児と健康(保育・教育の内容)	227
地域教育社会論(保育・教育の原理)	168	幼児と人間関係(保育・教育の内容)	229
子ども家庭福祉Ⅰ(保育・教育の原理)	170	幼児と環境(保育・教育の内容)	231
子ども家庭福祉Ⅱ(保育・教育の原理)	172	幼児と言葉(保育・教育の内容)	233
障害者福祉論(保育・教育の原理)	174	幼児と表現(保育・教育の内容)	235
社会福祉(保育・教育の原理)	176	国語(保育・教育の内容)	238
社会的養護Ⅰ(保育・教育の原理)	178	社会(保育・教育の内容)	240
子どもの保健(保育・教育の原理)	180	算数(保育・教育の内容)	242
教育心理学A(保育・教育の原理)	182	理科(保育・教育の内容)	245
子ども家庭支援の心理学(保育・教育の原理)	184	生活(保育・教育の内容)	247
遊びの指導(保育・教育の原理)	186	家庭(保育・教育の内容)	250
保育者論(保育・教育の原理)	188	音楽(保育・教育の内容)	252
教師論A(保育・教育の原理)	190	図画工作(保育・教育の内容)	255
青年心理学(保育・教育の原理)	192	体育(保育・教育の内容)	258
こころの健康(保育・教育の原理)	194	外国語(英語)(保育・教育の内容)	261

英語学概論(保育・教育の内容).....	264	幼児音楽演習Ⅱ(保育・教育の方法技術).....	324
学校英文法論(保育・教育の内容).....	266	初等音楽演習Ⅱ(保育・教育の方法技術).....	326
現代英語学の理論と応用Ⅰ(保育・教育の内容).....	269	在宅保育論(保育・教育の方法技術).....	328
現代英語学の理論と応用Ⅱ(保育・教育の内容).....	271	子ども家庭支援論(保育・教育の方法技術).....	330
英語文学入門(保育・教育の内容).....	273	親子遊び論(保育・教育の方法技術).....	332
英語文学批評(保育・教育の内容).....	275	教育課程論A(保育・教育の方法技術).....	334
英語文学論(保育・教育の内容).....	278	カリキュラム論(保育・教育の方法技術).....	336
英語児童文学論(保育・教育の内容).....	280	幼児教育の方法と技術(保育・教育の方法技術).....	338
英語教育学Ⅰ(保育・教育の内容).....	282	初等特別活動論(保育・教育の方法技術).....	340
英語教育学Ⅱ(保育・教育の内容).....	284	初等教育方法論(保育・教育の方法技術).....	342
Communicative Classroom EnglishⅠ(保育・教育の内容)		中等特別活動論(保育・教育の方法技術).....	344
.....	287	中等教育方法論(保育・教育の方法技術).....	346
Communicative Classroom EnglishⅡ(保育・教育の内容)		教育におけるICT活用.....	348
.....	290	国語科指導法(保育・教育の方法技術).....	350
Writing for English Teaching(保育・教育の内容).....	293	社会科指導法(保育・教育の方法技術).....	352
Speech Workshop(保育・教育の内容).....	295	算数科指導法(保育・教育の方法技術).....	354
異文化コミュニケーション論(保育・教育の内容).....	298	理科指導法(保育・教育の方法技術).....	357
ヨーロッパ思想と多文化理解(保育・教育の内容).....	300	生活科指導法(保育・教育の方法技術).....	360
表現演習(保育・教育の内容).....	302	家庭科指導法(保育・教育の方法技術).....	362
絵本論(保育・教育の内容).....	304	音楽科指導法(保育・教育の方法技術).....	364
家庭教育と幼児教育(保育・教育の内容).....	306	図画工作科指導法(保育・教育の方法技術).....	367
パーソナリティの心理学(保育・教育の内容).....	308	体育科指導法(保育・教育の方法技術).....	370
特別の支援を必要とする子ども理解と支援法(保育・教育の方		外国語(英語)の指導法(保育・教育の方法技術).....	372
法技術).....	311	英語科指導法Ⅰ(保育・教育の方法技術).....	376
子どもの理解と援助(保育・教育の方法技術).....	313	英語科指導法Ⅱ(保育・教育の方法技術).....	379
造形(保育・内容の方法と技術).....	315	英語科教材研究Ⅰ(保育・教育の方法技術).....	382
幼児音楽(保育・教育の方法技術).....	317	英語科教材研究Ⅱ(保育・教育の方法技術).....	384
幼児音楽演習Ⅰ(保育・教育の方法技術).....	319	小学校理科実験(保育・教育の方法技術).....	386
初等音楽演習Ⅰ(保育・教育の方法技術).....	321	総合的な学習の時間論A(保育・教育の方法技術).....	388

初等道德教育論(保育・教育の方法技術)	390	中学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)	444
中等道德教育論(保育・教育の方法技術)	392	特別支援学校教育基礎実習(実習)	445
保育内容指導法(保育・教育の方法技術)	394	特別支援学校教育実習(事前事後指導を含む)(実習)	447
幼小教育相談(保育・教育の方法技術)	396	保育・教職実践演習(幼)(実践演習)	449
中学校教育相談(保育・教育の方法技術)	398	教職実践演習(小中)(実践演習)	451
生徒指導論A(保育・教育の方法技術)	401	卒業研究(卒業研究)	454
初等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)	403	特別支援教育概論(特別支援)	457
中等生徒指導論(保育・教育の方法技術)	405	特別支援教育の課題と実践(特別支援)	460
中等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)	407	知的障害児の心理・生理・病理(特別支援)	462
子どもの英語コミュニケーション指導(保育・教育の方法技術)	409	肢体不自由児の心理・生理・病理(特別支援)	464
学校危機管理論(保育・教育の方法技術)	411	病弱児の心理・生理・病理(特別支援)	466
心理検査法(保育・教育の方法技術)	413	障害児の発達診断(特別支援)	468
家族療法(保育・教育の方法技術)	415	知的障害児の指導(特別支援)	470
保育方法論(保育・教育の方法技術)	417	肢体不自由児の指導(特別支援)	472
心身の発達と学習過程(保育・教育の方法技術)	419	病弱児の指導(特別支援)	474
子育て支援(保育・教育の方法技術)	421	知的障害児教育演習(特別支援)	476
チーム医療アプローチ演習(保育・教育の方法・技術)	423	肢体不自由児教育演習(特別支援)	479
保育実習Ⅰ(実習)	425	病弱児教育演習(特別支援)	482
保育実習指導Ⅰ(実習)	426	視覚障害・聴覚障害教育総論(特別支援)	485
保育実習Ⅱ(保育所)(実習)	429	知的障害者教育総論(特別支援)	487
保育実習Ⅲ(施設)(実習)	430	重複障害児教育総論(特別支援)	490
保育実習指導Ⅱ(実習)	431	発達障害児教育総論(特別支援)	492
保育実習指導Ⅲ(実習)	433	学校経営と学校図書館(司書教諭)	494
幼稚園教育基礎実習(実習)	435	学校図書館メディアの構成(司書教諭)	497
小学校教育基礎実習(実習)	437	学習指導と学校図書館(司書教諭)	499
中学校教育基礎実習(実習)	439	読書と豊かな人間性(司書教諭)	502
幼稚園教育実習(事前事後指導含む)(実習)	440	情報メディアの活用(司書教諭)	505
小学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)	442		

科目名	健大で学ぶ Well-being(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB000				
英文名	Steps to Well-being at KENDAI.				講義形態	講義				
担当教員	【情報】: 東福寺幾夫、【福祉】: 出雲春明、内田幸子、【栄養】: 下川哲昭、【薬】: 松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司、【看護】: 吉田久美子、倉林しのぶ、【理学】: 中川和昌、【子ども】: 栗原幸正、【農】: 大政謙次、吉積毅、廣瀬竜郎、松岡寛樹、齋藤文信、清水庸									
科目に関連した実務経験	【子ども】栗原: 公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	2	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1234567891011121314151617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①講義の目標 高崎健康福祉大学(健大)を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。 健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わり方の例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。 以上を通じて、Well-being 社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。 ②講義の実施方法 全講義オンデマンド式とする。 1.講義の開講について 講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日 15 時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内に C-learning の教材倉庫中のリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、C-learning から小テストを実施すること。 なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学グーグルアカウントにログオンした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。 2.講義の出席について 原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGs との関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。 3. 講義後の入力提出について 講義視聴後に自身が感じた自利利他や SDGs への考え、講義の感想など思った事を C-learning のアンケートから入力すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。									
到達目標	1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。 2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。									

	3. SDGs を知り、理解を深める。■			
使用教材	各講義回で利用する資料・教材がある場合には C-learning を通じて電子ファイルで配布を行う。			
参考文献	なし			
評価方法	第1回の受講(4%)と各講義回の講義動画閲覧と小テスト:2~9 回(各 12%)の合計 100%で評価する。			
課題・評価に対する フィードバック方法	小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。			
オフィスアワー (研究室)	質問は C-learning 連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。 情報: 東福寺(1号館 605 研究室) 福祉: 出雲(1号館 511 研究室) 栄養: 下川(1号館 311 研究室) 薬: 松岡(7 号館 312 研究室) 看護: 吉田久(5 号館 410 研究室) 理学: 中川(3 号館 204 研究室) 子ども: 栗原(8 号館 学部長室) 農: 清水(10 号館 504 研究室)	メールアドレス (#→@)	情報: 東福寺(tofukuji#takasaki-u.ac.jp) 福祉: 出雲(izumo-s#takasaki-u.ac.jp) 栄養: 下川(shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp) 薬: 松岡(isao#takasaki-u.ac.jp) 看護: 吉田久(yoshikumi#takasaki-u.ac.jp) 理学: 中川(nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp) 子ども: 栗原(kurihara-y#takasaki-u.ac.jp) 農: 清水(shimizu-y#takasaki-u.ac.jp)	
1	講義内容	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え(高崎健康福祉大学 学園長、学長)。		
	該当到達目標	予習	自利利他の意味、SDGs について調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログインできるようにしておく (各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までに オンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと)。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
2	講義内容	医療情報学科(東福寺): 1. 健康・医療と情報技術、2. 医療 DX と人材養成、3. 本学の禁煙化		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
3	講義内容	社会福祉学科(出雲、内田): 誰も置き去りにしない社会		
	該当到達目標	予習	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1 時間
4	講義内容	健康栄養学科(下川、木村): 母性行動の生理学的基盤		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
5	講義内容	薬学部(松岡、須藤、高橋、田中): Well-being とクスリ		
	該当到達目標	予習	薬剤師の業務について調べておく。C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
6	講義内容	看護学科(吉田、倉林)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
7	講義内容	理学療法学科(中川)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
8	講義内容	子ども教育学科(栗原): 学校教育と LGBT ■		

	該当到達目標	予習	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	1 時間
9	講義内容	農学部（大政、吉積、廣瀬、松岡、齋藤、清水）		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				18 時間
備考	1.授業の時間について 記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。			
	2.動画へのアクセスについて 各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態の端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。			
	3.質問などについて 各講義回で生じた <u>内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。</u> 連絡を C-learning 経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合には E-mail で再度連絡を行う事。			
	4.成績評価について 講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定(N)」となり、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時の CAP のカウントには含めない。			
	■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	基礎教養ゼミ(教養基礎)						科目 ナンバリング	LAB001		
英文名	Freshman Seminar (FYE)						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、根岸 恵子、小泉 英明、永井 崇									
科目に関連した 実務経験	小泉: 人事、社員教育担当として企業にて勤務(経験) 永井: 記者、編集者として新聞社にて勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養			4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
		専門的知識			1	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法	Think Pare & Share, Round Robin, 作文添削、個別指導など 小テスト等は採点后返却し解説する									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」。学生にとって必要なこうしたスキルをしっかりと身につけていくことを、講義の目標としている。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。 授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。									
到達目標	1. 大学での学習生活を確立する。 2. 基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。 3. 社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■ 4. 総合適性検査(SPI)を意識し、対応するための基礎力を養成する。 5. キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■ 6. 効果的なアクティブラーニングを自ら体得し、実践できるようになる。									
使用教材	資料、プリント									
参考文献										
評価方法	参加貢献度 50%、提出物 50%で総合的に評価する。総合評価 60%を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。									
オフィスアワー (研究室)	学習支援センター(2号館2階) 月～金開室 以下の時間に質問を受け付ける。 ●数的処理→常時 ●言語関係・レポート等→木曜3時限				メールアドレス (#→@)		machida#takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	大学で何を学ぶか(意義と目的)		
	該当到達目標 1	予習	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。	1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1 時間
2	講義内容	書くためのスキル(ノート、レポート・論文の書き方)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	ノートテ—キング、レポートの書き方をマスターする。	1 時間
3	講義内容	基礎力テスト(計算／言葉)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1 時間
		復習	今までの学習を振り返り、復習する。	1 時間
4	講義内容	解くためのワークⅠ(計算)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	計算方法や文章題の復習をしておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
5	講義内容	考えるためのワークⅠ(言葉の多様性①GW)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
6	講義内容	コミュニケーションスキルⅠ(アクティブラーニング GW)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	自己のコミュニケーションスキルを分析する。	1 時間
7	講義内容	考えるためのワークⅡ(言葉の多様性②)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
8	講義内容	解くためのワークⅡ(数的処理①)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
9	講義内容	キャリアデザイン■		
	該当到達目標 1,2,5	予習	自らの人生設計について考えておく。	1 時間
		復習	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1 時間
10	講義内容	考えるためのスキルⅠ(新聞を読み説く)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
11	講義内容	解くためのワークⅢ(数的処理②)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
		復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
12	講義内容	コミュニケーションスキルⅡ(プレゼンテーション GW)		
	該当到達目標 1,2,3,5	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
		復習	プレゼンテーション資料を作成してみる。	1 時間
13	講義内容	シンポジウム—より充実した学生生活をめざして		
	該当到達目標 1,2	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
		復習	興味あるトピックについて発表できるようにする。	1 時間
14	講義内容	実力テスト		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今まで学習した内容を復習しておく。	1 時間
		復習	試験の内容を振り返り、学習する。	1 時間

15	講義内容	考えるためのスキルⅡ（社会を正しく理解する）		
	該当到達目標 1,2,3,5	予習	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1 時間
		復習	大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	GW＝グループワーク 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	日本語表現法(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB002	
英文名	Japanese Expression Method							講義形態	講義	
担当教員	古澤 良文									
科目に関連した 実務経験	記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				5	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるため に、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生 じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他 者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘 する機会を設け、学士力向上を図る。 現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校 までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明 する。小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。									
到達目標	1. 自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 2. 日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 3. 日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 4. 文章の組み立て方を理解し、習得できる。 5. 日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■									
使用教材	担当教員作成のプリント。									
参考文献										
評価方法	筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通 達する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦す る。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後 1～2 時間。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は授業時に説明する。			
1	講義内容	原稿用紙の書き方(実際に執筆する)■								
	該当到達目標	予習	400 字詰め原稿用紙の使い方						1.5 時間	
	1	復習	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる						1.5 時間	
2	講義内容	日常生活の心掛け 小テスト(漢字の特殊読み)								
	該当到達目標	予習	社会の変動に関心を持つ						1.5 時間	
	1,4	復習	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える						1.5 時間	
3	講義内容	三段論法と逆三角形 小テスト(書けそうで書けない漢字)■								
	該当到達目標	予習	新聞記事を段落ごとに考えながら読む(新聞は図書館にある)						1.5 時間	
	2,4	復習	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する						1.5 時間	
4	講義内容	文章をうまく見せる 3 力条 小テスト(同音異義語)■								
	該当到達目標	予習	1 回目に書いた文章を見直す						1.5 時間	

	2,4	復習	1 回目に書いた文章を書き直してみる	1.5 時間
5	講義内容	主語と述語 小テスト(四字熟語ことわざ①)■		
	該当到達目標	予習	テキストをチェックしておく	1.5 時間
	2,3	復習	テキストの悪文例を正しく直す	1.5 時間
6	講義内容	小論文執筆(複数のテーマから 1 つを選んで書く)		
	該当到達目標	予習	4 回目のプリントチェック	1.5 時間
	1,2,3	復習	書き足りなかったことがないか	1.5 時間
7	講義内容	修飾語 俳句 小テスト(間違い探し①)■		
	該当到達目標	予習	文章はリズムが大切 俳句を作ってみる	1.5 時間
	2,4	復習	プリントの悪文例を見直す	1.5 時間
8	講義内容	話し言葉と書き言葉 小テスト(四字熟語ことわざ②)■		
	該当到達目標	予習	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 時間
	2,3	復習	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 時間
9	講義内容	手紙を書く		
	該当到達目標	予習	誰宛に書くか、何を書くか準備する	1.5 時間
	1,4	復習	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 時間
10	講義内容	センテンスは短く 小テスト(同義語反対語)■		
	該当到達目標	予習	新聞のコラムを読む	1.5 時間
	3,4	復習	悪文例を直す	1.5 時間
11	講義内容	小論文執筆(同じ形容詞や動詞を何度も使わないように)■		
	該当到達目標	予習	4 回目、7 回目のプリント見直し	1.5 時間
	1,2,3	復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間
12	講義内容	敬語 小テスト(四字熟語ことわざ③)		
	該当到達目標	予習	敬語の種類を調べる	1.5 時間
	3,4	復習	プリントの問題を解く	1.5 時間
13	講義内容	推敲 小テスト(間違い探し②)■		
	該当到達目標	予習	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 時間
	2,4,5	復習	自分の文章を直してみる	1.5 時間
14	講義内容	小論文執筆(小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く)■		
	該当到達目標	予習	社会問題を考える	1.5 時間
	1,2,3	復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間
15	講義内容	覚えておきたい短詩と台詞		
	該当到達目標	予習	知っている俳句短歌を思い出してみる	1.5 時間
	3,4,5	復習	声に出して読んでおく	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	日本国憲法(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB003	
英文名	Japanese Constitution							講義形態	講義	
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする 資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	4	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3458101617									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目指す。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。									
到達目標	1. 日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。 2. 憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。 3. 市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。 4. 政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。 5. 主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料、憲法条文注釈資料(テキストの代替) * テーマによっては DVD の視聴あり。									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題提出は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト									
課題・評価に対する フィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	憲法とは何か?ー憲法学習の意義と憲法の本質ー								
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明						2 時間	
	1	復習	予備知識アンケート						0.5 時間	
2	講義内容	国家・国民・政府ー憲法を構成する基本要素の内容ー								
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明						1 時間	
	1	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集						1.5 時間	
3	講義内容	日本国憲法の制定過程								
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明、資料;「日本国憲法の有効性」						1 時間	
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集						1.5 時間	
4	講義内容	日本国憲法の基本構造と特色								

	該当到達目標	予習	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	国民主権と天皇制		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	平和主義と 9 条解釈の変遷		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	基本的人権の沿革と観念		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	基本的人権規定の適用問題(範囲と限界)		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	日本国憲法上の諸権利の性格		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	国会の地位と国政選挙の仕組み		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	司法権の意義と法令審査権の性格		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	財政処理の基本原則と予算の構造と機能		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	権力分立制と地方自治・分権		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	憲法改正と憲法保障		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に日本国憲法上の満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C-ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	法学(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB004	
英文名	Law							講義形態	講義	
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3458101617									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法	テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入りの割り込ませることがある。									
到達目標	1. 法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。 2. 法制度の社会学的意義を理解することができる。 3. 契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる 4. 家族関係の法的処理の方法を理解することができる。 5. 法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキストに代替するプリント) * テーマによっては DVD の視聴あり。									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題については概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテストを実施する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学 習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	法の意義と機能								
	該当到達目標	予習	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと							2 時間
	1,5	復習	予備知識アンケート							0.5 時間
2	講義内容	成人と法一人の年齢と能力の法的意味								
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み							1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集							1.5 時間

3	講義内容	就職と法－採用の法的意味と選別の法的問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	労働と法－労働契約の内容と労働条件の保護		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	親子と法その 1－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	親子と法その 2－親権関係と扶養関係		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	国際化と法－出入国管理の法律関係と涉外事件の処理		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C－ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。			

科目名	経済学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB005		
英文名	Economics						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		専門的知識			1	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3481217									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答(ミニッツペーパー上の質問を含む)などを用いた双方向性授業。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。 授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。									
到達目標	1. 日本の経済の現状を説明できる 2. 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 3. 景気や GDP について理解を深め、概説できる 4. 国の予算や税金制度について説明できる 5. お金の流れや物価変動について説明できる 6. 経済政策について理解を深め、他者に説明できる 7. 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 8. 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる									
使用教材	必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。									
参考文献	推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。									
評価方法	学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	イントロダクション(一部 AL[アクティブラーニング]実施)								

8	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1 時間
		復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する	1 時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
3	講義内容	経済政策の 2 大潮流—マーケット or ケインズ(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
7	講義内容	国民所得 I (国の経済力はどう測るんだろう? GDP って何?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
8	講義内容	国民所得 II (あなたが 1 万円使うと GDP はいくら増える?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,4,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすること?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,5,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,6,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
13	講義内容	為替レートメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字? 赤字?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		

	該当到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間
	1,2,3,4,5,6 ,7,8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				39 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修(推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等)により、必要な学修時間を各自で補完すること。			

科目名	社会学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB006		
英文名	Sociology						講義形態	講義		
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において 3 年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力				1				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会学的なものの見方とは、どういうものなのか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。									
到達目標	1. 大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 2. 社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 3. 日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。 4. 社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 5. 現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■									
使用教材	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	平常点(毎回提出してもらいリアクションペーパー(設問形式)については、第 1 回目の講義で説明します)50%、学期末試験 50%です。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各受講生の提出したリアクションペーパー(設問形式)に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。									
オフィスアワー(研究室)	火曜日 5 限・6 限				メールアドレス (#→@)	adachi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、第 1 章社会学とは何か(1～12 頁)について解説する。								
	該当到達目標	予習	第 1 章を読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2,3,4	復習	第 1 章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5	時間
2	講義内容	第 2 章社会を観察する方法(13～24 頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第 2 章を読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2,3	復習	第 2 章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5	時間
3	講義内容	第 3 章社会で生きる「私」(25～35 頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第 3 章を読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2,3	復習	第 3 章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5	時間
4	講義内容	第 4 章変容する家族のかたち(36～47 頁)を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■								
	該当到達目標	予習	第 4 章を読んでおくこと。						1.5	時間
	1,2,3	復習	第 4 章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5	時間
5	講義内容	第 5 章性の多様なあり方を考える(48～59 頁)を解説する。								

	該当到達目標 1,2,3	予習	第 5 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 5 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	第 6 章「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—(60～72 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 6 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 6 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	第 7 章日本で進展する環境・災害社会学(73～86 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 7 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 7 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	第 8 章社会学から医療を見つめる(87～97 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 8 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 8 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	第 9 章社会学は教育とどう向き合うのか(98～109 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 9 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 9 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	第 10 章逸脱行動と社会問題(110～121 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 10 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 10 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	第 11 章「格差」の社会学(122～134 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 11 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 11 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	第 12 章生活空間としての地域社会(135～149 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 12 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 12 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	第 13 章グローバル社会とエスニシティ(150～162 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 13 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 13 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	第 14 章宗教から社会を捉える(163～176 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 14 章を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	第 14 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	第 15 章社会の中のメディア／メディアが動かす社会(177～189 頁)を解説する。		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 15 章を読んでおくこと。	3 時間
		復習	第 15 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3 時間
合計時間(予習・復習)				48 時間
備考	各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯健康論(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB007	
英文名	Lifelong Health Theory							講義形態	講義	
担当教員	渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則									
科目に関連した 実務経験	非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数			選択 2 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	4	専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	1	3		10				16		
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。									
到達目標	1. 健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■ 2. 個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■ 3. 環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■ 4. 健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■									
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。									
参考文献	参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向 2020/2021」を利用する。									
評価方法	授業参加内容:40 点、課題に対するレポート内容:60 点 :総合 60 点以上を合格とする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートに対し必要なコメントをする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)									
オフィスアワー (研究室)	(金)13:00~14:30 研究室 4 号館 2 階学部長室				メールアドレス (#→@)		watanabe-h#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標(渡邊) WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■								
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。						1.5 時間	
	1	復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。						1.5 時間	
2	講義内容	健康を維持するための食物と物質代謝(五十嵐) 食物(栄養素)は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝(同化・異化作用)に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。								
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。						1.5 時間	
	2	復習	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	恒常性維持機構の役割と相互作用(五十嵐) 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構(ホメオスタシス)」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成され								

		る。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2	復習	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	運動と健康(渡邊) 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	喫煙による健康障害(渡邊) たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生活習慣病の起因となる肥満(五十嵐) 肥満は原因により原発性肥満(エネルギー摂取過多など)と二次性肥満(性腺機能低下など)に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病(五十嵐) 2型糖尿病(インスリン抵抗性糖尿病)は、冠動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活習慣病(脳血管障害)と認知症(五十嵐) 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ロコモティブシンドローム(渡邊) 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5 時間
10	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣(渡邊) 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5 時間
11	講義内容	WHOの歴史と活動内容(蒲)		

		第 2 次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHO の取り組みを理解し、現在ある WHO の問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力(国力)に寄与するかを理解する。		
	該当到達目標 1,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
12	講義内容	WHO の戦略(蒲) アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標(SDGs)に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)にいたることを検証する。		
	該当到達目標 1,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
13	講義内容	途上国の保健行政(蒲) 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する		
	該当到達目標 1,3,4	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
		復習	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5 時間
14	講義内容	日本の保健行政と世界の保健行政(蒲) 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。		
	該当到達目標 1,3,4	予習	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療)(渡邊) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■		
	該当到達目標 4	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 レポートの提出をもって出席とする。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)						科目 ナンバリング	LAB008		
英文名	Introduction to Lifelong Learning						講義形態	講義		
担当教員	平林 茂、三村 国宏									
科目に関連した 実務経験	(平林)公立小学校・中学校の教員、校長(経験)。群馬県教育委員会教育事務所指導主事・管理主監・ 所長。教育事務所では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生 涯学習推進に関わる研修会講師(経験)。 (三村)公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長(経験)。伊勢崎市教育委員会(指導主 事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長)にてコミュニティ・スクール推進(経験)。大 学・企業との教育連携協定推進等(経験)。									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 2単位							
関連資格										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識			4	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 8 11									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学 習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習 施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。 授業の進め方:各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、 その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生 涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思 います。									
到達目標	1 生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■ 2 生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■ 3 社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。									
使用教材	『よくわかる生涯学習 改訂版』(香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2021 年 2,500 円(税別))									
参考文献	講義中に適宜、紹介する。									
評価方法	テストに 50%、小テストの評価 30%、日常点(授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献 度等)に 20%を配分して総合評価をする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。 試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・1限、水曜・1限、 教職支援センター				メールアドレス (#→@)	平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp 三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度(平林、三村)								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。						1.5 時間	
	1,3	復習	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	生涯学習と人間形成■(三村)								
	該当到達目標	予習	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。						1.5 時間	
	,3	復習	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	生涯学習を支える思想(三村)								
	該当到達目標	予習	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。						1.5 時間	
	1,3	復習	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。						1.5 時間	

4	講義内容	生涯学習の現代的課題①■(三村)		
	該当到達目標	予習	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	現代的課題②■(三村)		
	該当到達目標	予習	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	現代的課題③■(三村)		
	該当到達目標	予習	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	現代的課題④■(三村)		
	該当到達目標	予習	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生涯学習の多様な学習方法■(三村)		
	該当到達目標	予習	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	行政による生涯学習の振興(前編)(平林)		
	該当到達目標	予習	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	行政による生涯学習の振興(後編)■(平林)		
	該当到達目標	予習	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(前編)■(平林)		
	該当到達目標	予習	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(後編)■(平林)		
	該当到達目標	予習	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(前編)(平林)		
	該当到達目標	予習	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(後編)■(平林)		
	該当到達目標	予習	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	生涯学習社会において、どう生きるか(職業能力開発の生涯学習)(平林)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回小テストや資料の提示を c-learning で行いますので、パソコン等を持参してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生命と環境の科学(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB009		
英文名	Science of Environment and Life							講義形態	講義		
担当教員	奥 浩之										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	1	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	③ ⑥ ⑦ ⑨ ⑬										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
									○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)										
到達目標	1. 地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 2. 生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 3. 私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 4. グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 5. 様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。										
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)										
参考文献											
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%										
課題・評価に対する フィードバック方法	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。										
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業開始前もしくは終了後 に応じる。					メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	生命と環境ー自己紹介と研究について									
	該当到達目標 1,5	予習	(1)免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2)DNA 配列を測定する方法について調べてみよう。							1 時間	
		復習	(1)抗体医薬品について (2)免疫グロブリンの分子構造と役割について(特に IgG を構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか? 着目してみよう。) (3)次世代シーケンサーについて							1.5 時間	
2	講義内容	生命と環境ー地球における元素の循環									
	該当到達目標 1,5	予習	元素周期表(http://stw.mext.go.jp/series.html)を読んでみよう。							1 時間	
		復習	(1)人体を構成する元素の存在比							1.5 時間	

			(2) 主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割	
3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1 時間
		復習	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響	1.5 時間
4	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2) IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3) 国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当到達目標 2,5	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1 時間
		復習	(1) DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能		
	該当到達目標 2,5	予習	(1) タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
		復習	(1) アミノ酸 20 種類の分子構造 (2) X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3) NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
7	講義内容	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質		
	該当到達目標 2,5	予習	(1) 膜タンパク質とは？ (2) リボソームにおけるタンパク質合成 (3) アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1) 70S リボソームと tRNA の分子構造(PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra)	1.5 時間

			(2)カルモデュリンの分子構造変化(PDB ID: 3cln)(PDB entry 2bbm)	
8	講義内容	生命と生体分子…ヘム蛋白(Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当到達目標	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4とは？	1 時間
	2,5	復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
9	講義内容	ヒトの活動と環境…さまざまな医薬品		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)コレステロールと高コレステロール血症 (2)認知症とコリン仮説について (3)ポリ乳酸とは？	1 時間
		復習	(1)スタチン (2)タクロリムス (3)ドネペジル (4)レボフロキサシン	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境…バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？ (3)プラスチックゴミ問題とは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境…食品の安全確保(加工食品の成分)		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
12	講義内容	ヒトの活動と環境: 食べると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクログラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
		復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境…さまざまな感染症(AIDS, 結核, マラリアなど)		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)感染症とは？	1 時間
		復習	(1)さまざまな感染症について (2)薬剤耐性について	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境…インフルエンザワクチンの成分		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間
		復習	(1)様々なインフルエンザの治療薬について (2)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境…グローバル化によって必要となる新しいワクチン		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間

		復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)新しいワクチンの開発例について	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名		国際関係論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB010			
英文名		International Relations						講義形態	講義			
担当教員		片桐 庸夫										
科目に関連した実務経験												
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とす資格		特になし。世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。										
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
			専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
		2	問題発見・解決力									
SDGs との関連		① ② ⑤ ⑥ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
											○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法		毎回当日の講義内容に関する 10-15 分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。 ② 配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録した DVD を数回用います。また、授業の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。										
到達目標		1. 現代世界の理解 2. 第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3. 国家間の対立要因の理解 4. 国家間の相互理解の理解 5. 自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6. 現代の戦争の特徴についての理解 7. 国家の安全保障の理解 8. 核の下での平和の理解 9. 国際秩序概念の理解 10. 国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11. 戦後日本の原型についての理解 12. 戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13. 日本の課題である国際貢献問題の理解										
使用教材		配布するプリントを教材として用いる。										
参考文献		細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書										
評価方法		講義の最後に毎回行うレポート評価試験(60%)、講義参加・貢献度(40%)等により総合評価を行う。										
課題・評価に対するフィードバック方法		原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。										
オフィスアワー(研究室)		・前期木曜日の昼休み ・非常勤講師控室 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等)についての説明を行う。										
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでおくこと。								0 時間	
		復習	講義概要の確認を行いこと。								1 時間	

2	講義内容	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。		
	該当到達目標	予習	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2 時間
	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2 時間
	6,7,8	復習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2 時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下での平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下での平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生理由、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間
	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読	1.5 時間

			み、内容をノートにまとめること。	
15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。			

科目名	体育理論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB011		
英文名	Physical Education: Theory						講義形態	講義		
担当教員	山西 加織									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士									
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○					○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。 【授業の進め方】オンデマンド型授業を実施する。各回、テーマについてパワーポイントや配布資料、動画を用いて解説した後に課題や小テストを課す。体力テストの回は対面形式で実施し、終了後に課題を設ける。									
到達目標	1.自己の身体活動や生活行動の実態から課題を見つけることができる。 2.体力を測り、評価することができる。 3.健康づくり・体力づくりに必要な方法を知り、実際の生活に活用することができる。 4.運動・スポーツによる心身への影響を理解し、説明することができる。									
使用教材	特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。									
参考文献	授業時に紹介する。									
評価方法	授業への貢献度(10%)、各回の課題・小テスト(70%)、学期末レポート(20%)を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題は適宜返却する。毎授業後に理解度を問うアンケートを用い、理解不足箇所を解説する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 5 時限、火曜日 3 時限 (8 号館 505 研究室)				メールアドレス (#→@)		yamanishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 現代のライフスタイルと身体活動								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、健康づくり・体力づくりに関して、興味関心を高める。						1 時間	
	1	復習	自分の生活を振り返り、十分な身体活動を確保できるよう心がける。						2 時間	
2	講義内容	身体活動量を計算しよう								
	該当到達目標	予習	学生生活における身体活動や生活習慣を振り返り、課題を見つける。						1.5 時間	
	1	復習	ライフスタイルや身体活動における課題をもとに、健康な生活を送れるよう意識して行動する。						1.5 時間	
3	講義内容	体力を測ろう (1)体力を測る方法を知る								
	該当到達目標	予習	新体力テストの実施方法や注意事項を熟読する。						1.5 時間	
	1,2	復習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。						1.5 時間	
4	講義内容	体力を測ろう (2)体力テストを実施する								
	該当到達目標	予習	新体力テストの実施方法や注意事項を熟読する。						1.5 時間	
	1,2	復習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。						1.5 時間	
5	講義内容	体力を評価し運動カルテを作成しよう								

	該当到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で作成した運動カルテにもとづき、運動を実践する。	1.5 時間
6	講義内容	現代の健康問題を理解し健康づくりのための運動方法を知ろう		
	該当到達目標	予習	健康問題や健康づくりのための運動に関して調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した健康づくりのための運動を実践する。	1.5 時間
7	講義内容	運動・スポーツによる心身の影響を理解しよう		
	該当到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5 時間
	1,3,4	復習	授業で学んだ健康づくり・体力づくりの方法を実際の生活に活用する。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学んだ健康づくり・体力づくりの方法を実際の生活に活用する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	※体力テストの際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 ※オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出は C-learning を用いる。			

科目名	体育実技(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB012		
英文名	Physical Education: Sports and Physical Activities							講義形態	演習		
担当教員	山西 加織 金子 伊樹										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士・レクリエーションインストラクター										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
		専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力									
SDGs との関連	③④										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
						○			○		
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識や方法を学び、実際の生活に活用する能力を養う。様々な運動やスポーツの実践をとおして、基礎体力の保持・向上とともに、運動・スポーツを楽しむ習慣を身につける。 【授業の進め方】毎回、基本運動やレクリエーションでウォーミングアップを行った後に、ルールを説明した上でスポーツを実践していく。また、毎授業前後に自分の「こころ」と「からだ」の状態を記録するアンケート課題を設ける。										
到達目標	1.各基本運動の効果や方法を理解し、実践することができる。 2.さまざまなスポーツの方法やルールを理解し、役割分担をしてゲームを運営することができる。 3.さまざまなスポーツを得意・不得意に関係なく、楽しく実践することができる。 4.仲間と積極的にコミュニケーションをとり、協力しながら行動することができる。 5.生涯にわたり運動・スポーツに親しむために必要な態度を理解し、説明することができる。										
使用教材	特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。										
参考文献	授業時に紹介する。										
評価方法	授業への参加度・態度(70%)、アンケート・レポート課題(30%)を総合的に評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回、アンケート課題を設ける。提出された回答内容から、授業時間内にフィードバックする。										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 5 時限、火曜日 3 時限 (8 号館 505 研究室)				メールアドレス (#→@)		yamanishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション・レクリエーション									
	該当到達目標	予習	自己の健康に興味関心をもち、体調を整える。							0.5 時間	
	4,5	復習	授業を通じて触れ合った仲間と友好関係を深める。							0.5 時間	
2	講義内容	基本運動:ストレッチ・ヨガ・ジョギング・ウォーキング									
	該当到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。							0.5 時間	
	1,5	復習	実践したい基本運動を行う。							0.5 時間	
3	講義内容	ドッジボール									
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を行う。							0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。							0.5 時間	
4	講義内容	バスケットボール									
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。							0.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。							0.5 時間	
5	講義内容	ティーボール									

	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
6	講義内容	フットサル		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
7	講義内容	ソフトバレーボール		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
8	講義内容	バドミントン		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
9	講義内容	パドルテニス		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
10	講義内容	キックベースボール		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
11	講義内容	キンボール		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
12	講義内容	タグラグビー		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
13	講義内容	インディアカ (1)チーム練習・ゲーム		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
14	講義内容	インディアカ (2)トーナメント戦		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 ※実技をする上で配慮を必要とする学生は事前に申し出ること。			

科目名	キャリア形成論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB013		
英文名	Career Development						講義形態	講義		
担当教員	小泉 英明									
科目に関連した実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				5	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	48									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
講義概要 (テーマ・内容)	AI(人工知能)をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。 本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。 授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。 教員作成のレジュメを使い授業を進めます。C-learning で事前に配信する教材データをもとに予習して授業に臨んでください。教材データはファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことのないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に興味を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。また必要な箇所においてはディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための演習やレポートを課します。									
到達目標	1.社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2.自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■ 3.社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4.コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■ 5.論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■ 6.アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■ 7.気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■ 8.問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9.自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10.自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11.社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■									
使用教材	C-learning を利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。									
参考文献	授業内で提示します。									
評価方法	ファイナルレポート 60%、毎授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。									
課題に対するフィードバック	授業後の提出課題については、随時コメントをつけてフィードバックします。 ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図など掲示等によって示します。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日(12~17 時)				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示します。			

1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■		
	該当到達目標	予習	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5 時間
	1	復習	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5 時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5 時間
3	講義内容	自己の理解■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	2	復習	自己理解を深め、自己効力感と自身のパーソナリティを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	コミュニケーション力■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5 時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,4	復習	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5 時間
6	講義内容	気づく力(問題発見能力)■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,7	復習	事例研究に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	考える力Ⅰ(ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	考える力Ⅱ(クリエイティブシンキング)■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,6,7,8	復習	事例研究にて創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5 時間
9	講義内容	創造力を伸ばす■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,6,7,8,9	復習	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5 時間
10	講義内容	問題解決能力Ⅰ(問題点を探る・WHY ツリー)■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。	1.5 時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5 時間
12	講義内容	問題解決能力Ⅱ(問題解決の手法・HOW ツリー／課題発見・目標設定)■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題を HOW ツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5 時間
13	講義内容	社会における人間関係■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	自己の確立(バリュープロポジションとキャリア自律)■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント■		
	該当到達目標	予習	事前に配信する第15回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 時間
	3,11	復習	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	〔人間発達学部の学生に求められる基本的な資質〕 ①「保育者」「教育者」を目指す強い意志を持つ			

- ②子どもを取り巻く社会に対し、幅広い関心と課題意識を持つ
- ③他者との協調性とコミュニケーション能力
- ④チームワーキングへの参画
- ⑤探究心
- ⑥自己研鑽

■:実務経験に基づく内容を示す。

※オンラインで授業を行う場合(※オンデマンド)

- ①教材のデータを授業日の3日前までに配信します。
- ②事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。
- ③毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。(提出期限を厳守してください)
- ④提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
- ⑤授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。
- ⑥期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第15回の授業後に提出の予定です。
- ⑦評価方法は以下の通りです。

ファイナルレポート 60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度 10%

科目名	哲学(人間理解)							科目ナンバリング	LAH001	
英文名	Philosophy							講義形態	講義	
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”」にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。 配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。									
到達目標	1. 人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2. 共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3. 各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4. 課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5. 自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。									
オフィスアワー(研究室)	水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)					メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。							1 時間
	1	復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。							1.5 時間
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能?——ヘーゲル								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1 時間
	1,3	復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。							1.5 時間
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1 時間

	1,3	復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	自分と他者(3)人と人の関係性——ブーバー、サルトル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと		
	該当到達目標	予習	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間
	1,3,4,5	復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間
6	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3,4	復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2 時間
8	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定		
	該当到達目標	予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
	2,3,4,5	復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,4	復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。 予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業になった場合は、C-Leaning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	倫理学(人間理解)							科目ナンバリング	LAH002	
英文名	Ethics							講義形態	講義	
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	1	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③⑤⑦⑩1617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。 ② C-Learning の教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回、ドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。新型コロナの感染状況によってはオンデマンド形式に移行する。									
到達目標	1. 医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、 2. 自分の考えを表現することができる。 3. また、自分と対立する考えについても理解を深める。									
使用教材	講義中に資料を配布する。C-Learning の教材倉庫に毎回アップする。									
参考文献	加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療―バイオ・エシックスの練習問題』、PHP 新書、1999 年。 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理―「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011 年。									
評価方法	講義への参加態度(資料の閲覧・ドリルの実施など)・・・30% 小テストなどの課題・期末レポート・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	講義中、C-Learning「アンケート」を通じて、意見などを提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)	izumo-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイドダンス―生命倫理学について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み講義の実施方法や目的を理解する。予習資料を確認する。						1.5 時間	
	1	復習	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	不妊治療(1)人工授精、体外受精								
	該当到達目標	予習	予習資料を確認し、人工授精(AI)の定義について知り、関連情報を取得しておく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	不妊治療(2)代理母出産をめぐる議論								
	該当到達目標	予習	予習資料から、体外受精(IVF)と AI の差異、代理母について確認しておく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。						1.5 時間	

4	講義内容	遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画がもたらす未来		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から、ヒトゲノム計画と現代におけるその活用について知る。	1.5 時間
		復習	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。	1.5 時間
5	講義内容	遺伝子操作(2)遺伝子診断技術がもたらす未来		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より遺伝子診断技術について確認する。	1.5 時間
		復習	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。	1.5 時間
6	講義内容	人工妊娠中絶をめぐる問題		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。	1.5 時間
		復習	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	優生思想をめぐる問題		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より優生思想について知識を得ておく。	1.5 時間
		復習	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5 時間
8	講義内容	インフォームド・コンセントと患者の権利		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料からインフォームド・コンセントが求められた歴史的な発端を読み解く。	1.5 時間
		復習	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 時間
9	講義内容	QOL の追求		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から QOL とは何かについて知識を得る。	1.5 時間
		復習	様々な QOL のあり方について考える。	1.5 時間
10	講義内容	告知をめぐる問題		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料から告知をめぐる現状について知る。	1.5 時間
		復習	告知について自分ならどのような選択をするか考える。	1.5 時間
11	講義内容	延命医療について		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料をもとに延命医療について自分の考えをまとめてみる。	1.5 時間
		復習	延命と QOL を関連させて考える。	1.5 時間
12	講義内容	安楽死について		
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料から安楽死の区分について知る。	1.5 時間
		復習	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 時間
13	講義内容	臓器移植(1)生体臓器移植		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から日本での生体臓器移植の位置づけについて知る。	1.5 時間
		復習	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正		
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から日本における昨今の死後移植の位置づけについて知る。	1.5 時間
		復習	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 時間
15	講義内容	総括		
	該当到達目標 1,2	予習	これまでのトピックの中から特に関心を持ったものを確認してみる。	1.5 時間
		復習	紹介した文献や映像資料などを参照しつつ、自分の考えをまとめてみる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習) 45 時間				
備考	C-learning の「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週水曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、ドリル・小テストで知識の定着を図ること。 詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。 「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にほしい。また、授業内容と関連する「報道」などがあった場合には、通常の予習・復習とあわせて確認しておくことが望ましい。			

科目名	心理学(人間理解)							科目ナンバリング	LAH003		
英文名	Psychology							講義形態	講義		
担当教員	角野 善司										
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
		○							○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。 授業期間全体を通じた授業の進め方： 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでももらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。										
到達目標	1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応について説明できる。 2. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題について説明できる。■ 3. 日常生活と心の健康との関係について説明できる。■ 4. 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について説明できる。■										
使用教材	加藤伸司ほか「新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 17 心理学と心理的支援」ミネルヴァ書房 2022 年 2,800 円+税										
参考文献											
評価方法	毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%										
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。										
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)					メールアドレス (#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	心理学の視点:心理学における主要な理論と研究法									
	1	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間		
2	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(1):心の生物学的基盤									
	1	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間		

3	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(2):感情／欲求・動機づけと行動		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
4	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(3):感覚・知覚・認知		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(4):学習		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(5):記憶		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(6):人格・性格		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(7):他者と集団		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	人の心の発達過程:発達の概念■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活と心の健康:ストレスとストレッサ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(1):心理アセスメント■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(2):心理的支援の基本的技法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(3):心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(4):心理の専門職■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間

15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	- 仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5 点 × 15 回)、学期末レポート 25% ■:実務経験に基づく内容を示す。 - 社会福祉学科専門展開科目「カウンセリング論」は、この科目を履修済であることを前提に授業を進める。			

科目名	文学と人間(人間理解)					科目 ナンバリング	LAH004			
英文名	Literature and Humanity					講義形態	講義			
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
		専門的知識			4	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連4	4									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。 ②各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
到達目標	1. 文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。 2. 授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等を理解することができる。									
使用教材	『伊豆の踊子』川端康成, 新潮社, 1950, 473 円									
参考文献	『〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相』, 仁平政人・原善, 文学通信, 2022, 2700 円									
評価方法	各回の課題(30%)、レポート(70%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートは評価とコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限、金曜 2 限(8 号館 508 研 究室)				メールアドレス (#→@)	kanno-y#@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、「物語」とその効用								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。						1 時間	
	1	復習	授業内容を振り返り、課題に取り組む。						2 時間	
2	講義内容	文学のジャンルと要素								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
3	講義内容	作品構造の理解①(あまんきみこ『山ねこ、おことわり』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
4	講義内容	作品構造の理解②(星新一『ある占い』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
5	講義内容	比喩表現の理解と効用(村上春樹『パン屋再襲撃』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
6	講義内容	アフォリズムの魅力(村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』など)								

	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
7	講義内容	比べるという思考①(二つの文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
8	講義内容	比べるという思考②(J-POP と文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
9	講義内容	引用・オマージュ①(川端康成『バツと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
10	講義内容	引用・オマージュ②(川端康成『バツと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
11	講義内容	アダプテーション①(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
12	講義内容	引用・オマージュ③(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
13	講義内容	アダプテーション②(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
14	講義内容	アダプテーション③(芥川龍之介『羅生門』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
15	講義内容	他学問との関わり		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1, 2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業時に C-learning を使用した意見の交流を行うので、ノート PC やタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。			

科目名	芸術論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH005		
英文名	Art Theory							講義形態	講義		
担当教員	石原 綱成、志尾 睦子										
科目に関連した実務経験	志尾:映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位						
関連資格											
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	17										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○					○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、映像等)を深く理解する。 講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)となる。										
到達目標	1. 視覚芸術の歴史を理解できる 2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■										
使用教材	講義スライドの資料を配布する。										
参考文献	担当教員が逐次紹介する。										
評価方法	試験を実施する。(石原 50 点、志尾 50 点、計 100 点)										
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。										
オフィスアワー (研究室)	石原:月曜 3 限、金曜 2 限、 志尾:火曜日 2 限				メールアドレス (#→@)		石原: ishihara#takasaki-u.ac.jp 志尾: m-shio#takasaki-cc.jp				
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する							1.5	時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する							1.5	時間
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー									
	該当到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく							1.5	時間
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する							1.5	時間
3	講義内容	芸術史概説									
	該当到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく							1.5	時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する							1.5	時間
4	講義内容	宗教芸術とは何か									
	該当到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する							1.5	時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する							1.5	時間
5	講義内容	キリスト教美術とシンボル									
	該当到達目標	予習	シンボルの本質について理解する							1.5	時間
	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する							1.5	時間
6	講義内容	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー									

	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 時間
7	講義内容	ルネサンス美術—図像解釈学と美術—		
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに現れるかを理解する	1.5 時間
8	講義内容	中間テスト		
	該当到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■		
	該当到達目標	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■		
	該当到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■		
	該当到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間
12	講義内容	映画の構造を知る■		
	該当到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■		
	該当到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■		
	該当到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■		
	該当到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	ボランティア・市民活動論(人間理解)							科目 ナンバリング	LAH006	
英文名	Civil and Voluntary Activities							講義形態	講義	
担当教員	金井 敏									
科目に関連した 実務経験	前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長として VSC を運営している。									
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格	社会福祉学科「初級障がい者スポーツ指導員」指定科目									
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と教養				5	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩	⑪	⑯	⑰	
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○			○		○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。 毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(7 回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標	1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■									
使用教材	各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布する。テキストは使用しない。									
参考文献	その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法	成績評価 ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパーによる評価(80%)。 ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。 ③追再試は実施しない。 その他の評価 ①授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとする。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③ボランティア実践の時間(1 回当たり 4 時間×4 回=16 時間相当)も本時の講義時間に含める。									
	質問や相談については Clearning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問は授業の前後、または Clearning やメールでも受け付ける。					メールアドレス (#→@)	kanai#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。								
	該当到達目標 1、3	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。						1.5 時間	
		復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■								
	該当到達目標	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。						1.5 時間	

	1、2、3、4	復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史		
	該当到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■		
	該当到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動 ～いのちの電話の実践から考える■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5 時間
11	講義内容	ボランティアと NPO ～学生でも創れる NPO 法人■		
	該当到達目標	予習	NPO 法人とは何かについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■		
	該当到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1、2、3、4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと 20 年後の自分の生き方■		
	該当到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5 時間
	1、3、4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう(7 回予定)。 ●ボランティア・市民活動支援センター(VSC、9 号館 1 階)を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。 VSC 直通 TEL:027-352-1108、VSC メールアドレス:vsc@takasaki-u.ac.jp ●シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。			

科目名	人権論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH007	
英文名	Theory of Human Right							講義形態	講義	
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	4	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの割り込ませることがある。									
到達目標	1. 人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2. 人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3. 個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4. 人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5. 人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) *テーマによって DVD の視聴あり									
参考文献										
評価方法	・平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・課題は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー(研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。					メールアドレス(#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。		
1	講義内容	人権の観念と内容								
	該当到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック						2	時間
	1	復習	予備知識アンケート						0.5	時間
2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係								
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み						1	時間

	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
3	講義内容	人権の制約と限界		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	個人主義の観念と幸福追求権の意義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	法の下の平等－平等権と平等原則－		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	世界の現況と人権(AIと人権、戦争と人権等)		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の国際化		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C－ラーニング・連絡メールをもって応答することを原則とする。			

	日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。

科目名	人間関係論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH008	
英文名	Theory of Human Relations							講義形態	講義	
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。 授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。 3.身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。									
使用教材	菅野仁(2008)『友だち幻想―人と人のくつながり』を考える―(ちくまプリマー新書)』筑摩書房。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	レポート(50%)、試験(30%)、課題・参画度(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー(研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス(#→@)		tomita-t#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。						1.0	時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。						1.0	時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。						1.5	時間
	1	復習	人間関係論の成り立ちについて理解する。						1.5	時間
3	講義内容	「友人重視指向」の日本の高校生(はじめに)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間
	1	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。						1.5	時間
4	講義内容	人は一人では生きられない?(第一章)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。						1.5	時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。						1.5	時間

5	講義内容	幸せも苦しみも他者がもたらす(第二章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.27-37)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	幸せも苦しみの他者がもたらす(第二章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.37-46)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.47-58)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.58-79)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」(第四章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	熱心さゆえの教育幻想(第五章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.106-113)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.113-120)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	「傷つきやすい私」と友だち幻想(第七章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	言葉によって自分を作り変える(第八章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)		
	該当到達目標	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2.0 時間
	4	復習	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名	ジェンダー論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH009		
英文名	Gender Theory							講義形態	講義		
担当教員	山田 秀頌										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	10	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力									
SDGs との関連	5 10										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法	教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアル・マイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの中で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。 教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマについて主要な問題や概念について解説する。教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。										
到達目標	1. 性にかかわる社会問題について幅広く思考するための知識を身につける。 2. 多様な性を生きる人々とともに性にかかわる社会問題を解決するための視点を身につける。										
使用教材	教科書:『フェミニズムってなんですか?』清水晶子著、文春新書、2022 年。他に文献資料を適宜配布する。										
参考文献											
評価方法	3本のレポートで評価する。(配点は 30%, 30%, 40%の配分) 総合評価 60%以上で合格とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートごとに問題出題意図を解説する。										
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	講義全体の説明									
	該当到達目標	予習	性にかかわる身近な問題について考える。							1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。							1.5	時間
2	講義内容	フェミニズムの歴史									
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。							1.5	時間
		1,2	復習	フェミニズムの4つの波について理解する。							1.5
3	講義内容	公的領域と私的領域									
	該当到達目標	予習	教科書第3章、第7章を読む。							1.5	時間
		1,2	復習	公的領域と私的領域の違いを理解する。							1.5
4	講義内容	資本主義と個人									
	該当到達目標	予習	教科書第4章を読む。							1.5	時間

	1,2	復習	商業主義的な自由の問題を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	インターセクショナルリティ		
	該当到達目標	予習	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	さまざまな差別の重なりについて再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ		
	該当到達目標	予習	教科書第10章、第14章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	リプロダクティブ・ヘルス／ライツという概念について再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	セクシュアル・ハラスメントと性暴力		
	該当到達目標	予習	教科書第8章、第12章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	権力関係の問題として理解する。	1.5 時間
8	講義内容	結婚と家族		
	該当到達目標	予習	教科書第11章、第13章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ケアの倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第9章、第16章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5 時間
10	講義内容	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	ホモソーシャルとミソジニー		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	身近な問題に引き付けて考える。	1.5 時間
12	講義内容	LGBTをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	社会問題としての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	トランスジェンダーをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	インターセクショナルリティの視点から理解する。	1.5 時間
14	講義内容	トランスジェンダーと医療		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	トランスジェンダーに対するケアのあり方について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	全体のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅰ」「おわりに」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	社会を変える方法について考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。			

科目名		共生の倫理(人間理解)						科目ナンバリング	LAH010		
英文名		Ethics of Symbiosis						講義形態	講義		
担当教員		大石 桂子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		4	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		1	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
		1	問題発見・解決力								
SDGs との関連		① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためのどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。 授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。									
到達目標		1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2. 共生の歴史について理解し、説明できる。 3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4. 共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5. 各テーマについて自分の考えをもつことができる。									
使用教材		講義中にプリントを配布する。									
参考文献		講義中に指示する。									
評価方法		定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)		月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。							1 時間	
	1	復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。							1.5 時間	
2	講義内容	ノーマライゼーションから当事者主権へ									
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。							1 時間	
	1,2	復習	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。							1.5 時間	
3	講義内容	障害者権利条約と意思決定支援									
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1 時間	
	1,3,5	復習	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。							1.5 時間	
4	講義内容	ユニバーサルデザイン									

	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
5	講義内容	優生思想		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	援助行為の動機とは		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	偏見といかに向き合うか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5 時間
8	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5 時間
10	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5 時間
12	講義内容	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	環境問題と世代間倫理②環境問題をめぐる論争		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,2,3,5	復習	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5 時間
14	講義内容	社会のレジリエンスを高める		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・共生社会へ向けて		
	該当到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業となった場合は、C-Learning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	チーム医療アプローチ論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH011	
英文名	Team Approach to Health Care							講義形態	講義	
担当教員	高橋雄太、大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫									
科目に関連した実務経験	高橋(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務。 大川(情報): 診療報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務(経験) 加藤(福祉): 医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務(経験) 竹内(栄養): 管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 梅原(看護): 看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務(経験) 渡邊(理学): 整形外科医として医療機関に勤務(非常勤) 篠原(理学): 急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務 小竹(子ども): 障害児母子通所支援施設に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 1 単位						
関連資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				0	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。									
到達目標	1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解できる。■ 3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■									
使用教材	講義のスライドのファイルおよび資料を C-learning に公開する。									
参考文献										
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	・多学科の学生が参加していることから C-learning の協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learning を用いて受講生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	大川(情報) 木曜 3 限(1 号館 609 研究室) 加藤(福祉) 木曜 2 限(1 号館 5 階研究室) 竹内(栄養) 金曜 3 限(1 号館 308 研究室) 梅原(看護) 金曜 1~2 限(4 号館 506 研究室) 渡邊(理学) 金曜 3 限(4 号館 2 階学部長室) 篠原(理学) 水曜 3 限(3 号館 206 研究室) 小竹(子ども) 水曜 3 時限(8 号館 403 研究室) 高橋(薬学)				メールアドレス (#→@)		大川(情報) okawa-ki#takasaki-u.ac.jp 加藤(福祉) kato-d#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 梅原(看護) umehara#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 小竹(子ども) kotake#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学) takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp			

		水曜 2 限、7号館 323 研究室		※メールでの質問可の教員のみ掲載	
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■			
	該当到達目標	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5	時間
	1	復習	21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5	時間
2	講義内容	チーム医療における看護師の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	チーム医療に関連する書籍、雑誌等を読んでおく	1.5	時間
	1,2,3	復習	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5	時間
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5	時間
	1,2,3	復習	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5	時間
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	チーム医療(病院・薬局)における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	医薬品が患者や社会に与える影響(メリットとデメリット)を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5	時間
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	今までに学習した 1～4 のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5	時間
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5	時間
	1,2,3	復習	地域での自立生活に必要な、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5	時間
7	講義内容	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5	時間
	1,2,3	復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5	時間
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動■			
	該当到達目標	予習	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5	時間
	1,2,3	復習	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考	【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 「チーム医療アプローチ演習」(3 または 4 年次開講)履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『他職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含まない。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	国際保健医療論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH012		
英文名	Theory of International Health						講義形態	講義		
担当教員	李孟蓉、町田修三									
科目に関連した実務経験	開発途上国の健康支援(経験) 元 JICA 専門家をゲストスピーカーとして招く(第 11 回) 元青年海外協力隊をゲストスピーカーとして招く(第 12 回)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑩ ⑬ ⑮ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標である SDGs を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。 ②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。									
到達目標	1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。 2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解できる。 3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。 4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■ 5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■ 6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる(海外研修参加者)									
使用教材	配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと									
参考文献	①「国際保健医療学」第 3 版 国際保健医療学会編 杏林書院 ②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館 ③「国際協力―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣 ④世界の厚生労働 2019 有限会社正陽文庫/ 厚生労働省. 2020 年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/ ⑤「国民衛生の動向 2020/2021」 厚生労働統計協会 ⑥「SDGs を学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」(電子ブック) ⑦「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する									
評価方法	【学内授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、発表・討論の参加度 30 点(30%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点(70%)の配分で合計 60 点以上を合格とする。									

		海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%)、研修レポート(30%)、研修中のパフォーマンス(40%) 【オンライン授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート 10 点(10%)、授業参加・貢献度 20 点(20%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点(70%)の配分で合計 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック		授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。 発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポーについては、コメントを付して返却する。(対面授業・オンライン授業とも共通)			
オフィスアワー (研究室)		【李】 木曜日・金曜日の3限目、 研究室:3 号館 2 階 208 【町田】 月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603	メールアドレス (#→@)	ri#takasaki-u.ac.jp machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。		1.5 時間
2	講義内容	グローバルヘルスと開発理念の変遷 (プライマリーヘルスケア～SDGs) (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第Ⅰ部1～4、10～11まで目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。		1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGO の取り組みと日本の国際協力 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェアラオネの国境なき医師団」、③国際協力—その新しい潮流に目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関や NGO 団体、ODA の活動についてまとめ、理解を深めること。		1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療制度 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
5	講義内容	諸外国(イギリス)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
6	講義内容	諸外国(ヨーロッパ①)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
7	講義内容	諸外国(ヨーロッパ②)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
8	講義内容	諸外国(アメリカ)における医療教育・医療制度(一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
9	講義内容	諸外国(発展途上国、インドネシア)における健康の格差①(保健指標、母子保健)(一部 AL 実施)			

	該当到達目標	予習	参考文献④世界の厚生労働 2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向 2019/2020」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向(人口動態、生命表、母子保健など)について目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
10	講義内容	諸外国(発展途上国、タイ・ベトナム)における健康の格差②(感染症と非感染性疾病)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社(電子ブック)第2章 保健・健康 SDG3 に目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1.5 時間
11	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解 ■(一部 AL 実施) 元 JICA 専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する		
	該当到達目標	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
12	講義内容	「持続可能な開発目標の達成に向けて」を考えるワークショップ■(一部 AL 実施) SDGsの目標にて世界の課題、日本ができること、自分にできることを考えるワークショップという形で取り入れて、各グループが円滑にディスカッションを進めるように指導をしながら行う		
	該当到達目標	予習	第2回目の授業内容を再度確認しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	ワークショップに参加し、世界の不平等や格差に気づき、国の豊かさについて考えを深めること。 興味ある国の医療事情やSDGsの発表準備。自分たちが取り組めることについて考えておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク①(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情や興味関心のある SDG の目標について調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,5	復習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG の目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
14	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク②(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG における諸外国、国際機関や世界での NGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	調べてまとめた興味関心のある SDG について、第 12 回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当到達目標	予習	第 13 回～第 14 回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスション、オープンクエスションなど。 1. ルール 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 2. 出席登録の方法 出席の登録は、C-learning の下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。 1)「レポート」の課題をする。 2)「アンケート」を提出する。 3. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。 4. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)						科目 ナンバリング	LAH013		
英文名	Introduction to Healthcare Sciences						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、小澤 滯司、東福寺 幾夫、松尾 仁司、クリストファー・ターン、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識			1	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法	QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。 数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。									
到達目標	1. 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2. 理解した内容について、第三者に説明できる 3. 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4. 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる									
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する									
参考文献										
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する									
課題・評価に対す る フィードバック方法	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室: 1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course (町田)								
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく						1 時間	

	1	復習	講義内容の復習, 特に専門用語(英語)を覚える	1 時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
4	講義内容	Introduction of nursing education in Japan and other countries (大石)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
5	講義内容	Introduction to telemedicine (東福寺)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Medical information system (松尾)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Introduction to sensory science (應本)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
12	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく	1.5 時間

			き、授業に参加する準備をしておく	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks (ターン)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく き、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				44 時間
備考	講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。			

科目名		囲碁の世界(人間理解)							科目 ナンバリング	LAH014	
英文名		Introduction to Igo							講義形態	講義	
担当教員		三谷 哲也									
科目に関連した 実務経験		2002 年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応		2	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
			専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		3	問題発見・解決力								
SDGs との関連											
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○			○	○
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法		インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 講義の目標 近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。 また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。 ② 実施方法 ・ 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。 ・ 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。 ・ 決め打ち碁(模範的な碁を並べ、途中から打つ)で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。									
到達目標		1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19 路盤で最後まで打てるようになる。■ 2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■									
使用教材		光文社新書「東大教養囲碁講座」（備考欄を要確認）									
参考文献		日本棋院「実践囲碁総合演習」									
評価方法		毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2 回 ※対局結果は成績評価に含まない									
課題・評価に対す る フィードバック方法		試験後に解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業の前後に応 じる。状況により次回の授業での対応と なる場合がある。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章 1～3 に目を通し講義の目的を理解する。							1.5 時間	
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。							1.5 時間	
2	講義内容	ルールの復習(1)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-1～1-3 に目を通し基本ルールを確認する。							1.5 時間	
	1,2	復習	囲碁の 5 つの基本ルールを理解する。							1.5 時間	
3	講義内容	ルールの復習(2)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-4～1-5 に目を通し基本ルールを確認する。							1.5 時間	

	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P188～199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P173～188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P158～172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9子局の解説・連碁(対局)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P207～220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P259～267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	イベント対局とまとめ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●履修条件 - 本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。 - 囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。 ●その他、授業に関する事項 - 第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。 - 使用教材(教科書)は、授業形態(オンラインや録画配信)への変更により使用しない場合があります。 - 授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。 - PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト(アプリ)を指示、使用する場合があります。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL001		
英文名	English IA						講義形態	演習		
担当教員	Louise Arai									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養			4	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
		専門的知識				自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 保育・教育を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。 2. 保育・教育についての英語を読めるようになる。 3. 保育・教育について英語で話せるようになる。									
使用教材	Everything will be provided by the instructor									
参考文献										
評価方法	Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%, Final report 30%,									
課題・評価に対するフィードバック方法	Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.									
オフィスアワー (研究室)					メールアドレス (#→@)	louisebarnett75@yahoo.co.nz				
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English								
	該当到達目標	予習	Look at syllabus and make name cards						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Self introductions and read Useful Classroom/online English						0.5 時間	
2	講義内容	Learn how to write an email.								
	該当到達目標	予習	Read handout.						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Send email to teacher.						0.5 時間	
3	講義内容	Meeting people and Flipgrid introduction.								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Submit video on Fripgrid.						0.5 時間	
4	講義内容	Restaurant English and Movies								
	該当到達目標	予習	Read handout						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Introduce your favorite movie.						0.5 時間	
5	講義内容	Talking about events and festival.								
	該当到達目標	予習	Prepare to talk about your favorite festival.						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Introduce your favorite festival.						0.5 時間	
6	講義内容	Food Culture and Cooking in English.								
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your favorite recipe.						0.5 時間	

	1, 2, 3	復習	Introduce a healthy recipe.	0.5 時間
7	講義内容	Emergencies		
	該当到達目標	予習	Think about emergency kit.	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Prepare an emergency kit.	0.5 時間
8	講義内容	Useful travel English		
	該当到達目標	予習	Read hand out. Be ready to talk about the best place you have visited.	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Write about your favorite place.	0.5 時間
9	講義内容	Talking about pets.		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the benefits of having pets.	0.5 時間
10	講義内容	Online Friends		
	該当到達目標	予習	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication.	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Write about the benefits of both.	0.5 時間
11	講義内容	Corona Virus and stress		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Discuss in groups.	0.5 時間
12	講義内容	A healthy lifestyle		
	該当到達目標	予習	Read handout	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Discuss in groups.	0.5 時間
13	講義内容	Make a blog		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Prepare blog	0.5 時間
14	講義内容	Blog presentation		
	該当到達目標	予習	Prepare blog	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review blogs in groups.	0.5 時間
15	講義内容	Communication activities		
	該当到達目標	予習	Prepare for fun!	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the activities	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	Syllabus may change a little.			

科目名	英語 IB(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL001		
英文名	English IB						講義形態	演習		
担当教員	戸鹿野 友梨									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養			4	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
		専門的知識				自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幅広いトピックに関するテキストに触れながら大学生に必要なとされる英語の知識・技能を身につけることを目標として、主にリーディング、コミュニケーション・スキルを獲得するための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 日常的な話題についての基本的な語彙・文法に関する知識を獲得する。 2. 英文の内容を正確に読み解けるようになる。 3. 文章の内容やそこから理解したことを、自分の言葉で表現できるようになる。									
使用教材	Arnold Arao 他『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate>』(南雲堂、2022 年)									
参考文献										
評価方法	期末試験 60%、平常点(課題、小テストなど)40%から総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題・試験はコメントの上返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業時間前後に対応する。				メールアドレス (#→@)	初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス・Unit 1: What is “Black Friday”?								
	該当到達目標	予習	教科書のはじめに、シラバスを読んで、授業の目標などを確認する。						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	講義におけるテキストの使用法を確認する。Quiz に取り組む。						0.5 時間	
2	講義内容	Unit 2: What is a “leap year”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5 時間	
3	講義内容	Unit 3: Why do big ceremonies have a “red carpet”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5 時間	
4	講義内容	Unit 4: Where did “mouthwash” come from?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5 時間	
5	講義内容	Unit 5: What is “Viking”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5 時間	
6	講義内容	Unit 6: Why are oranges “orange”?								
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。						0.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。						0.5 時間	
7	講義内容	Unit 7: Where did “Vaseline” come from?								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
		復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 8: Why are flamingos “pink”?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 9: What is a movie “trailer”?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 10: Where did “bubble wrap” come from?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 11: Why is a billiard table “green”?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 12: Why is film called “footage”?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 13: Where did “Coca-Cola” come from?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 14: Why are social media apps “blue”?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 15: Where did “makeup” come from?		
	該当到達目標	予習	Vocabulary Part と Conversation Part の問題に取り組む。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Quiz に取り組む。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	辞書とテキストを必ず持参すること。			

科目名	英語 IC(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL001		
英文名	English IC						講義形態	演習		
担当教員	鈴木 文也									
科目に関連した実務経験	英語教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、保育者・教育者をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を身につけるための科目である。本演習では、小学校での英語教育に関するテキストを使用し、英語の授業を英語で行えることをめざす。英語でのアクティビティやクラスルーム・イングリッシュなど、指導に関する実践的な英語力を修得する。 授業は主にアクティブ・ラーニングを用いて行い、授業外学修(予習・復習)に基づいたペア・グループ・全体での活動で進められる。									
到達目標	1.異文化理解を深め、国際感覚を身につけることができる。 2.教育現場で必要とされる英語表現を修得することができる。■ 3.アクティブ・ラーニングの学修方法・形態で学ぶことで、主体的に学修することができる。■									
使用教材	相羽千州子他, <i>Hello, English: English for Teachers of Children</i> (成美堂, 2016 年), 2,592 円									
参考文献	参考となる文献についてはその都度紹介する。									
評価方法	授業参加(10%)、単語テスト(15%)、発表(15%)、試験(60%)から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	期末試験は採点の後返却する。									
オフィスアワー(研究室)	火曜日 2 限、木曜日 2 限 (9 号館 306 研究室)				メールアドレス (#→@)		suzuki-b#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1 ALT's First Visit to Minami Elementary School ■								
	該当到達目標	予習	指示に基づいて、Unit 1 の予習をする。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 2 Getting to Know Each Other ■								
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 2 の予習をする。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 3 School Lunch ■								
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 3 の予習をする。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。						0.5	時間

5	講義内容	Unit 4 Play Time ■			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 4 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
6	講義内容	Unit 5 The First English Class ■			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 5 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
7	講義内容	Unit 6 Teaching Numbers 1 ■			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 6 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
8	講義内容	Unit 7 Teaching Numbers 2 ■			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 7 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
9	講義内容	Unit 9 Activities at a Kindergarten			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 9 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
10	講義内容	Unit 10 Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 10 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
11	講義内容	Unit 11 Making Onigiri and Curry			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 11 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
12	講義内容	Unit 13 Introducing Japanese Culture ■			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 13 の予習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
13	講義内容	Unit 1～Unit 4 のまとめ			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 1～Unit 4 の復習をする。	0.5 時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間	
14	講義内容	Unit 5, 6, 7, 9 のまとめ			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 5, 6, 7, 9 の復習をする。	0.5 時間	
		復習	Unit 5, 6, 7, 9 の学修事項を身につける。	0.5 時間	
15	講義内容	Unit 10, 11, 13 のまとめ			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Unit 10, 11, 13 の復習をする。	0.5 時間	
		復習	Unit 10, 11, 13 の学修事項を身につける。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	質問はメールでも受け付ける。授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、授業外学修(ワークシートに基づいた予習・復習)を丁寧に行うこと。また、授業でのペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加することが望まれる。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		英語ⅡA（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL002		
英文名		English IIA						講義形態	演習		
担当教員		鈴木 文也									
科目に関連した実務経験		英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期		1年 後期	選必・単位数		必修 1 単位						
関連資格		免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士									
学位授与方針との対応		6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
			専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		この授業は、保育者・教育者をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を身につけるための科目である。本演習では、社会の急速なグローバル化に備え、保育の現場における日常生活に関した題材を英語で取り扱いながら、特に学生がリスニング能力とスピーキング能力をレベルアップし、保育現場で英語でのコミュニケーションがとれるようになることをめざす。 授業は主にアクティブ・ラーニングを用いて行い、授業外学修（予習・復習）に基づいたペア・グループ・全体での活動で進められる。									
到達目標		1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を備えることができる。■ 2.子どもや保護者と英語での会話が行えるように、場面に応じた会話例を身につけることができる。 3.保育の現場で生じる会話を英語で作成し、学生同士でロールプレイを行い、子どもや保護者と英語でコミュニケーションする能力を身につけることができる（アクティブ・ラーニング）。 4.主体的に英語を修得し、英語でのコミュニケーション能力を身につけ職場で活用することができる。									
使用教材		教科書 <i>Happy English for Childcare</i> 、土屋麻衣子著、金星堂、2015、2,150 円									
参考文献		参考となる文献についてはその都度紹介する。									
評価方法		授業参加（10%）、単語テスト（15%）、発表（15%）、試験（60%）から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		期末試験は採点の後返却する。									
オフィスアワー （研究室）		火曜日 2 限、木曜日 2 限 （9 号館 306 研究室）				メールアドレス （#→@）		suzuki-b#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5	時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間	
2	講義内容	Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	指示に基づいて、Unit 1 の予習をする。						0.5	時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。						0.5	時間	
3	講義内容	Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room?									
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 2 の予習をする。						0.5	時間	
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。						0.5	時間	

4	講義内容	Unit 3 Good Morning. How Are You Today? ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 3 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
5	講義内容	Unit 4 What Color Do You Like? ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 4 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	Momotaro, The Peach Boy ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、Reading 教材 “Momotaro, The Peach Boy”に目を通す。	0.5 時間
		復習	物語を読み、語彙、文法などを理解して内容を正確に把握できる。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	指示に基づいて Unit 5 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 6 It's Time to Play Outside		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 6 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7 She Is Allergic to Eggs		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 7 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8 You Should Go to the Bathroom		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 8 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9 We Made Masks Today		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 9 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10 If It Rains, What Happens?		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 10 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 12 I Feel Feverish		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	単語テストの準備をし、指示に基づいて Unit 12 の予習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 1～Unit 6 のまとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	Unit 1～Unit 6 の復習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 7～Unit 10, Unit 12 のまとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	Unit 7～Unit 10, Unit 12 の復習をする。	0.5 時間
		復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習) 15 時間				
備考	質問はメールでも受け付ける。授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、授業外学修(ワークシートに基づいた予習・復習)を丁寧にやること。また、授業でのペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加することが望まれる。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IIB (リテラシー)							科目ナンバリング	LAL002	
英文名	English IIB							講義形態	演習	
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年	後期	選必・単位数	必修 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	345817									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○		○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	相互評価									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical situations. This course will emphasize the application of English speaking and writing skills to communicate personal and academic information. Students will use a variety formats (for example, videos, posters and speeches) to bring their ideas to life.									
到達目標	1. Communicate an authentic message in spoken or written form 2. Research and understand ideas of global or personal interest in English 3. Develop lifelong habits for studying, enjoying and using English									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40% (単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 2 限、質問はメールでも受け付ける(9 号館 307 研究室)				メールアドレス (#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
2	講義内容	Introducing yourself to others								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
3	講義内容	Narrative story techniques and practice								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
4	講義内容	Telling a narrative story								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
5	講義内容	Differences in language communication								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
6	講義内容	Peer review of narrative writing project								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間

	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
7	講義内容	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
8	講義内容	Cultural difference is presenting information		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
9	講義内容	Techniques and practice for presenting a demonstration		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
10	講義内容	Demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
11	講義内容	Popular culture and language differences		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
12	講義内容	Researching a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
13	講義内容	Popular cultures and lifelong learning		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
14	講義内容	Presenting a pop culture topic in groups		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
15	講義内容	Peer review of pop culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IIC(リテラシー)						科目 ナンバリン グ	LAL002		
英文名	English IIC						講義形態	演習		
担当教員	姉崎 達夫									
科目に関連した 実務経験	姉崎:英語教師として中学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本授業では、保育・教育の現場で実践的な英語会話力が必要とされていることを考慮し、英語によるリス ニング・会話練習に重点を置く。あわせて基本的な語彙、文法を確認しながら、英語のコミュニケーション 能力を総合的に高める訓練を行う。									
到達目標	1. 基本的な語彙・文法を修得する。■ 2. 基本的な教室英語を使い、英語で授業運営できる素地を身につける。■									
使用教材	S. Williams & V. Morooka (2014). <i>Student Teacher: Introductory English for Education Majors</i> . 東京:南雲堂. 2,100 円 ISBN:9784523177678									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、レポート(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題のフィードバックは翌週に提示する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 2 限、水曜 3 限 (研究室:9 号館 3 階 303)				メールアドレス (#→@)	anezaki#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・Warm-up■								
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						0.5	時間
	1,2	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1: Meeting and Greeting■								
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 1 の指定された練習問題を解く。						0.5	時間
	1,2	復習	教科書 Unit 1 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 2: Family and Friends■								
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 2 の指定された練習問題を解く。						0.5	時間
	1,2	復習	教科書 Unit 2 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 3: Likes and Dislikes■								
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 3 の指定された練習問題を解く。						0.5	時間
	1,2	復習	教科書 Unit 3 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。						0.5	時間
5	講義内容	Unit 4: Good Habits and Bad Habits■								
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 4 の指定された練習問題を解く。						0.5	時間
	1,2	復習	教科書 Unit 4 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。						0.5	時間
6	講義内容	Unit 5: Summer and Fun■								
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 5 の指定された練習問題を解く。						0.5	時間

	1,2	復習	教科書 Unit 5 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6: Here and There ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 6 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 6 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Units 1-6 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Units 1-6 の内容を使って、音読、会話練習をする。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7: Giving and Receiving ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 7 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 7 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8: Parties and Fashion ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 8 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 8 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9: Physical Education and Health ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 9 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 9 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10: Nursery School and Day Care ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 10 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 10 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11: Educating and Caring ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 11 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 11 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12: Bullying and Other Problems ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Unit 12 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Unit 12 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ ■		
	該当到達目標	予習	教科書 Units 7-12 の指定された練習問題を解く。	0.5 時間
	1,2	復習	教科書 Units 7-12 の内容を使って、音読、会話練習をする。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		英語 IIIA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名		English IIIA						講義形態	演習		
担当教員		松田 幸子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
関連資格		免許・資格指定科目：幼稚園教諭、保育士									
学位授与方針との対応		6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
			専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○			○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① プロジェクトを通して子どもに関わる英語を理解すると同時に、自分自身がクリエイティブに英語に関わり、英語を自由に読解し、表現できるようになる。 ② ペア・ワーク、グループ・ワーク等によって英語による創作物を読解、紹介、実践するプロジェクトを行う。									
到達目標		1. 子どもに関わる英文に登場する語彙や表現を理解する能力を得る。 2. 文化的コンテキストの中で、子どもに関わる英語を理解し、柔軟に解釈する力を身につける。 3. プロジェクトを通して、子どもについて英語で自由に表現する力を身につける。									
使用教材		授業の中で提示する。									
参考文献											
評価方法		グループ活動への貢献度(30%)、授業ごとの成果(40%)、最終課題(30%)									
課題・評価に対するフィードバック方法		成果・課題は授業ごとにコメントし返却する。									
オフィスアワー (研究室)		金曜 1 限、金曜 2 限 (9 号館 304 室)				メールアドレス (#→@)		matsuda-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	イントロダクション:授業の進め方の説明									
	該当到達目標	予習	シラバスを読む						0.5	時間	
	1	復習	ハンドアウトを読む						0.5	時間	
2	講義内容	ナーサリー・ライムを読む ① 読解									
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集						0.5	時間	
	1,2	復習	語彙・表現の確認						0.5	時間	
3	講義内容	ナーサリー・ライムを読む ② 発表									
	該当到達目標	予習	発表の準備						0.5	時間	
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認						0.5	時間	
4	講義内容	絵本を読む ① 読解									
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集						0.5	時間	
	1,2	復習	語彙・表現の確認						0.5	時間	
5	講義内容	絵本を読む ② 読解									
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集						0.5	時間	

	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
6	講義内容	絵本を読む ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
7	講義内容	児童小説を読む ① 読解		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
8	講義内容	児童小説を読む ② 読解		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
9	講義内容	児童小説を読む ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
10	講義内容	歌詞を解釈する ① 読解		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
11	講義内容	歌詞を解釈する ② 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
12	講義内容	Cartoonを理解する ① 聞き取り		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
13	講義内容	Cartoonを理解する ② 解釈		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
14	講義内容	Cartoonを理解する ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
15	講義内容	Cartoonを理解する ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IIIB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL003	
英文名	English IIIB							講義形態	演習	
担当教員	山田 HAY 美由紀									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	英語会話に必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義では、教育の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもできる。									
到達目標	1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 2. コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。									
使用教材	課題により印刷教材を配布する。									
参考文献										
評価方法	講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況（30%）、課題発表（50%）、講義への参加（20%）を評価する。個人課題は、内容を講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は 3 日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。									
課題・評価に対するフィードバック方	実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。									

法					
オフィスアワー (研究室)		授業の前後で対応する。		メールアドレス (#→@)	初回授業で指示する。
1	講義内容	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。			
	該当到達目標	予習	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
2	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。			
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
3	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題1の紹介。			
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
4	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1について理解する。専門用語・時事問題等			
	該当到達目標	予習	個人課題を修正しながら続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
5	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1の実践。 専門用語・時事問題等			
	該当到達目標	予習	個人課題を修正しながら続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
6	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等			
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
7	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。			
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。		0.5 時間
8	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1のリハーサル。			
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。		0.5 時間
9	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。			
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
10	講義内容	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題2の説明			
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
11	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について			
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の内容について必要事項を調べておく。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
12	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について			
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の内容について必要事項を調べておく。		0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。		0.5 時間
13	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の練習。英語押韻について			
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。		0.5 時間

	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
14	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 のリハーサル。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
合計時間（予習・復習）				15 時間
備考	・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。 ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。			

科目名	英語 III C(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English IIIC						講義形態	演習		
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	345817									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○		○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	相互評価									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical situations. This course will emphasize the application of English speaking and writing skills to communicate personal and academic information. Students will use a variety formats (for example, videos, posters and speeches) to bring their ideas to life.									
到達目標	1. Communicate an authentic message in spoken or written form 2. Research and understand ideas of global or personal interest in English 3. Develop lifelong habits for studying, enjoying and using English									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40% (単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 2 限、質問はメールでも受け付ける(9 号館 307 研究室)				メールアドレス (#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases							0.5 時間
2	講義内容	Introducing yourself to others								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases							0.5 時間
3	講義内容	Narrative story techniques and practice								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases							0.5 時間
4	講義内容	Telling a narrative story								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases							0.5 時間
5	講義内容	Researching places around the world								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							0.5 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases							0.5 時間
6	講義内容	Presenting in conference poster style								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							0.5 時間

	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
7	講義内容	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
8	講義内容	Practice for demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
9	講義内容	Techniques and practice for presenting a demonstration		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
10	講義内容	Demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
11	講義内容	Comparing cultures in professional settings		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
12	講義内容	Presenting a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
13	講義内容	Taking academic notes		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
14	講義内容	Pop culture and life long learning of English		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
15	講義内容	Presenting a summary of popular culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IVA (リテラシー)						科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVA						講義形態	演習		
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	345817									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○		○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	相互評価									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical situations. This course will emphasize the application of English speaking and writing skills to communicate personal and academic information. Students will use a variety formats (for example, videos, posters and speeches) to bring their ideas to life.									
到達目標	1. Communicate an authentic message in spoken or written form 2. Research and understand ideas of global or personal interest in English 3. Develop lifelong habits for studying, enjoying and using English									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40% (単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 2 限、質問はメールでも受け付ける(9 号館 307 研究室)				メールアドレス (#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
2	講義内容	Introducing yourself to others								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
3	講義内容	Narrative story techniques and practice								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
4	講義内容	Telling a narrative story								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
5	講義内容	Differences in language communication								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases						0.5	時間
6	講義内容	Peer review of narrative writing project								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						0.5	時間

	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
7	講義内容	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
8	講義内容	Practice for demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
9	講義内容	Techniques and practice for presenting a demonstration		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
10	講義内容	Demonstration speeches		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
11	講義内容	Popular culture and language differences		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
12	講義内容	Researching a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
13	講義内容	Presenting a comparative culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
14	講義内容	Pop culture and life long learning of English		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
15	講義内容	Peer review of a popular culture topic		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IVB（リテラシー）							科目ナンバリング	LAL004	
英文名	English IVB							講義形態	演習	
担当教員	織原 義明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	これまでに学んだ事柄を再確認しながら大学生としての英語力の基礎を身につけることを目標として、おもにリスニングとリーディングのスキル獲得のための講義を行う。授業は演習形式で行い、音声資料も活用する。									
到達目標	1. 英文法の基礎を学びながら、おもにリスニングとリーディングのスキルを向上させる。 2. グローバル化する社会で必要とされる異文化理解を深め、国際感覚を身につける。 3. 現代社会の多岐にわたるテーマを通して、自らの問題意識を深める。									
使用教材	AMBITIONS Beginner 4技能統合型で学ぶ英語コース：入門編 VELC 研究会教材開発グループ / 静哲人 / 望月正道 / 熊澤孝昭 編著， 金星堂， ￥1,900（ 税込 ￥2,090）									
参考文献										
評価方法	授業への参加度と平常点（小テスト）40%、期末試験 60%から総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。									
オフィスアワー （研究室）	授業開始前または終了後に応じる。					メールアドレス （#→@）		初回授業時に提示する。		
1	講義内容	ガイダンス、Unit 1 - Cross-Cultural Understanding								
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 2 - Foods								
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 3 - Foreign Language Learning								
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 4 - Sports								
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。						0.5	時間
5	講義内容	Unit 5 - Fashion								
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。						0.5	時間

	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 6 - Living Things		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 7 - Art		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 8 - Global Issues		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 9 - Japanese Culture		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 10 - Human Rights		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 11 - Health & Medical Issues		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 12 - Environmental Issues		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 13 - Economy & Industry		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 14 - Legal Issues		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 15 - Science & Technology		
	該当到達目標	予習	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART の Find Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5 時間
	1, 2, 3	復習	音声教材を使って復習する。READING PART の Find Out を音読する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	音声教材は C-learning にアップします。			

科目名		英語ⅣC(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名		English IIIA						講義形態	演習		
担当教員		松田 幸子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
関連資格		免許・資格指定科目: 幼稚園教諭、保育士									
学位授与方針との対応		6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
			専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○			○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① プロジェクトを通して英語を理解すると同時に、自分自身がクリエイティブに英語に関わり、英語を自由に読解し、表現できるようになる。 ② ペア・ワーク、グループ・ワーク等によって英語による創作物を読解、紹介、実践するプロジェクトを行う。									
到達目標		1. 現代の創作物やメディアに登場する英語の語彙や表現を理解する能力を得る。 2. 文化的コンテキストの中でオーセンティックな英語を理解し、柔軟に解釈する力を身につける。 3. プロジェクトを通して、自分自身の考えについて英語で自由に表現する力を身につける。									
使用教材		授業の中で提示する。									
参考文献											
評価方法		グループ活動への貢献度(30%)、授業ごとの成果(40%)、最終課題(30%)									
課題・評価に対するフィードバック方法		成果・課題は授業ごとにコメントし返却する。									
オフィスアワー (研究室)		金曜 1 限、金曜 2 限 (9 号館 304 室)				メールアドレス (#→@)		matsuda-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	イントロダクション:授業の進め方の説明									
	該当到達目標	予習	シラバスを読む						0.5	時間	
	1	復習	ハンドアウトを読む						0.5	時間	
2	講義内容	ポップ・ソングを解釈する ① 読解									
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集						0.5	時間	
	1,2	復習	語彙・表現の確認						0.5	時間	
3	講義内容	ポップ・ソングを解釈する ② 発表									
	該当到達目標	予習	発表の準備						0.5	時間	
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認						0.5	時間	
4	講義内容	物語を読む ① 読解									
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集						0.5	時間	
	1,2	復習	語彙・表現の確認						0.5	時間	
5	講義内容	物語を読む ② 読解									
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集						0.5	時間	

	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
6	講義内容	物語を読む ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
7	講義内容	映像作品を解釈する ① 視聴		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
8	講義内容	映像作品を解釈する ② 読解		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
9	講義内容	映像作品を解釈する ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
10	講義内容	SNS の投稿を理解する ① 読解		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
11	講義内容	SNS の投稿を理解する ② 実践		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
12	講義内容	ドラマを理解する ① 聞き取り		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
13	講義内容	ドラマを理解する ② 解釈		
	該当到達目標	予習	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5 時間
	1,2	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
14	講義内容	ドラマを理解する ③ 発表		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
15	講義内容	Cartoon を理解する ④ やり取り		
	該当到達目標	予習	発表の準備	0.5 時間
	1,2,3	復習	語彙・表現の確認	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	Integrated English I (リテラシー)							科目 ナンバリング	LAL005	
英文名	Integrated English I							講義形態	演習	
担当教員	クリストファー・ターン									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	選択 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針 との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標としている。 教員より、コミュニケーションをとる必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。									
到達目標	1. コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2. 海外での様々な場면을想定した英会話の練習をする 3. プレゼンテーションの実践演習を行う また海外英語研修に向けた事前準備や説明を行う。									
使用教材	特に定めない。									
参考文献										
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出物にはコメントをつけて返却する。個人面談を行う。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 限、金曜 3 限 (1 号館 315 研究室)				メールアドレス (#→@)	tarn#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	What is communication?								
	該当到達目標	予習	なし						0.5	時間
	1,2,3	復習	授業内容について要約する						0.5	時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to Know Yourself								
	該当到達目標	予習	自分自身について書く						0.5	時間
	1,2,3	復習	自分のインターナショナル・スキルについて書く						0.5	時間
3	講義内容	Social Skills								
	該当到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う						0.5	時間
	1,2,3	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く						0.5	時間
4	講義内容	The Power of Imagination and Innovation								
	該当到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由を挙げる						0.5	時間
	1,2,3	復習	その国について調べる						0.5	時間
5	講義内容	Learning to Control a Conversation								
	該当到達目標	予習	言葉が理解できない状況でどういくコミュニケーションが有効か考える						0.5	時間
	1,2,3	復習	ホストファミリーとの会話例を考える						0.5	時間
6	講義内容	Listening Strategies								

	該当到達目標 1,2,3	予習	訪問国の英語発音について調べる	0.5	時間	
		復習	訪問国の短編映画やアニメを見る	0.5	時間	
7	講義内容	Basic English: Self Introduction and First Step for Communication in English				
	該当到達目標 1,2,3	予習	自己紹介文を書く	0.5	時間	
		復習	自己紹介文を仕上げる	0.5	時間	
8	講義内容	Create your own English Database				
	該当到達目標 1,2,3	予習	ノートの準備をする	0.5	時間	
		復習	English Database を作成する	0.5	時間	
9	講義内容	Meet a Foreigner				
	該当到達目標 1,2,3	予習	外国人ゲストとの会話を考える	0.5	時間	
		復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける	0.5	時間	
10	講義内容	Speech Basics: Talking to Audience				
	該当到達目標 1,2,3	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる	0.5	時間	
		復習	大学紹介についてのパワーポイントを作成する	0.5	時間	
11	講義内容	Presentation 1				
	該当到達目標 1,2,3	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを作成する	0.5	時間	
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間	
12	講義内容	Presentation 2				
	該当到達目標 1,2,3	予習	テーマについてのプレゼンテーションの準備をする	0.5	時間	
		復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間	
13	講義内容	Make your own Textbook 1				
	該当到達目標 1,2,3	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間	
		復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間	
14	講義内容	Do Group Work to Improve your Textbook				
	該当到達目標 1,2,3	予習	グループごとに各自のテキストブックについて話し合い改善する	0.5	時間	
		復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く	0.5	時間	
15	講義内容	Conclusion				
	該当到達目標 1,2,3	予習	これまでの授業の復習をする	0.5	時間	
		復習	全講義を通して学んだことをレポートにする	0.5	時間	
合計時間(予習・復習)					15	時間
備考	本講義は海外英語研修参加者を対象とする。予習復習時間については各自補完すること。					

科目名	Integrated English II (リテラシー)							科目ナンバリング	LAL006		
英文名	Integrated English II							講義形態	演習		
担当教員	高橋 栄作										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目:なし										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力									
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他	
		○				○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながら TOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。 そのため授業では、TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声を読み上げたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。										
到達目標	1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。 2. 語彙力が身につく。 3. 文法事項を理解できる。 4. リスニング力が身につく。 5. リーディング力が身につく。										
使用教材	Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). <i>Level-up Trainer for the TOEIC® TEST</i> . 東京:センゲージラーニング.										
参考文献	授業内で紹介する。										
評価方法	授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	課題の解説をする。										
オフィスアワー (研究室)	授業終了後				メールアドレス (#→@)		eisaku #tcue.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは									
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。							0.5	時間
	1	復習	Pre-test を解いて現在の実力を把握しよう。							0.5	時間
2	講義内容	Unit 1: テスト形式を知る									
	該当到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。							0.5	時間
3	講義内容	Unit 2: 基本戦略①									
	該当到達目標	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 2 の練習問題の内容を理解する。							0.5	時間
4	講義内容	Unit 3: 基本戦略②									
	該当到達目標	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間

	2,3,4,5	復習	Unit 3 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
5	講義内容	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く		
	該当到達目標	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 4 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 5: 解答根拠の登場順		
	該当到達目標	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る		
	該当到達目標	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 6 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当到達目標	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る		
	該当到達目標	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 7 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8: 動詞の時制を見極める		
	該当到達目標	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 8 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9: 接続詞 vs. 前置詞		
	該当到達目標	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 9 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略		
	該当到達目標	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 10 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11: 接続副詞に強くなる		
	該当到達目標	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 11 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12: NOT 型設問のコツ		
	該当到達目標	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 12 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当到達目標	予習	Post-test の問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	ドイツ語(リテラシー)						科目 ナンバリング	LAL007		
英文名	German						講義形態	講義		
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	1	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	7131415									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① ドイツの文化や取り組み、また基礎的な文法を知ることを通じて、多様な価値観への関心を深め、日本の文化と比較することで、自己理解の参照項とする。 ② C-Learning「教材倉庫」に公開する資料などを用いて講義を実施する。文化などに関しては、学生による調査やそれにもとづいたディスカッションを組み込みながら行う。語学の部分に関しては、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を練習する。毎回、C-Learning の「ドリル」「小テスト」で知識の定着を図る。									
到達目標	1. ドイツの文化や現代の取り組みを知り、自らと比較し、意見を述べることができる。 2. ドイツ語の初級文法を用いて挨拶や平易な表現をすることができる。									
使用教材	C-Learning「教材倉庫」に予習・復習資料を公開する。									
参考文献	なし									
評価方法	授業への参加態度(授業内での課題の実施状況など)・・・30% 小テストなどの課題、確認テスト・・・70%									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-Learning「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」などに対して解説、コメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・ 相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンスー日本とドイツ、外来語としてのドイツ語とそのアルファベットー								
	該当到達目標 1, 2	予習	シラバスを読み講義内容を理解する。教材倉庫の予習用資料に目を通しておく						1.5 時間	
		復習	ドリル、小テストで復習する。外来語としてのドイツ語について調べてみる。						1.5 時間	
2	講義内容	ドイツ語(1) 母音の発音①、あいさつ ドイツ人の精神における「森」								
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。						1.5 時間	
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの森林について調べてみる						1.5 時間	
3	講義内容	ドイツ語(2)母音の発音②、お店での注文 ドイツの食事、料理								
	該当到達目標 1, 2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。						1.5 時間	
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの料理について調べてみる。						1.5 時間	
4	講義内容	ドイツ語(3)子音の発音① 首都ベルリン、ユダヤ人慰霊碑、ベルリンの壁								
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。						1.5 時間	

	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。現代ドイツが直面した歴史について調べてみる。	1.5 時間
5	講義内容	ドイツ語(4)子音の発音② オクトーバーフェスト		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。オクトーバーフェストと日本のイベントについて調べてみる。	1.5 時間
6	講義内容	ドイツ語(5)子音の発音③ 第三の都市ミュンヘン		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ミュンヘンについて調べてみる。	1.5 時間
7	講義内容	ドイツ語(6)ドイツ語の文の作り方(一般動詞①) 第二の都市ハンブルク		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ハンブルクについて調べてみる。	1.5 時間
8	講義内容	ドイツ語(7)ドイツ語の文の作り方(一般動詞②) ドイツの気候・住居		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの住居について調べてみる。	1.5 時間
9	講義内容	ドイツ語(8)ドイツ語の文の作り方(haben) ドイツの城・宮殿・美意識		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの建築文化について調べてみる。	1.5 時間
10	講義内容	ドイツ語(9)ドイツ語の文の作り方(sein 動詞①) ドイツの美術		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツにおけるアートについて調べてみる。	1.5 時間
11	講義内容	ドイツ語(10)ドイツ語の文の作り方(sein 動詞②) ドイツの音楽 クラシック、テクノ、ラブパレード		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの音楽について調べてみる。	1.5 時間
12	講義内容	ドイツ語(11)自己紹介① ドイツのビオ食品		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツのビオの認定基準について調べてみる。	1.5 時間
13	講義内容	ドイツの年末年始		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの年末年始について調べてみる。	1.5 時間
14	講義内容	ドイツ語(12)自己紹介② ドイツにおけるエコ		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	ドリル、小テストで復習する。環境先進国ドイツの取り組みを調べてみる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。	1.5 時間
	1, 2	復習	必要に応じて、補習課題を実施する。ドイツに対する関心を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回、授業の前週の水曜日に、C-Learning「教材倉庫」に予習用の教材をアップする。授業終了後は、復習用の教材やドリル・小テストを用いて知識の定着を図ること。 詳細な成績評価の方法や、課題などについての連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。			

科目名	フランス語(リテラシー)						科目 ナンバリング	LAL008		
英文名	French						講義形態	講義		
担当教員	松島 洋子									
科目に関連した 実務経験	医療通訳・翻訳(産婦人科、形成外科、外科)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養				5	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	2 4 17									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。 ①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。 ②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。									
到達目標	1. フランス語で簡単な会話ができる■ 2. フランス語検定4級相当の文法を理解する■									
使用教材	①今すぐ話せる！いちばんはじめのフランス語単語・CD-ROM 付き 東進ブック ISBN978-4-89085-719-7 ②フランス語をひとつひとつわかりやすく。―超基礎からの個人授業 学研教育出版 ISBN978-4-05-303813-5									
参考文献										
評価方法	授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認 50%、 授業内の発言・質問・ロールプレイ等 50%									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、開始前もしくは終了後に応 じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性■								
	該当到達目標	予習	第 1 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 1 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
2	講義内容	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■								
	該当到達目標	予習	第 2 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 2 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
3	講義内容	動詞の活用① フランス語の基礎となる動詞／名詞「性格」「国」■								
	該当到達目標	予習	第 3 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 3 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
4	講義内容	動詞の活用② 規則動詞と不規則動詞 動詞 avoir の使い方■								
	該当到達目標	予習	第 4 回で取り組む単元を CD で聞いておく。						0.5 時間	
	1,2	復習	第 4 回で取り組んだ単元を再確認しておく。						0.5 時間	
5	講義内容	動詞の活用③ 不規則動詞「GO」の意味を持つ「aller」／場所につける前置詞■								

	該当到達目標	予習	第 5 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 5 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
6	講義内容	所有形容詞「私の」「彼の」／名詞「家族・友人・身の回りのもの」■		
	該当到達目標	予習	第 6 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 6 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
7	講義内容	否定文の作り方／動詞「話す」、名詞「職業」■		
	該当到達目標	予習	第 7 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 7 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
8	講義内容	動詞の活用④「ER 動詞」の使い方／数えられる名詞と数えられない名詞■		
	該当到達目標	予習	第 8 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 8 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
9	講義内容	疑問文①「はい・いいえ」で答える疑問文と具体的な答えを求める疑問文■		
	該当到達目標	予習	第 9 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 9 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
10	講義内容	動詞の活用⑤「faire～する」の使い方／日常生活「宿題、家事等」■		
	該当到達目標	予習	第 10 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 10 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
11	講義内容	疑問文②「どこですか?」「誰ですか?」／動詞「～を知っている」、人を紹介する■		
	該当到達目標	予習	第 11 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 11 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	疑問文③ 方向、位置を尋ねる／方向を示す名詞「上下」「左右」等■		
	該当到達目標	予習	第 12 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 12 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
13	講義内容	動詞の活用⑥「faire」の使い方・応用／名詞「スポーツ」■		
	該当到達目標	予習	第 13 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 13 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
14	講義内容	時計の読み方／時間、曜日、月、季節■		
	該当到達目標	予習	第 14 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 14 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
15	講義内容	動詞の活用⑦「○○が欲しい」「○○ができる」基礎～応用		
	該当到達目標	予習	第 15 回で取り組む単元を CD で聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第 15 回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL009	
英文名	Portuguese							講義形態	講義	
担当教員	カルステン アンジェラ									
科目に関連した実務経験	第二言語としてのポルトガル語教授、25 年の経験									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と教養				5	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ロールプレイングと教育的ゲーム									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。 2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。									
到達目標	1. 初級レベルの日常会話■ 2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。■									
使用教材	教材プリント									
参考文献	ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者：Silvia Noriko Kaneyasu									
評価方法	15%・授業への積極的な参加 15%・アンケートへの参加 20%・宿題 25%・中間グループプレゼンテーション 25%・最終グループプレゼンテーション									
課題・評価に対するフィードバック方法	教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	授業日の授業開始前もしくは終了後に 教室等で相談に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	コースとクラスの紹介								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。							1,5 時間
	1,2	復習	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。							1,5 時間
2	講義内容	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be” 動詞 - <i>ser/estar</i>) ■								
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。							1,5 時間
	1,2	復習	自己紹介文を見直す。							1,5 時間

3	講義内容	家族について（私の、あなたの、彼女の、彼の... <i>meu, seu, dele, dela</i> ...）■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。	1,5 時間
		復習	家族についての話し、文を見直す。	1,5 時間
4	講義内容	数字、曜日、月、天気、について。■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	ポルトガル語で曜日、1 から 10 までの数字、月を学ぶ。	1,5 時間
5	講義内容	好き嫌いについて 動詞「gostar」（ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など）■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1,5 時間
6	講義内容	物事の説明（形容詞、反対語）■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1,5 時間
7	講義内容	日常の活動について（よく使われる規則動詞）■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1,5 時間
8	講義内容	これまでの内容の復習、中間グループ発表■		
	該当到達目標 1,2	予習	中間グループプレゼンテーション準備。	1,5 時間
		復習	授業で示される重要語彙の復習。	1,5 時間
9	講義内容	疑問詞の使い方(Como? Onde?, O que? Quem?...) ■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	ポルトガル語での質問文を見直す。（どのように、いつ、どこで、誰...）	1,5 時間
10	講義内容	時間について■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1,5 時間
11	講義内容	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方（前置詞、動詞の動名詞形）■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	動詞の継続時制を使う練習をする。	1,5 時間
12	講義内容	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。（不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」）■		
	該当到達目標 1,2	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
		復習	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
13	講義内容	予定について（動詞「行く」と「来る」－「ir」と「vir」）■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間

	1,2	復習	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1,5 時間
14	講義内容	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1,5 時間
	1,2	復習	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1,5 時間
15	講義内容	プレゼンテーション クラス全体でのディスカッション■		
	該当到達目標	予習	グループプレゼンテーションの準備。	1,5 時間
	1,2	復習	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1,5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中国語(リテラシー)							科目 ナンバリング	LAL010	
英文名	Chinese							講義形態	講義	
担当教員	渡邊 賢									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識				6	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、 簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味 を喚起したい。 ②1)授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学 力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性となる 程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を 身に付けられたい。 2)毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標	1. 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。 2. 中国語音を表記する音声記号を習得する。 3. 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。 4. 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。 5. 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。									
使用教材	教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087									
参考文献										
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは授業終了後に応じ る。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特 性などについて理解する。							1 時間
	1	復習	不要							0 時間
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ:ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。								
	該当到達目標	予習	不要							0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。							1 時間
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ:複合母音、「声(子音)」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。								
	該当到達目標	予習	不要							0 時間

	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
4	講義内容	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。		
	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
5	講義内容	教科書第 1 課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
6	講義内容	教科書第 2 課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第 3 課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第 4 課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第 5 課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第 6 課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第 7 課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第 8 課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第 9 課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				26 時間
備考	復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	ハングル語(リテラシー)							科目 ナンバリング	LAL011	
英文名	Korean							講義形態	講義	
担当教員	徐 明煥									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		専門的知識					自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。 ②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標	1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。 2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。 3. 100 語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。 4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。									
使用教材	朴庾卿,仲島淳子,金美順,徐明煥(2023)『ワンアクション韓国語』朝日出版社									
参考文献	斉藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較―相互理解をめざして』世界思想社									
評価方法	授業への参加度 10%、課題・小テスト 30%、定期試験 60%									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。				メールアドレス (#→@)	intgvseo21jp#gmail.com				
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、基本母音								
	該当到達目標	予習	テキストを用意し、2 頁～6 頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。						1.5	時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
2	講義内容	基本子音 (平音、激音、濃音)								
	該当到達目標	予習	7 頁～17 頁を読んでくる。						1.5	時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
3	講義内容	複合母音								
	該当到達目標	予習	18 頁～21 頁を読んでくる。						1.5	時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
4	講義内容	終声(パッチム)								
	該当到達目標	予習	22 頁～25 頁を読んでくる。						1.5	時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5	時間
5	講義内容	発音の変化								
	該当到達目標	予習	26 頁～30 頁を読んでくる。						1.5	時間

	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力(メール)		
	該当到達目標	予習	31 頁～32 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다		
	該当到達目標	予習	32 頁～35 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	34 頁～43 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」		
	該当到達目標	予習	44 頁～47 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」(位置)、否定形「지 않다」、作文練習		
	該当到達目標	予習	48 頁～53 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」		
	該当到達目標	予習	54 頁～59 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	60 頁～65 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」(時間)、助詞「에」(方向)		
	該当到達目標	予習	66 頁～71 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習		
	該当到達目標	予習	72 頁～77 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	総まとめ		
	該当到達目標	予習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習		1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。			

科目名	情報リテラシー I (基礎教養科目)						科目ナンバリング	LAL012		
英文名	Information Literacy I						講義形態	講義		
担当教員	片山 豪、大橋 博、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養				1	コミュニケーションスキル			
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能				1	生涯学習力			
	3	問題解決力								
SDGs との関連	④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。 2. メールや SNS を正しく扱うことができる。 3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。 4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。 5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館6階602研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点								
		該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5 時間	
		復習	1 回目の講義内容を復習する					1.5 時間		
2	講義内容	メール・SNS 利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCC の使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS 利用上の注意(マナー、リスク、注意事項) ⑤クラウドサービス利用上の注意事項								
		該当到達目標 2,4	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5 時間	
		復習	2 回目の講義内容を復習する					1.5 時間		
3	講義内容	Widows PC の操作1(基本操作編)								

		①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)と Web サイトへの接続 ④Web ブラウザの便利機能とセキュリティ管理		
	該当到達目標 3	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Widows PC の操作2(エクスプローラ操作編) ①各種表示機能の ON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Widows PC の操作3(実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windows の各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	G メールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成(受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱) ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践(履修者同士での練習)		
	該当到達目標 2,4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル		
	該当到達目標 5	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他		
	該当到達目標 5	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ（基礎教養科目）							科目ナンバリング	LAL013	
英文名	Information Literacy Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員	片山 豪、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養				1	コミュニケーションスキル			
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能				1	生涯学習力			
	3	問題解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	6. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。 7. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。 8. コンピュータの 5 大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。 9. OS の役割を説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧									
参考文献										
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館6階602研究室				メールアドレス(# → @)		kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	コンピュータの仕組み1 ①情報量と補助単位(接頭語) ②2進数、8進数、16進数								
	該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5	時間
		復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
2	講義内容	コンピュータの仕組み2 ①2値論理 ②真理値表 ③ベン図								
	該当到達目標 2	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5	時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する						1.5	時間
3	講義内容	コンピュータの仕組み3 ①コンピュータの概要(5 大要素) ②コンピュータの種類								

	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	コンピュータの仕組み4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	コンピュータの仕組み5 ① 周辺装置(入力装置・出力装置) ② 周辺装置(補助記憶装置) ③ ドライバ		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	コンピュータの仕組み6 ① OS の種類 ② OS の役割(ファイル管理) ③ OS の役割(タスク管理・メモリ管理・デバイス管理) ④ OS と GUI インターフェイス		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	コンピュータの仕組み7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web と Web アプリ		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	コンピュータの仕組み8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	情報リテラシーⅢ（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL014		
英文名	Information Literacy Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	片山 豪、大橋 博、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養			1	コミュニケーションスキル				
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能			1	生涯学習力				
	3	問題解決力								
SDGs との関連	4 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. Word を使って各種文書を作成できる。 2. PowerPoint を使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館6階602研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Word 利用の基礎(演習)1 ①Word の起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
2	講義内容	Word 利用の基礎(演習)2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
3	講義内容	Word 利用の基礎(演習)3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集								
		該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間	
4	講義内容	Word 利用の基礎(演習)4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用								

		③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入		
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
5	講義内容	Word 利用の基礎(演習)5 ①文書作成のまとめ(文書資料の作成)		
	該当到達目標 1	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2 時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
6	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)1 ①PowerPoint の画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用		
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
7	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能		
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
8	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ(プレゼンテーション資料の作成)		
	該当到達目標 2	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2 時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Word、PowerPoint)を使用するものとする。			

科目名	情報リテラシーⅣ(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL015		
英文名	Information Literacy Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	片山 豪、大橋 博、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養			1	コミュニケーションスキル				
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能			1	生涯学習力				
	3	問題解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	10. Excel を使って基本的な集計ができる。 11. Excel の簡単な関数機能が利用できる。 12. Excel の表データからグラフを作成できる。 13. Excel でデータの検索や並べ替えができる。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館6階602研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)1 ①Excel の画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル								
		該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5	時間
		復習	1 回目の講義内容を復習する					1.5	時間	
2	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更								
		該当到達目標 1	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5	時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する					1.5	時間	
3	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)3 ①合計(SUM)関数 ②平均(AVERAGE)関数								

		③最大(MAX)最小(MIN)		
	該当到達目標 2	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)4 ①グラフの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)5 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)I		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)6 ①条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)II ②検索関数の利用		
	該当到達目標 4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え		
	該当到達目標 4	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)8 ①フィルター ②文字の結合 ③Word と Excel の活用		
	該当到達目標 4	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Excel)を使用するものとする。			

科目名	情報リテラシーⅤ							科目 ナンバリング	LAL016	
英文名	Information Literacy Ⅴ							講義形態	講義	
担当教員	片山 豪、木幡 直樹									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養				1	コミュニケーションスキル			
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能				1	生涯学習力			
	3	問題解決力								
SDGs との関連	234									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法	① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを 目標とする。 ② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	14. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。 15. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。 16. 専攻領域における ICT の利用事例や先進的利用について、説明できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎のテストを行い、合計点を 100 点に換算して、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館6階602研究室				メールアドレス (#→@)		kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ネットワークの基礎知識1 ①DHCP(IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5	時間
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する					1.5	時間	
2	講義内容	ネットワークの基礎知識2 ①Wi-Fi によるネットワーク接続(SSID とパスワード、接続周波数) ②4G と 5G・無線 LAN 規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策								
		該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5	時間
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する					1.5	時間	
3	講義内容	情報セキュリティの基礎1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策								

	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	情報セキュリティの基礎2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名		
		該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	情報セキュリティの基礎3 ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護		
		該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく
	2	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	社会と ICT 活用1 ① 医療・健康分野での ICT の活用 ② 社会福祉分野での ICT の活用 「※健康・医療・福祉分野の ICT 活用」		
		該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	社会と ICT 活用 2 ① 教育分野での ICT の活用		
		該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	社会と ICT 活用3 ① 農業・食糧生産分野での ICT の活用 ② 食品産業分野での ICT の活用 「※食品・農業分野の ICT の活用」		
		該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	情報リテラシーⅥ(基礎教養科目)						科目 ナンバリング	LAL017		
英文名	Information Literacy Ⅵ						講義形態	講義		
担当教員	片山 豪、大橋 博、木幡 直樹									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と幅広い教養				1	コミュニケーションスキル			
	2	健康・医療および情報に関する知識・技能				1	生涯学習力			
	3	問題解決力								
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。 ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	17. 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、 ヒストグラムによるデータの可視化ができる。 18. 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。 19. 四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。 20. 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布									
参考文献										
評価方法	各単元で実施する小テストの合計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜3限 1号館6階602研究室				メールアドレス (#→@)	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	データサイエンスの基礎1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間	
2	講義内容	データサイエンスの基礎2 ①Excel を使った度数分布とヒストグラムの作成								
		該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する						1.5 時間	
3	講義内容	データサイエンスの基礎3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係								

	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	データサイエンスの基礎4 ①Excel を使った代表値の算出		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	データサイエンスの基礎5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による 5 数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	データサイエンスの基礎6 ①Excel を使った 5 数要約の算出、箱ひげ図の作成		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	データサイエンスの基礎7 ① Σ 記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	データサイエンスの基礎8 ①Excel を使った分散、標準偏差、変動係数の算出		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考				

科目名	レクリエーション論(専門教養)							科目ナンバリング	LSE001	
英文名	Recreation Theory							講義形態	講義	
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験	レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事(現在)。(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度より)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:レクリエーション・インストラクター									
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。 教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。									
到達目標	1.レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■ 2.レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■ 3.コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解できる。■ 4.授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。 5.必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる(C-learning も含む)。									
使用教材	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,980 円(税込) ISBN 978-4-931180-95-6									
参考文献	「基本のアイスブレイキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530 円(税込) ISBN978-4-931180-92-5 C2076									
評価方法	授業の取り組み実践点 30%、 課題点(小テスト、確認テスト、レク支援経験)70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。レポートを学生同士で閲覧、コメントの作成や「相互評価」で、互いのレポートを評価(5 段階)することも予定している。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							0.5 時間
2	講義内容	レクリエーション支援の方法(アイスブレイキングのプログラムを体験する)■、グループわけ								
	該当到達目標	予習	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。							0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。							0.5 時間
3	講義内容	レクリエーション概論(レクリエーションの主旨と手段を理解する)■、レク支援の説明と日程抽選								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章(p.9~17)を読んでおくこと。							0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。							0.5 時間
4	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)								
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章(p.19~32)を読んでおくこと。							0.5 時間

	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとoshした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5 時間
5	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとoshした心の元気づくりを理解する)		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章(p.33～36)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
6	講義内容	レクリエーション支援の理論(コミュニケーションと信頼関係づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.37～43)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
7	講義内容	レクリエーション支援の理論(良好な集団づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.44～49)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援の理論(自主的、主体的に楽しむ力を高める理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.50～55)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援の方法(信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.57～65)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援の方法(ホスピタリティの体験的理解 その1・その2)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.66～69)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援の方法(ハードル設定の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援の方法(アレンジ方法の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援の方法(CSSプロセスの習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
14	講義内容	安全管理の方法■		
	該当到達目標	予習	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
15	講義内容	授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間

備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【履修条件】 ・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。 ・学内外のレクリエーション活動に関心をもち、問題意識をもつことや自らすすんで支援に関わる姿勢を求める。			
	【ルール】 レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③私語、わがまま、ふざけた態度をとる、④C-learning「出席管理」の不正行為(発覚時には厳正に対処する)			
	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもと医療(専門教養)						科目 ナンバリング	LSE002		
英文名	Children and Health Care						講義形態	講義		
担当教員	丸山 健一									
科目に関連した 実務経験	群馬大学医学部小児科講師、群馬県立小児医療センター院長、群馬県赤十字血液センター所長などを 歴任。医学博士、日本小児科学会専門医、日本腎臓学会指導医。現群馬県立小児医療センター顧問。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： なし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	5	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子どもは、発熱やけいれん、けがなど突発的な症状を起こすことが多いので、子どもの特性を学ぶ。また、入院中の子どもやその家族への支援方法、疾病を持ちながら保育・教育生活を送っている子ども達が、より快適に過ごすことができるための方策を考えると共に、「命」について、「健康」について考える。配布資料に基づいて講義を進めるが、適宜スライドや DVD を使用し進めていく。また医学用語が多いため、積極的に質問を促し、その都度回答し、受講者の理解度を図りながら進めていく。									
到達	1.子どもに多い疾患とその対応について、基礎的な知識を得る。■ 2.医療を必要とする子どもやその家族の気持ちを理解し、支援方法を考えることができる。 3.「命」の大切さを考えることができる。 4.統計資料から現在の日本の子ども達の健康状態を読みとることができる。■									
使用教材	その都度配布する。									
参考文献										
評価方法	子どもの病気や命についての書籍の抜粋を読み、自分の考えをまとめたレポート(6 編程度)と、県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校見学後のレポート 80%、授業参加度・学習態度 20%で評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートの提出は必須とする。コメントを付ける場合もある。医学用語が多いため、積極的に質問を促し、その都度回答するように努める。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 12:00~13:00 14:30~15:00 8 号館 4 階 408 研究室				メールアドレス (#→@)	k-maruyama#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス及び健康診断で行った抗体価とワクチン接種について■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標及び健康診断結果を確認する。						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法等を確認すると共に、予防接種について確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	我が国における保健水準■								
	該当到達目標	予習	我が国の保健水準についてのニュースに触れる。						1.5 時間	
	1,4	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。						1.5 時間	
3	講義内容	健康について、病院の仕組み、用語の解説、病児・病後児保育について■								
	該当到達目標	予習	健康について考えると共に、病気になった時の状況を考える。						1.5 時間	
	1,2,4	復習	配布資料を読み直し、再度健康について、受診について理解を深める。						1.5 時間	
4	講義内容	血液の基礎と輸血療法■								

	該当到達目標	予習	健康について考えると共に、輸血を必要とする時の状況を考える。	1.5 時間
	1,2,4	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	免疫とウイルス抗体価■		
	該当到達目標	予習	自分自身の予防接種歴や抗体価を調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	子どもの救急ってどんな時■		
	該当到達目標	予習	子どもの救急についてのニュースに触れる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	子どもに多い病気■		
	該当到達目標	予習	子どもの頃に罹患した疾病を思い出す。	1.5 時間
	1,4	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの薬■		
	該当到達目標	予習	子どもの頃の服薬体験を思い出す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校の見学■		
	該当到達目標	予習	子どもを対象とした病院についての情報に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	担当者からの説明及び院内見学で得た知識をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	県立小児医療センターに於ける病棟保育士の役割		
	該当到達目標	予習	県立小児医療センター見学について振り返る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容と配布資料により、子どもに寄り添う保育者について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	子どものアレルギー疾患■		
	該当到達目標	予習	アレルギー疾患についてのニュースに触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	先天異常について■		
	該当到達目標	予習	中学、高校時代の遺伝に関する知識を整理しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	皮膚と運動器の疾患■		
	該当到達目標	予習	自分自身の体験を思い出す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	医療的ケア児について■		
	該当到達目標	予習	医療的ケア児についてのニュースに触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料を読み直し、子どもや保護者の気持ちを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	小児がん■		
	該当到達目標	予習	小児がんに関するニュースに触れる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	将来、保育者、教育者になった時、「命の大切さ」について理解を深めると共に、何らかの疾病を持ちながら保育や教育を受けている子ども達と保護者の気持ちとその対応について理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・県立小児医療センター等見学及び病棟保育士講義については、日程を変更することがある。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が流行した場合には、中止することがある。 ・予防接種の必要な学生は、授業開始前までに必ず済ませておくこと。 ・県立小児医療センター等の見学日程は、11 月中旬～12 月初旬を予定しているため、インフルエンザの予防接種を必ず受けておくこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	宗教と倫理(専門教養科目)							科目 ナンバリング	LSH004	
英文名	Religion and Ethics							講義形態	講義	
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	5	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	1	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1016									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。 ② C-Learning の教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回アンケートに意見を記述してもらう。また、定期的にドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。									
到達目標	1. 講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。 2. そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。									
使用教材	C-Learning の教材倉庫に資料をアップする。									
参考文献	関根正雄(訳)『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971 年。 金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981 年。									
評価方法	授業への取り組み(資料の閲覧状況など)・・・30% 毎回の課題(アンケートの実施状況)、ドリル・小テスト、期末レポート・・・70%									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回、授業終了時に意見や質問などを C-Learning「アンケート」に記述してもらい、それらに対してコメントを返す。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・ 相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
1	該当到達目標	予習	シラバスと予習資料を読み、授業の方法やアウトラインについて理解しておく。							1.5 時間
		復習	自分自身の内にある「思い込み」について考えてみる。							1.5 時間
2	講義内容	『聖書』の思想:一神教の系譜								
	該当到達目標	予習	予習資料から一神教について知識を得ておく。							1.5 時間
	1,2	復習	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。							1.5 時間
3	講義内容	善人とは何か—『旧約聖書』(『ヨブ記』)より(1)「契約」について								
	該当到達目標	予習	予習資料から、「契約」について知識を得ておく。							1.5 時間

	1,2	復習	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。	1.5 時間
4	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(2) 生誕の災い		
	該当到達目標	予習	予習資料から『ヨブ記』のプロローグを確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(3) 自己の在り方を省みる		
	該当到達目標	予習	予習資料をもとに『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(4) 現代の事例から考える		
	該当到達目標	予習	予習資料からヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(5) 「懺悔」ということ		
	該当到達目標	予習	予習資料から『ヨブ記』エピローグについて確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	旧約から新約へ：イエスの教え		
	該当到達目標	予習	予習資料よりイエスの教えについて知識を得ておく。	1.5 時間
	1,2	復習	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(1) 『歎異抄』について		
	該当到達目標	予習	予習資料から『歎異抄』という書について知識を得ておく。	1.5 時間
	1	復習	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(2) 罪の意識		
	該当到達目標	予習	予習資料から『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1.5 時間
	1	復習	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(3) 浄土思想の展開(1)		
	該当到達目標	予習	予習資料から親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について知る。	1.5 時間
	1,2	復習	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(4) 浄土思想の展開(2)		
	該当到達目標	予習	予習資料から親鸞の生涯について知る。	1.5 時間
	1,2	復習	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5 時間
13	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(5) 「悪人正機説」		
	該当到達目標	予習	予習資料とあわせてこれまでの議論を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(6) 悪の不可避性とそれゆえの無力		
	該当到達目標	予習	予習資料をもとに親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5 時間
	1,2	復習	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	総括—東西の宗教		
	該当到達目標	予習	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	C-learning の「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週木曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、アンケートにコメントを記入すること。 詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。 「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。			

科目名	人間発達論(専門教養)							科目ナンバリング	LSE004	
英文名	Human Development							講義形態	講義	
担当教員	角野 善司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	4	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	①	③	④	⑤	⑧	⑩		⑬	⑯	⑰
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①講義の目標 この科目は、人間の発達に関する入門的な講義である。経験則にとどまらず、科学的に人間発達をとらえる目を養い、本学部での4年間の学修の基盤となる力を身に付ける。 ②講義の実施方法 授業期間全体を通じた授業の進め方: 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでももらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。									
到達目標	1. 主要な発達理論について説明できる。 2. 生涯発達および各発達段階の概要と課題について説明できる。 3. 発達と家族／社会のかかわりについて説明できる。 4. 生涯発達において保育・教育がもつ意義を論じることができる。									
使用教材	「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012 年									
参考文献										
評価方法	毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	発達の理論 (1) 発達の概念								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
2	講義内容	発達の理論 (2) 生涯発達								
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
3	講義内容	発達の理論 (3) 発達の規定因								
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
4	講義内容	発達の理論 (4) 発達段階と発達課題								

	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	生涯発達の様相 (1) 胎生期・周産期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	生涯発達の様相 (2) 乳児期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	生涯発達の様相 (3) 幼児期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	生涯発達の様相 (4) 児童期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	生涯発達の様相 (5) 青年期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	生涯発達の様相 (6) 成人期前半		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	生涯発達の様相 (7) 成人期後半		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	生涯発達の様相 (8) 老年期		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	発達と家族		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	発達と社会		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	発達と保育・教育		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5 点×15 回)、学期末レポート 25%			

科目名	人間行動学(専門教養)						科目ナンバリング	LSE005		
英文名	Theory of Human Behavior						講義形態	講義		
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人間は社会的な存在であり、日常場面では、様々なモノや情報とかかわりながら生活している。私たちは、個々の身体に備わった知識や技能を駆使しながら、それらに能動的にかかわり、適切に利用・使用していると考えがちである。しかし、このような理解では、私たちの日常的な行動を説明できないことがある。ときには、モノや情報が私たちの行動を導いたり、制約したりすることもある。なぜこのようなことが起こるのだろうか。本講義では、主に認知科学の知見をもとに、人間の行動について学んでいく。 授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1.人間の行動の特徴を客観的な視点から説明できる。 2.人間の行動を認知科学の知見に基づいて説明できる。 3.日常生活における様々な行動を 1,2 との関連から考察できる。									
使用教材	必要に応じて資料を配布する。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	レポート(60%)、授業内課題・参画度(40%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	人間の行動を導くもの								
	該当到達目標 1	予習	日常生活における行動の特徴について考えてみる。						1.0	時間
		復習	人間の行動を分析対象とする学問分野および方法論について理解する。						1.0	時間
2	講義内容	世論と統計								
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で検討する課題に取り組む。						1.5	時間
		復習	世論形成における統計のかかわりを理解する。						1.5	時間
3	講義内容	社会調査								
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で検討する課題に取り組む。						1.5	時間
		復習	社会調査の種類および方法、結果との向き合い方を理解する。						1.5	時間
4	講義内容	データの誤解釈								
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で検討する課題に取り組む。						1.5	時間
		復習	データを誤って解釈してしまう心理について理解する。						1.5	時間
5	講義内容	データ解釈の歪み								
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。						1.5	時間

	1,2,3	復習	データの妥当性とデータがもたらす問題について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	伝聞情報		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	伝聞(情報)の特徴と直面するパラドクスについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	信念と社会的承認		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	信念の形成過程と人々に共有される際の傾向について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	能力という概念		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	能力の文脈依存性とその不安定さについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	知識の所在		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知識の所在およびその曖昧さについて理解する。	1.5 時間
10	講義内容	技能の向上		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	練習の過程で起きている現象について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	心の理解		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	他者の心を理解の不確実性について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	道具のデザイン		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	道具のデザインが人間の行動に与える影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	プランと状況的行為		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	プランが行動に与える影響および状況的行為について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	日常生活におけるエラー		
	該当到達目標	予習	授業で検討する課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	エラーの形態と特徴について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)		
	該当到達目標	予習	第 1～14 回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2.0 時間
	3	復習	本講義で学習した内容と日常生活との関連について理解する。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名		音楽基礎 I (幼・保)(専門教養)						科目 ナンバリング	LSE006		
英文名		Basic Music Skills for Nursery Teachers I						講義形態	演習		
担当教員		岡本 拓子 佐藤 和貴 中村 郁野 田中 悠一郎									
科目に関連した 実務経験		佐藤和貴:音楽科教諭として高等学校に勤務(経験) 中村郁野:音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務(経験) 田中悠一郎:音楽科教諭として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格		免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針 との対応		4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連		③ ④									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○	○		○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		保育士、幼稚園教諭および小学校教諭に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。 授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。									
到達目標		1. 音符、リズムと拍、音階、調号、和声等、音楽に関する基礎知識について理解する。 ■ 2. 保育所、幼稚園、および小学校(主として低学年)で学ぶ歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。 ■ 3. 伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■									
使用教材		教材:井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 教科書:石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー									
参考文献		必要に応じてプリントを配布する									
評価方法		定期試験において、筆記試験 30%, 実技試験 30%, 毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法		毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。									
オフィスアワー (研究室)		岡本拓子:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404 佐藤和貴:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 5 階 503 田中悠一郎・中村郁野 授業開始前、終了後				メールアドレス (#→@)		岡本 okamoto#takasaki-u.ac.jp 佐藤 sato-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表									
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。							1	時間
	1,2	復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。							1	時間
2	講義内容	楽譜の基本① 高音部譜表、音名 ■									
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章「五線譜」、第 2 章「音部記号」を読んでおく。							1	時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。							1	時間
3	講義内容	歌唱教材の伴奏技法①「あさのうた」を教材として ■									
	該当到達目標	予習	「あさのうた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。							1	時間

	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
4	講義内容	楽譜の基本② 音符と休符 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第3章「音符と休符」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
5	講義内容	歌唱教材の伴奏技法② 「ゆうやけこやけ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「ゆうやけこやけ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
6	講義内容	楽譜の基本③ 拍子とリズム ■		
	該当到達目標	予習	教科書第4章「拍子とリズム」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
7	講義内容	歌唱教材の伴奏技法③ 「うみ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「うみ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
8	講義内容	楽譜の基本④ 音階と調号 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
9	講義内容	歌唱教材の伴奏技法④ 「めだかのがっこう」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「めだかのがっこう」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
10	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑤ 「あめふりくまのこ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「あめふりくまのこ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
11	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑥ 「やまのおんがくか」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「やまのおんがくか」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
12	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法① 「あさのうた」、「ゆうやけこやけ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
13	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法② 「うみ」、「めだかのがっこう」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
14	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法③ 「あめふりくまのこ」、「やまのおんがくか」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
15	講義内容	音楽の基礎知識をいかして、歌唱教材の弾き歌いをする。 ■		
	該当到達目標	予習	すべての課題曲を練習しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	歌唱教材の弾き歌い、伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	音楽基礎 I (小学校)(専門教養)						科目ナンバリング	LSE007		
英文名	Basic Music Skills for Elementary School Teachers I						講義形態	演習		
担当教員	岡本 拓子 佐藤 和貴 中村 郁野 田中 悠一郎									
科目に関連した実務経験	佐藤和貴:音楽科教諭として高等学校に勤務(経験) 中村郁野:音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務(経験) 田中悠一郎:音楽科教諭として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○		○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校教諭に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及び歌唱技法、ピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。 授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。									
到達目標	1. 音符、リズムと拍、音階、調号、和声等、音楽に関する基礎知識について理解する。 ■ 2. 伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■ 3. 小学校で学ぶ音楽教材(おもに低学年)の歌唱表現技法を習得する。 ■									
使用教材	教材:小学校音楽の教科書(1年生～3年生) 教育芸術社 教科書:石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー									
参考文献	必要に応じてプリントを配布する。									
評価方法	定期試験において、筆記試験 30%、実技試験 30%、毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。									
オフィスアワー(研究室)	岡本拓子:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404 佐藤和貴:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 5 階 503 田中悠一郎・中村郁野 授業開始前、終了後				メールアドレス (#→@)		岡本 okamoto#takasaki-u.ac.jp 佐藤 sato-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表 ■								
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。							1 時間
	1,2,3	復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。							1 時間
2	講義内容	楽譜の基本① 高音部譜表、音名 ■								
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章「五線譜」、第 2 章「音部記号」を読んでおく。							1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。							1 時間
3	講義内容	歌唱教材の伴奏技法①「かたつむり」を教材として ■								

	該当到達目標 2	予習	「かたつむり」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
4	講義内容	楽譜の基本② 音符と休符 ■		
	該当到達目標 1	予習	教科書第3章「音符と休符」を読んでおく。	1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
5	講義内容	歌唱教材の伴奏技法② 「はるがきた」を教材として ■		
	該当到達目標 2	予習	「はるがきた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
6	講義内容	楽譜の基本③ 拍子とリズム ■		
	該当到達目標 1	予習	教科書第4章「拍子とリズム」を読んでおく。	1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
7	講義内容	歌唱教材の伴奏技法③ 「うみ」を教材として ■		
	該当到達目標 2	予習	「うみ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
8	講義内容	楽譜の基本④ 音階と調号 ■		
	該当到達目標 1	予習	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
9	講義内容	歌唱教材の歌唱技法① 「ひらいたひらいた」を教材として ■		
	該当到達目標 3	予習	「ひらいたひらいた」の楽譜を読み、歌詞を理解して歌えるように練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
10	講義内容	歌唱教材の歌唱技法② 「おぼろ月夜」を教材として ■		
	該当到達目標 3	予習	「おぼろ月夜」の楽譜を読み、歌詞を理解して歌えるように練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
11	講義内容	歌唱教材の歌唱技法⑥ 「ふるさと」を教材として ■		
	該当到達目標 3	予習	「ふるさと」の楽譜を読み、歌詞を理解して歌えるように練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
12	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法① 「かたつむり」を教材として ■		
	該当到達目標 2	予習	「かたつむり」の弾き歌いの技法を練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
13	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法② 「はるがきた」を教材として ■		
	該当到達目標 2	予習	「はるがきた」の弾き歌いの技法を練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
14	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法③ 「うみ」を教材として ■		
	該当到達目標 2	予習	「うみ」の弾き歌いの技法を練習しておく。	1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
15	講義内容	音楽の基礎知識をいかして、歌唱教材の弾き歌いをする。 ■		
	該当到達目標 1.2,3	予習	すべての課題曲を練習しておく。	1 時間
		復習	歌唱教材の弾き歌い、伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		音楽基礎Ⅱ（幼・保）（専門教養）						科目ナンバリング	LSE008		
英文名		Basic Music Skills for Nursery Teachers Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員		岡本 拓子 佐藤 和貴 中村 郁野 田中 悠一郎									
科目に関連した実務経験		佐藤和貴：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験） 中村郁野：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験） 田中悠一郎：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格		免許・資格指定科目：なし									
学位授与方針との対応		4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連		③ ④									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		音楽基礎Ⅰに引き続き、保育士、幼稚園教諭および小学校教諭に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。 授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。									
到達目標		1. 音程、音階、調号、和声・コード、および音楽記号と用語等、音楽に関する基礎知識について理解する。■ 2. 保育所、幼稚園、および小学校（主として低学年）で学ぶ歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。■ 3. 伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。■									
使用教材		教材：井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 教科書：石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー									
参考文献		必要に応じてプリントを配布する。									
評価方法		定期試験において、筆記試験 30％、実技試験 30％、毎回の授業課題 40％を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。									
オフィスアワー （研究室）		岡本拓子：水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404 佐藤和貴：水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 5 階 503 田中悠一郎・中村郁野 授業開始前、終了後				メールアドレス （#→@）		岡本 okamoto#takasaki-u.ac.jp 佐藤 sato-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表 ■									
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。							1 時間	
	1,2	復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。							1 時間	
2	講義内容	楽譜の基本① 音階と調号 ■									
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章「音階と調号」を読んでおく。							1 時間	
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。							1 時間	

3	講義内容	歌唱教材の伴奏技法①「どんぐりころころ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「どんぐりころころ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
4	講義内容	楽譜の基本② 音程 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章「音程」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
5	講義内容	歌唱教材の伴奏技法②「おかえりのうた」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「おかえりのうた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
6	講義内容	楽譜の基本③ 和声・コード ■		
	該当到達目標	予習	教科書第7章「和声」および巻末のコード表を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
7	講義内容	歌唱教材の伴奏技法③「まつぼっくり」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「まつぼっくり」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
8	講義内容	楽譜の基本④ 音楽記号と用語 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第9章「音楽記号と用語」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
9	講義内容	歌唱教材の伴奏技法④「とけいのうた」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「とけいのうた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
10	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑤「とんぼのめがね」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「とんぼのめがね」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
11	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑥「まっかな秋」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「まっかな秋」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
12	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法①「まつぼっくり」「おかえりのうた」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
13	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法②「どんぐりころころ」「とけいのうた」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
14	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法③「とんぼのめがね」「まっかな秋」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
15	講義内容	音楽の基礎知識をいかして、歌唱教材の弾き歌いをする。 ■		
	該当到達目標	予習	すべての課題曲を練習しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	歌唱教材の弾き歌い、伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		音楽基礎Ⅱ(小学校)(専門教養)						科目ナンバリング	LSE009		
英文名		Basic Music Skills for Elementary School Teachers Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員		岡本 拓子 佐藤 和貴 中村 郁野 田中 悠一郎									
科目に関連した実務経験		佐藤和貴:音楽科教諭として高等学校に勤務(経験) 中村郁野:音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務(経験) 田中悠一郎:音楽科教諭として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格		免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針との対応		4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連		③ ④									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		小学校教諭に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。 授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。									
到達目標		1. 音程、音階、調号、和声・コード、および音楽記号と用語等、音楽に関する基礎知識について理解する。 ■ 2. 小学校で学ぶ音楽教材を伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■ 3. 小学校で学ぶ音楽教材の歌唱表現技法を習得する。 ■ 4. 小学校で学ぶ音楽教材のリコーダーや鍵盤ハーモニカでの演奏技法を習得する。 ■									
使用教材		教材:小学校音楽の教科書(1年生～3年生) 教育芸術社 教科書:石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー									
参考文献		必要に応じてプリントを配布する。									
評価方法		定期試験において、筆記試験 30%, 実技試験 30%, 毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。									
オフィスアワー(研究室)		岡本拓子:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404 佐藤和貴:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 5 階 503 田中悠一郎・中村郁野 授業開始前、終了後				メールアドレス (#→@)		岡本 okamoto#takasaki-u.ac.jp 佐藤 sato-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表 ■									
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。							1 時間	
	1,2	復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。							1 時間	
2	講義内容	楽譜の基本① 音階と調号 ■									

	該当到達目標	予習	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
3	講義内容	弾き歌いの演奏技法①「虫の声」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「虫の声」の楽譜を読み、弾き歌いの練習をしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
4	講義内容	楽譜の基本② 音程 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章「音程」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
5	講義内容	弾き歌いの演奏技法②「ゆうやけこやけ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「ゆうやけこやけ」の楽譜を読み、弾き歌いの練習をしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
6	講義内容	楽譜の基本③ 和声・コード ■		
	該当到達目標	予習	教科書第7章「和声」および巻末のコード表を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
7	講義内容	弾き歌いの演奏技法③「日のまる」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「日のまる」の楽譜を読み、弾き歌いの練習をしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
8	講義内容	楽譜の基本④ 音楽記号と用語 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第9章「音楽記号と用語」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
9	講義内容	歌唱教材の演奏技法①「茶つみ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「茶つみ」の楽譜を読み、歌詞の意味を理解して歌えるようにしておく。	1 時間
	3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
10	講義内容	歌唱教材の演奏技法②「もみじ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「もみじ」の楽譜を読み、歌詞の意味を理解して歌えるようにしておく。	1 時間
	3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
11	講義内容	歌唱教材の演奏技法③「冬景色」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「冬景色」の楽譜を読み、歌詞の意味を理解して歌えるようにしておく。	1 時間
	3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
12	講義内容	リコーダーおよび鍵盤ハーモニカの演奏技法①「赤い屋根の家」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「赤い屋根の家」の楽譜を読み、階名唱の練習、および楽器での演奏の練習をしておく。	1 時間
	4	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
13	講義内容	リコーダーおよび鍵盤ハーモニカの演奏技法②「さんぽ」を教材として ■		
	該当到達目標	予習	「さんぽ」の楽譜を読み、階名唱の練習、および楽器での演奏の練習をしておく。	1 時間
	4	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
14	講義内容	リコーダーおよび鍵盤ハーモニカの演奏技法③ 合奏の練習 ■		
	該当到達目標	予習	課題の楽譜を読み、階名唱の練習、および楽器での演奏の練習をしておく。	1 時間
	4	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
15	講義内容	音楽の基礎知識をいかして、歌唱教材の弾き歌いをする。 ■		
	該当到達目標	予習	すべての課題曲を練習しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	歌唱教材の弾き歌い、伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間

選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

科目名	現代教育論Ⅰ（専門教養）					科目ナンバリング	LSE010			
英文名	Contemporary EducationⅠ					講義形態	演習			
担当教員	保育・教育コース：富田純喜 教員養成コース：菅野・栗原・大橋・片山・姉崎・増田・山西・佐藤									
科目に関連した実務経験	菅野：国語科講師として中学校に勤務（経験） 栗原：小学校教諭として小学校に勤務するとともに、小学校の教頭・校長を歴任（経験） 大橋：小学校教諭として小学校に勤務（経験） 増田：美術科教諭として中学校に勤務（経験） 姉崎：英語科教諭として中学校に勤務（経験） 片山：理科教諭として高等学校に勤務（経験） 佐藤：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	2	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑩ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①この授業は、保育者・教育者をめざす学生が今日の教育活動や保育活動の現状を認識し、教育や保育に関わる諸問題を本学の理念である「自利利他」の視点や教育学的視点から理解し、説明できることをめざす科目である。 ②実施方法 （保育・教育コース） 保育・教育実践に関する課題は多岐に渡るが、本講義では、保育実践に不可欠な「発達」に焦点を当てる。発達研究は 20 世紀に入ってから飛躍的に発展したものであり、個人が成長過程において依存を脱却して自律に至るという発達の図式は近代教育学と深い結びつきがある。この発達概念の再考をとおして、今日の保育が抱える課題の本質に接近する。加えて、発達と保育の関係に迫ることで、新たな保育実践を創造する視点の獲得をめざす。授業は、講義、事例検討（DVD 教材を含む）、ディスカッションから構成する。 （教員養成コース） 現代教育の動向や諸相を認識し、教育に関わる諸問題を人文・社会・自然などの科学的視点や教育学的視点から理解し、説明できることをめざす。また、現代教育に関する一般的な知識と幅広い視野をもつことで、教育に関する諸問題を解決する力を習得する。さらに、学校教育に携わる者としての自覚をもち、現代の教育に関する情報を、興味をもって収集し分析することをとおして、知識理解の質を高め、確かな学力を育成する教育活動に生かせる力を身に付ける。授業は、講義形式、資料を基にした個人学修、集団討論や集団面接に役立つ話し合いや発表を中心としたグループや全体での活動などで進める。									
到達目標	（保育・教育コース） 1. 保育・教育の現代的問題を多角的・複眼的な視点から捉えることができる。 2. 保育・教育の概念・理論を用いて現代的問題を説明することができる。 3. 1,2 をもとに、問題解決のための方策を考えることができる。 （教員養成コース） 1.現代教育の動向や諸相を認識することができる。 2.現代教育の諸問題を、人文・社会・自然などの科学的視点や教育学的視点から理解し説明できる。■ 3.現代教育に関する一般的な知識と幅広い視野をもち、諸問題の解決に生かすことができる									

	4.学校教育に携わる者としての自覚をもち、教育に関する情報を収集し知識理解の質を高め、確かな学力を育成する教育活動に生かすことができる。				
使用教材	担当教員による講義スライド等の教材をプリントして配付する。				
参考文献	各教員がその都度紹介する。				
評価方法	保育・教育コース:授業内課題(60%)、最終レポート(40%) 教員養成コース:担当教員 8 名で講義の各回の配点を 10 点とし、合計 150 点を 100 点に換算する。 評価方法は、試験、レポート、学修姿勢などを基に総合的に判断する。各教員が初回に詳しく説明する。				
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポート等について、コメントなどを提示する。				
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーと研究室は、他の科目で確認すること。	メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは、他の科目で確認すること。		
(保育・教育コース)					
1	講義内容	保育における現代的問題			
	該当到達目標	予習	これまで受講した授業を振り返り、保育における現代的問題を整理する。	0.5	時間
	1	復習	保育における現代的問題を次回以降の授業内容に照らして整理する。	0.5	時間
2	講義内容	保育における発達とは？			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1	復習	各要領・指針における発達に関する記述を整理する。	0.5	時間
3	講義内容	発達論再考(1)発達研究の成果と課題			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1,2	復習	発達研究の歴史的展開を理解したうえで、その成果と課題を整理する。	0.5	時間
4	講義内容	発達論再考(2)個体としての生命活動			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1,2	復習	個人に焦点化することの意義と課題を整理する。	0.5	時間
5	講義内容	発達論再考(3)構造的な変化			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1,2	復習	構造的な変化に着目することの意義と課題を整理する。	0.5	時間
6	講義内容	発達論再考(4)発達の方向性			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1,2	復習	能力の向上という方向性を前提とすることの意義と課題を整理する。	0.5	時間
7	講義内容	関係論的発達論(1)関係論とは			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1,2	復習	個人を超えた関係性の総体として捉える発達論の特徴を整理する。	0.5	時間
8	講義内容	関係論的発達論(2)事例検討			
	該当到達目標	予習	配布資料(事例)を読み、概要を理解する。	0.5	時間
	3	復習	発達に関する複数の視点から事例を考察する。	0.5	時間
9	講義内容	関係論的発達論(3)保育実践との関連			
	該当到達目標	予習	配布資料(課題のフィードバック)を読み、概要を理解する。	0.5	時間
	3	復習	ディスカッション・解説の内容を踏まえ、自らの考えを整理する。	0.5	時間
10	講義内容	物語としての発達(1)関係の物語とは			
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	0.5	時間
	1,2	復習	物語としての一貫性を見出す発達論の特徴を整理する。	0.5	時間
11	講義内容	物語としての発達(2)事例検討			
	該当到達目標	予習	配布資料(事例)を読み、概要を理解する。	0.5	時間

	3	復習	発達に関する複数の視点から事例を考察する。		0.5	時間
12	講義内容	物語としての発達(3)保育実践との関連				
	該当到達目標	予習	配布資料(課題のフィードバック)を読み、概要を理解する。		0.5	時間
	3	復習	ディスカッション・解説の内容を踏まえ、自らの考えを整理する。		0.5	時間
13	講義内容	参加としての発達(1)社会・文化と発達				
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。		0.5	時間
	1,2	復習	社会的・文化的活動への参加を重視する発達論の特徴を理解する。		0.5	時間
14	講義内容	参加としての発達(2)事例検討				
	該当到達目標	予習	配布資料(事例)を読み、概要を理解する。		0.5	時間
	3	復習	発達に関する複数の視点から事例を考察する。		0.5	時間
15	講義内容	参加としての発達(3)保育実践との関連				
	該当到達目標	予習	配布資料(課題のフィードバック)を読み、概要を理解する。		0.5	時間
	3	復習	ディスカッション・解説の内容を踏まえ、自らの考えを整理する。		0.5	時間
合計時間(予習・復習)					15	時間
備考	講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。					
(教員養成コース)						
1	講義内容	現代教育と情報リテラシー・プログラミング教育(含オリエンテーション)(片山豪)■				
	該当到達目標	予習	情報教育及び ICT, プログラミング教育に関する今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べておく。		0.5	時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。		0.5	時間
2	講義内容	現代教育と理科(物理・化学)(片山 豪)■				
	該当到達目標	予習	理科教育及び科学に関する今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べておく。		0.5	時間
	2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。		0.5	時間
3	講義内容	現代教育における歴史・地理分野の指導ポイント。(栗原幸正)■				
	該当到達目標	予習	これまで学修した歴史と地理に関して整理し、歴史と地理に関する現代の教育的な課題についてインターネット等で調べる。		0.5	時間
	2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。		0.5	時間
4	講義内容	現代教育における政治・経済分野の指導ポイント。(栗原幸正)■				
	該当到達目標	予習	これまで学修した政治と経済に関して整理し、政治と経済に関する現代の教育的な課題についてインターネット等で調べる。		0.5	時間
	1,2,3	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。		0.5	時間
5	講義内容	現代教育と算数(大橋博)■				
	該当到達目標	予習	算数教育に関わる今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べてみる。		0.5	時間
	2,3,4	復習	授業で取り扱った内容をもとにして、今日における算数教育の現状や課題について考察した上で、教師としてどのように向き合っていくのかについてレポートにまとめる。		0.5	時間
6	講義内容	現代教育と数学(大橋博)■				
	該当到達目標	予習	数学教育に関わる今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べてみる。		0.5	時間
	2,3,4	復習	授業で取り扱った内容をもとにして、今日における数学教育の現状や課題について考察した上で、教師としてどのように向き合っていくのかについてレポートにまとめる。		0.5	時間
7	講義内容	現代教育と国語(菅野陽太郎)■				
	該当到達目標	予習	文字に関する教育的な課題について、これまでの学修や経験をもとに考えたり、インターネット等で調べたりする。		0.5	時間
	2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。		0.5	時間
8	講義内容	現代教育と国語(書写)(菅野陽太郎)■				
	該当到達目標	予習	書字に関する教育的な課題について、これまでの学修や経験をもとに考えたり、		0.5	時間

			インターネット等で調べたりする。	
	2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
9	講義内容	現代教育と英語表現(英文) (姉崎達夫) ■		
	該当到達目標	予習	教育の現場に関する英文資料に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で扱った英文中の具体的な表現を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	現代教育と英語表現(会話) (姉崎達夫) ■		
	該当到達目標	予習	教育の現場で話される会話に関する資料に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義で扱った会話文を覚えて、実際に発話できるようにする。	0.5 時間
11	講義内容	現代教育と美術 (増田金吾) ■		
	該当到達目標	予習	日本における現代美術教育の特色と課題を、書籍、雑誌、インターネット等で調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
12	講義内容	現代教育と体育 (山西加織)		
	該当到達目標	予習	「体育」に関して、興味関心のあるトピックスを新聞、雑誌、インターネット等で調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で取り扱ったテーマに関して考察し、教師として児童の体育活動にどのように関わっていきたいのか、レポートにまとめる。	0.5 時間
13	講義内容	現代教育と音楽 (佐藤和貴) ■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説音楽編から第 2 章「音楽科の目標及び内容」を読み、理解を深めておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で扱ったテーマに関して考察し、小学校における音楽の授業をどのように展開する必要があるのか、レポートにまとめる。	0.5 時間
14	講義内容	道徳 (大橋博) ■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領第 3 章「特別の教科 道徳」を精読する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導要領および授業資料を再読する。	0.5 時間
15	講義内容	現代教育と理科(生物・地学) (片山 豪) ■		
	該当到達目標	予習	理科教育及び科学に関する今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べておく。	0.5 時間
	2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	現代教育論Ⅱ（専門教養）							科目ナンバリング	LSE012	
英文名	Contemporary Education II							講義形態	演習	
担当教員	子ども教育学科教員									
科目に関連した実務経験	今井邦: 幼稚園・小学校・中学校の教歴, 子育て支援センター職員歴有(経験) 栗原: 小学校教諭として小学校に勤務するとともに、小学校の教頭・校長を歴任(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34810									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、保育者・教育者をめざす学生が今日の保育活動や教育活動の現状を認識し、教育や保育に関わる諸問題を教育学的視点から理解し、説明できることをめざす科目である。 (保育・教育コース) 幼児教育や保育活動に関連した専門的知識や技術は、子どもの成長や発達や豊かな感性に育ちに影響を与える。本講義では、「子どもの学びとしての遊び」について様々な専門領域から捉え、幼児期の教育に関する課題や教育活動のあり方について総合的に学ぶ。 (教員養成コース) 現代教育の現状を認識し、教育に関わる諸問題を教育学的視点から理解し、説明できることをめざす。また、教育学に内包される諸科学の一般的な知識と幅広い視野をもつことで、教育に関する諸問題を解決する力を修得する。さらに、学校教育に携わる者としての自覚をもち、教育現場の現象に目を向け、関係する科学の理論を駆使して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた積極的な教育現場への参加に意欲をもつことができる。授業は、講義形式、資料を基にした個人学修、集団討論や集団面接に役立つ話し合いや発表を中心としたグループや全体での活動などで進める。この授業は、保育者・教育者をめざす学生が今日の保育活動や教育活動の現状を認識し、教育や保育に関わる諸問題を教育学的視点から理解し、説明できることをめざす科目である。									
到達目標	(保育・教育コース) 1. 幼児教育や保育活動等の専門知識や技術を、子どもの発達や豊かな感性の育ちと関連づけて理解することができる。 2. 幼児教育における子どもの遊びと環境について、教育的視点から理解し、説明することができる。 3. 子どもの遊びを領域から捉え、幼児教育における教育活動のあり方を理解することができる。■ 4. 総合的活動として、幼児教育における教育活動を理解し、実践につなげることができる。■ (教員養成コース) 1. 現代教育の現状を認識することができる。■ 2. 現代教育の諸問題を、教育学的視点から理解し説明することができる。■ 3. 教育学的見地からの一般的な知識と幅広い視野をもち、諸問題の解決に生かすことができる。■ 4. 学校教育に携わる者としての自覚をもち、理論的背景をもって「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る力を身につけ、教育現場への参加に意欲を示すことができる。									
使用教材	担当教員による講義スライド等の教材をプリントして配付する。									
参考文献	各教員がその都度紹介する。									
評価方法	(保育・教育コース) 担当教員 2 名で 各 50 点ずつ計 100 点とする。 (教員養成コース) 担当教員 5 名で 各 30 点ずつとして評価した後、合計 150 点を 100 点に換算する。 評価方法は、試験、レポート、学修姿勢などを基に総合的に判断する。各教員が初回に詳しく説明する。									

課題・評価に対する フィードバック方法		提出された感想シートやレポート等について、コメントなどを提示する			
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーと研究室は、 他の科目で確認すること。		メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは、他の 科目で確認すること。
(保育・教育コース)					
1	講義内容	子どもの豊かな生活を育む保育環境ー子どもにとって環境とはー(今井邦枝)■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	実習日誌を読み返し、子どもにとっての環境について考える。		0.5 時間
		復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。		0.5 時間
2	講義内容	子どもの姿を読み取る1(今井邦枝)			
	該当到達目標 1,3,4	予習	実習日誌を読み返し、子どもの姿を発達に応じて考える。		0.5 時間
		復習	授業で学んだことを踏まえて、実習日誌を読み返し、子どもの姿を読みとる。		0.5 時間
3	講義内容	子どもの姿を読み取る2(今井邦枝)			
	該当到達目標 1,3,4	予習	実習日誌を読み返し、遊びの中の子どもの姿を考える。		0.5 時間
		復習	授業で学んだことを踏まえて、保育ドキュメンテーションを作成する。		0.5 時間
4	講義内容	造形表現活動の実践1(石原)			
	該当到達目標 1,2	予習	与えられた課題を授業中に制作する(絵画関係)		0.5 時間
		復習	課題を完成させる		0.5 時間
5	講義内容	造形表現活動の実践2(石原)			
	該当到達目標 1,2	予習	与えられた課題を授業中に制作する(工作関係)		0.5 時間
		復習	課題を完成させる		0.5 時間
6	講義内容	造形表現活動と教育1ー子どもの教育に必要な日本美術史概説ー(石原)			
	該当到達目標 1,2	予習	配布する日本美術史のプリントに沿って、時代区分や作品と作者を予習する。		0.5 時間
		復習	プリントの内容で小テストを実施し復習する。		0.5 時間
7	講義内容	造形表現活動と教育2ー子どもの教育に必要な西洋美術史概説ー(石原)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	配付した資料を事前に読み予習する。		0.5 時間
		復習	プリントの内容で小テストを実施し復習する。		0.5 時間
8	講義内容	造形表現活動と教育3ー子どもの教育に必要な幼児絵画の原理ー(石原)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	配付した資料を事前に読み予習する。		0.5 時間
		復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。		0.5 時間
9	講義内容	造形表現活動と教育4ー子どもが好むキャラクターについてー(石原)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	オリジナルのキャラクターを作成し、クラス運営を考える。		0.5 時間
		復習	制作した作品を提出する。		0.5 時間
10	講義内容	造形表現活動と教育5ー造形活動における言葉かけー(石原)			
	該当到達目標 1,2,3, 4	予習	子どもの「やる気」を引き出す言葉かけを考える。		0.5 時間
		復習	言葉かけの実例をレポートとして提出。		0.5 時間
11	講義内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針、こども園教育・保育要領に示されている学び(今井邦枝)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	要領、指針に示されている「保育において育みたい資質・能力及び幼児期の 終わりまでに育ってほしい姿」を読み、内容を理解する。		0.5 時間
		復習	授業で学んだことをまとめ復習する。		0.5 時間
12	講義内容	好奇心が育む学びの世界1((今井邦枝)■			
	該当到達目標 1,2,4	予習	子どもにとっての「遊び＝学び」の意味を考える。		0.5 時間
		復習	子どもの姿から保育者の関わりを考える。		0.5 時間
13	講義内容	好奇心が育む学びの世界2:学びの姿の事例検討①(今井邦枝)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	子どもの気づきの視点から、実習での活動経験を振り返る。		0.5 時間
		復習	子どもの気づきを引き出す活動についてまとめる。		0.5 時間
14	講義内容	好奇心が育む学びの世界2:学びの姿の事例検討②(今井邦枝)■			
	該当到達目標 1,2,4	予習	子どもの気づきを引き出す環境について考える。		0.5 時間
		復習	子どもにとっての「遊び＝学び」の意味について自分の考えをまとめる。		0.5 時間

15	講義内容	総合的活動としての幼児教育■		
	該当到達目標	予習	幼稚園教育要領 p50～73 を読み予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	子どもの学びにつながる保育指導計画を作成する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。			
(教員養成コース)				
1	講義内容	教育現場における SDGs (村田美和)		
	該当到達目標	予習	SDGs について基礎的な内容を調べる。	0.5 時間
	1	復習	SDGs の意義・目的を振り返り、整理する。	0.5 時間
2	講義内容	学校教育と GIGA スクール構想(村田美和)		
	該当到達目標	予習	GIGA スクール構想について基礎的な内容を調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	GIGA スクール構想の意義・目的を振り返り、整理する。	0.5 時間
3	講義内容	学校教育と ICT (村田美和)		
	該当到達目標	予習	自分の住んでいる自治体の小中学校で導入されている端末を調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	ICT 活用の意義・目的を振り返り、整理する。	0.5 時間
4	講義内容	学校現場における具体的課題【いじめに係る保護者対応】(栗原幸正)■		
	該当到達目標	予習	教育実習等を通して収集した、学校における具体的な課題についてまとめ、その対応についての自分なりの考えを発表できるようにしておく。	0.5 時間
	3,4	復習	講義内容を踏まえて、学校現場における課題についての対応策をレポートにまとめる。	0.5 時間
5	講義内容	学校と学習指導要領【小学校におけるプログラミング学習】(栗原幸正)■		
	該当到達目標	予習	プログラミング学習について調べ背景や対策について調べ、ノート等にまとめておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を踏まえて、現代的教育課題に関する課題をレポートにまとめる。	0.5 時間
6	講義内容	現代的教育課題【アクティブ・ラーニングの実践と課題】(栗原幸正)■		
	該当到達目標	予習	アクティブ・ラーニングについて調べ背景や実践について調べ背景や対策について調べ、ノート等にまとめておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を踏まえて、アクティブ・ラーニングに関する課題をレポートにまとめる。	0.5 時間
7	講義内容	障害児の理解と支援 (小竹利夫)		
	該当到達目標	予習	障害児の心理や病理などについて授業で学んだことを振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、障害児の支援の方法について整理する。	0.5 時間
8	講義内容	特別な支援を必要とする子どもの理解と支援 (小竹利夫)		
	該当到達目標	予習	特別な支援を必要とする子どもの理解について授業で学んだことを振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返り、特別な支援を必要とする子どもの支援について整理する。	0.5 時間
9	講義内容	被虐待児の支援 (小竹利夫)		
	該当到達目標	予習	被虐待児の支援について授業で学んだことを振り返る。	0.5 時間
	3,4	復習	講義内容を振り返り、被虐待児の支援の方法について整理する。	0.5 時間
10	講義内容	教育心理 (角野善司)		
	該当到達目標	予習	既修の関連諸科目のノート等を読み直す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業資料を再読する。	0.5 時間
11	講義内容	発達と学習(角野善司)		
	該当到達目標	予習	既修の関連諸科目のノート等を読み直す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業資料を再読する。	0.5 時間
12	講義内容	児童生徒・教員の心理に関する今日的な課題(角野善司)		
	該当到達目標	予習	既修の関連諸科目のノート等を読み直す。	0.5 時間
	3,4	復習	授業資料を再読する。	0.5 時間
13	講義内容	近現代西洋教育史 (北村陽)		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、文献などで調べておく。	0.5 時間
	3,4	復習	配付資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間

14	講義内容	近世・近代日本教育史（北村陽）			
	該当到達目標 3,4	予習	講義内容に関連する項目について、文献などで調べておく。	0.5	時間
		復習	配付資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5	時間
15	講義内容	近現代日本教育史（北村陽）			
	該当到達目標 3,4	予習	講義内容に関連する項目について、文献などで調べておく。	0.5	時間
		復習	配付資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。 オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■：実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	世界と子ども(専門教養)					科目ナンバリング	LSE014			
英文名	Introduction to the Worlds Surrounding Children					講義形態	講義			
担当教員	岡本・片山・北村・大橋・菅野・大塚・石原・小竹・丸山・栗原・千葉・山西・富田・鈴木									
科目に関連した実務経験	片山:理科教諭として高等学校に勤務(経験) 北村:社会科教諭として中学校に勤務(経験)、公民科・福祉科教諭として高等学校に勤務(経験) 大橋:小学校教諭として小学校に勤務(経験) 栗原:小学校教諭として小学校に勤務(経験) 千葉:保育士として公立保育所に勤務(経験) 鈴木:英語教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年	前期	選必・単位数	必修 2 単位						
履修を必須とする資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	2	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○								○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、保育者・教育者を目指して入学した学生が、各専門分野から子どもと子どもを取り巻く世界についての課題を知り、問題意識を喚起するための科目である。保育・教育現場の様々な現象を認識し、それに伴う諸問題に対応できる力を身につける。また、乳児、幼児、児童、生徒が自らをとりまく世界とどのように接し成長していくかを、最新の情報を入手して理解することにより、今後の学修に活かせるようにする。さらには、提示された課題についてレポートを作成することにより、子どもと保育・教育に関する分野への興味・関心を高め、今後の方向性を確認させる。授業は主に講義形式でおこなう。									
到達目標	1.子どもと子どもを取り巻く世界について保育・教育の各専門分野の視点から考えることができる。 2.子ども・保育・教育に対する関心を高めることができる。 3.各自の今後の学修の方向性を明確にすることができる。 4.各講義の分野に関して、子どもに興味・関心を持たせることができる。■									
使用教材	担当教員による講義スライドなどの教材をオンラインで配布する。									
参考文献	各教員がその都度紹介する。									
評価方法	各講義の配点を 10 点とし、合計 150 点を 100 点に換算する。レポート 70%、授業への貢献度等 30%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポート等について、コメントなどを提示する。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーと研究室は、他の科目で確認すること。				メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは、他の科目で確認すること。				
1	講義内容	オリエンテーション／子どもと世界(岡本拓子)								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	シラバスを読み、本科目の目標を理解する。 子どもを取り巻く世界にはどのような現状や課題があるのか調べておく。						1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。						1.5	時間
2	講義内容	子どもと科学 (片山豪):身近な環境に目を向ける動機づけを行う。■								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。特に子どもの理科に対する興味・関心と学習意欲に関するところを調べる。						1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、関連書籍等に目を通す。 子どもが理科を好きになる意義を考え、そのためにはどうしたら良いか考えをまとめ、課題に取り組む。						1.5	時間
3	講義内容	子どもと人権(北村陽)								

	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連するニュースや文献・資料に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
4	講義内容	子どもと数(大橋博) ■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
5	講義内容	子どもと言葉(菅野陽太郎)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
6	講義内容	子どもと食(大塚恵美子)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
7	講義内容	子どもと美術(石原綱成)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
8	講義内容	子どもと特別な支援(小竹利夫)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
9	講義内容	子どもと健康(丸山健一)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
10	講義内容	子どもと生活(栗原幸正) ■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	講義内容(子どものしつけ)に関連する新聞記事や文献を読んでおく。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
11	講義内容	子どもと家族(千葉千恵美) ■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
12	講義内容	子どもと貧困(岡本祐子)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	子どもの貧困の実態や施策に関する新聞記事や書籍等の資料を読んでおく。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
13	講義内容	子どもと運動(山西加織)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	幼少期の運動経験や遊び経験に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
14	講義内容	子どもと保育(富田純喜)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
15	講義内容	子どもと第二言語習得(鈴木文也) ■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	「年齢と言語習得」「言語の臨界期仮説」に関する文献に触れる。	1.5	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。各回、指定された期日までに動画を視聴したり資料を読んだりした後、レポート課題に取り組むこと。課題未提出者はその回を出席したことにはならない。やむを得ない理由でレポート課題の提出が遅れる場合は、事前に必ず担当教員に連絡・相談すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		特別支援教育入門(専門教養)						科目ナンバリング	LSE015		
英文名		Introduction to Special Needs Education						講義形態	講義		
担当教員		小竹利夫 五十嵐 一徳 村田 美和									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目: なし									
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		学生が特別な支援を必要とする子どもについて理解すること。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づく説明とグループワークなどを行いながら進めていく。									
到達目標		1.「特別な支援を必要とする」子どもや大人について説明できる。 2.「特別な支援を必要とする」子どもや大人に対する支援について説明できる。									
使用教材		講義のスライド等を随時プリントして配付する									
参考文献		参考書については授業内で紹介する。									
評価方法		試験の成績を 70%、毎回のコメント 30%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		コメントに対して、随時授業内でフィードバックする。随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)		小竹(8号館 403号室):月3限、火4限 五十嵐(8号館 5階 506):木曜日2限目、金曜日2限目 村田(8号館 5階 502):火曜2限、金曜2限				メールアドレス (#→@)		小竹:kotake#takasaki-u.ac.jp 五十嵐:igarashi-k#takasaki-u.ac.jp 村田:murata-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	授業の目標、進め方、評価の仕方について 障害を理解するとは？ (五十嵐)									
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							1.5	時間
2	講義内容	障害者への配慮とは？ (五十嵐)									
	該当到達目標 2	予習	障害について調べる。							1.5	時間
		復習	障害者への配慮について理解する。							1.5	時間
3	講義内容	多様な人々Ⅰー大人の発達障害を中心に (五十嵐)									
	該当到達目標 1,2	予習	大人の発達障害について調べる。							1.5	時間
		復習	大人の発達障害について理解する。							1.5	時間
4	講義内容	多様な人々Ⅱ(LGBTなど) (五十嵐)									
	該当到達目標 1,2	予習	LGBTなどの多様な人々について調べる。							1.5	時間
		復習	LGBTなどの多様な人々について理解する。							1.5	時間
5	講義内容	障害者と共に生きるとは？ (五十嵐)									
	該当到達目標	予習	相模原障害者施設の事件について調べる。							1.5	時間

	2	復習	障害者と共に生きることについて考える。	1.5 時間
6	講義内容	LD・ADHD（村田）		
	該当到達目標	予習	関連資料を読む	1.5 時間
	1	復習	LD・ADHD について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	視覚障害・聴覚障害（村田）		
	該当到達目標	予習	関連資料を読む	1.5 時間
	1	復習	視覚障害・聴覚障害について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	障害者差別解消法と合理的配慮（村田）		
	該当到達目標	予習	関連資料を読む	1.5 時間
	1	復習	障害者差別解消法と合理的配慮についてノートにまとめる	1.5 時間
9	講義内容	支援に必要なツールについて（村田）		
	該当到達目標	予習	関連書籍を読む	1.5 時間
	2	復習	ICT 機器について自分の身の回りの端末に触れ理解する。	1.5 時間
10	講義内容	病弱児と精神疾患について(村田)		
	該当到達目標	予習	関連資料を読む	1.5 時間
	1,2	復習	病弱児と精神疾患について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	特別な支援を要する子どもの理解と支援 ―環境―（小竹）		
	該当到達目標	予習	障害について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	障害のある子どもの生活を考える。	1.5 時間
12	講義内容	特別な支援を要する子どもの理解と支援 ―コミュニケーション―（小竹）		
	該当到達目標	予習	障害について調べる。	1.5 時間
	1	復習	障害のある子どもの生活を考える。	1.5 時間
13	講義内容	特別な支援を要する子どもの理解と支援 ―探索活動―（小竹）		
	該当到達目標	予習	障害について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	障害のある子どもの生活を考える。	1.5 時間
14	講義内容	特別な支援を要する子どもの理解と支援 ―保護者支援―（小竹）		
	該当到達目標	予習	障害について調べる。	1.5 時間
	2	復習	障害のある子どもの生活を考える。	1.5 時間
15	講義内容	特別な支援を要する子どもの理解と支援 ―友達関係―（小竹）		
	該当到達目標	予習	障害について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	障害のある子どもの生活を考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・オンラインで実施する場合、c-learning を通じて課題を提示する。			

科目名	教育における情報機器の操作 I (専門教養)							科目ナンバリング	LSE016		
英文名	Computer Literacy for Teaching I							講義形態	実習		
担当教員	片山 豪 木幡 直樹										
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位								
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭 小学校教諭 中学校教諭 特別支援学校教諭 保育士										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養						多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		専門的知識					3	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力									
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
	○					○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育所、幼稚園、小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得する。そのために、インターネット、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーション等各種ソフトウェアの基本的な操作方法を身につける。 各講義では、教科書、自作資料にそって教員が各回の内容を説明し、(中間モニター利用)。学生は指示された課題をファイルにまとめて提出する方法で授業を進める。										
到達目標	1.インターネットを用いて情報を検索することができる。 2.電子メールを用いて、情報のやり取りをすることができる。 3.Word の基本的な操作をすることができる。 4.Office のフォトレタッチ機能の基本的な操作をすることができる。 5.Excel の基本的な操作をすることができる。 6.Power Point の基本的な操作をすることができる。 7. Adobe Photoshop Elements, Adobe Premiere Elements を用いて初歩的な画像の処理、動画処理をすることができる。 8.保育・教育の現場でコンピュータを活用して職務を円滑に遂行する能力を身につけることができる。■										
使用教材	30 時間でマスターoffice 2019(実教出版)。										
参考文献	授業において紹介。										
評価方法	課題に対する提出物(ファイル)の内容 90%, 授業への参加度、態度、積極性等 10%で評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物(ファイル)の内容が、求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し、その結果を学生に伝え、必要に応じ、再提出を求める。										
オフィスアワー (研究室)	片山;水曜 3 限、金曜 2 限 (9 号館 4 階 411 研究室), 木幡;水曜日 4 限、金曜日 2 限 (1 号館 6 階 602 研究室)					メールアドレス (#→@)		片山;katayama#takasaki-u.ac.jp 木幡;kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	学内コンピュータの利用法、電子メールの基本操作									
	該当到達目標	予習	シラバスを確認しておく。今までのコンピュータの知識をまとめておく。							1.5	時間
	1,2,7	復習	学内コンピュータの利用法、電子メールの基本操作の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。							1.5	時間
2	講義内容	Windows の基本操作、インターネットの情報検索、情報セキュリティ■									
	該当到達目標	予習	教科書を読んでおく。							1.5	時間
	1,7	復習	Windows の基本操作、インターネットの情報検索の再確認を行う。不完全だった							1.5	時間

			ところを完成させる。	
3	講義内容	Word 文書の作成(1) 基本操作・文字列の入力, 基本的な文書の作成, 書式の設定		
	該当到達目標	予習	文字列の入力, 書式の設定に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	3,7	復習	文字列の入力, 書式の設定に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
4	講義内容	Word 文書の作成(2) 文書の編集, 文書の印刷		
	該当到達目標	予習	文書の編集, 印刷に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	3,7	復習	文書の編集, 印刷に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
5	講義内容	Office のフォトレタッチ機能■		
	該当到達目標	予習	Office のフォトレタッチ機能に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	3,4,7	復習	Office のフォトレタッチ機能に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
6	講義内容	Word 文書の作成(3) 表と図表の作成		
	該当到達目標	予習	表と図表の作成に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	3,7	復習	表と図表の作成に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	Word 課題, レポート作成■		
	該当到達目標	予習	今まで勉強した Word 文書の作成方法を復習しておく。指示された写真を用意しておく。	1.5 時間
	1,2,3,7	復習	授業で指示したレポート課題を完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	Excel 基本操作(1) セルとワークシート■		
	該当到達目標	予習	セルとワークシートに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	セルとワークシートに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	Excel 基本操作(2) 集計表の作成		
	該当到達目標	予習	集計表の作成に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	集計表の作成に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	Excel の関数		
	該当到達目標	予習	Excel の関数に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	Excel の関数に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	Excel の便利な機能(条件付き書式, 並び替え, フィルター)		
	該当到達目標	予習	条件付き書式, 並び替え, フィルターに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	条件付き書式, 並び替え, フィルターに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	PowerPoint プレゼンテーション作成の基本操作■		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーション作成の基本操作に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	6,7	復習	プレゼンテーション作成の基本操作に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	PowerPoint 図形の描画		
	該当到達目標	予習	図形の描画に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	6,7	復習	図形の描画に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	PowerPoint プレゼンテーション効果の活用, アニメーション		

	該当到達目標	予習	プレゼンテーション効果の活用, アニメーションに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	
	6	復習	プレゼンテーション効果の活用, アニメーションに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	
15	講義内容	Adobe Photoshop Elements, Adobe Premiere Elements の基本操作■		
	該当到達目標	予習	シラバスを確認しておく。画像処理ソフト, 動画処理ソフトの機能について調べておく。	1.5 時間
	6	復習	画像処理ソフト, 動画処理ソフトの機能を再確認しておく。	1.5 時間
	合計時間(予習・復習)			45 時間
備考	新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点で, オンラインで実施する場合がある。その場合は, オンデマンド型授業とし, 資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育における情報機器の操作Ⅱ（専門教養）							科目ナンバリング	LSE017		
英文名	Computer Literacy for TeachingⅡ							講義形態	実習		
担当教員	大橋 博 村田 美和										
科目に関連した実務経験	【大橋】小学校教員時代に情報教育の指導経験 【村田】高崎先端 ICT 教育協議会で ICT 教育の指導・講習（経験）										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数		必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目：幼稚園教諭 小学校教諭 中学校教諭 保育士										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
		専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力									
SDGs との関連	4 8 9 10 11 17										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
					○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①保育教育現場においてデータとデジタル技術の活用による教育手法の変革を行おうという教育の DX が言われ、情報機器の活用能力は教員として必須となってきた。本講義では ICT 機器を用いた双方向かつ個別に最適化された授業を理解し、それを実現することを目指す。また、現実にあるものを数理的かつ論理的に理解し、ICT 機器上に再現するプログラミングを学ぶ。 ②講義は演習が中心となり、Office アプリの使い方、LMS（学習管理システム）やプログラミングを用いる。授業内の知識を確認するため、プレゼンやプログラミング課題の提出を求めることがある。										
到達目標	1. 情報教育の現状と情報技術の基礎を理解する。■ 2. LMS を活用し、生徒と教師の双方向な授業を実現できる 3. 学習指導要領にあるプログラミングを理解し、プログラミング課題をクリアできる。										
使用教材	自主作成教材を使用する。										
参考文献	●文部科学省・情報教育の推進（2024.1 accessed） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369613.htm ●文部科学省・GIGA スクール構想の実現について（2024.1 accessed） https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm ●初等中等教育にける情報教育（2024.1 accessed） https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/koyou/dai6/siryoku4.pdf										
評価方法	授業毎のリフレクションシート（50％）、提出物（50％）で評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	授業にて解説する										
オフィスアワー（研究室）	大橋：月曜1限 （9号館3階302研究室）、 村田：火曜2限、月曜3限 （8号館5階502研究室）				メールアドレス （#→@）	ohashi#takasaki-u.ac.jp murata-m#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	ガイダンス・iPad のキッキング									
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、授業の目的を理解する。							0.5	時間
	1	復習	iPad の資料を読み直し、自分に使いやすいようにカスタマイズする。							2.5	時間
2	講義内容	ロイロノートの基本操作■									
	該当到達目標	予習	ロイロノートの HP を確認し、用途を知る。							1	時間
	2	復習	ロイロノートを使った授業実践について、HP の事例を閲覧し復習する。							2	時間
3	講義内容	iPad 内での OneDrive（クラウド）活用									
	該当到達目標	予習	OneDrive のアカウントにログインする。用途を調べる。							1	時間

	2	復習	OneDrive にフォルダを作成し、大学の勉学用に整理する。	2 時間
4	講義内容	iPad 内での Word による指導案作成		
	該当到達目標	予習	Word を iPad にダウンロードする。指導案のサンプルを読む。	1 時間
	2	復習	指導案の図表を自身の iPad にて作成し、機能を復習する。	2 時間
5	講義内容	iPad 内での PowerPoint の活用		
	該当到達目標	予習	PowerPoint をダウンロードする。ツール内にあるボタンの機能を確認しておく。	1 時間
	2	復習	より見やすいスライドデザインやフォントサイズを確認し、作成したものをブラッシュアップさせる。	2 時間
6	講義内容	PowerPoint スライドショーを活用した発表		
	該当到達目標	予習	プレゼンの練習をする。	1 時間
	2	復習	発表が上手だった人の様子を振り返り、そのポイントを書き留める。	2 時間
7	講義内容	iPad 内での Office 共同作業		
	該当到達目標	予習	マイクロソフト教育センターで共同作業の実践を閲覧する。	1 時間
	2	復習	エクセルなど、授業で使わなかった Office でも、共同作業できることを確認する。	2 時間
8	講義内容	オンラインテレビ会議システムの活用 ■		
	該当到達目標	予習	Zoom をインストールし、基本機能について確認する。	1 時間
	1	復習	オンラインテレビ会議システムでの実践例と注意点について振り返る。	2 時間
9	講義内容	情報技術の基礎② セキュリティ対応と対策		
	該当到達目標	予習	iPad のアップデートをし、アプリのアップデートを確認する。	1 時間
	1	復習	自分の iPad 内のアプリのセキュリティを見直す。	2 時間
10	講義内容	プログラミングの基礎① 小学校プログラミング教育と授業での活用事例を知る ■		
	該当到達目標	予習	参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1 時間
	3	復習	講義資料とその内容を確認し、プログラミング課題を解く。	2 時間
11	講義内容	プログラミングの基礎② 小学校授業での活用事例を学び、体験する 1 ■		
	該当到達目標	予習	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1 時間
	3	復習	講義資料とその内容を確認し、プログラミング教育についての考え方を整理しておく。	2 時間
12	講義内容	プログラミングの基礎③ 小学校での活用事例を学び、体験する 2		
	該当到達目標	予習	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1 時間
	3	復習	講義資料とその内容を確認し、ビジュアルプログラミングについての技能・知識等を整理し、プログラミング課題に取り組む。	2 時間
13	講義内容	プログラミングの基礎④ 小学校授業での活用事例を学び、体験する 3		
	該当到達目標	予習	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1 時間
	3	復習	講義資料とその内容を確認し、プログラミング課題をすすめる。	2 時間
14	講義内容	プログラミングの基礎⑤ 小学校授業での活用事例を学び、体験する 4		
	該当到達目標	予習	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1 時間
	3	復習	講義資料とその内容を確認し、プログラミング課題をすすめる。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を理解し、内容を整理する。	1 時間
	3	復習	15 回の授業の内容を整理する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

講義は教員と学生が双方向な意見のやり取りを行う。
授業中や課題としてプレゼンテーションをすることが多々ある。

第 10～14 回のプログラミングについては、教育現場に即してプログラミング教育の内容を扱うため、教材は適宜変更する。そのためテーマに若干の変更が起きる場合がある。

本講義中に、小中高生向けのプログラミングスタッフや高崎市の ICT ボランティアの紹介を行う。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	保育原理(保育・教育の原理)							科目ナンバリング	CEP151	
英文名	Principles of Early Childhood Education							講義形態	講義	
担当教員	内田 祥子									
科目に関連した実務経験	石川: 保育士として保育所に勤務(経験) 幼稚園教諭として幼稚園に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育という営みの背後にある歴史や原理を理解することを目指す。授業は講義形式で行う。テキストとともに毎時教員が作成した資料を配布し説明を行う。復習では、毎時配布する資料に記載された課題に取り組むこととする。									
到達目標	1. 保育の意義を理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。									
使用教材	保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・認定こども園教育・保育要領解説・最新保育資料 2023									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	授業内での課題 30%・期末試験 70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にコメントし返却する									
オフィスアワー (研究室)	内田: 月曜 1, 2 限(研究室 410) 石川: 水曜 1, 2 限(研究室 301)				メールアドレス (#→@)	uchida-s#takasaki-u.ac.jp ishikawa-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション 保育について学ぶ意義・保育の理念とは								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでくる						1.5	時間
	1.5	復習	授業の内容にかんする小レポート						1.5	時間
2	講義内容	児童の最善の利益を考慮した保育								
	該当到達目標	予習	児童の最善の利益とは何かについて考え、自分なりの考えを書いてくる						1.5	時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート						1.5	時間
3	講義内容	保育の社会的意義								
	該当到達目標	予習	保育の社会的意義とは何かについて考え、自分なりの考えを書いてくる						1.5	時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート						1.5	時間
4	講義内容	保育所保育と家庭的保育								
	該当到達目標	予習	保育所保育の特徴とは何かを考え、自分なりの考えを書いてくる						1.5	時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート						1.5	時間
5	講義内容	保育所保育指針の制度的位置づけ								

	該当到達目標	予習	保育所保育指針第1章を読んでくる	1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
6	講義内容	保育の基本①養護と教育の一体性		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
7	講義内容	保育の基本②環境を通しておこなう保育		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
8	講義内容	保育の基本③発達過程に応じた保育		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
9	講義内容	保育の基本④保護者との緊密な連携		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
10	講義内容	保育の方法①生活と遊びを通して総合的におこなう保育		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	3	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
11	講義内容	保育の方法②保育における個と集団への配慮		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	3	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
12	講義内容	保育の方法③計画・実践・記録・評価・改善の循環過程		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	3	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
13	講義内容	保育の思想①諸外国の保育思想		
	該当到達目標	予習	諸外国の保育思想について調べてくる	1.5 時間
	4	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
14	講義内容	保育の基本②日本の保育思想		
	該当到達目標	予習	日本の保育思想について調べてくる	1.5 時間
	4	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
15	講義内容	まとめ: 保育における現代的課題		
	該当到達目標	予習	保育における現代的課題について自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	4.5	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインとなった場合は、オンデマンド形式で実施予定である。			

科目名	教育基礎論 A(保育・教育の原理)							科目 ナンバリング	CEP001	
英文名	Principles of Education A							講義形態	講義	
担当教員	浦崎 源次 北村 陽 富田 純喜									
科目に関連した 実務経験	北村:教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義は、教育学の基礎的な知識となる、教育の原理、歴史、思想、教育制度、様々な現代的問題や様々な教育実践について学び、教職に携わる者に求められる基礎的な資質の獲得を目指す。特に、近・現代の公教育の歴史を学ぶことや、教育の原点と言われる障害児教育の実践から学ぶこと、さらには教育に関わる様々な事象を社会問題として認識する方法を学ぶことを通して、教育の現代的問題について、歴史や社会構造の観点を含んで考察できる力の獲得を目指す。 授業の進め方: 3 人の担当者がそれぞれの専門分野を講義し、その後に小テストで理解度を確認していく、という方法で行います。予習・復習については、小テストの学習等で補完してください。									
到達目標	1.教職に携わる者に求められる教育学に関する基礎的な知識を身につけている。 2.教育実践を行うに必要な基礎的な資質を身につけている。■									
使用教材	授業担当者の作成資料による。									
参考文献	講義中に適宜、紹介する。									
評価方法	各担当者が行う小テスト・課題と授業参画度を総合して評価する。その内訳は、富田:35 点、北村:35 点、浦崎:30 点とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	(浦崎)金曜 3 限(8 号館 407) (北村)月曜 2 限、木曜 2 限(9 号館 305) (富田)水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)		(浦崎)g-urasaki#takasaki-u.ac.jp (北村)kitamura#takasaki-u.ac.jp (富田)tomita-t#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション (富田)								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、毎回の授業内容を確認し、自分との関連などを考えておく。						1.5	時間
	1,2	復習	資料を読み直し、授業の概要を確認し、教育基礎論を学ぶ意味を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	教育とは何か (富田)								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。						1.5	時間
	1	復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	人間形成と教育 (富田)								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。						1.5	時間
	1	復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。						1.5	時間

4	講義内容	子ども観の変遷（富田）			
	該当到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	就学前の教育と保育(1) 教育と保育の違い（富田）			
	該当到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	就学前の教育と保育(2) 実践における基本的な考え方（富田）			
	該当到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	西洋の教育の歴史（北村）			
	該当到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
8	講義内容	日本の教育の歴史（1）古代～近代(明治)（北村）			
	該当到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
9	講義内容	日本の教育の歴史(2) 近代(大正)～現代(平成)（北村）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
10	講義内容	授業と評価(カリキュラムを含む)■（北村）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
11	講義内容	青年期と教育■（北村）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
12	講義内容	現代日本の障害児教育（浦崎）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
13	講義内容	教育の公共性と教師の問題（浦崎）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	「能力」の問題（浦崎）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
15	講義内容	障害児の教育実践から見た教育のあり方（浦崎）			
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	15 回分の資料を読み直し、専門用語について理解する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。				

科目名	教育制度論 A(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP002		
英文名	Theory of Educational Systems A						講義形態	講義		
担当教員	栗原 幸正 北村 陽									
科目に関連した実務経験	栗原: 公立小学校に教諭、教頭、校長として勤務(経験)。市町村教育委員会に指導主事として勤務(経験) 北村: 教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・文献を読み込み、その記述を元に自らの課題を設定し、ディスカッションを通して自らの考えを整理して文章でまとめる授業を実施。(3・8・9・10・13)									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	教師を目指す者にとって、我が国の教育制度を正しく理解しておくことは重要なことである。本授業では、「子ども」や「教育」に関わる制度について、主に「社会」との関係から考察していく。授業の進め方としては、各テーマについてのスライドや別途資料による説明や教科書を用いた文献調査を基に課題に取り組むことによって理解を深めていく。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。小テストや小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1.我が国の教育制度の概要や課題について理解できる。■ 2.資料や教科書を基にして、課題に積極的に取り組むことができる。 3.各自のテーマについて意欲的に調べ小論文等にまとめることができる。									
使用教材	『教師のための教育学シリーズ 11 子どもと教育と社会』腰越滋編著、学文社、2016 年、2,100 円(税別)									
参考文献	学習指導要領解説 総則編									
評価方法	期末テスト約 50%、 レポート約 30%、日常点(課題への取り組み、提出物等)約 20%を配分して総合評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー(研究室)	栗原:水曜 2 限、金曜 2 限(8 号館 学部長室) 北村:月曜 2 限、木曜 2 限(9 号館 305 研究室)				メールアドレス (#→@)	栗原 kurihara-y#takasaki-u.ac.jp 北村 kitamura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション 教育制度を学ぶ意義について (北村陽)								
	該当到達目標 1	予習	シラバスおよび教科書のまえがきを読んでおく。						1.5 時間	
		復習	配布資料を読み授業の概要を再確認し、教育制度を学ぶ意義を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	学校の制度 (栗原幸正)■								
	該当到達目標 1,2	予習	教育関係法規について、関連する図書などで調べておく。						1.5 時間	
		復習	関係資料を読み直し、教育法規について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	教員の制度 (栗原幸正)■								
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の関連する記述について、関連する図書などで調べておく。						1.5 時間	
		復習	資料を読み直し、教員の制度について理解する。						1.5 時間	

4	講義内容	社会教育の制度（北村陽）■		
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
		復習	配布資料を読み授業の概要を再確認し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	教育の機会均等（北村陽）		
	該当到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
		復習	配布資料を読み授業の概要を再確認し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	日本国憲法と教育基本法（栗原幸正）		
	該当到達目標 1,2	予習	日本国憲法と教育基本法に関連する項目について調べておく。	1.5 時間
		復習	小テストの内容を復習し 2 つの法律について理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	世界の子育て事情（北村陽）		
	該当到達目標 2,3	予習	教科書の第 1 章(1～18 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
		復習	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	社会化の揺らぎを考える(栗原幸正)		
	該当到達目標 2,3	予習	社会化とは何かについて、インターネット等を用いて理解しておく。	1.5 時間
		復習	教科書を読み直し、レポート作成を通して社会化の意義について考察する。	1.5 時間
9	講義内容	教育とジェンダー（栗原幸正）■		
	該当到達目標 2,3	予習	ジェンダーについて、インターネット等を用いて、現状や動向を把握しておく。	1.5 時間
		復習	教科書を読み直し、教育におけるジェンダーの意味について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校教育と受験体制（栗原幸正）		
	該当到達目標 2,3	予習	日本の受験体制について、インターネット等を用いて現状や動向を把握しておく。	1.5 時間
		復習	教科書を読み直し、受験体制が教育全体に与える影響について考えまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	学習する意義（北村陽）		
	該当到達目標 2,3	予習	教科書の第 5 章(81～99 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
		復習	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	大学教育の変容（北村陽）■		
	該当到達目標 2,3	予習	教科書の第 6 章(100～126 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
		復習	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	教師と学校組織（栗原幸正）■		
	該当到達目標 2,3	予習	教員の在り方について、インターネット等を用いて現状や動向を把握しておく。	1.5 時間
		復習	教科書を読み直し、教員の在り方について小論文にまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	生涯学習社会（北村陽）		
	該当到達目標 2,3	予習	教科書の第 8 章(148～169 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
		復習	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	日本社会における子ども（北村陽）		
	該当到達目標 2,3	予習	教科書の第 9 章(170～185 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
		復習	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	地域教育社会論(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP003		
英文名	Regional Communities and Education						講義形態	講義		
担当教員	三村 国宏									
科目に関連した実務経験	公立学校の教歴: 中学校教員、中等教育学校・高等学校の教頭、副校長、校長として学校と地域が連携・協働した教育活動の推進をする(経験)。研修歴: 群馬県総合教育センター長期研修員「学校経営」、教育委員会の職歴: 伊勢崎市教育委員学校教育課長及び教育プラン推進担当課長として学校や地域の教育課題の解決に務める(経験)。									
学年・開講期	3 年	前期	選必・単位数	選択必修 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	1.豊かな人間性と教養			2	4.多様な社会・背景を理解し対応する力(多様性理解)				
	2	2.専門的知識			2	5.自律的・意欲的に学習する力				
	2	3.問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「テーマ・学校と地域でつくる教育」 少子化や高齢化、人口減少など急速な社会構造の変化を迎えている我が国の地域社会においては様々な課題が顕在化している。本講義では、地域社会における学校の役割や学校と地域が一体となった教育活動について理解するとともに、現代社会における子供の課題等を把握して、これからの社会をつくる学生たちが「大学での学びを子供の教育や地域社会に還元し、新たな学びを創造する姿勢」を身に着けることをねらいとしている。授業期間全体を通じた授業の進め方は、講義やグループワーク、討議等を重ねながら、地域教育の理解と理論及び子供や地域社会の問題を課題解決的に学ぶ。									
到達目標	1 学校や地域を巡る近年の様々な社会状況や教育施策及び、それに伴う子供の学習や生活の変化を踏まえた学校や地域の教育上の課題を理解している。 2 学校教育の目標を達成するため、社会に開かれた教育課程を編成、実施するとともに、その取組を組織的計画的に評価してよりよい教育活動を行うことの重要性を理解している。■ 3 学校と地域との連携・協働による教育(地域学校共同活動など)の推進の意義やその実現の方法を理解している。■ 4 学校管理下の事故や災害の実情を踏まえるとともに、生活安全・交通安全・災害安全の各領域や安全上の課題について、学校安全及び安全教育の両面から具体的な取組を行う必要性について理解している。■									
使用教材	講義内容ごとに資料を配布する。									
参考文献	授業内で紹介する。('学校と地域との連携事例集')、'よくわかる生涯学習'									
評価方法	最終テストに 40%、毎回の小テスト(リアクションペーパー含む)の評価 30%、日常点(授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等)に 30%を配分して総合評価をする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業における取り組みの評価や課題のフィードバックはその都度行う。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・2 限、水曜・1 限 教職支援センター				メールアドレス (#→@)	k-mimura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	地域教育の視座と方法								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義概要等を理解し見通しをもつ。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	地域社会の現状と地域教育の目的とその方法を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	現代的課題と教育①少子高齢化(高齢者と子供の交流やボランティア活動)■								
	該当到達目標	予習	自分の育った地域の人口や母校の子供の数の変化を調べる。						1.5 時間	
	1,2	復習	地域の少子高齢化に対応するための学校の在り方を理解する。						1.5 時間	

3	講義内容	現代的課題と教育②人権教育(同和、女性、外国人さまざまな人権)■		
	該当到達目標	予習	様々な人権問題について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	学校や地域等で行われている人権教育について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	現代的課題と教育③情報化(ICTを活用した教育と子供の被害)■		
	該当到達目標	予習	GIGAスクール構想について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ICTを活用した授業における効果とインターネットの危険性を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	現代的課題と教育④グローバル化(外国籍の人たちとの共生と教育的支援)■		
	該当到達目標	予習	自分の住む市や町の外国籍の人々の人口の推移を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	多文化共生社会や外国籍児童生徒への教育の取組について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	学校、子供、地域とカリキュラム(社会に開かれた教育課程など新しい教育の動き)■		
	該当到達目標	予習	平成 29,30 年度版学習指導要領の改訂の趣旨等を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	持続可能な社会づくりに向けた学校教育について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	子供の学力や生活の現状■		
	該当到達目標	予習	平成31年度実施全国学力学習状況調査結果を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	子供の学力や生活面の課題を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	不登校の問題と学校、家庭、地域の連携■		
	該当到達目標	予習	令和元年度文部科学省問題行動調査結果を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	不登校の実態とその解決に向けた取り組みを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	いじめの問題と学校、家庭、地域の連携■		
	該当到達目標	予習	令和元年度文部科学省問題行動調査結果を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	いじめの実態とその解決に向けた取り組みを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	地域の自然・歴史・文化をテーマにした学校の教育活動■		
	該当到達目標	予習	自分が小中学校で体験した自然体験活動等をまとめる。	1.5 時間
	2,3	復習	学校における体験活動の意義を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	子供の安全(子供の事故・事件と生活安全・交通安全)■		
	該当到達目標	予習	子供の事故にはどんなものがあるか調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	子供の安全を守るために学校等がどんな取り組みをしているか理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校・地域と防災連携・防災教育■		
	該当到達目標	予習	災害にはどんなものがあるか調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	学校における防災連携・防災教育の具体的取組と災害時の行動を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	学校におけるカリキュラム・マネジメント(教育課程の PDCA サイクル)■		
	該当到達目標	予習	教科等横断的な視点で教育課程を編成することについて調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	学校におけるカリキュラム・マネジメントの実際について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	コミュニティ・スクール■		
	該当到達目標	予習	地元のコミュニティ・スクールについて調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	学校運営協議会の役割及び、コミュニティ・スクールの教育効果を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域学校協働活動と開かれた学校づくり■		
	該当到達目標	予習	自分の住む地域における教育的課題を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学校を核とした地域づくりを理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回小テストや資料の提示を c-learning で行いますので、パソコン等を持参してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子ども家庭福祉Ⅰ（保育・教育の原理）						科目ナンバリング	CEP152		
英文名	Child Family WelfareⅠ						講義形態	講義		
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	公立保育所に保育士として勤務(経験) 学内子ども・家族支援センターで保育士 心理相談員勤務									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択 2単位							
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代の子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷や現代社会の子ども家庭福祉の課題、制度や実施体系、子ども家庭福祉の動向と課題、解決方法を目指す。 授業の進め方:授業内容は前半と後半に分け、前半は講義形式をとり、後半はグループ・ディスカッションを行い話し合った内容を板書きし、まとめ理解を深める方法を取る。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。									
到達目標	1. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向について理解する事が出来る。 ■ 2. 子ども家庭福祉の歩みと歴史、子どもの人権について理解することが出来る。 3. 子ども家庭福祉に関する法制度と実施機関、障害を持つ子どもを理解する事が出来る。 ■ 4. 母子保健、ひとり親支援、社会的養護を含む子ども家庭福祉を理解することが出来る。 ■									
使用教材	保育士をめざす人の子ども家庭福祉 伊達悦子・辰巳隆編集 (株)みらい 2023 年度版 講義のスライドを随時プリントして配布する									
参考文献	保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館									
評価方法	事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験 80%とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィードバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5限目 (8号館4階401研究室)				メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み子ども家庭福祉についての目標や到達目標等を予備知識について予習する。						1.5 時間	
	1,2	復習	子ども家庭福祉にむけた組み立て講義内容を振り返り理解を深める						1.5 時間	
2	講義内容	子どもの権利について								
	該当到達目標	予習	子どもの権利条約について事前に第2章 P24-P39を読み、内容にふれる						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、子どもの権利条約について理解を深める						1.5 時間	
3	講義内容	子ども家庭福祉の成り立ちについて								
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p40-p55を読み、講義内容についてふれる						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、子ども家庭福祉の成り立ちの理解を深める						1.5 時間	
4	講義内容	子ども家庭福祉の法と行政・実施機関について ■								
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p56-p78を読み、内容にふれる						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、法と行政・実施機関について理解を深める						1.5 時間	
5	講義内容	子ども家庭福祉に必要な児童福祉施設について ■								
	該当到達目標	予習	事前に第5章 p79-p95について読み、内容にふれる						1.5 時間	

	2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、児童福祉施設について理解を深める	1.5 時間
6	講義内容	子ども家庭福祉に必要な社会的養護について ■		
	該当到達目標	予習	事前に第 6 章 p96-p115 を読み、内容にふれる	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、社会的養護について理解を深める	1.5 時間
7	講義内容	保育サービスと地域子育て支援		
	該当到達目標	予習	事前に第 7 章 p116-p130 について読み、内容にふれる	1.5 時間
	1,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し保育サービスや地域子育て支援の理解を深める	1.5 時間
8	講義内容	障害児福祉サービスについて		
	該当到達目標	予習	事前に第 8 章 p131-p149 について読み、内容にふれる	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、障害児保育について理解を深める	1.5 時間
9	講義内容	子どもを取り巻く諸問題について 児童虐待を含む ■		
	該当到達目標	予習	事前に第 9 章 p95150-p161 を読み、内容にふれる	1.5 時間
	1,2,4	復習	講義内容の資料を読み返し、子どもの取り巻く諸問題の理解を深める	1.5 時間
10	講義内容	少年非行について		
	該当到達目標	予習	事前にp162-p167 までを読み、内容についてふれる	1.5 時間
	3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、少年非行について理解を深める	1.5 時間
11	講義内容	子育て支援と健全育成について		
	該当到達目標	予習	事前に第 10 章 p168-177 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
	1,2,4	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援と健全育成の理解を深める	1.5 時間
12	講義内容	ひとり親家庭への支援について ■		
	該当到達目標	予習	事前に p177-p182 まで読み、内容についてふれる	1.5 時間
	1,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、ひとり親家庭への支援について理解を深める	1.5 時間
13	講義内容	母子保健と子育て支援サービス ■		
	該当到達目標	予習	事前に p182-p186 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
	4	復習	講義内容資料及び DVD 視聴の感想を記載し、母子保健の理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	子ども家庭福祉の専門職と専門技術について ■		
	該当到達目標	予習	事前に第 11 章 p188-p205 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
	4	復習	講義内容の資料を読み返し、専門職及び専門技術について理解を深める	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 子ども家庭福祉で学んだ内容について		
	該当到達目標	予習	今後保育現場で必要な子ども家庭福祉について事前に調べる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	子ども家庭福祉で学んだ事項を整理し、総合的なまとめとして理解を深める	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORD 子ども家庭福祉 現状 課題 保育サービス 虐待防止 オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 (■は実務経験に基づく内容を示す)			

科目名	子ども家庭福祉Ⅱ（保育・教育の原理）						科目ナンバリング	CEP153		
英文名	Child Family Welfare Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	公立保育所に保育士として勤務(経験) 学内子ども・家族支援センターで保育士 心理相談員勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1 2 3 4 5 6 8 9 10 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中では、事例検討の実践力習得方法としてロールプレイを取り入れる。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子ども家庭福祉Ⅰで習得した内容を基に、複雑・多様化する子どもと家庭の現状への理解を深め、保育現場に必要な知識や技術、及び子ども家庭に必要な知識と技術の実践力を旨とする。 授業の進め方:指定教科書に添い、内容をまとめたスライドで進める。1 コマを前半と後半に分け、前半は講義を行い、後半は講義内容をグループワークに繋げ、話し合った内容の発表内容を板書し、まとめを行う方法を取る。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。									
到達目標	5. 子ども家庭福祉の現状と課題を見つけ、具体的に支援する事が出来る。 ■ 6. 子ども家庭福祉の法体系の理解と役割に添った支援を考える事が出来る。 7. 他機関連携や社会的養護など里親制度を理解し社会的養護の支援を考える事が出来る。 ■ 8. 相談支援について家庭や家族を理解し、子育て支援に向けた対応を考える事が出来る。 ■ 9. 地域や家庭、学校にむけて支援を考える事が出来る。									
使用教材	知識を生かした実力をつける子ども家庭福祉 流石智子監修 浦田雅夫編著 2023 教育情報出版社 講義スライドを随時配布する。									
参考文献	保育所保育指針									
評価方法	事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験 80%とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	具体的な質問があった場合は授業でコメントを行いフィードバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5限目 (8号館401研究室)				メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標 1	予習	事前にシラバスや第1章 p13-p26 を読み、授業にむけた知識を入れておく						1.5 時間	
		復習	子ども家庭福祉に必要な知識や支援について講義内容を理解し深める						1.5 時間	
2	講義内容	子ども家庭福祉について必要な対応と子どもへの理解 ■								
	該当到達目標 1,2	予習	事前に第2章 p24-p33 を読み、内容にふれる						1.5 時間	
		復習	講義内容の資料を読み返し、子どもに必要な支援や対応の理解を深める						1.5 時間	
3	講義内容	子ども家庭福祉のこれからの課題について ■								
	該当到達目標 1,2	予習	事前に第3章 p36-p48 を読み、講義内容についてふれる						1.5 時間	
		復習	講義内容の資料を読み返し、子ども家庭福祉の課題への理解を深める						1.5 時間	
4	講義内容	子ども家庭福祉の法と支援内容 専門職について								
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前に第4章 p49-p52 を読み、内容にふれる						1.5 時間	
		復習	講義内容の資料を読み返し、法と支援内容、専門職について理解を深める						1.5 時間	
5	講義内容	保育サービスと地域子育て支援の状況 ■								

	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に第 5 章 p62-p74 について読み、内容にふれる	1.5 時間
		復習	講義内容の資料を読み返し、保育サービスと地域子育て支援を理解し深める	1.5 時間
6	該当到達目標 1,4	講義内容 母子の健康と子育て支援サービス ■		
		予習	事前に第 6 章 p76-p87 を読み、内容にふれる	1.5 時間
	1,4	復習	講義内容の資料を読み返し、母子の健康と地域子育て支援の理解を深める	1.5 時間
		講義内容 障害児福祉の家庭支援と具体的支援サービスについて		
7	該当到達目標 1,2,4	予習	事前に第 7 章 p89-p98 について読み、内容にふれる	1.5 時間
		復習	講義内容の資料を読み返し保育サービスや地域子育て支援の理解を深める	1.5 時間
8	該当到達目標 1,4,5	子どもの健全育成について 健やかに育つ環境とは		
		予習	事前に第 8 章 p99-p112 について読み、内容にふれる	1.5 時間
	1,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し、健全育成について理解を深める	1.5 時間
		社会的養護の実践について (1) 社会的養護の実情 ■		
9	該当到達目標 1,3,4	予習	事前に第 9 章 p113-p118 について読み、内容についてふれる	1.5 時間
		復習	児童養護と社会的養護の背景を含む保育士の役割について理解を深める	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3,4	社会的養護の実践について (2) 里親による養育について ■		
		予習	事前に第 9 章 p119-p121 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、里親について理解を深める	1.5 時間
		非行とその支援について ロールプレイによる対応		
11	該当到達目標 1,2,3,5	予習	事前に第 10 章 p130-p137 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
		復習	講義内容資料を読み返し、非行とその支援について理解を深める	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3,4	ひとり親家庭への支援方法について ロールプレイによる対応 ■		
		予習	事前に第 11 章 p138-p161 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、ひとり親家庭支援について理解を深める	1.5 時間
		外国籍の資料を読み返し、子どもへの支援 事例検討 ■		
13	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	事前に第 12 章 p146-p153 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
		復習	講義内容の資料を読み返し、外国籍の子どもについて理解を深める	1.5 時間
14	該当到達目標 1,3,4,5	学校での子ども達に向けた支援について		
		予習	事前に第 13 章 p154-p161 を読み、内容にふれる	1.5 時間
	1,3,4,5	復習	講義資料を読み返し、学校での子ども達の支援について理解を深める	1.5 時間
		まとめ 保育現場における子ども家庭福祉の相談活動の実践 ■		
15	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	事前に第 14 章 p162-p175 を読み、内容についてふれる	1.5 時間
		復習	講義資料を読み返し、子ども家庭福祉の相談活動について理解を深める	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORD 子ども家庭福祉の課題 解決方法 相談援助 事例検討 ロールプレイ オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 「■」は実務経験に基づく内容を示す			

科目名	障害者福祉論(保育・教育の原理)							科目ナンバリング	CEP154	
英文名	Welfare of Persons with Disabilities							講義形態	講義	
担当教員	野田 敦史									
科目に関連した実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1	2	3	4	5	8	9	10	16	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代は障害児者の施設や特別支援学校・学級に限らず、小中学校・幼稚園・保育所にも障害をもった子どもが多く在籍しており、障害児者の福祉に関する基礎知識は保育者・教育者には必要かつ重要である。障害者福祉の理念や国内外の歴史、障害の概念や障害者の実態、障害者に関する法律や制度・サービス内容について理解し、必要な体系的知識習得をめざす。特に身体・知的・精神の3障害と発達障害に関する知識及び障害者自立支援法に基づく知識理解を必須とする。なお、授業の進め方としては、テキスト・社会統計資料をもとに講義し、テーマに基づく社会問題をアクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化できるよう実施する。									
到達目標	1.障害の意味と障害を持つ人々の立場について説明することができる。■ 2.障害者福祉の歴史について説明することができる。 3.わが国の障害者の実態を社会的統計資料から理解することができる。 4.障害者福祉現場にかかわりのある各種の専門職の役割について説明することができる。■									
使用教材	教科書:小澤 温 編「よくわかる障害者福祉」ミネルヴァ書房。 その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。									
参考文献	授業時に紹介する。									
評価方法	定期試験 50%、平常点 25%、小テストおよびレポート点 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。									
オフィスアワー (研究室)	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける(8号館 4 階 402 研究室)。					メールアドレス (#→@)	noda#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス ―障害者福祉論を学ぶ意義―								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する							1.5 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。							1.5 時間
2	講義内容	障害の定義・障害者の生活実態(1)(全体)■								
	該当到達目標	予習	教科書 II-1 を読んでおく。							1.5 時間
	1,3	復習	「障害構造論」について理解する。							1.5 時間
3	講義内容	障害者の生活実態(2)(知的障害)■								
	該当到達目標	予習	教科書 II-4 を読んでおく。							1.5 時間
	3	復習	AAMD、文部科学省、厚生労働省の定義の違いを理解する。							1.5 時間
4	講義内容	障害者の生活実態(3)(身体障害)■								
	該当到達目標	予習	教科書 II-3 を読んでおく。							1.5 時間

	3	復習	身体障害の種類と構成割合が理解できる。	1.5 時間
5	講義内容	障害者の生活実態(4)(精神障害)■		
	該当到達目標	予習	教科書 II-5を読んでおく。	1.5 時間
	3	復習	精神障害の特性、構造、福祉的アプローチなどを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	障害の概念・分類(ICIDHとICF)		
	該当到達目標	予習	教科書 II-2を読んでおく。	1.5 時間
	1	復習	ICIDHとICFの相違などについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	障害者福祉思想と支援の歴史		
	該当到達目標	予習	教科書 I-7,8,9,10,11を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	ノーマライゼーション、リハビリテーション、自己決定などの用語を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	障害者福祉制度と支援体系■		
	該当到達目標	予習	教科書 VIII-1,2,3を読んでおく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	社会福祉基礎構造改革以降の障害者福祉関連法の内容と目的を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	障害者支援サービスの内容■		
	該当到達目標	予習	教科書 VIII-4を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	障害者総合支援法に規定する支援サービス内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	障害児に対する支援と教育■		
	該当到達目標	予習	教科書 IV-12,13を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	分離教育と統合教育の利点と課題を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	就労支援と所得保障		
	該当到達目標	予習	教科書 V-11を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	一般就労と福祉的就労の内容と方法について理解する	1.5 時間
12	講義内容	専門職の役割と関係機関との連携		
	該当到達目標	予習	教科書 IV-6,7,8を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	各相談所・センターの機能および専門職について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	発達障害者支援法		
	該当到達目標	予習	教科書 II-4を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	発達障害者支援法の目的と内容について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	障害者差別解消法と人権		
	該当到達目標	予習	内閣府 HP「障害者差別解消法」概要に目を通しておく。	1.5 時間
	3,4	復習	障害者差別解消法の目的と取り組みについて理解する。	1.5 時間
15	講義内容	バリアフリーとユニバーサルデザイン■		
	該当到達目標	予習	教科書 VII-3を読んでおく。	1.5 時間
	1,4	復習	バリアフリーとユニバーサルデザインの違いについて理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会福祉(保育・教育の原理)							科目ナンバリング	CEP155	
英文名	Social Welfare							講義形態	講義	
担当教員	野田 敦史									
科目に関連した実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1 2 3 4 5 8 9 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代社会における社会福祉の意義と国内外の歴史的変遷について理解し、社会福祉と児童家庭福祉および児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、今後の社会的動向と福祉的課題について考える。そのために身近な事例やビデオ教材などを用いて基礎を理解してから諸問題について考えていくようにする。具体的な進め方としては、テキスト・社会統計資料・ビデオ教材をもとに講義し、テーマに基づく社会問題をアクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化できるよう実施する。									
到達目標	1.社会福祉の歴史について説明することができる。 2.わが国の社会福祉の制度および実施機関について体系的理解と説明ができる。■ 3.社会的統計資料から、わが国の社会福祉的課題について説明できる。 4.社会福祉現場にかかわりのある各種の専門職の役割について説明することができる。■									
使用教材	資料:① 保育福祉小六法 ② テキスト「保育と社会福祉」(みらい) その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。									
参考文献	適宜、授業で紹介する。									
評価方法	定期試験 50%、平常点 25%、小テストおよびレポート点 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。									
オフィスアワー (研究室)	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける(8 号館 4 階 402 研究室)。				メールアドレス (#→@)	noda#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス ―社会福祉を学ぶ意義―								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する						1.5 時間	
	2	復習	講義内容、到達目標、単位付与方針、成績評価方法など確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	保育と社会福祉								
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章を読んでおく。						1.5 時間	
	3	復習	現代社会が抱える福祉課題を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	社会福祉の考え方と役割								
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章を読んでおく。						1.5 時間	
	2	復習	社会福祉の概念、構造などを理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	社会福祉のあゆみ								
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章を読んでおく。						1.5 時間	

	1	復習	日本及び福祉先進国における社会福祉の歴史を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	児童の人権擁護と子ども家庭福祉		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	児童の権利に関する条約の内容などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	社会保障		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章-1 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	日本の社会保障の概念・体系などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	社会保険		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章-2 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	社会保険制度の体系・種類・目的などを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	公的扶助		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章-3 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	公的扶助の原理・原則・種類などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	社会福祉の制度・法体系(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章-1, 2 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	福祉関連法の体系・名称・目的などを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	社会福祉の制度・法体系(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章-3 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	高齢者福祉の法制度の概要を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	社会福祉の制度・法体系(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章-4 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	障害者福祉の法制度の概要を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	社会福祉の実施機関(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第6章-1, 2 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	国・都道府県・市町村の福祉行政機関の概要を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	社会福祉の実施機関(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第6章-3,4 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	民間専門機関の概要を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	社会福祉の施設		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章 全て を読んでおく。	1.5 時間
	2	復習	社会福祉施設の種類・動向などを理解する	1.5 時間
15	講義内容	社会福祉の専門職と倫理		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章 全て を読んでおく。	1.5 時間
	4	復習	社会福祉の専門職及び関連専門職の概要と倫理について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 社会的要請がある場合は C-Learning を通じたオンデマンド授業で実施する。			

科目名	社会的養護Ⅰ（保育・教育の原理）							科目ナンバリング	CEP156	
英文名	Social CareⅠ							講義形態	講義	
担当教員	野田 敦史									
科目に関連した実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会福祉の授業内容を踏まえて、現代社会における社会的養護の意義や国内外の歴史的変遷について理解をめざす。合わせて社会的養護の制度や仕組み、実践体系について理解する。また、施設養護の実際について、その原理や社会的養護との関連、施設養護の実際について、テキストのほかに施設の様子のできるビデオを視聴し、理解する。さらに児童家庭福祉との関連性や児童の権利擁護について考える。なお、授業の進め方としては、テキスト・ビデオ視聴をもとに講義し、テーマに基づく課題を提示し、アクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化できるよう実施する。									
到達目標	1.社会的養護の歴史について説明することができる。 2.わが国の社会的養護の制度および実施機関について体系的理解と説明ができる。■ 3.社会的統計資料から、わが国の社会的養護の課題について説明できる。■ 4.要保護児童の支援について児童家庭福祉や権利擁護の視点から説明することができる。■									
使用教材	教科書：大竹智 山田利子編「保育と社会的養護Ⅰ」みらい。 その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。									
参考文献	適宜、授業で紹介する。									
評価方法	定期試験 50%、平常点 25%、小テストおよびレポート点 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点（A～C）を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。									
オフィスアワー（研究室）	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける（8 号館 4 階 402 研究室）。					メールアドレス（#→@）	noda#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス ―社会的養護を学ぶ意義―								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する						1.5 時間	
	2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	社会的養護の定義・理念・基本原理								
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章を読んでおく。						1.5 時間	
	2	復習	社会的養護の定義・理念・基本原理などを理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	社会的養護の体系								
	該当到達目標	予習	教科書 第 6 章を読んでおく。						1.5 時間	
	2	復習	施設養護と家庭養護、家庭的養護の体系的理解をする。						1.5 時間	
4	講義内容	施設養護の特質と基本原則								
	該当到達目標	予習	教科書 第 8 章を読んでおく。						1.5 時間	

	2	復習	施設養護の特質、基本原理、各施設運営指針などを理解する。	1.5 時間
5	講義内容	施設養護の実際(1)乳児院■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章-2を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	乳児院の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	施設養護の実際(2)母子生活支援施設■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章-3を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	母子生活支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	施設養護の実際(3)児童養護施設 自立援助ホーム■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章-4を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	児童養護施設、自立援助ホームの目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	施設養護の実際(4)障害児入所支援■		
	該当到達目標	予習	教科書 第10章-1,2を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害児入所支援の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	施設養護の実際(5)障害児通所支援■		
	該当到達目標	予習	教科書 第10章-3を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害児通所支援の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	施設養護の実際(6)児童心理治療施設、児童自立支援施設■		
	該当到達目標	予習	教科書 第11章-1,2,3を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	児童心理治療施設、児童自立支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	施設養護の実際(7)障害者支援施設■		
	該当到達目標	予習	前週で配布した障害者支援施設に関する資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害者支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	家庭養護の実際(1)里親制度		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章-1,2を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	里親の定義、種類と要件、支援などを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	家庭養護の実際(2)養子縁組制度		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章-3,4を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	養子縁組、特別養子縁組を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	社会的養護にかかわる専門職・専門機関		
	該当到達目標	予習	教科書 第13章を読んでおく。	1.5 時間
	2,4	復習	児童相談所、児童家庭支援センター、FSWなどの専門機関・専門職を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	社会的養護とソーシャルワーク■		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章を読んでおく。	1.5 時間
	2,4	復習	個別支援計画の目的・意義、作成過程などを理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの保健(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP157		
英文名	Children's Health						講義形態	講義		
担当教員	丸山 健一									
科目に関連した実務経験	群馬大学医学部小児科講師、群馬県立小児医療センター院長、群馬県赤十字血液センター所長を歴任。医学博士、日本小科学会専門医、日本腎臓学会指導医。現群馬県立小児医療センター顧問。									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	5	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子どもに多い疾患について、その症状と予防方法及び対処方法や簡単な処置の方法の知識を身につけ、乳幼児の保育・教育の現場で活用できるようにする。 教科書の内容を補完する形で資料を配布し、学生が理解しやすいように適時スライドや DVD を使用し進めていく。また、授業終了時に小レポートを実施し、受講者の理解度を把握し、講義を進めていく。									
到達目標	1.子どもに多い疾患について理解し、現場で対応できるようになる。■ 2.保育中の子ども達の体調の変化に気付けるようになる。■ 3.子どもの保健に関する様々な情報に対する関心を高める。									
使用教材	・子どもの保健 監修・公益財団法人児童育成協会 編集・松田博雄、金森三枝 中央法規 2,000 円＋税 ・保育所保育指針解説平成 30 年 3 月 厚生労働省編 フレーベル館 320 円＋税									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、毎回授業終了時に提出する講義のまとめ及び質問・感想(小レポート)、授業参加度・学習態度 20%。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業終了後の質問については、次回講義までに文書で回答する。									
オフィスアワー(研究室)	金曜日 12:00～13:00 14:30～15:00 8 号館 4 階 408 号室				メールアドレス (#→@)	k-maruyama#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、子どもの特性について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、子どもの健康に関するニュース、書籍に触れる。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、評価方法などを確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	子どもの保健の意義、子どもの健康観察の重要性■								
	該当到達目標	予習	教科書の「発行によせて」「はじめに」に目を通す。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	子どもの健康観察の重要性について、教科書を再度読み直し、理解を深める。						1.5 時間	
3	講義内容	ビデオで学ぶ健康な乳幼児の発育 ビデオ「赤ちゃんの一年」■								
	該当到達目標	予習	教科書 P.52～27 に目を通し、赤ちゃんの成長・発達を確認しておく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	ビデオによる健康な赤ちゃんの成長・発達を教科書で再確認する。						1.5 時間	
4	講義内容	子どもに多い感染症とその対応(1)感染症が成立するための要因■								
	該当到達目標	予習	教科書 P.160～162,P.172～179 に目を通す。						1.5 時間	

	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、講義内容の理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	子どもに多い感染症とその対応(2)学校感染症について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.162～167 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、講義内容の理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	予防接種について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.180～183 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書を読み直し、予防接種の意義、種類、スケジュール等について理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 1.免疫とアレルギー疾患について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.136～145 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 2.慢性疾患について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.124～134 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 3.低出生体重児及び脳・神経系疾患について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.112～122 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 4.運動器(筋肉・関節・骨)の疾患について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.150 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 5.目・耳・鼻・口・のどの疾患について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.151～153 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 6.先天異常、染色体異常、遺伝性疾患について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.118～121 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	母子保健について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.26～38 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	保育環境と衛生安全管理について■		
	該当到達目標	予習	教科書 P.2～3 及び配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料及び教科書を読み直し、子どもの事故防止ための手法を考える。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書及び配布された資料を読み直す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	子どもを保育する上での重要な点を再度確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育心理学 A(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP004		
英文名	Educational Psychology A						講義形態	講義		
担当教員	佐々木 典彰									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	5	専門的知識			1	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 講義の目標 幼児教育、初等中等教育に関連する心理学の基礎知識を習得し、それを実際の教育現場でどのように活用できるかを考える。									
①講義の目標	② 講義の実施方法 双方向の授業のために適宜質問をしたり意見を求めたりする。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 教育心理学に関する専門用語等の基礎知識を理解する。 2. 教育心理学の基礎知識を教育現場でどのように活用できるかを具体的に述べる。									
使用教材	テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。									
参考文献	藤田哲也 編著 絶対役立つ教育心理学 ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。									
評価方法	定期試験 70 点、リアクションペーパー30 点、計 100 満点で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	定期試験後、解説を行う。その方法は別途伝える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、水曜日 3 限 (8 号館 409 研究室)				メールアドレス (#→@)					
1	講義内容	子どものやる気①								
	該当到達目標	予習	「教育心理学」について文献やインターネット等で調べる。						1.5 時間	
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5 時間	
2	講義内容	子どものやる気②								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5 時間	
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5 時間	
3	講義内容	子どもの行動原理								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5 時間	
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5 時間	
4	講義内容	ほめるとしかる								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5 時間	
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5 時間	
5	講義内容	上手な覚え方								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5 時間	
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5 時間	
6	講義内容	上手な勉強法								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5 時間	

	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
7	講義内容	上手な教え方		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの能力		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
9	講義内容	子どもの評価		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
10	講義内容	集団心理		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
11	講義内容	学級崩壊		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
12	講義内容	集団を育てる		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
13	講義内容	いじめ		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
14	講義内容	不登校・登園拒否		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
15	講義内容	振り返り		
	該当到達目標	予習	全体のポイントを振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	全体のポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	C-learning を活用する場合がある。			

科目名	子ども家庭支援の心理学(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP158		
英文名	Child and Family Support Psychology						講義形態	演習		
担当教員	佐々木 典彰									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 子どものことだけでなく、子どもを取り巻く環境全体の広い視点から、子どもの発達に関する現代的問題や保護者支援について学ぶ。 ② 講義の実施方法 子どもや家庭に関する未解決の問題について、自分ができることを考えたり、意見交換をしたりする。									
到達目標	1.子どもの心理や環境に関する現代的課題を知り、その解決策を考える。 2.保護者の心理を考え、保護者への配慮の仕方を理解する。									
使用教材	テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。									
参考文献	青木紀久代 編 シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学 みらい その他、適宜紹介する。									
評価方法	定期試験 70 点、リアクションペーパー30 点、計 100 満点で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	定期試験後、解説を行う。その方法は別途伝える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、水曜日 3 限 (8 号館 409 研究室)					メールアドレス (#→@)				
1	講義内容	人間の発達について								
	該当到達目標	予習	「子ども家庭支援」について文献やインターネット等で調べる。						0.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						0.5	時間
2	講義内容	乳児期の現代的課題								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						0.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						0.5	時間
3	講義内容	幼児期の現代的課題								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						0.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						0.5	時間
4	講義内容	学童期の現代的課題								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						0.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						0.5	時間
5	講義内容	青年期の現代的課題								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						0.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						0.5	時間
6	講義内容	成人期以降の現代的課題								

	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
7	講義内容	家族の多様性			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
1		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
8	講義内容	子どもを取り巻く家庭環境(虐待について)			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
1		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
9	講義内容	気になる子への対応①			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
1		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
10	講義内容	気になる子への対応②			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
1		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
11	講義内容	保護者のこころ			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
2		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
12	講義内容	保護者とのコミュニケーション①(聞き方)			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
2		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
13	講義内容	保護者とのコミュニケーション②(伝え方)			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
2		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
14	講義内容	事例をもとに保護者への対応を考える			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	0.5	時間
2		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
15	講義内容	振り返り			
	該当到達目標	予習	全体のポイントを振り返る。	0.5	時間
1,2		復習	全体のポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	C-learning を活用する場合がある。				

科目名	遊びの指導(保育・教育の原理)							科目ナンバリング	CEP101	
英文名	Teaching through Play Activities							講義形態	講義	
担当教員	内田 祥子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幼児教育の原理を踏まえ、遊びによる総合的な指導と教師の役割について理解できるようにする。授業は教員の作成した資料に基づき、適宜映像資料を用いながら講義形式でおこなう。									
到達目標	1.遊びによる総合的な指導について理解し説明ができる 2.遊びにおける教師の役割について理解し説明ができる 3.現代の遊びをめぐる状況を踏まえ、教師に求められている役割について説明できる 4.海外における保育実践の特徴や ICT の活用について理解し説明できる 5.保育における記録の方法の基本を理解する									
使用教材	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	授業内での課題 30%・期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にコメントし返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜 1、2 限(8 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)		uchida-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	幼児教育における指導とは								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでくる						1.5	時間
	1・2	復習	幼児教育における指導の特徴をまとめる						1.5	時間
2	講義内容	幼児教育における遊びとは								
	該当到達目標	予習	幼児教育における遊びの位置づけをまとめる						1.5	時間
	1・2	復習	幼稚園教育要領解説の遊びに関する記述を読む						1.5	時間
3	講義内容	幼児教育における総合的指導とは								
	該当到達目標	予習	総合的な指導の意味をまとめる						1.5	時間
	1・2	復習	幼稚園教育要領解説の総合的指導に関する記述を読む						1.5	時間
4	講義内容	幼児期の発達特性と幼小連携:生活概念の形成								
	該当到達目標	予習	子どもの遊びにおける学びとはどのようなものかを考える						1.5	時間
	1・2・3	復習	幼小連携における課題を考える						1.5	時間
5	講義内容	遊びにおける「主体的・対話的で深い学び」とは								
	該当到達目標	予習	キーワードについて調べる						1.5	時間
	1・2・3	復習	実践例を考える						1.5	時間

6	講義内容	3 歳児の発達と遊び環境		
	該当到達目標	予習	3 歳児の発達段階について調べる	1.5 時間
	1・2・3	復習	実践例を考える	1.5 時間
7	講義内容	4 歳児の発達と遊び環境		
	該当到達目標	予習	4 歳児の発達段階について調べる	1.5 時間
	1・2・3	復習	実践例を考える	1.5 時間
8	講義内容	5 歳児の発達と遊び環境		
	該当到達目標	予習	5 歳児の発達段階について調べる	1.5 時間
	1・2・3	復習	実践例を考える	1.5 時間
9	講義内容	保育者に求められる遊び指導者としての役割		
	該当到達目標	予習	保育者のあそびにおける役割について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	現代の保育者に求められる役割を考える	1.5 時間
10	講義内容	現代の遊びをめぐる状況		
	該当到達目標	予習	遊び環境の変化を調べる	1.5 時間
	1・2・3	復習	遊び環境の変化要因をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	海外の保育アプローチ①フレーベル		
	該当到達目標	予習	フレーベルについて調べる	1.5 時間
	4	復習	日本の保育との違いをまとめる	1.5 時間
12	講義内容	海外の保育アプローチ②モンテッソーリ		
	該当到達目標	予習	モンテッソーリについて調べる	1.5 時間
	4	復習	日本の保育との違いをまとめる	1.5 時間
13	講義内容	ICT を活用した保育実践		
	該当到達目標	予習	保育における情報機器の活用方法を調べる	1.5 時間
	4	復習	遊びの指導における ICT の活用事例を考える	1.5 時間
14	講義内容	保育における記録の役割		
	該当到達目標	予習	保育における記録の役割を調べる	1.5 時間
	5	復習	記録の方法を理解し、課題に取り組む	1.5 時間
15	講義内容	保育における記録の役割(実践編)		
	該当到達目標	予習	時系列記録を作成する	1.5 時間
	5	復習	記録の方法を理解し、課題に取り組む	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、オンデマンド形式を中心とする。			

科目名	保育者論(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP102		
英文名	Theory of Kindergarten and Nursery Teachers						講義形態	講義		
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、保育者の職務や専門性、子どもとの関係、地域社会との連携などを学んでいく。保育者は、子どもの傍に寄り添い、一緒に生活するだけの存在ではない。また、実践に有用な知識・技術を身につけるだけでは保育者の職務を遂行することができない。幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等で営まれる保育は公共性が高く、そこで働く保育者には高度な専門性が求められている。本講義では、客観的な視点から保育者像を捉え直し、自らの保育観を鍛え上げることを目標とする。 授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1.保育職の社会的意義と保育者の役割について説明できる。 2.保育者に求められる資質能力について説明できる。 3.地域社会における保育施設の役割を理解したうえで、連携・協働について説明できる。 4.保育の専門家としての役割を多角的な視点から考察できる。									
使用教材	必要に応じて資料を配布する。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	試験(60%)、課題・参画度(40%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	保育者とは？								
	該当到達目標 1	予習	保育者という言葉から連想する人や仕事について現時点の考えを整理する。						1.0	時間
		復習	保育者の定義と本講義で扱う内容について理解する。						1.0	時間
2	講義内容	保育者の役割と職務(1)免許状・資格の誕生と変遷								
	該当到達目標 1,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
		復習	歴史的視点から保育者の役割の変遷を理解する。						1.5	時間
3	講義内容	保育者の役割と職務(2)保育者の職務内容と養成の仕組み								
	該当到達目標 1,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
		復習	保育者の職務と養成の仕組み・カリキュラムとの関連について理解する。						1.5	時間
4	講義内容	保育者の役割と職務(3)保育者の倫理								
	該当到達目標 1,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
		復習	保育者に求められる職業倫理について理解する。						1.5	時間
5	講義内容	保育者の専門性(1)免許状・資格と専門性								

	該当到達目標 2,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
		復習	免許状・資格の保有と専門性の関係について理解する。	1.5	時間
6	講義内容 該当到達目標 2,4	保育者の専門性(2)専門的知識・技術			
		予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
	2,4	復習	保育者の専門性と知識・技術の関係について理解する。	1.5	時間
		講義内容	保育者の専門性(3)保育における省察		
7	該当到達目標 2,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
		復習	省察の意義と方法から保育者の専門性について理解する。	1.5	時間
8	講義内容 該当到達目標 2,4	保育者の専門性(4)研修とキャリア形成			
		予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
	2,4	復習	学び続ける保育者像と研修の意義、キャリア形成について理解する。	1.5	時間
		講義内容	子どもと保育者(1)指導と援助		
9	該当到達目標 2,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
		復習	指導と援助の違いと、それぞれのかかわりの必要性を理解する。	1.5	時間
10	講義内容 該当到達目標 2,4	子どもと保育者(2)主体性の尊重			
		予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
	2,4	復習	保育には子どもと保育者双方の主体性の尊重が必要なことを理解する。	1.5	時間
		講義内容	子どもと保育者(3)個性の尊重		
11	該当到達目標 2,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
		復習	保育において個性を尊重することの意義と課題について理解する。	1.5	時間
12	講義内容 該当到達目標 3,4	現代社会の課題と保育者(1)同僚性と協働性			
		予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
	3,4	復習	保育者間の連携を同僚性・協働性の観点から理解する。	1.5	時間
		講義内容	現代社会の課題と保育者(2)保育ニーズの多様化と子育て支援		
13	該当到達目標 3,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
		復習	保育ニーズへの対応、子育て支援における保育者の役割について理解する。	1.5	時間
14	講義内容 該当到達目標 3,4	現代社会の課題と保育者(3)地域社会および関係機関との連携			
		予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5	時間
	3,4	復習	地域社会・関係機関との連携における保育者の役割について理解する。	1.5	時間
		講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)		
15	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理にする。	2.0	時間
		復習	授業内容を整理するとともに、関連する文献を読んで理解を深める。	2.0	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。				

科目名	教師論 A(保育・教育の原理)							科目ナンバリング	CEP005	
英文名	Theory of Teacher's Profession A							講義形態	講義	
担当教員	北村 陽									
科目に関連した実務経験	教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校・中学校および特別支援学校における教職の意義と役割を学ぶ。具体的には、さまざまな課題が山積する教育現場の現状に鑑み、学校教育における教師のあり方や求められる教師像について、歴史的および実践的に考察する。さらに、受講者が授業を通して自らの適性を考え、将来に対する展望を持つべく、進路選択の機会を提供する。授業の進め方については、各回、担当教員の解説(説明)から学ぶだけではなく、学んだことや調べた事柄に対する受講者自身の考えや意見をリアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を図りたい。									
到達目標	1.教師の社会的責任や教師の任務・職務および教師としての生き方について理解している。■ 2.いかにして教師の力量および人間性を高めて子どもたちに接していくべきかを理解している。									
使用教材	『新・教職のための教育原理』(内海崎貴子編著、八千代出版、2021 年、2,310 円(税込))									
参考文献	文献等は授業内で適宜紹介する。また、担当教員が作成した資料を配付することがある。									
評価方法	期末テスト 50%、リアクションペーパー40%(1 回目各 2%、2 回目～13 回目各 3%、14 回目～15 回目各 1%)、科目に関係した作文 10%により、総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図などを説明する。また、課題における受講者の解答(回答)に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。									
オフィスアワー(研究室)	月曜 2 限、木曜 2 限(9 号館 305 研究室)				メールアドレス (#→@)	kitamura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション 教育課程での「学び」について								
	該当到達目標	予習	本学科のカリキュラムについて調べ、シラバスを読んでおく。							1.5 時間
	1,2	復習	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、教師論を学ぶ意味を理解する。							1.5 時間
2	講義内容	西洋における教師の歴史								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間
	1	復習	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。							1.5 時間
3	講義内容	日本における教員養成の歴史 ①戦前								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間
	1	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。							1.5 時間
4	講義内容	日本における教員養成の歴史 ②戦後								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間
	1	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。							1.5 時間
5	講義内容	日本における教員養成の歴史 ③現在								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間

	1	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	教員の任用と服務■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	教師の研修■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	教師の役割と仕事■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	教員免許状と資格		
	該当到達目標	予習	小学校の教師となるために必要な履修科目および単位数を調べる。	1.5 時間
	1	復習	資料の再読に加え、教員免許をめぐる新たな課題をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	専門職としての教師■		
	該当到達目標	予習	「専門職とは何か？」を調べ、その意義を考えてみる。	1.5 時間
	1,2	復習	専門職をめぐる諸問題を理解し、専門職のあり方をまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	学校運営①:校務分掌・生徒指導■		
	該当到達目標	予習	「校務分掌とは何か？」を調べる。また、生徒指導の語義についても調べる。	1.5 時間
	1	復習	校長の「校務分掌権限」等および「生徒指導の意義と課題」についてまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	学校運営②:特別支援教育・安全教育・健康指導など■		
	該当到達目標	予習	特別支援教育・安全教育・健康指導の語義について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	特別支援教育・安全教育・健康指導の意義と課題についてまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	教員の資質・適格性■		
	該当到達目標	予習	教師にふさわしい資質・適格性について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	教師は子ども・保護者・社会などから何を求められているのかをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	「チーム学校」とその背景■		
	該当到達目標	予習	チーム学校の語義と、その考え方が登場した背景について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	チーム学校の意義と、クレームやトラブルの処理・解決には何が重要かをまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	教職への展望■		
	該当到達目標	予習	これまでの学びを基に、理想的な教師のあり方とは何か、その具体像を考える。	1.5 時間
	1,2	復習	講義を振り返り、教職への理解と意欲を高める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・予習・復習については、使用教材である『新・教職のための教育原理』等を活用し、補完してください。 ・状況によりオンラインで実施する場合はC-Learningで行います。その際、内容に変更が生じる場合は適宜C-Learningで指示します。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	青年心理学(保育・教育の原理)						科目ナンバリング	CEP501		
英文名	Adolescent Psychology						講義形態	講義		
担当教員	佐々木 典彰									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	3	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 青年期における心理の特徴を知り、それをもとに現時点の自己分析をしたり今後の課題や方向性を考えたりする。 ② 講義の実施方法 双方向の授業のために適宜質問をしたり意見を求めたりする。									
到達目標	1.青年期における心理の特徴を理解する。 2.青年心理学の基礎知識をもとに、現時点の自分やこれからの自分について述べる。									
使用教材	テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。									
参考文献	宮下一博 他著 ようこそ！青年心理学～若者たちは何処から来て何処へ行くのか～ ナカニシヤ出版 その他、適宜紹介する。									
評価方法	レポート課題 70 点、リアクションペーパー30 点、計 100 満点で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート課題にコメント等を付して返却する。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 3 限、水曜日 3 限 （8 号館 409 研究室）				メールアドレス （＃→＠）					
1	講義内容	青年期とは								
	該当到達目標	予習	「青年期」について文献やインターネット等で調べる。						1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
2	講義内容	青年期と自分らしさ								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
3	講義内容	青年期と身体								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
4	講義内容	青年期と友人								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
5	講義内容	青年期と恋愛								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
6	講義内容	青年期と家族								

	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
7	講義内容	青年期と携帯			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
8	講義内容	青年期と善悪の判断			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
9	講義内容	青年期と非行			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
10	講義内容	青年期と宗教			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
11	講義内容	青年期と自分探し			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
12	講義内容	青年期とキャリア発達			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
13	講義内容	青年期と死生観			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
14	講義内容	青年期と心の病			
	該当到達目標 1,2	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
		復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
15	講義内容	振り返り			
	該当到達目標 1,2	予習	全体のポイントを振り返る。	1.5	時間
		復習	レポート課題に取り組む。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	C-learning を活用する場合がある。				

科目名	こころの健康(保育・教育の原理)							科目 ナンバリング	CEP502	
英文名	Health Psychology							講義形態	講義	
担当教員	佐々木 典彰									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： なし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	4	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ② 講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 「病は気から」とよく言われるように、こころの健康は、身体の健康以上に重要である。その重要性をさまざまな観点から知るとともに、それに多大な影響を及ぼす他者との人間関係についても、体験的に学び、そのポイントを今後の生活に活かす。 ② 講義の実施方法 映像教材や心理テストを通して、自らのこころと向き合いながら、現代人のこころの問題について考えたり意見交換をしたりする。									
到達目標	1.こころの健康の重要性を理解する。 2.良好な人間関係を築くためのポイントを知り、それを心がける意志を持つ。									
使用教材	テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。									
参考文献	福間詳 著 ストレスのはなし メカニズムと対処法 中公新書 その他、適宜紹介する。									
評価方法	レポート課題 70 点、リアクションペーパー30 点、計 100 満点で評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	レポート課題にコメント等を付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、水曜日 3 限 (8 号館 409 研究室)					メールアドレス (#→@)				
1	講義内容	こころの健康とは								
	該当到達目標	予習	「こころの健康」について文献やインターネット等で調べる。							1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5 時間
2	講義内容	良好な人間関係①(導入)								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5 時間
3	講義内容	良好な人間関係②(理論)								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5 時間
4	講義内容	カウンセリングマインド①(導入)								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5 時間
5	講義内容	カウンセリングマインド②(理論)								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5 時間

	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
6	講義内容	カウンセリングマインド③(技法)		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
7	講義内容	現代人の心の傾向		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
8	講義内容	人間の本能的欲求		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
9	講義内容	ストレスとは		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
10	講義内容	教師のストレス、保育者のストレス		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
11	講義内容	ストレスへの対処法		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
12	講義内容	ハラスメントについて		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
13	講義内容	ひきこもりについて		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
14	講義内容	人事評価とこころの健康		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
15	講義内容	振り返り		
	該当到達目標	予習	全体のポイントを振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	レポート課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	C-learning を活用する場合がある。			

科目名	保育内容総論(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES101		
英文名	Introduction to Early Childhood Education and Care						講義形態	演習		
担当教員	今井 邦枝									
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	5	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本授業は、前期に学んだ保育原理を踏まえ、保育内容 5 領域について保育実践に即して理解を深める。また、保育内容 5 領域の各論における学びを深めるための土台となる授業である。主に、パワーポイントを使いながら、授業を進める。授業では、映像資料や事例など、具体的な保育実践がイメージできる教材を使用する。									
到達目標	1.保育内容のねらい及び内容について理解し、各領域で子どもが経験し身につけていく内容の総合性や関係性について理解する。 2.子どもの興味や関心、発達に応じた具体的な指導のあり方を理解し、実践するための技能を身につける。■									
使用教材	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画、教育・保育実習の手引その二									
参考文献	授業内で紹介する									
評価方法	授業での振り返りシート 30%, 授業内課題 50%, 授業態度 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回、授業の後半に授業内容を一人一人が振り返り、レポートとしてまとめる。そのレポートにコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 2 限 研究室:8 号館 5 階 507				メールアドレス (#→@)	kimai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	保育の基本的な考え方								
	該当到達目標	予習	前期で学んだ保育原理, 教育原理について復習する							0.5 時間
	1,2	復習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 1 章第 1 節の内容を理解する							0.5 時間
2	講義内容	乳児保育のねらい・内容								
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 1 節を読み、ねらい・内容の考え方と視点について理解する							0.5 時間
	1,2	復習	乳児保育のねらい・内容についてまとめる							0.5 時間
3	講義内容	1 歳未満児の姿 事例検討①								
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 2 節のねらい・内容を読み、前回の授業内容を確認する							0.5 時間
	1,2	復習	1 歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える							0.5 時間
4	講義内容	1 歳以上 3 歳未満児保育に関するねらい・内容								

	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 2 節の 5 領域のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5 時間
	1,2	復習	乳児保育のねらい・内容と比較して、気づいたことをまとめる	0.5 時間
5	講義内容	3歳未満児の姿 事例検討①■		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 2 節の 5 領域のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5 時間
	1,2	復習	3 歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5 時間
6	講義内容	3歳未満児の姿 事例検討②■		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 2 節の 5 領域のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5 時間
	1,2	復習	3 歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5 時間
7	講義内容	3 歳以上児保育に関するねらい・内容①		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 2 節の領域「健康」「人間関係」のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5 時間
	1,2	復習	3 歳未満児保育のねらい・内容と比較し、気づいたことをまとめる	0.5 時間
8	講義内容	3 歳以上児保育に関するねらい・内容②		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 2 章第 2 節の領域「環境」「言葉」「表現」のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5 時間
	1,2	復習	3 歳未満児保育のねらい・内容と比較し、気づいたことをまとめる	0.5 時間
9	講義内容	3歳以上児の姿 事例検討①■		
	該当到達目標	予習	保育内容 5 領域のねらいと内容を読み、理解を深める	0.5 時間
	1,2	復習	3 歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5 時間
10	講義内容	3歳以上児の姿 事例検討②■		
	該当到達目標	予習	保育内容 5 領域のねらいと内容を読み、理解を深める	0.5 時間
	1,2	復習	保育内容 5 領域の総合性について理解を深める	0.5 時間
11	講義内容	子どもの姿を記録する①■		
	該当到達目標	予習	教科書「フोटランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」p14-23を読み、内容を理解する	0.5 時間
	2	復習	保育内容 5 領域の視点と結びつけて記録できるように復習する	0.5 時間
12	講義内容	子どもの姿を記録する②(ICT の活用) ■		
	該当到達目標	予習	前回の授業内容を振り返る	0.5 時間
	2	復習	実習での記録の仕方や、記録における ICT 活用についてまとめる	0.5 時間
13	講義内容	保育の全体的な指導計画について■		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 1 章第 2 節を読み、保育における指導計画の意味を理解する	0.5 時間
	2	復習	授業を振り返り、保育が「子ども理解⇒指導計画⇒保育実践⇒評価」というサイクルで行われていることを理解する	0.5 時間
14	講義内容	短期的指導計画の立案のポイント(ICT の活用) ■		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 1 章第 2 節を読み、保育における指導計画の意味を理解する	0.5 時間
	2	復習	子どもの興味、関心、発達に応じた指導計画を作成するための配慮点について振り返り、復習する	0.5 時間
15	講義内容	小学校における教育の円滑な接続について、まとめ		
	該当到達目標	予習	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第 1 章第 2 節 1-(5)を読み、指導計画における小学校教育との接続あたる留意事項を理解する	0.5 時間
	2	復習	今後学びたい内容を整理する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	自分なりに気づいたり、感じたりしたことを発信する姿勢を望みます。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	保育内容健康(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES102		
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Health)							講義形態	演習		
担当教員	山西 加織										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・保育士										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	34										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○		○		○	○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	領域「健康」のねらいと内容を踏まえ、幼児期の心身の発達や学びの過程を理解するとともに、実際の援助や環境構成について考えていく。さらに、幼児期の発達段階に応じた運動遊びの指導計画を作成し、模擬保育の実践と振り返りを行うことで、保育に必要な指導技術や視点を身につける。また、領域「健康」に関する各場面への ICT 活用のあり方を考え具体的な活用法を学ぶ。 【授業の進め方】パワーポイントや配布資料を用いて、講義とグループワークで授業を進める。模擬保育では、模擬保育を実践後、意見交換によるフィードバックの機会を設ける。										
到達目標	1.領域「健康」のねらいと内容を理解し、説明できる。 2.領域「健康」において幼児が身につける内容を理解し、指導上の留意点や具体的な援助と関連付けることができる。 3.幼児期の運動発達に応じた運動遊びについて、指導計画を作成し指導することができる。 4.子どもの健康をめぐる現代的課題から、改善に向けて援助や環境構成を考えることができる。										
使用教材	教科書「乳幼児の健康—教育・保育に向けた計画と実践—〈改訂版〉」宮下恭子監修・茗井香保里・平山素子・山西加織編著(大学図書出版)、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、その他適宜資料を配布する。										
参考文献	授業時に紹介する。										
評価方法	授業への貢献度(20%)、指導案(20%)、模擬保育(20%)、レポート課題(40%)を総合的に評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 5 時限、火曜日 5 時限 (8 号館 505 研究室)				メールアドレス (#→@)		yamanishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション 領域「健康」のねらい及び内容									
	該当到達目標	予習	領域「健康」のねらいと内容を確認する。								0.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。								0.5 時間
2	講義内容	領域「健康」における他領域との関連と小学校との連携									
	該当到達目標	予習	各領域のねらいと内容を確認する。								0.5 時間
	1	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。								0.5 時間
3	講義内容	基本的生活習慣に関する指導のポイント									
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章(102～108 頁)をよく読み、これまで学習した内容を復習する。								0.5 時間
	2,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。								0.5 時間
4	講義内容	安全に関する指導のポイント									
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章(133～146 頁)をよく読み、これまで学習した内容を復習する。								0.5 時間
	2,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。								0.5 時間

5	講義内容	運動遊びに関する指導のポイント			
	該当到達目標 2,3	予習	教科書第3章(90～96頁)をよく読み、これまで学習した内容を復習する。	0.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
6	講義内容	運動遊びの教材研究と環境構成			
	該当到達目標 2,3	予習	運動遊びをひとつ取り上げ、遊び内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
		復習	取り上げた運動遊びについて、教材研究を行う。	0.5 時間	
7	講義内容	運動遊びの指導計画立案			
	該当到達目標 2,3	予習	取り上げた運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	取り上げた運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
8	講義内容	模擬保育の実践(1)3歳児			
	該当到達目標 2,3	予習	3歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間	
9	講義内容	模擬保育の振り返り(1)3歳児			
	該当到達目標 4	予習	3歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間	
10	講義内容	模擬保育の実践(2)4歳児			
	該当到達目標 4	予習	4歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間	
11	講義内容	模擬保育の振り返り(2)4歳児			
	該当到達目標 4	予習	4歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間	
12	講義内容	模擬保育の実践(3)5歳児			
	該当到達目標 4	予習	5歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間	
13	講義内容	模擬保育の振り返り(3)5歳児			
	該当到達目標 4	予習	5歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間	
		復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間	
14	講義内容	領域「健康」における現代的課題の事例検討と保育現場へのICT活用法の学修			
	該当到達目標 1,2	予習	子どもの健康や運動経験で課題となっていることを取り上げ、援助や対策を考える。	0.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間	
		復習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					15 時間
備考	※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。				

科目名	保育内容人間関係(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES103		
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care(Human Relationships)						講義形態	演習		
担当教員	内田 祥子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 1単位 教員養成コース 選択 1単位							
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○		○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	乳幼児期における人間関係の発達と保育者の役割を踏まえ、適切な指導方法を実践できる視点獲得を目指す。指導計画立案、模擬授業等を実施し、実践的な視点から指導の仕方を考える。									
到達目標	1.乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明することができる。 2.保育内容「人間関係」の位置づけを理解し、説明することができる。 3.模擬授業を通じて、「人間関係」の育ちを促す保育者の援助について理解し、実践することができる。 4.ICT を用いた保育実践の方法を理解する。 5.「人間関係」をめぐる現代的課題について理解し説明することができる。									
使用教材	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「認定こども園保育・教育要領」									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題にコメントし、返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜 1、2 限(8 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)	uchida-s#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	授業概要・評価方法の確認								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでくる						1.5 時間	
	1・2	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題						1.5 時間	
2	講義内容	保育内容人間関係のねらいと内容								
	該当到達目標	予習	「人間関係」のねらいと内容を読んでくる						1.5 時間	
	1・2	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題						1.5 時間	
3	講義内容	0～1 歳児の人間関係の指導計画:入園初期の不安が強い乳幼児								
	該当到達目標	予習	入園児の幼児の心理について考えてみよう						1.5 時間	
	1・2	復習	幼児の心理特徴をまとめる						1.5 時間	
4	講義内容	2～3 歳児の人間関係の指導計画:遠足場面								
	該当到達目標	予習	援助方法を考えてみよう						1.5 時間	
	1・2	復習	援助方法の要点をまとめる						1.5 時間	
5	講義内容	4～5 歳児の人間関係の指導計画:幼児同士のいざこざ								
	該当到達目標	予習	幼児のいざこざの特徴を考えてみよう						1.5 時間	

	1・2	復習	幼児の心理特徴をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	援助方法を話しあってみよう: 幼児同士のいざこざ		
	該当到達目標	予習	援助方法を考えてみよう	1.5 時間
	3	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	人間関係の育ちをねらいにした指導計画		
	該当到達目標	予習	指導計画の立案方法を確認する	1.5 時間
	3	復習	指導計画立案のポイントを理解し指導案を作成する	1.5 時間
8	講義内容	教材研究の方法と意義		
	該当到達目標	予習	教材研究とは何かを調べる	1.5 時間
	3	復習	教材研究の方法を理解し教材研究をおこなう	1.5 時間
9	講義内容	模擬授業の実施		
	該当到達目標	予習	模擬授業の実施に向けた準備	1.5 時間
	3	復習	模擬授業の良かった点・課題点を書きだす	1.5 時間
10	講義内容	模擬授業の振り返り		
	該当到達目標	予習	模擬授業時の動画をみる	1.5 時間
	3	復習	模擬授業時の課題点をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	指導案の修正(グループワーク)		
	該当到達目標	予習	指導案の書き方を確認する	1.5 時間
	3	復習	指導案の修正点を反映させる	1.5 時間
12	講義内容	小学校以降の人間関係の育ち		
	該当到達目標	予習	児童期の人間関係について考える	1.5 時間
	5	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	行事と人間関係の育ち		
	該当到達目標	予習	年間を通してどのような行事があるかをまとめてくる	1.5 時間
	5	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	保育実践における ICT の活用:ドキュメンテーションの作成方法を学ぶ		
	該当到達目標	予習	ドキュメンテーションについて調べる	1.5 時間
	4	復習	ドキュメンテーションの意義をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	保育実践における ICT の活用: 幼児が ICT を使って同年代の子どもたちの様子を調べる方法を実践的に学ぶ		
	該当到達目標	予習	ICT を使った保育実践例を調べる	1.5 時間
	4	復習	保育内容人間関係における ICT の活用例をかんがえる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合はオンデマンド形式を中心とする。			

科目名	保育内容環境(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES104		
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Environment)							講義形態	演習		
担当教員	望月 文代										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位								
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・保育士										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	34										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○			○	○			
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①本授業では、保育内容「環境」について理解を深めるとともに、実際の保育現場における様々な「環境」について学んでいく。さらに乳児・幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが出来る様な保育内容「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想や指導方法、実践力を身に付ける。 ②毎時間プリントを配布し、保育内容環境の基礎を学んでいく。その後、保育場面を想定した模擬保育等の実践内容を主とした内容で進めていく。										
到達目標	1.領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 2.領域「環境」に関わる様々な環境について理解する。 3.領域「環境」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導方法を理解する。 4.指導案の構造を理解し、具体的な保育場面を想定した指導案を作成することが出来る。 5.模擬保育の振り返りを通して、保育を省察・評価・改善を行うことが出来る。										
使用教材	教科書①「幼稚園教育要領」<平成29年告示>文部科学省、フレーベル館、2017年、163円 教科書②「保育所保育指針」<平成29年告示>厚生労働省、フレーベル館、2017年、163円 教科書③「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」<平成29年告示>内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2017年、163円 教科書④「保育内容 環境」小田豊・湯川秀樹、北大路書房、2023 年、1,870 円 教科書⑤「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」2021 年 594 円										
参考文献											
評価方法	指導案作成・模擬保育(教材研究含)の実践(50%)、筆記試験(50%)										
課題・評価に対する フィードバック方法	提出物等は適宜返却するので、各自見直しを行うこと。 指導案はコメントをつけて返却をするので、各自見直しを行うこと。										
オフィスアワー (研究室)	メールまたは授業前後				メールアドレス (#→@)		mochizuki#ikuei-g.ac.jp				
1	講義内容	領域「環境」の意義、ねらい、内容、内容の取扱いについて									
	該当到達目標	予習	シラバス及び教科書①、②、③を読んでおく。							0.5	時間
	1	復習	教科書①、②、③を理解する。							0.5	時間

2	講義内容	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」、領域「環境」に関連の深い項目と評価について		
	該当到達目標	予習	教科書①、②、③を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の 10 項目を理解する。	0.5 時間
3	講義内容	様々な保育環境—人的環境・物的環境・自然環境等について—		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 5・6・7 章を読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	様々な環境について理解し、具体的な保育場面を想定する。	0.5 時間
4	講義内容	保育室の環境構成を中心に情報機器及び教材の活用を実践的に学ぶ		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 5・6・7 章を読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	保育室で活用される情報機器及び教材について理解を深める。	0.5 時間
5	講義内容	自然環境としての動植物 —生物・自然(虫や植物について)— フィールドビンゴの作成		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 7 章を読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	自然環境の重要性を理解し、虫や植物の名前を覚える。	0.5 時間
6	講義内容	日常生活の中での興味・関心 —標識・文字、情報・施設について—		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 8 章及び教科書①の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	・身近な標識や文字を乳幼児にどのように伝えていくのか理解する。 ・幼稚園・保育所・認定こども園以外の子どもを取り巻く施設を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	園行事の意義と指導方法—映像を通して園行事の環境(運動会、お遊戯会、お誕生日会等)を考える—		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 9 章及び教科書①の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	地域との交流や園行事を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	乳幼児期の安全教育・防災教育について —子どもたちに危険をどのように伝えるのか情報機器及び教材の活用を通して考える—		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 11 章を読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	様々な災害を想定し、安全な環境構成を行なうことが出来る。	0.5 時間
9	講義内容	模擬保育で活用する素材の収集及び教材研究		
	該当到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3,4	復習	領域「環境」に関する教材研究を行う。	0.5 時間
10	講義内容	保育内容「環境」に関連する指導計画の立案		
	該当到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3,4	復習	領域「環境」に関する指導計画の立案を行う。	0.5 時間
11	講義内容	情報機器及び教材の活用を含めた模擬保育①		
	該当到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3,4	復習	保育実践の振り返りを行なう。	0.5 時間
12	講義内容	情報機器及び教材の活用を含めた模擬保育②		
	該当到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3,4	復習	保育実践の振り返りを行なう。	0.5 時間
13	講義内容	情報機器及び教材の活用を含めた模擬保育③		
	該当到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3,4	復習	保育実践の振り返りを行なう。	0.5 時間
14	講義内容	模擬保育の振り返り、省察・評価・改善		
	該当到達目標	予習	教科書⑤の第 4 章を読んでおく。	0.5 時間
	3,4,5	復習	模擬保育の省察・評価・改善をまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	保育内容「環境」から見た実践的課題 —小学校の教科等とのつながり—		
	該当到達目標	予習	教科書④の第 12 章、教科書⑤の第 3 章を読んでおく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	保育内容「環境」と通した幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	・教科書①、②、③については読み込んでおくこと。			

	・質問等がある場合は授業の前後及びメールにて応じる。

科目名	保育内容言葉(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES105	
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Language)							講義形態	演習	
担当教員	今井 邦枝									
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	0	豊かな人間性と教養				0	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	5	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 授業は、講義形式と個人発表を含むグループワーク形式で実施する。各時間に配布するプリントにそって講義を進める。									
到達目標	1. 指針や要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 3. 指導案の構造を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な保育を想定した指導案を作成する。■ 4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。■ 5. 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用する。 6. 幼稚園教育における評価の考え方を踏まえ、小学校の教科等とのつながりを理解する。■									
使用教材	ことばと保育(改訂版) 近藤幹生他4名著 ひとなる書房 2016 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領									
参考文献	授業内で提示する。									
評価方法	課題レポート 40%、指導案作成 30%、毎時間の授業振り返りシート 30%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題、指導案、振り返りシートにコメントし、返却する。									
オフィスアワー(研究室)	月曜日 3・4 限(研究室 8 号館 507)				メールアドレス (#→@)	kimai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の発達の基盤には信頼関係が不可欠であることや、言葉を獲得する前の非言語的なコミュニケーションの重要性について理解できるように、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書 p30-79、保育指針 p91-122 を読んで、内容を理解する。						1.5 時間	
		復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。						1.5 時間	
2	講義内容	乳幼児が人の話を聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりすることで、相互に伝え合う喜びを味わうように過程を具体的な事例を通して理解し、教師の援助の在り方を考える。								
	該当到達目標 1, 2	予習	教科書 p30-79、保育指針 p123-181 を読んで、内容を理解する。						1.5 時間	
		復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。						1.5 時間	
3	講義内容	乳幼児の感情体験と言葉について、映像資料や事例等の子どもの姿を通して具体的に理解し、意見を調整し合えるようになるための教師の援助の在り方について考える。								

	該当到達目標 1, 2	予習	教科書 p80－99、保育指針 p182－281 を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
		復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
4	講義内容	乳幼児が遊びや生活の中で、文字の有用性や必要性に気づき、文字を使おうとしている事例を基に、教師の援助や環境構成について、具体的に考える。また、生活中にある情報機器での言葉体験の事例から、情報機器について有効的な活用方法を考える。		
	該当到達目標	予習	実習での文字環境についてまとめる。	1.5 時間
5	5	復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
	講義内容	ごっこ遊びにおける言葉の役割について、具体的な事例を基に理解し、展開していくための環境や教師の援助について、具体的に考える。■		
5	該当到達目標	予習	実習でのごっこ遊びの事例をまとめる。	1.5 時間
	1	復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	しりとりやなぞなぞ等の言葉遊びを体験し、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。■		
	該当到達目標	予習	教科書 p134－151 を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
6	3	復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
	講義内容	カルタ遊びを体験したり、制作したりすることを通して、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。■		
7	該当到達目標	予習	実習でのカルタ遊びの実態や子どもの頃の経験をまとめる。	1.5 時間
	3	復習	カルタを制作する。	1.5 時間
8	講義内容	言葉に関する活動の教材研究をグループで行い、言葉に関する教材について、導入や展開の方法など保育の視点を身に付ける。■		
	該当到達目標	予習	実習での言葉に関する活動をまとめる。	1.5 時間
8	2, 3	復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
	講義内容	言葉に関する活動の指導案についてグループで作成し、指導案の書き方について理解する。■		
9	該当到達目標	予習	教科書 p134－151、教育要領 p96－104 を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
	2, 3	復習	指導案の構想を考える。	1.5 時間
10	講義内容	乳幼児にとってのエプロンシアターの意義について理解し、子どもが経験する内容と指導上の留意点を考え、具体的な指導案を作成する。■		
	該当到達目標	予習	教材とするエプロンシアターを選び、教材研究をする。	1.5 時間
10	2, 3	復習	指導案を作成する。	1.5 時間
	講義内容	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT 機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。①■		
11	該当到達目標	予習	指導案を作成し、発表の練習をする。	1.5 時間
	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
12	講義内容	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT 機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。②■		
	該当到達目標	予習	指導案を作成し、発表の練習をする。	1.5 時間
12	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
	講義内容	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT 機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。③■		
13	該当到達目標	予習	指導案を作成し、発表の練習をする。	1.5 時間
	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
14	講義内容	言葉に遅れがある子どもや外国籍の子ども等への援助について、具体的な事例を通して理解し、具体的な場面における教師の援助の在り方を考える。また、障害に適した ITC 機器に関する知識を深め、援助としての活用方法を理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書 p176－189 を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
14	5	復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
	講義内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における領域「言葉」について、映像資料や事例を通して理解し、小学校の評価に対する考え方の違いや連携について考える。■		
15	該当到達目標	予習	教育要領 p50－73、p121－123 まで読んで、内容を理解する。	1.5 時間
	6	復習	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	・課題、レポートの提出期日を厳守すること。 ・作品発表については、各自事前に準備をすること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	保育内容表現(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES106	
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Arts and Expression)							講義形態	演習	
担当教員	岡本 拓子 石原 綱成									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位							
履修を必須とする資格	幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34916									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするという保育内容「表現」の本質、および保育におけるさまざまな活動の場での子どもの表現についての基礎知識を深めながら、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法について実践的に学ぶ。 授業は演習形式で行う。グループワークを中心に進め、各グループで取り組んだ課題について発表する時間を設ける。教材はテキストを用いる他、必要に応じてプリントを配布する。									
到達目標	1.領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 2.実践事例を通して、子どもの表現過程について、発達の視点から読み取りができるようにする。 3 子どもの表現を育むための具体的な指導場面を想定した保育を構想し、環境構成や援助について学ぶ。									
使用教材	岡本拓子・花原幹夫・汐見稔幸編 アクティベート保育学「保育内容『表現』」 ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領解説, 保育所保育指針解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説									
参考文献										
評価方法	課題への取り組み 30%, 実技試験と期末レポート 70%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回授業終了時に振り返りを行い、個々の課題を明確化し共有する。 期末レポートについては個々の課題を明確に示したコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	岡本:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404 石原:月曜日 3 限 木曜日 4 限 研究室 8 号館 5 階 501				メールアドレス (#→@)		岡本:okamoto#takasaki-u.ac.jp 石原:ishihara#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現する姿に関連付けることを通して理解する(岡本)。								
	該当到達目標 1	予習	シラバスをよく読み、授業内容を理解しておく。							1 時間
		復習	領域「表現」についての理解を深めておく。							1 時間
2	講義内容	幼児の表現あるいは表出に関する場面について、ビデオを視聴して具体的な事例を挙げ、その表現の背景や要因を考察し、さらにその表現が広がる指導方法について学習する(岡本)。								
	該当到達目標	予習	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の							1 時間

			各解説を読んでおく。	
	1,2	復習	実践事例と領域「表現」の関連についてまとめる。	1 時間
3	講義内容	幼児期の表現活動と、小学校の体育、生活、音楽や図画工作、その他さまざまな教科と学びの連続性について具体的な実践例から学ぶ(岡本)。		
	該当到達目標	予習	領域「表現」の内容について熟読しておく。	1 時間
	1,2	復習	実践事例と領域「表現」の関連について課題をまとめる。	1 時間
4	講義内容	国内外の保育研究の論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自ら保育構想の向上に取り組む(岡本)。		
	該当到達目標	予習	テキストの該当箇所を熟読しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめる。	1 時間
5	講義内容	インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な素材を用いた具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用について学習する(岡本)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
6	講義内容	五感を通した総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを学ぶ(岡本)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
7	講義内容	手足・身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを学ぶ(岡本)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
8	講義内容	自然や自然物を用いた幼児の総合的な表現活動を実践的に学習する。情報機器を用いて加工したり観察したりして、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを学ぶ(石原)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
9	講義内容	OHC やプロジェクターなど情報機器を用いて、幼児の総合的な表現活動について実践的に学習する。様々な素材を用いた光と影による表現活動の面白さ、留意点などを学ぶ(石原)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
10	講義内容	年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について学ぶ(岡本)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
11	講義内容	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、実際に体験することを通して、保育構想に活用できるアイデアについて学習する(石原)。		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1 時間
12	講義内容	これまでの学びを踏まえ、総合的な表現活動を実践するために、指導案をグループで作成する(岡本)。		
	該当到達目標	予習	グループで指導案作成を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	ねらいと内容の立て方の理解を深め、模擬保育での課題を解決する。	1 時間
13	講義内容	総合的な表現活動を実践するために、グループで作成した指導案に沿って教材研究を深める(石原)。		
	該当到達目標	予習	グループで教材研究を進める。	1 時間
	1,2,3	復習	教材研究に対する理解を深め、模擬保育での課題を解決する。	1 時間
14	講義内容	グループで総合的な表現活動を指導案に沿って実践し、その振り返りを通して改善を試みる(石原)。		

	該当到達目標	予習	グループで総合的な表現活動の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	総合的な表現活動に関する課題を解決する。	1 時間
15	講義内容	これまで学んだ総合的な表現活動の実践を通して、保育の場における表現活動について考える。特に、写真や動画などを用いた記録方法としてのドキュメンテーションの手法を用いた保育の振り返りについて実践的に学ぶ(石原)。		
	該当到達目標	予習	ドキュメンテーションの手法についてグループで話し合っておく。	1 時間
	1,2,3	復習	自分自身の保育実践を行う上で、保育内容表現の意義や課題がどのように影響するか理解を深めておく。	1 時間
	合計時間(予習・復習)			30 時間
備考	グループワーク、演習を中心に実施するため、積極的に授業に参加しグループワークをおこなう姿勢が求められる。			

科目名	子どもの食と栄養Ⅰ（保育・教育の内容）						科目ナンバリング	CES151			
英文名	Food and Nutrition for Infant and ChildⅠ						講義形態	演習			
担当教員	大塚恵美子										
科目に関連した実務経験	非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当（経験）										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位								
関連資格	免許・資格指定科目:保育士										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	3	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力									
SDGs との関連	2 3 4 8 12 13 16										
アクティブラーニング実施方法	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○	○		○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康の基礎となり心身の発達にとっても重要である。この授業では、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について学修する。保育者として子どもを取り巻く社会や食環境を踏まえた上で、子どもの食生活の現状を理解し「食べる力」の支援に活かせる知識の修得を目標とする。 ②授業は、教科書と配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク・教材作成、発表、実習の方法を用いて進めます。										
到達目標	1 子どもの健康と食生活の意義について理解する。■ 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。■ 3..栄養に関する基本的知識を習得する。 4.保育における食育の意義・目的、基本的な考え方や内容について理解する。										
使用教材	子どもの食生活－栄養・食育・保育－上田玲子編著、赤石元子、酒井治子、永井由利子、林薫、本田真美著（有限会社 ななみ書房） 2022 年 2,400 円＋税、「保育所保育指針解説書」厚生労働省編著（フレーベル館） 2018 年 320 円＋税										
参考文献											
評価方法	授業態度と参加意欲（10%）、授業内で取り組むレポート（小テストを含む）（30%）、定期試験（60%）で総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。										
課題・評価に対するフィードバック方法	理解度を確保するためのレポート（小テスト）にコメントを付し返却、解説をする。 期末試験後に、問題出題の意図を説明する。										
オフィスアワー（研究室）	水曜日 3,4 時限。メール対応可能。（研究室： 9 号館 3 階 306）				メールアドレス（#→@）	otsuka-e#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション「子どもの食と栄養」を学ぶ目的・子どもの食生活の特徴・現状と課題■									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標等を理解する。教科書第 1 章を読み予習する。子どもの食生活の現状および課題について理解する。							0.5	時間
	1	復習	講義内容、講義目標、到達目標、評価方法等を確認する。							0.5	時間
2	講義内容	子どもの発育・発達■									
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章を読み予習する。							0.5	時間
	2	復習	子どもの発育の特徴、食べる機能、消化吸収機能の発達について理解する。							0.5	時間
3	講義内容	栄養に関する基礎知識 ①食品の分類、栄養素の種類と機能、食事摂取基準									
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読み予習する。							0.5	時間
	3	復習	6 つの基礎食品、3 色のグループの分類、五大栄養素、食事摂取基準について理解する。							0.5	時間
4	講義内容	栄養に関する基礎知識 ②献立作成・調理の基本■									

	該当到達目標 3	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
		復習	食事バランスガイド、献立の基本について理解する。	0.5 時間
5	講義内容	栄養に関する基礎知識 ③食中毒、食品表示		
	該当到達目標 3	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
		復習	食中毒、食品表示について理解する。	0.5 時間
6	講義内容	胎児期(妊娠期)の食生活		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第7章を読み予習する。	0.5 時間
		復習	胎児期(妊娠期)の栄養の意義や妊娠期の食生活について理解する。	0.5 時間
7	講義内容	乳児期の食生活■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第4章を読み予習する。	0.5 時間
		復習	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について理解する。	0.5 時間
8	講義内容	幼児期の心身の発達と食生活		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第5章を読み予習する。	0.5 時間
		復習	幼児期における心身の発達の特徴および食生活の特徴とその問題点について理解する。	0.5 時間
9	講義内容	学童期・思春期の心身の発達と食生活		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第6章、を読み予習する。	0.5 時間
		復習	学童期における心身の発達の特徴および食生活の特徴とその問題点について理解する。	0.5 時間
10	講義内容	食育の基本 ①保育における食育の意義、目的と基本的考え方		
	該当到達目標 1,2,4	予習	教科書第10章と保育所保育指針解説第3章(健康および安全)を読み予習する	0.5 時間
		復習	保育所における食育の目的、必要性について理解する。保育所での食育の内容について理解する。	0.5 時間
11	講義内容	食育の基本 ②食育の内容と計画及び評価		
	該当到達目標 1,2,4	予習	教科書第10章と保育所保育指針解説第1章(保育の計画及び評価)を読み予習する	0.5 時間
		復習	食育の内容と計画づくりについて理解する。	0.5 時間
12	講義内容	食育の基本 ③食育の実践1		
	該当到達目標 1,2,4	予習	食育教材の作成準備をする。	0.5 時間
		復習	食育教材の内容を検討する。	0.5 時間
13	講義内容	食育の基本 ④食育の実践2		
	該当到達目標 1,2,4	予習	食育教材の作成準備をする。	0.5 時間
		復習	グループ発表準備をする。	0.5 時間
14	講義内容	食育の基本 ⑤食育の実践3		
	該当到達目標 1,2,4	予習	食育教材の作成をする。	0.5 時間
		復習	グループ発表準備、役割を確認する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ、発表(作成した食育教材を用いて実演する)		
	該当到達目標 1,2,4	予習	グループ発表の準備をする。	0.5 時間
		復習	講義、演習内容を復習して整理する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 ※食育の実践では、食育教材作成の他に、食農体験をおこなうこともあります。食農保育体験では、動きやすい服装、日よけ用帽子、手拭きタオル、飲み物を持参する。			

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ（保育・教育の内容）						科目 ナンバリング	CES152		
英文名	Food and Nutrition for Infant and Child Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	大塚恵美子									
科目に関連した 実務経験	非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当（経験）									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数		選択 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 （多様性理解）				
	3	専門的知識			1	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	2348121316									
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①この授業では、「子どもの食と栄養Ⅰ」の基礎的学修を基本として、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について実践的に学修する。「味わうこと」とは、どのようなことなのかについて、実践を通して修得する。保育者として、子どもの「食べる力」をはぐくむための食事支援について知識と技術の修得を目指す。保育の現場で活かせる応用力を深めることを目標とする。 ②授業は、教科書と配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク、実習等の方法を用いて進めます。									
到達目標	1.子どもの発育・発達過程ごとの食事の特徴、方法、支援の仕方を修得する。■ 2.子どもの発育・発達過程における食生活上の問題点を理解する。■ 3.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 4.特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解する。									
使用教材	「最新 子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－飯塚美和子・瀬尾弘子・濱谷亮子編著（株式会社 学研書院）2019 年 2,400 円＋税、保育所保育指針解説書」厚生労働省編著（フレーベル館）2018 年 320 円＋税									
参考文献										
評価方法	授業態度と参加意欲（10%）、授業内で取り組むレポート（小テストを含む）（30%）、定期試験（60%）で総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	理解度を確認するための小テストを実施して解説をする。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー （研究室）	月曜日 4 時限、火曜日 3 時限。メール対応可能。（研究室： 9 号館 3 階 306）				メールアドレス （#→@）	otsuka-e#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、子どもの食生活の現状と課題について考える。								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標等を理解する。						0.5	時間
	1,2	復習	講義内容、講義目標、到達目標、評価方法等を確認する。						0.5	時間
2	講義内容	乳児期の食生活 ①母乳栄養■								
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読み予習する。						0.5	時間
	1,2	復習	母乳育児、母乳栄養について理解する。						0.5	時間
3	講義内容	乳児期の食生活 ②人工栄養■								
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読み予習する。						0.5	時間
	1,2	復習	育児用ミルクの特徴や調乳の手順について理解する。						0.5	時間

4	講義内容	乳児期の食生活 ③離乳、離乳食■		
	該当到達目標	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	離乳の必要性や離乳食の進め方について理解する。	0.5 時間
5	講義内容	乳児期の食生活 ④ベビーフード■		
	該当到達目標	予習	教科書第5章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	市販のベビーフードを試食して、その特徴や利用についての利点、問題点について理解する。	0.5 時間
6	講義内容	幼児期の食生活 ①食機能の発達:食事支援の方法■		
	該当到達目標	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	幼児期の食機能、食具、食事支援の方法について理解する。	0.5 時間
7	講義内容	幼児期の食生活 ②間食の役割と必要性、栄養バランスのよいお弁当■		
	該当到達目標	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	幼児期の間食の役割と必要性、栄養バランスのよいお弁当について理解する。	0.5 時間
8	講義内容	幼児期の食生活 ③間食(おやつ)の実践■		
	該当到達目標	予習	教科書第3章、口絵カラーページ:幼児期の間食を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	間食の役割について、実際に調理した間食を試食して理解する。	0.5 時間
9	講義内容	乳幼児の食生活 食生活上の問題■		
	該当到達目標	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	幼児期の食生活上の問題について理解する。	0.5 時間
10	講義内容	学童期・思春期の食生活		
	該当到達目標	予習	教科書第3章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	学童期・思春期の心身の特徴と食生活について理解する。	0.5 時間
11	講義内容	家庭や児童福祉施設における食生活		
	該当到達目標	予習	教科書第5章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	家庭や児童福祉施設における食事と栄養について理解する。	0.5 時間
12	講義内容	特別な配慮を要する子どもの食生活 ①体調不良、疾病のある子どもへの対応		
	該当到達目標	予習	教科書第6章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2,4	復習	子どもの疾病の特徴と病児の食事と対応の仕方について理解する。	0.5 時間
13	講義内容	特別な配慮を要する子どもの食生活 ②食物アレルギーのある子どもへの対応■		
	該当到達目標	予習	教科書第6章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2,4	復習	食物アレルギーの正しい知識と対応の仕方について理解する。	0.5 時間
14	講義内容	特別な配慮を要する子どもの食生活 ③障がいのある子どもへの対応		
	該当到達目標	予習	教科書第6章を読み予習する。	0.5 時間
	1,2,4	復習	摂食行動や摂食・嚥下機能発達を障がいのする疾患の特徴と対応の仕方について理解する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの講義、演習内容を整理する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	子どもの栄養と食生活について理解する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。 ※調理実習時は、エプロン、三角巾(バンダナ)、マスク、手拭きタオルを持参する。身支度を整えて、調理室へ入室すること。			

科目名	乳児保育Ⅰ（保育・教育の内容）							科目ナンバリング	CES153	
英文名	Infant Care and Education I							講義形態	講義	
担当教員	今井 麻美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	4	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業では、乳児の発達を知り、発達に即した保育環境や保育内容について理解を深めることを目標とする。 授業は、講義形式のほか、グループワークやディスカッションを用いながら進める。講義形式の授業では、主にパワーポイントを使用する。そのほか、映像資料や事例など、具体的な保育実践がイメージできる教材を使用する。									
到達目標	1. 乳児の発達を理解する 2. 乳児の発達に応じたかかわりの必要性について理解する 3. 乳児の発達に応じた生活や遊びについて考えることができる 4. 乳児保育において、一人一人に応じるための保育方法の必要性について理解する									
使用教材	「保育所保育指針解説書」厚生労働省編著(フレーベル館) 2018 年 320 円+税 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館) 2018 年 240 円+税 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館) 2018 年 350 円+税 そのほか、資料を配布する。									
参考文献										
評価方法	授業内で取り組むレポート(20%)，最終試験(70%)に加え，授業への参加態度(10%)を加味して評価を行う。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題にはコメントや解説を付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 1 限，2 限。メール対応可能。 (研究室： 8 号館 5 階 504)				メールアドレス (#→@)	imai-a@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、乳児保育の概要								
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	シラバスの内容を読んで，講義の目標等を理解する。						1.5 時間	
		復習	講義内容，講義目標，到達目標，評価方法等を確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	乳児保育の基本と実践 ①乳児保育の実践を知る・グループディスカッション								
	該当到達目標 2, 3, 4	予習	これまで学んできた授業内容を乳児保育という視点から振り返る						1.5 時間	
		復習	実践場面を見て気づいた内容を自分なりに整理する						1.5 時間	
3	講義内容	乳児保育の基本と実践 ②まとめ								
	該当到達目標	予習	グループディスカッションを通して，考えたことをグループメンバーと整理する						1.5 時間	

	2, 3, 4	復習	授業を通して得た気づきや考えを, 保育所保育指針に照らし合わせながら理解を深める	1.5 時間
4	講義内容	乳児保育の必要性和意義		
	該当到達目標	予習	乳児保育の必要性について, 自分なりに考えてくる	1.5 時間
	2, 3, 4	復習	乳児保育の歴史的変遷と現在の乳児保育の意義について理解を深める	1.5 時間
5	講義内容	0 歳児の発達と保育 ①身体・運動能力の発達		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
6	講義内容	0 歳児の発達と保育 ②対人関係の発達		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
7	講義内容	0 歳児の発達と保育 ③発達に即した保育環境		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書 p108~112 を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
8	講義内容	1 歳児の発達と保育 ①身体・運動能力の発達		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
9	講義内容	1 歳児の発達と保育 ②対人関係・言葉の発達		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
10	講義内容	1 歳児の発達と保育 ③発達に即した保育環境		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書 p112~115 を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
11	講義内容	2 歳児の発達と保育 ①自我の育ち		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
12	講義内容	2 歳児の発達と保育 ②遊び		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
13	講義内容	2 歳児の発達と保育 ③発達に即した保育環境		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書 p112~115 を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
14	講義内容	乳児の生活(食事・基本的生活習慣の自立)		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み, 予習する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	乳児の発達過程とその理解の必要性について整理する	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	乳児の発達過程に即した保育環境や援助方法について整理する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は, C-learning を用いてオンデマンド型授業とします。			

科目名	乳児保育Ⅱ（保育・教育の内容）						科目ナンバリング	CES154		
英文名	Infant Care and Education Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	今井 麻美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	3	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業では、3 歳未満児の発達の過程や特徴を踏まえた関わり方や保育方法について、具体的に理解することを目指す。さらに、施設保育における集団的な生活の中で、一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫について、具体的に考えようとする姿勢を持つことを目標とする。 授業は、映像資料や事例など、具体的な保育実践がイメージできる教材を使用しながら、グループワークやディスカッションを行う。									
到達目標	1. 乳児の発達に応じた関わり方について具体的に理解する 2. 乳児の遊びや生活に応じた環境構成について具体的に理解する 3. 一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫について、具体的に考えようとする									
使用教材	「保育所保育指針解説書」厚生労働省編著(フレーベル館) 2018 年 320 円+税 授業に必要な資料を配布する。									
参考文献										
評価方法	授業内で取り組む課題(30%)，期末試験(70%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題にはコメントや解説を付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜日 1 限, 2 限。メール対応可能 (研究室: 8 号館 5 階 504)				メールアドレス (#→@)	imai-a#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標等を理解する。						0.5 時間	
	1	復習	講義内容、講義目標、到達目標、評価方法等を確認する。						0.5 時間	
2	講義内容	0 歳児の発達と保育								
	該当到達目標	予習	実習時における0歳児の子どもたちや保育の様子を発達的な視点から振り返る。						0.5 時間	
	1	復習	保育所保育指針解説の「乳児保育に関わるねらい及び内容」について読み、理解を深める。						0.5 時間	
3	講義内容	1 歳児の発達と保育								
	該当到達目標	予習	実習時における1歳児の子どもたちや保育の様子を発達的な視点から振り返る。						0.5 時間	
	1	復習	保育所保育指針解説の「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」について読み、理解を深める。						0.5 時間	
4	講義内容	2歳児の発達と保育								
	該当到達目標	予習	実習時における2歳児の子どもたちや保育の様子を発達的な視点から振り返る。						0.5 時間	

	1	復習	保育所保育指針解説の「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」について読み、理解を深める。	0.5 時間
5	講義内容	乳児の生活の流れ		
	該当到達目標	予習	実習時において学んだ乳児の1日の生活の流れを振り返る。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
6	講義内容	乳児の遊び		
	該当到達目標	予習	実習時における乳児の遊びを振り返る	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
7	講義内容	乳児の遊びを支える環境構成		
	該当到達目標	予習	前回の授業内容を踏まえ、乳児の遊びが豊かになる環境について考える。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、自分なりに乳児の遊びを支える環境構成について考える	0.5 時間
8	講義内容	乳児の生活を支える環境構成		
	該当到達目標	予習	乳児ならではの生活の過ごし方やそれに応じた配慮について、実習時の経験を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3	復習	乳児の発達的な特徴や特性を踏まえた生活環境について、自分なりに考えまとめる。	0.5 時間
9	講義内容	一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫 ①グループディスカッション		
	該当到達目標	予習	実習時において感じた、一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫、疑問点について振り返る。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションの内容をまとめる。	0.5 時間
10	講義内容	一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫 ②グループディスカッションの内容の共有		
	該当到達目標	予習	実習時において感じた、一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫、疑問点について振り返る。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションの内容をまとめる。	0.5 時間
11	講義内容	応答的な関わりとは ①実習時の経験とエピソードを通じて考える。		
	該当到達目標	予習	実習時において、保育者の応答的な関わりを感じたエピソードを振り返る。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業を通して考えたことをノートにまとめる。	0.5 時間
12	講義内容	応答的な関わりとは ②グループディスカッション		
	該当到達目標	予習	前回の授業内容を踏まえ、グループで話し合いたいことを整理する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションを通して考えたことを整理する。	0.5 時間
13	講義内容	乳児保育における計画		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説の該当箇所(指示する)を読む。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
14	講義内容	乳児保育を支える連携		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説の該当箇所(指示する)を読む。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
15	講義内容	乳児保育の現在と課題		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容をノートにまとめ、気づきや疑問点を挙げる。	0.5 時間
	1,2,3	復習	乳児保育において必要とされる配慮や工夫について自分なりにまとめる。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	既習の内容や、実習での経験を踏まえて、自分なりに考える姿勢を求めます。 オンラインで実施する場合は、C-learning を用いてオンデマンド型授業とします。			

科目名	障害児保育 I(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES155		
英文名	Childcare for Children with Disabilities I						講義形態	演習		
担当教員	野田 敦史									
科目に関連した実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1	2	3	4	5	8	9	10	16	
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	現代は、幼稚園・保育所にも必ずと言ってよいほど障害を持った乳幼児が在籍している。その子どもに対して保育者は個別的にもクラス集団の中でも十分な保育の対応ができなければならない。まず、障害児保育を支える理念や歴史的変遷を理解し、障害児保育の実際について原理・原則を踏まえた実践方法の習得をめざす。次に、身体障害、知的障害、発達障害など様々な障害について知り、その特性を理解する。そして一人ひとりに合った援助の方法や環境構成について分析・提示する思考力の獲得をめざす。さらに障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。なお、授業の進め方としては、テキスト・ビデオ視聴をもとに講義し、テーマに基づく課題を提示し、アクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化ができるよう実施する。									
到達目標	1.障害児保育を支える理念・理論に基づく実践が示せる。 2.障害児保育の実践形態と効果・留意点を踏まえた保育者の実践が示せる。■ 3.身体障害、知的障害、発達障害等の障害特性に基づく対応方法が示せる。■ 4.障害児保育に必要な保護者や関係機関との連携の在り方について説明できる。■									
使用教材	教科書：野田敦史・林恵編著「保育と障害のある子ども」みらい その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。									
参考文献	適宜、授業で紹介。									
評価方法	定期試験 50%、演習貢献度 25%、小テスト 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。									
オフィスアワー (研究室)	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)	noda#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス ―障害児保育を学ぶ意義―								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する。						1.5	時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。						1.5	時間
2	講義内容	障害とは								
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章、第 2 章の演習課題に目を通しておく						1.5	時間
	1	復習	医学モデル、社会モデル、ICF などを理解する。						1.5	時間
3	講義内容	発達と障害								
	該当到達目標	予習	教科書 第 3 章の演習課題に目を通しておく						1.5	時間
	1	復習	就学前までの発達における阻害要因などを理解する。						1.5	時間
4	講義内容	障害児保育とその歴史								
	該当到達目標	予習	教科書 第 4 章の演習課題に目を通しておく						1.5	時間

	1	復習	日本の障害児・者観、障害児教育と保育のあゆみなどを理解する。	1.5 時間
5	講義内容	肢体不自由児の理解と援助■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	肢体不自由の定義, 程度, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	視覚障害の理解と援助■		
	該当到達目標	予習	教科書 第6章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	視覚障害の定義, 程度, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	聴覚障害の理解と援助■		
	該当到達目標	予習	教科書 第7章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	聴覚障害の定義, 程度, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	知的障害の理解と援助■		
	該当到達目標	予習	教科書 第8章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	知的障害の定義, 程度, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	発達障害の理解と援助(1)AD/HD LD■		
	該当到達目標	予習	教科書 第9章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	AD/HD LD の定義, 程度, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	発達障害の理解と援助(2)自閉症スペクトラム■		
	該当到達目標	予習	教科書 第10章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	自閉症スペクトラムの定義, 程度, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	配慮を必要とする子どもの理解と援助■		
	該当到達目標	予習	教科書 第11章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	愛着障害の定義, 原因, 支援方法などを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	障害児保育の方法と形態		
	該当到達目標	予習	教科書 第12章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2	復習	分離保育と統合保育の違いについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	個別の指導計画と個別の(教育)支援計画■		
	該当到達目標	予習	教科書 第13章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,4	復習	個別の指導計画と個別の(教育)支援計画の違いについて理解する	1.5 時間
14	講義内容	障害児保育の記録と評価■		
	該当到達目標	予習	教科書 第15章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,4	復習	障害児現場における評価・記録の在り方などを理解する	1.5 時間
15	講義内容	基本的生活習慣獲得の援助■		
	該当到達目標	予習	教科書 第16章の演習課題に目を通しておく	1.5 時間
	2,4	復習	障害を持つ子どもに対する基本的生活習慣獲得の援助方法について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	障害児保育Ⅱ（保育・教育の内容）						科目ナンバリング	CES156		
英文名	Childcare for Children with Disabilities II						講義形態	演習		
担当教員	野田 敦史									
科目に関連した実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○		○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害児保育Ⅰでの学びに基づき、分離・統合保育実践現場それぞれを想定した事例検討、テーマ別研究、支援技術体験を通じ、高度な分析力と応用的な実践技術習得をめざす。進行方法として、グループワークを基本とし、それぞれの演習方法においてオリエンテーション→グループワーク→報告（発表）会の順で実施する。									
到達目標	1.分離・統合保育現場における課題を抽出することができる。 2.専門的テーマに基づく情報集・分析・考察・解決方法の立案ができる。 3.障害児保育の実践現場を想定した他職種・他機関の連携の必要性・具体的協働方法の提示ができる。■ 4.障害種別に特化した効果的な方法提示と実践ができる。■									
使用教材	教科書：野田敦史・林恵編著「保育と障害のある子ども」みらい その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。									
参考文献	適宜、授業で紹介。									
評価方法	演習貢献度 50%、演習成果物 50%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習終了後に回収するレジュメ、リアクションペーパーは、コメントもしくは評価（A～C）を付けて返却する。演習成果物の評価結果は授業回 3～5 回を目安に開示する。									
オフィスアワー （研究室）	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける。				メールアドレス （#→@）	noda#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	集団生活と遊びの援助								
	該当到達目標	予習	教科書 第 17 章の演習課題に目を通しておく						1.5	時間
	1,2,3	復習	基本的日常生活動作と遊びの意義、保育者の配慮などを理解する						1.5	時間
2	講義内容	保護者や家庭への支援■								
	該当到達目標	予習	教科書 第 18 章の演習課題に目を通しておく						1.5	時間
	1,2,3	復習	保護者支援の方法・実際などを理解する。						1.5	時間
3	講義内容	小学校・特別支援学校との連携■								
	該当到達目標	予習	教科書 第 19 章の演習課題に目を通しておく						1.5	時間
	1,2,3	復習	就学前審査・相談の内容などを理解する						1.5	時間
4	講義内容	事例検討(1)AD/HD■								
	該当到達目標	予習	教科書 第 22 章の事例課題に目を通しておく						1.5	時間
	1,2,3	復習	討議した内容を思い出しながら教科書 第 9 章を確認する。						1.5	時間
5	講義内容	事例検討(2)自閉症スペクトラム■								

	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 第 23 章の事例課題に目を通しておく	1.5 時間
		復習	討議した内容を思い出しながら教科書 第 10 章を確認する。	1.5 時間
6	該当到達目標 4	講義内容	手話ダンス(1)技術習得方法と発表に向けて	
		予習	インターネット等で手話ダンス動画作品を数点、視聴しておく	1.5 時間
		復習	自グループメンバーで役割等の確認・練習	1.5 時間
7	該当到達目標 4	講義内容	手話ダンス(2)技術習得	
		予習	グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう	1.5 時間
		復習	自グループメンバーで役割等の確認・練習	1.5 時間
8	該当到達目標 4	講義内容	手話ダンス(3)発表	
		予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5 時間
		復習	授業時に配布した資料の内容を理解する。	1.5 時間
9	該当到達目標 4	講義内容	点字翻訳と名刺製作(1)	
		予習	前回授業時に配布した「点字表」に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	点字器で課題に基づく製作物を作成する。	1.5 時間
10	該当到達目標 4	講義内容	点字翻訳と名刺製作(2)	
		予習	点字器で課題に基づく製作物を作成する。	1.5 時間
		復習	授業時に配布した資料の内容を理解する。	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	テーマ別研究(1)研究と発表の方法	
		予習	前回授業時に配布した「研究計画書」を作成する。	1.5 時間
		復習	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	テーマ別研究(2)フィールドワーク■	
		予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5 時間
		復習	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	テーマ別研究(3)フィールドワーク■	
		予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5 時間
		復習	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	テーマ別研究(4)発表■	
		予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5 時間
		復習	他グループの発表を振り返り自グループの発表に活かせるよう検討する。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4	講義内容	テーマ別研究(5)発表■	
		予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードの記入と提出。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会的養護Ⅱ（保育・教育の内容）							科目ナンバリング	CES157	
英文名	Social Care II							講義形態	演習	
担当教員	野田 敦史									
科目に関連した実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会的養護で学んだ原理・原則等をもとに、多様な社会的養護現場での実践的事象を把握・分析し、具体的な支援方法および関係機関・関連職種との連携・方策を学生個々が提示できることを目指す。進行方法としてグループワークを基本とし、授業回ごとに【個人ワーク】事例（資料）の通読→【グループワーク】ディスカッション→【全体共有】グループ内もしくは全体発表→【まとめ】講評・解説の順で実施する。									
到達目標	1.社会的養護現場での実践的事象に対して社会的養護の原理・原則に基づき、課題を抽出できる。 2.抽出した課題に対して子どもの最善の利益に基づいた目標設定と具体的な実践方法を立案することができる。■ 3.家庭支援、アフターケア等、我が国の社会的養護の課題全般に対して地域・他機関連携等を図りながら解決するソーシャルワークに立脚した支援方法の提示ができる。■									
使用教材	教科書：吉田眞理編著「～演習～社会的養護」萌文書林 その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。									
参考文献	適宜、授業で紹介する。									
評価方法	演習貢献度 50%、演習成果物 50%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習終了後に回収するレジュメ、リアクションペーパーは、コメントもしくは評価（A～C）を付けて返却する。演習成果物の評価結果は授業回 3～5 回を目安に開示する。									
オフィスアワー（研究室）	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける。				メールアドレス（#→@）		noda#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス ―社会的養護内容を学ぶ意義―								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する。						1.5 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	事例検討(1)児童の権利擁護■								
	該当到達目標	予習	教科書 第1章・Ⅰを読んでおく。						1.5 時間	
	1,2	復習	子どもの最善の利益、生存と発達の保障、子どもの権利擁護を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	事例検討(2)保育士等の倫理および責務								
	該当到達目標	予習	教科書 第1章・Ⅱを読んでおく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	支援者の子ども観、バーンアウトと共依存の予防を理解する。						1.5 時間	
4	講義内容	事例検討(3)施設養護の特性および実際①児童養護施設の暮らし■								
	該当到達目標	予習	教科書 第2章・Ⅱ-§1を読んでおく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	集団生活場面における個別対応の実践について理解する。						1.5 時間	
5	講義内容	事例検討(4)施設養護の特性および実際②乳児院の暮らし■								

	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 第2章・Ⅱ・§2を読んでおく。	1.5 時間
		復習	面会時の保護者支援の方法、措置変更に向けた援助内容などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	事例検討(5)施設養護の特性および実際③医療型・福祉型障害児入所施設の暮らし■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 第2章・Ⅱ・§3を読んでおく。	1.5 時間
		復習	重症心身障害児、脳性まひ児のケアの方法を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	事例検討(6)施設養護の特性および実際④児童自立支援施設・情緒短期治療施設の暮らし■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 第2章・Ⅱ・§4を読んでおく。	1.5 時間
		復習	夫婦小舎制の利点・欠点、家庭裁判所の決定による入所などを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	事例検討(7)施設養護の特性および実際⑤障害者支援施設の暮らし■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 第2章・Ⅱ・§5を読んでおく。	1.5 時間
		復習	障害者支援施設における知的障害者の支援内容などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	座談会(1)乳児院現場職員の語りから		
	該当到達目標 3	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3章・Ⅰ,Ⅱ,Ⅲで確認する。	1.5 時間
10	講義内容	座談会(2)児童養護施設現場職員の語りから		
	該当到達目標 3	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3章・Ⅰ,Ⅱ,Ⅲで確認する。	1.5 時間
11	講義内容	座談会(3)アフターケア ―あの頃を振り返って―		
	該当到達目標 3	予習	前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書で確認する。	1.5 時間
12	講義内容	座談会(4)措置機関の職務と課題■		
	該当到達目標 3	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書で確認する。	1.5 時間
13	講義内容	ロールプレイ(1)スーパービジョン■		
	該当到達目標 3	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3,4章で確認する。	1.5 時間
14	講義内容	ロールプレイ(2)施設内でのケースカンファレンス■		
	該当到達目標 3	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3,4章で確認する。	1.5 時間
15	講義内容	ダイアログ形式による情報共有とまとめ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 時間
		復習	リフレクションカードの記入と提出。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの健康と安全(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES158		
英文名	Health and Security for Children						講義形態	演習		
担当教員	佐々木 由美子									
科目に関連した 実務経験	臨床検査技師として小児病院に勤務(経験), 保育士キャリアアップ研修:保健衛生・安全対策(担当)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子どもの成長・発達、健康状態の観察、健康の維持増進に向けた養護技術、疾病や事故の予防や対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的知識を学習する。また、保育・教育実習で役立つように、演習を通して実践能力の向上を図る。 適宜グループワークをおこない、意見の共有と課題の解決を図る。 毎回、リフレクションシートを提出する。									
到達目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。■ 2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。■ 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について理解する。■ 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの成長・発達や健康増進に向けた具体的援助技術を修得する■ 6. 子どもの健康および安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する■									
使用教材	教科書は使用しない。資料を配布する。									
参考文献										
評価方法	ミニテスト 60%、毎回の授業終了後のリフレクションシート 40%									
課題・評価に対する フィードバック方法	授業ごとに提出するリフレクションシートに記述された内容へのフィードバックと、理解不足に対する補足を次の授業開始時に行い理解の充足を図る。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	sasaki.yumiko#g.ashikaga.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、保健的観点を踏まえた保育環境と援助■								
	該当到達目標	予習	シラバスから、本科目で何を学ぶのか、到達目標の内容を確認する。						0.5	時間
	1	復習	レジュメを再読し、保育環境と子どもへの援助についてまとめる。						1.0	時間
2	講義内容	子どもの発育:測定と評価■								
	該当到達目標	予習	自分の母子健康手帳を見て、自分が育った過程を振り返る。						0.5	時間
	1,5	復習	レジュメを再読し、子どもの発育の過程と評価についてまとめる。						1.0	時間
3	講義内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応■								
	該当到達目標	予習	個別的配慮を要する子どもとは？について調べる。						0.5	時間

	1,5	復習	レジュメを再読し、個別的配慮を要する子どもへの対応についてまとめる。	1.0 時間
4	講義内容	健康安全管理と健康教育■		
	該当到達目標	予習	保育現場でおこなう健康教育の例を調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	レジュメを再読し、健康安全カリと健康教育のあり方についてまとめる。	1.0 時間
5	講義内容	事故防止■		
	該当到達目標	予習	保育現場で起こった事故について調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	レジュメを再読し、保育者ができる事故防止についてまとめる。	1.0 時間
6	講義内容	安全対策・災害への備え■		
	該当到達目標	予習	保育現場でおこなう避難訓練の例を調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	レジュメを再読し、安全対策と災害への備えとして必要なことについてまとめる。	1.0 時間
7	講義内容	誤飲・誤嚥への対応		
	該当到達目標	予習	保育現場でおこった誤飲・誤嚥事故について調べる。	0.5 時間
	1,2,3	復習	レジュメを再読し、正しい誤飲・誤嚥事故への対応方法についてまとめる。	1.0 時間
8	講義内容	傷害時の対応		
	該当到達目標	予習	子どもによく起こるケガについて調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	レジュメを再読し、正しいケガへの対応方法についてまとめる。	1.0 時間
9	講義内容	アレルギーへの対応		
	該当到達目標	予習	保育・教育現場で起こったアナフィラキシーショックによる事故を調べる。	0.5 時間
	1,3	復習	レジュメを再読し、正しいアレルギーへの対応方法についてまとめる。	1.0 時間
10	講義内容	子どもの心肺蘇生法		
	該当到達目標	予習	救命曲線について調べる。	0.5 時間
	1,2,3	復習	再度動画を視聴するとともにレジュメを再読し、子どもの心肺蘇生法を確認する。	1.0 時間
11	講義内容	保育所における感染症対策■		
	該当到達目標	予習	子どもがよく罹患する感染症について調べる。	0.5 時間
	1,3,4	復習	レジュメを再読し、有効な感染症対策についてまとめる。	1.0 時間
12	講義内容	予防接種		
	該当到達目標	予習	自分の母子健康手帳を見て、予防接種歴を確認する。	0.5 時間
	1,4,5	復習	レジュメを再読し、予防接種の機序と役割についてまとめる。	1.0 時間
13	講義内容	保育における保健的対応■		
	該当到達目標	予習	食事における保健的対応について調べる。	0.5 時間
	1,4,5	復習	レジュメを再読し、3歳未満児への保健的対応についてまとめる。	1.0 時間
14	講義内容	子どもの体調不良時の対応		
	該当到達目標	予習	子どもによくみられる体調不良の症状について調べる。	0.5 時間
	1,3,5	復習	レジュメを再読し、子どもの体調不良時の対応方法についてまとめる。	1.0 時間
15	講義内容	保健計画の作成と活用■		
	該当到達目標	予習	保健計画作成の根拠について調べる。	0.5 時間
	6	復習	レジュメを再読し、保健計画を完成させる。	1.0 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	■:臨床検査技師・保育士としての実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	幼児と健康(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES107		
英文名	Health in Early Childhood							講義形態	講義		
担当教員	山西 加織										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位								
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・保育士・レクリエーションインストラクター										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養					2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識					2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	34										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○	○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	乳幼児期の心身の健康および発育発達について理解を深め、子どもに必要な体験とは何かを学ぶ。また、園生活をとおして子どもたちが心と体の健康を培っていくために、保育者として子どもの運動遊びや基本的生活習慣の形成、安全等をどのように支え、役割を果たしていけばよいのかを考えていく。 【授業の進め方】パワーポイントや視聴覚メディア(DVD)等を活用し、講義とグループワークで授業を進める。「運動遊びの実践」の回では、実技を中心に補足説明を加えながら進めていく。										
到達目標	1.乳幼児期における心身の発達に関する知識を身につける。 2.幼児期の運動発達の特徴と発達に必要な運動経験を説明できる。 3.幼児期の生活習慣形成と安全教育に関する意義や基本的な考え方を理解している。 4.子どもの健康をめぐる現代的課題とその背景を理解している。										
使用教材	教科書「乳幼児の健康—教育・保育に向けた計画と実践—(改訂版)」宮下恭子監修・茗井香保里・平山素子・山西加織編著(大学図書出版)、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、その他適宜資料を配布する。										
参考文献	授業時に紹介する。										
評価方法	授業への参加度(30%)、貢献度(10%)、レポート課題(30%)、筆記試験(30%)を総合的に評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。期末試験後に、問題出題の意図を説明する。										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 5 時限、火曜日 5 時限 (8 号館 505 研究室)				メールアドレス (#→@)		yamanishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション 子どもの健康とは									
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章を読み、子どもの健康について興味関心を高める。							1.5	時間
	1	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。							1.5	時間
2	講義内容	子どもの健康をめぐる現代的課題									
	該当到達目標	予習	子どもの健康や運動経験で課題となっていることを新聞、雑誌、インターネット等で調べる。							1.5	時間
	1,4	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。							1.5	時間
3	講義内容	乳幼児期の身体発達									
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章(12~24 頁)をよく読む。							1.5	時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。							1.5	時間
4	講義内容	乳幼児期の運動発達									
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章(25~34 頁)をよく読む。							1.5	時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。							1.5	時間

5	講義内容	子どもの体力・運動能力			
	該当到達目標 1,2,4	予習	教科書第2章(47～57頁)をよく読む。	1.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 時間	
6	講義内容	子どもの健康な生活習慣の獲得			
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第2章(64～78頁)をよく読む。	1.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 時間	
7	講義内容	子どもの安全への配慮と安全教育			
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第2(章(79～82頁)、第3章(123～132頁)をよく読む。	1.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 時間	
8	講義内容	幼児期の運動遊びや身体活動			
	該当到達目標 1,2	予習	幼児期の運動遊びや身体活動をいくつか挙げ、対象年齢や遊び・活動内容をノ ートにまとめる。	1.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 時間	
9	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実際(1)3歳未満児			
	該当到達目標 1,2,3	予習	3歳未満児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 時間	
		復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 時間	
10	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実際(2)3歳児			
	該当到達目標 1,2,3	予習	3歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 時間	
		復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 時間	
11	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実際(3)4歳児			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 時間	
		復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 時間	
12	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実際(4)5歳児			
	該当到達目標 1,2,3	予習	5歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 時間	
		復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 時間	
13	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びと環境構成			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で取り上げた遊びについて、環境構成を考えノートにまとめる。	1.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 時間	
14	講義内容	これからの子どもの健康づくり			
	該当到達目標 4	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 時間	
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 時間	
15	講義内容	まとめ 定期試験			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 時間	
		復習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしな みで参加すること。貴重品は各自で管理すること。				

科目名	幼児と人間関係(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES108	
英文名	Human Relationships in Early Childhood							講義形態	講義	
担当教員	内田 祥子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項を理解することを目指す。授業では、様々な保育事例を紹介しながら、子どもの発達や指導方法について具体的に講義する。									
到達目標	1.乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明することができる。 2.保育内容「人間関係」の位置づけを理解し、説明することができる。 3.「人間関係」の育ちを促す保育者の援助について理解し、説明することができる。 4.「人間関係」をめぐる現代的課題について理解し説明することができる。									
使用教材	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「認定こども園保育・教育要領解説」									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価の具体的方法と基準は初回にアナウンスする									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にコメントし、返却する									
オフィスアワー(研究室)	月曜 1、2 限(8 号館 410 研究室)					メールアドレス (#→@)	uchida-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	授業概要・評価方法の確認								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでくる						1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題						1.5	時間
2	講義内容	乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題								
	該当到達目標	予習	幼稚園教育要領等の「人間関係」のねらいと内容を読んでくる						1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題						1.5	時間
3	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」①身近な大人との関わり								
	該当到達目標	予習	保育者が人間関係に果たす役割を考えてみよう						1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題						1.5	時間
4	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」②保育者の関わり								
	該当到達目標	予習	保育者が人間関係に果たす役割を考えてみよう						1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題						1.5	時間
5	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」③幼児同士のかかわり								
	該当到達目標	予習	幼児のいざこざの特徴を考えてみよう						1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題						1.5	時間

6	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」④遊びと生活			
	該当到達目標	予習	遊びにおける人間関係の特徴を考えてみよう	1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
7	講義内容	自立心の発達過程			
	該当到達目標	予習	自立心はどのように発達するのかを考えてみよう	1.5	時間
	1・2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
8	講義内容	事例を通じて考える自立心の育ちと援助			
	該当到達目標	予習	援助方法を考えてみよう	1.5	時間
	1・2・3	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
9	講義内容	協同性の発達過程			
	該当到達目標	予習	幼児の協同性の発達について考えてみよう	1.5	時間
	1・2・3	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
10	講義内容	事例を通じて考える協同性の育ちと援助			
	該当到達目標	予習	協同性をはぐくむ保育活動について考える	1.5	時間
	1・2・3	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
11	講義内容	道徳性・規範意識の芽生え			
	該当到達目標	予習	規範意識の発達について考えよう	1.5	時間
	1・2・3	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
12	講義内容	事例を通じて考える規範意識の育ちと援助			
	該当到達目標	予習	児童期の人間関係について考える	1.5	時間
	1・2・3	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
13	講義内容	保育における人間関係の育ちを支える環境			
	該当到達目標	予習	年間を通してどのような行事があるかをまとめてくる	1.5	時間
	3・4	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
14	講義内容	家庭との関わりと人間関係			
	該当到達目標	予習	保育者と保護者との関わりについて考える	1.5	時間
	1・2・3・4	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
15	講義内容	地域の人々との関わりと人間関係			
	該当到達目標	予習	地域にどのような人がいるかをまとめてくる	1.5	時間
	1・2・3・4	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	オンラインで実施する場合はオンデマンド形式を中心とする。				

科目名	幼児と環境(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES109	
英文名	Environment in Early Childhood							講義形態	講義	
担当教員	望月 文代									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 本講義では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養うことを目的とし、子どもにとって身近な環境との関わり、発達等に必要な領域「環境」についての知識や技能を身に付ける。さらに領域「環境」の指導の基礎となる現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題及び子どもにとって望ましい環境はどのような環境であるのか授業を通して学んでいく。 ② 毎時間講義内容に関するプリントを配布する。内容については、講義内容を基礎としながら、その内容がどのように保育実践に活かされているのかを想定しながら進めていく。									
到達目標	1. 乳幼児を取り巻く環境(人的環境・物的環境・自然環境)を理解する。 2. 領域「環境」への乳幼児の関わり方が説明できる。 3. 領域「環境」に関する知識・技能を身に付ける。 4. 乳幼児の物理的、数量・図形との関わりが説明できる。 5. 乳幼児の自然物との関わりに必要な事項を説明できる。 6. 乳幼児期における環境の重要性を理解する。									
使用教材	教科書① 「幼稚園教育要領」＜平成29年告示＞文部科学省、フレーベル館、2017年、163円 教科書② 「保育所保育指針」＜平成29年告示＞厚生労働省、フレーベル館、2017年、163円 教科書③ 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」＜平成29年告示＞内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2017年、163円 教科書④ 「保育内容 環境」小田豊・湯川秀樹、北大路書房、2023 年、1,870 円									
参考文献										
評価方法	筆記試験(50%)、課題等への取組(30%)、発表(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	・提出物等は適宜返却するので、各自見直しを行うこと。									
オフィスアワー (研究室)	メールまたは授業前後				メールアドレス (#→@)		mochizuki#ikuei-g.ac.jp			
1	講義内容	現代社会を取り巻く乳幼児の環境についてーディスカッションー								
	該当到達目標	予習	子どもを取り巻く環境の実態について調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	乳幼児を取り巻く現代社会の環境について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	子どもにとっての身近な環境とはー領域「環境」との関わり方についてー								
	該当到達目標	予習	教科書①、②、③及び教科書④第 1 章を読んでおく。						1.5 時間	

	2,3	復習	領域「環境」について理解を深める。	1.5 時間
3	講義内容	乳幼児期の生活に関連の深い情報との関わり ―子どもの興味・関心にあった素材とは―		
	該当到達目標	予習	子どもが興味・関心を抱く素材とは何かを考えておく。	1.5 時間
	2,3	復習	乳幼児期に適した素材とは何かを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり① ―身近な素材を用いたおもちゃの理解―		
	該当到達目標	予習	教科書①、②、③及び教科書④第2・8章を読んでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	数量・図形に関する学びの実際について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり② ―身近な素材を用いたおもちゃの発表―		
	該当到達目標	予習	身近な素材を用いたおもちゃの作成を行う。	1.5 時間
	3,4	復習	作成したおもちゃの評価と改善を行う。	1.5 時間
6	講義内容	乳幼児の自然物との関わり① ―保育場面を想定した栽培方法の検討―		
	該当到達目標	予習	保育場面で栽培されている自然物を調べておく。	1.5 時間
	3,5	復習	保育場面で栽培されている自然物の栽培方法や配慮事項を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	乳幼児の自然物との関わり③ ―身近な生物探し―		
	該当到達目標	予習	子どもを取り巻く身近な環境にどのような生物がいるか調べておく。	1.5 時間
	1,5	復習	身近にいる生物が子どもの発達にどのような影響を与えるのか理解する。	1.5 時間
8	講義内容	乳幼児の自然物との関わり④ ―身近な草花を通しての色水遊び―		
	該当到達目標	予習	子どもを取り巻く環境の中にどのような草花があるのか調べておく。	1.5 時間
	1,5	復習	身近な草花で色水が作成できる種類を理解し、実践する力を身に付ける。	1.5 時間
9	講義内容	乳幼児の自然物との関わり⑤ ―栽培物の収穫―		
	該当到達目標	予習	栽培物の収穫時の注意点を調べておく。	1.5 時間
	2,5	復習	栽培物をどのように保育の中に取り入れるのか理解する。	1.5 時間
10	講義内容	乳幼児の環境を題材としたオリジナルカード作り ―絵、文字、図形、マーク等―		
	該当到達目標	予習	環境を題材としたオリジナルカード作りの案を考える。	1.5 時間
	2,4	復習	どのような文字、図形、マーク、素材を使用して作成するのか理解する。	1.5 時間
11	講義内容	オリジナルカードの実践		
	該当到達目標	予習	カード作成時に使用する材料、素材等の準備を行う。	1.5 時間
	4,6	復習	カードを実際の保育場面でどのように活用するのか考える。	1.5 時間
12	講義内容	園外の自然環境体験 ―幼児向けマップの作成―		
	該当到達目標	予習	園外にはどのような自然環境があるのか調べておく。	1.5 時間
	5,6	復習	幼児向けマップ作成の手順を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	文化と伝統に触れる ―園行事から考える―		
	該当到達目標	予習	日本の文化と伝統について調べておく。	1.5 時間
	1,6	復習	どのような園行事があるのか理解する。	1.5 時間
14	講義内容	国旗に親しむ ―色や形に触れる―		
	該当到達目標	予習	世界にはどのような国旗があるのか調べておく。	1.5 時間
	4,6	復習	国旗にはどのような色や形があるのか理解する。	1.5 時間
15	講義内容	子どもにとって望ましい環境とは ―グループワーク―		
	該当到達目標	予習	教科書④第12章を読んでおく。	1.5 時間
	1,6	復習	子どもにとって望ましい環境とは何か理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・教科書①、②、③については読み込んでおくこと。 ・質問等がある場合は授業の前後及びメールにて応じる。			

科目名	幼児と言葉(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES110	
英文名	Language in Early Childhood							講義形態	講義	
担当教員	今井 邦枝									
科目に関連した 実務経験	非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針 との対応		豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	5	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるた めに必要な専門的事項に関する知識を、具体的な乳幼児の姿や児童文化財を通して身に付ける。 授業は、講義形式と個人発表を含むグループワーク形式で実施する。									
到達目標	1. 言葉の意義や機能を理解する。 2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。■ 3. 乳幼児としての児童文化財(絵本・パネルシアター・エプロンシアターなど)の意義を理解する。■ 4. 言葉を育てる環境について理解する。									
使用教材	ことばと保育(改訂版) 近藤幹生他4名著 ひとなる書房 2016									
参考文献	授業内で提示する。									
評価方法	発表と課題レポート 70%、毎時間の授業振り返りシート 30%									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題、振り返りシートにコメントし、返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜日3・4限(507研究室)				メールアドレス (#→@)	kimai#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくのか、映像資料や事例 を通して、具体的に理解する。								
	該当到達目標	予習	シラバス、教科書 p2-29 を読んで、内容を理解する。							1.5 時間
	1. 4	復習	授業の内容に関する復習をする。							1.5 時間
2	講義内容	言葉の意義や機能について、「言葉獲得前の伝え合い」(共同注意)を取り上げ、映像資料や事例を通し て、具体的な乳幼児の姿を基に理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書 p32-42 を読んで、内容を理解する。							1.5 時間
	1. 4	復習	授業の内容に関する復習をする。							1.5 時間
3	講義内容	言葉の意義や機能について、「言葉による伝え合い」(コミュニケーションとしての機能)を取り上げ、映像 資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解する								
	該当到達目標	予習	教科書 p43-64 を読んで、内容を理解する。							1.5 時間
	1. 4	復習	授業の内容に関する復習をする。							1.5 時間
4	講義内容	言葉の意義や機能について、「文字の意味や役割」(文字の機能)を取り上げ、映像資料や事例を通し て、具体的な幼児の姿を基に理解する。								
	該当到達目標	予習	教科書 p65-79 を読んで、内容を理解する。							1.5 時間
	1. 4	復習	授業の内容に関する復習をする。							1.5 時間
5	講義内容	幼児にとっての児童文化財の重要性を理解し、様々な児童文化財について種類や特性を理解する。■								
	該当到達目標	予習	教科書 p100-133 を読んで、内容を理解する。							1.5 時間

	2. 3	復習	授業の内容に関する復習をする。	1.5 時間
6	講義内容	様々な絵本を分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めるとともに保育教材として教材研究をする。■		
	該当到達目標	予習	教材とする絵本を選び、その理由について考える。	1.5 時間
	2. 3	復習	絵本の分析から明らかになったことをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	様々な絵本を実際に読むことを通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。■		
	該当到達目標	予習	絵本を保育に用いるための教材研究をする。	1.5 時間
	2. 3	復習	保育に用いる絵本についてまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	様々なパネルシアターを分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めるとともに保育教材として教材研究をする。■		
	該当到達目標	予習	教材とするパネルシアターを選び、その理由について考える。	1.5 時間
	2. 3	復習	パネルシアターの分析から明らかになったことをまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	様々なパネルシアターを実際に演じることを通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。■		
	該当到達目標	予習	パネルシアターを保育に用いるための教材研究をする。	1.5 時間
	2. 3	復習	保育に用いるパネルシアターについてまとめる	1.5 時間
10	講義内容	パネルシアターの題材を決め、乳幼児が楽しめるような工夫を考える。■		
	該当到達目標	予習	絵本・物語から題材を決める。	1.5 時間
	3	復習	作品が楽しくなるように工夫し、制作する。	1.5 時間
11	講義内容	保育教材パネルシアターを制作する。■		
	該当到達目標	予習	作品が楽しくなるように工夫し、制作する。	1.5 時間
	3	復習	作品が楽しくなるように工夫し、制作する。	1.5 時間
12	講義内容	制作したパネルシアターを発表するための留意点を考え、その留意点を踏まえて発表できるようにする。■		
	該当到達目標	予習	完成した作品を演じて、発表の仕方を考える。	1.5 時間
	3	復習	発表の練習をする。	1.5 時間
13	講義内容	パネルシアターを発表する。■		
	該当到達目標	予習	発表の準備をする。	1.5 時間
	3	復習	発表について振り返り、改善点を考える。	1.5 時間
14	講義内容	様々なエプロンシアターを分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めるとともに保育教材として教材研究をする。■		
	該当到達目標	予習	教材とするエプロンシアターを選び、その理由について考える。	1.5 時間
	2. 3	復習	エプロンシアターの分析から明らかになったことをまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	言葉を育てる環境について、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。		
	該当到達目標	予習	教科書 p80－99 を読んで、内容を理解する。	1.5 時間
	4	復習	授業の内容に関する復習をする。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・課題、レポートの提出期日を厳守すること。 ・作品発表については、各自事前に準備をすること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		幼児と表現(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング		CES111	
英文名		Arts and Expression in Early Childhood						講義形態		講義	
担当教員		岡本 拓子 石原 綱成									
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
履修を必須とする 資格		免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針 との対応		2	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
		2	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		34916									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境について実践的に学び、幼児期の表現活動 を援助するための知識・技能・表現力を習得する。 授業に臨んででは予習・復習をしておくこと。授業は演習形式で実施し、ディスカッションや発表を中心に進 める。 毎時、取り組むテーマに関するプリントを配布し、要点について説明を行った後、グループで課題に取り 組む時間を設ける。									
到達目標		1. 幼児の表現の姿やその発達過程を理解する。 2. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 3. 造形表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 4. 様々な表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。									
使用教材		幼稚園教育要領解説, 保育所保育指針解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説									
参考文献		その他必要に応じて資料を配布する。									
評価方法		課題への取り組み 30%, 期末レポート 70%を総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法		毎回授業終了時に振り返りを行い、個々の課題を明確化し共有する。 期末レポートについては個々の課題を明確に示したコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)		岡本:水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404 石原:月曜日 3 限 木曜日 4 限 研究室 8 号館 5 階 501				メールアドレス (#→@)		岡本:okamoto#takasaki-u.ac.jp 石原:ishihara#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	領域「表現」のねらい及び内容について理解する(その1)(岡本)。 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解する。									
	該当到達目標	予習	保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 幼稚園教育要領に 示される領域「表現」のねらい及び内容を読んでおく。							1.5 時間	
		復習	領域「表現」についての理解を深めておく。							1.5 時間	
2	講義内容	領域「表現」のねらい及び内容について理解する(その2)(岡本)。 自分自身の表現を振り返り、その生成過程における「感じる・気づく・考える」といった内的な作用の重要性やモ									

		ノとの関わりについて理解する。		
	該当到達目標	予習	自分自身の表現の生成過程の振り返りをおこなう。	1.5 時間
	1	復習	領域「表現」についての理解を深めておく。	1.5 時間
3	講義内容	乳幼児の表現の発達を理解する(その1)(岡本)。 映像や事例から、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し、幼児の素朴な表現に気づき、共感的に理解する。		
	該当到達目標	予習	テキストの当該箇所を熟読する。	1.5 時間
	1	復習	視聴したビデオに関する課題をまとめる。	1.5 時間
4	講義内容	幼児の表現の発達を理解する(その2)(石原)。 小学校低学年における音楽科や図画工作科での学習内容を低学年の学習指導要領や教科書から理解し、学びの連続性について考える。		
	該当到達目標	予習	テキストの当該箇所を熟読する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	表現における学びの連続性に関する課題をまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	乳幼児の表現を育むための環境について理解する(岡本)。 乳幼児が、どのように身体の諸感覚を通して環境と対話し、豊かな感受性を育むか、そのために必要な環境とは何かについて、実際に自身と環境との対話を通して理解する。		
	該当到達目標	予習	テキストの当該箇所を熟読する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	表現と環境に関する課題をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び(その1)(岡本)。 生活や遊びの中にある音や声の面白さに気づく。声や動き等、自ら創り出す音の多様性を生かした表現をおこなう。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	身近な音に関する課題をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び(その2)(岡本)。 声や楽器などを用いて、応答的な音楽表現を即興的に行う。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	音楽表現に関する課題を行う。	1.5 時間
8	講義内容	音・歌遊びがどのようにして「学び」に繋がるのかを理解する(岡本)。 簡易な楽器を用いて、乳幼児の発達に即したリズム遊びの展開について考える。わらべうたや手遊び歌を体験することを通して、乳幼児の「音楽を通した学び」について考える。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	音楽表現に関する課題を行う。	1.5 時間
9	講義内容	身の周りの様々な素材を用いた造形遊び(その1)(石原)。 絵具やクレヨン等、様々な画材に触れ、その特性を生かした造形表現を体験する。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,3	復習	造形表現に関する課題を行う。	1.5 時間
10	講義内容	身の周りの様々な素材を用いた造形遊び(その2)(石原)。 折り紙、布、廃材など、様々な造形遊びに用いる素材に触れ、その特性を生かした造形表現を体験する。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,3	復習	造形表現に関する課題を行う。	1.5 時間
11	講義内容	造形遊びがどのようにして「学び」に繋がるのかを理解する(石原)。 身近な素材を用いて、乳幼児の発達に即した造形遊びの展開について考える。絵を描くことや遊びに用いるモ		

		ノを作る体験をすることを通して、乳幼児の「造形を通した学び」について考える。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,3	復習	造形表現に関する課題を行う。	1.5 時間
12	講義内容	コミュニケーションとしての表現活動について理解する(岡本)。 表現は対象への呼びかけ-応答であるコミュニケーションとして成り立つことを体験し、表現を生成する過程を分析的にとらえる。楽しさを生み出す要因について理解を深める。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,4	復習	楽しさを生み出す表現の要因に関する課題を行う。	1.5 時間
13	講義内容	乳幼児の表現を読み取る力を身に着ける(岡本)。 乳幼児の表現する姿をみることを通して、何を感じ、どのように表現しようとしているのかを理解する。素朴な表現を見出し、受け止め、共感的に理解し分析的に読み取る力を習得する。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,4	復習	表現の読み取りや理解に関する課題を行う。	1.5 時間
14	講義内容	音楽・身体・造形的な表現を統合し、総合的表現として乳幼児の表現を理解する(石原)。 様々な表現媒体を用い、それらを統合した劇遊びを体験することを通して、総合的な表現としての乳幼児の表現とそのために必要な環境について理解する。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	総合的表現として乳幼児の表現を理解に関する課題を行う。	1.5 時間
15	講義内容	ICTの活用と総括(石原) ICTを活用した表現活動の実践例を具体的に考える。学習のまとめを発表する。		
	該当到達目標	予習	予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	ICTを活用した表現活動に関する課題を行う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	国語(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES201		
英文名	Japanese Language						講義形態	講義		
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した実務経験	中学校での国語科の指導(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 8 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校学習指導要領国語の目標及び内容を理解するとともに、国語に関する能力を高め、授業を構想するための基礎を養う。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 ・学習指導要領の目標及び内容の理解と、各内容に関わる知識・技術を高めることを目的として、講義形式の授業のほか、ワークショップ等の活動をおこなう。 ・各回の授業の予習・復習の内容は C-learning 上で入力・提出する。									
到達目標	1. 学習指導要領に示される国語科の目標及び内容について理解することができる。 2. 国語科の内容に関する知識・技術を高めることができる。■ 3. 国語および国語科教育に関する諸問題について関心をもつことができる。 4. 小学校国語科の代表的な教科書教材から、学習内容を構想することができる。									
使用教材	小学校学習指導要領、授業配布プリント、課題図書 1 冊(詳細は初回授業にて説明する)									
参考文献										
評価方法	・課題の提出状況及び内容(60%) ・レポート(40%) 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限・金曜 2 限(8 号館 508 研究室)				メールアドレス (#→@)		kanno-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス(学習上の留意点、全 15 回の概要など)								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで、講義の概略について知る。						1 時間	
	1,3	復習	講義内容・到達目標・評価方法を確認し、課題図書を選定する。						2 時間	
2	講義内容	国語とは何か(言語によるコミュニケーションについて、国語科の成立など)								
	該当到達目標	予習	現代における国語に関する課題について考えたり調べたりする。						1 時間	
	1,3	復習	学習指導要領の目標と内容に目を通す。						2 時間	
3	講義内容	「話すこと・聞くこと」について								
	該当到達目標	予習	紹介する事物・対象についての内容をまとめる。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	話し手あるいは聞き手として必要なことについて考える。						1.5 時間	
4	講義内容	話しことばと書きことばの違いについて								
	該当到達目標	予習	話しことばと書きことばの特徴について考えをまとめる。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	日常生活における話しことばと書きことばに関する問題について考える。						1.5 時間	
5	講義内容	助詞について								
	該当到達目標	予習	配布された資料を読み、課題に取り組む。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業時に示されたテーマに沿って、例文を作成する。						1.5 時間	

6	講義内容	語順について		
	該当到達目標	予習	配布された資料を読み、課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業時に示されたテーマに沿って、例文を作成する。	1.5 時間
7	講義内容	「読むこと」について(1)文学的文章		
	該当到達目標	予習	指定された文章を読み、自身の解釈をまとめる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返りながら、文学的文章教材を読む。	1.5 時間
8	講義内容	「読むこと」について(2)説明的文章		
	該当到達目標	予習	指定された文章を読み、題材・内容を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返りながら、説明的文章教材を読む。	1.5 時間
9	講義内容	「書くこと」について(1)論理的な文章を書く		
	該当到達目標	予習	論理的な文章を書くために必要なことについて考えをまとめる。	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返りながら意見文を書く。	2 時間
10	講義内容	「書くこと」について(2)説得力を高める		
	該当到達目標	予習	前回の内容を確認する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を振り返りながら意見文を書く。	2 時間
11	講義内容	漢字の成立と説文解字、漢字政策などについて		
	該当到達目標	予習	自身の漢字に関する知識についてまとめる。	1 時間
	1,2,3	復習	講義で示された課題に取り組む。	2 時間
12	講義内容	書写(1)字体と字形、点画など■		
	該当到達目標	予習	手書きされた文字に関する考えをまとめる。	1 時間
	1,2,3	復習	講義で示された課題に取り組む。	2 時間
13	講義内容	書写(2)筆順など■		
	該当到達目標	予習	筆順に関する考えをまとめる。	1 時間
	1,2,3	復習	講義で示された課題に取り組む。	2 時間
14	講義内容	書写(3)正しく整った字を書くために■		
	該当到達目標	予習	教員として必要な書字に関する能力について考える。	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義で示された課題に取り組む。	2 時間
15	講義内容	読書指導について		
	該当到達目標	予習	課題図書を読み終える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	国語科における読書指導の意義について考えをまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・小学校学習指導要領および小学校学習指導要領解説国語編については、授業時に適宜該当箇所を紹介するが、各自必要に応じて購入(「小学校学習指導要領解説国語編」文部科学省・東洋館出版社・2018・175 円)したり、文部科学省ホームページで確認したりすること。 ・課題図書についての詳細は初回授業にて説明する。 ・資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES202		
英文名	Social Studies						講義形態	講義		
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○		○		○		○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・社会科の授業で活用するパワーポイント資料に加え、地図や新聞等の作成活動を通して、授業を受ける子供側視点にたったアクティブラーニングの在り方を体験的に習得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会認識に係る社会科の意義と内容について、具体的事例を通して、理論や歴史的背景等を元に考察し、理解する。また、社会科の授業づくりにおいて必要な方法を習得する。学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述の入力・作成を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。小テストや小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。 なお、オンラインでの授業になった場合も、本シラバスの内容に沿った授業内容で個人発表等も C-learning のレポート機能を用いて実施する。									
到達目標	1.主に小学校社会科の学習内容について、具体的な事例を通して理解し、指導の見通しを持つことができる。 2.社会科における現代的課題について討議し、自分の考えを説明することができる。■ 3.社会科の授業づくりに必要な知識や方法並びにその意義を習得することができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説社会編									
参考文献	講義内容に準じて適宜印刷配布する。									
評価方法	定期試験(小論文を含む)50% 日常の提出物(小テストや感想を含む)やプレゼンテーション(50%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー(研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション(北海道に係る地域学習の導入示範授業)・群馬の農業に係る協議。								
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編に目を通しておく。						2 時間	
	1.3	復習	示範授業からの気づきをカードに記述しておくと共に、講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。						1 時間	
2	講義内容	社会科の目標と内容の概略説明。社会科個人調査活動ガイダンス。								
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。						1.5 時間	
	1	復習	社会科の目標と内容について理解すると共に社会科個人調査活動の目的・方法を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	第 3 学年の内容(地域学習の解説)								
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。						2 時間	

	1	復習	第3学年の学習内容の特色と留意点について理解する。社会科個人調査活動に取り組む。	1 時間
4	講義内容	第3学年の内容(絵地図づくり演習)		
	該当到達目標	予習	社会科における絵地図とはどのような教育的な効果があるのか調べておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	3年生の児童に効果的な絵地図の見本作成に取り組む。	1.5 時間
5	講義内容	第4学年の内容(地域学習の目標と内容)と社会科個人調査発表①		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所を目を通しておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	第4学年の内容について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	「社会に開かれた教育課程」と社会科と社会科個人調査発表②		
	該当到達目標	予習	「社会に開かれた教育課程」について、インターネット等を用いて調べておく。	1.5 時間
	1. 3	復習	コミュニティスクールが社会科教育に貢献できる内容についてまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	第3・4学年の実践から学ぶ①(佐々木実践:地域の介護施設＝命の授業)・社会科個人調査発表③■		
	該当到達目標	予習	事前配布の実践資料を目を通しておく。佐々木実践の意義について検討しておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	佐々木実践を理解し、概要をノートにまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	第3・4学年の実践から学ぶ②(佐々木実践の授業研究)・社会科個人調査発表④■		
	該当到達目標	予習	佐々木実践の概要をまとめたノートを読み、実践を振り返っておく。	1.5 時間
	1. 3	復習	実践を通して体験学習の重要性や保護者参加型授業の必要性について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	第5学年の内容(国土学習・食料学習)・社会科個人調査発表⑤		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所を目を通しておく。	2 時間
	1	復習	第5学年の国土学習と食料学習の特色と留意点について整理しノートにまとめる。	1 時間
10	講義内容	第5学年の内容(工業・情報・環境学習)・社会科個人調査発表⑥		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所を目を通しておく。	1.5 時間
	1	復習	第5学年の工業・情報・環境学習の特色と留意点について整理しノートにまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	第5学年の実践から学ぶ(栗原実践:野菜づくり)・社会科個人調査発表⑦■		
	該当到達目標	予習	事前配布の実践資料を目を通しておく。	1.5 時間
	1. 3	復習	栗原実践の意義について整理しまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	社会科と新聞Ⅰ(社会科とNIE教育)・社会科個人調査発表⑧■		
	該当到達目標	予習	小中高の社会科関連の授業を想起し、新聞が使われた授業を記述しておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	社会科において、新聞を資料として用いることの効果と課題についてまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	社会科と新聞Ⅱ(家族新聞づくり演習)・社会科個人調査発表⑨		
	該当到達目標	予習	新聞づくりについて、関係資料やインターネット等で調べておく。	1.5 時間
	1	復習	5年生の児童における新聞づくりの示範となる家族新聞を作成する。	1.5 時間
14	講義内容	第6学年の内容(歴史学習・政治学習)と社会科と新聞Ⅲ(新聞投稿演習)・社会科個人調査発表⑩		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所を目を通しておく。日本の現代的な社会的問題についての情報を集めておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	歴史学習・政治学習における指導上重要なポイントをノートに整理し、必要な知識を中学校の歴史・公民の教科書を通して習得する。社会科における態度化の一つとして新聞投稿に挑戦する。	1.5 時間
15	講義内容	社会科教育のまとめと期末試験・社会科個人調査発表⑪		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編と配付資料を目を通しておく。	1.5 時間
	1. 3	復習	社会科教育の内容と目的について、講義をもとにまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・PowerPointを活用できる準備しておく。 ・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		算数(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES203		
英文名		Elementary Mathematics						講義形態	講義		
担当教員		大橋 博									
科目に関連した実務経験		小学校教諭として公立小学校に 26 年間勤務。									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格		免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応		1	豊かな人間性と教養			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
		3	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
		3	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 8 17									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 小学校算数科の授業を構成・実施する上で、基盤となる実践的な知識や考え方について理解を深める。それらを踏まえ、算数の課題解決とその表現を協働的に行うことを通して、算数科の授業づくりで大切にすべきことを経験的に理解していく。 ② 11回目までの講義は、小学校の授業の形式(問題提示→グループ協働解決→発表)で行いながら履修生は算数授業に関連する内容となる問題を考えたり、その考えを発表したりする。12回目以降は、受講生は担当から提示された探究課題をグループで調査し、調査結果の発表を行う。発表は受講生同士で評価し合ったり、担当教員が評価したりする。									
到達目標		1.小学校算数科授業構成の背景にある知識や考え方について、理解をすることができる。 2.小学校算数科授業の指導内容について授業者と学習者、両方の視点から理解することができる。 ■ 3.数学的活動の意義・必要性について、活動を通して具体的に考え、理解することができる。■ 4.数学的な問題について、協働的に解決することのよさを感じ得ることができる。									
使用教材		必要に応じて資料を配布する。									
参考文献		文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』 日本文教出版 224 円									
評価方法		授業での取り組み(活動及び授業内課題 80%・発表会 10%)、提出物の充実度(期末レポート 10%)により総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		・課題レポートについてはコメントを付けて返却する。 ・発表会においては、受講生同士の他者評価も取り入れる。									
オフィスアワー (研究室)		月曜、火曜 1 限。授業時間外の質問はメールにて受付。(9 号館 3 階 302)				メールアドレス (#→@)		ohashi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション									
	該当到達目標	1	予習	シラバスおよび参考文献を読んで本講および算数科という教科の概略について知るとともに、専門用語について確認しておく。						1 時間	
		1	復習	講義内容、到達目標、評価方法などについて確認する。						2 時間	
2	講義内容	「数と計算」領域における算数科授業に関わる知識									
	該当到達目標	1	予習	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』に目を通し、「数と計算」領域の内容を理解しておく。						2 時間	
		1、2	復習	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理まとめるをする。						1 時間	

3	講義内容	「数と計算」領域における数学的活動について(教科書の問題などから) ■		
	該当到達目標	予習	小学校算数「数と計算領域」の学習内容となる「記数法や計算様式」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1 時間
	1、3	復習	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2 時間
4	講義内容	「図形」領域における算数科授業に関わる知識		
	該当到達目標	予習	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』に目を通し、「図形」領域の内容を理解しておく。	2 時間
	1、2	復習	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1 時間
5	講義内容	「図形」領域における数学的活動について(教科書などの問題から) ■		
	該当到達目標	予習	小学校算数「図形領域」の学習内容となる「図形やその学習内容」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1 時間
	1、3	復習	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2 時間
6	講義内容	「測定」領域における算数科授業に関わる知識		
	該当到達目標	予習	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』に目を通し、「測定」領域の内容を理解しておく。	2 時間
	1、2	復習	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1 時間
7	講義内容	「測定」領域における数学的活動について(教科書などの問題から) ■		
	該当到達目標	予習	小学校算数「測定領域」の学習内容となる「量とその単位」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1 時間
	1、3	復習	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2 時間
8	講義内容	「変化と関係」領域における算数科授業に関わる知識		
	該当到達目標	予習	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』に目を通し、「変化と関係」領域の内容を理解しておく。	2 時間
	1、2	復習	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1 時間
9	講義内容	「変化と関係」領域における数学的活動について(教科書などの問題から) ■		
	該当到達目標	予習	小学校算数「変化と関係」の学習内容となる「比例や割合などの関数に関する内容」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	2 時間
	1、3	復習	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	1 時間
10	講義内容	「データの活用」領域における算数科授業に関わる知識		
	該当到達目標	予習	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』に目を通し、「データの活用」領域の内容を理解しておく。	2 時間
	1、2	復習	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1 時間
11	講義内容	「データの活用」領域における数学的活動について(教科書などの問題から) ■		
	該当到達目標	予習	小学校算数「データの活用領域」の学習内容となる「統計に関する内容」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1 時間
	1、3	復習	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2 時間
12	講義内容	グループでの課題探究活動①(課題選択・解決)		
	該当到達目標	予習	講義中に配付された資料に目を通し、理解しておく。	1 時間
	1、3、4	復習	提示された課題の解決に向けて考える。	2 時間
13	講義内容	グループでの課題探究活動②(課題解決・発表準備) ■		
	該当到達目標	予習	提示された課題を解決する。	2 時間

	1、3、4	復習	課題解決の過程を振り返り、表現の仕方について考える。	1 時間
14	講義内容	課題探究活動発表会①		
	該当到達目標	予習	発表の準備を行う。	2 時間
	1、3、4	復習	他のグループの発表内容について振り返り、まとめる。	1 時間
15	講義内容	課題探究活動発表会②		
	該当到達目標	予習	この講義での学習内容を網羅的に振り返る。	1 時間
	1、2、3、4	復習	指定された期末レポートを作成する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45
備考	・小学校学習指導要領解説算数編については、各自で文部科学省ホームページを確認したり、購入(「小学校学習指導要領解説算数編」文科省・日本文教出版・2018・224 円)したりして、読み込む。 ・受講者をグループ分けし、グループで協働的課題探究活動を行い、発表を実施する。 (オンラインへの変更時も基本的に、記載の内容で行うが、12 回以降の演習部分については変更の可能性あり。) ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	理科(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES204		
英文名	Science						講義形態	講義		
担当教員	片山 豪									
科目に関連した実務経験	教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位, 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3467131415									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校理科に関連した物質, エネルギー, 生命, 地球に関わる発展的な内容を学び, 観察・実験を通じて科学的リテラシーを身につける。また, 小学校理科の実験を計画することで, 科学的な見方や考え方を身につけ, 小学校理科実験の指導に関する汎用的な能力を養う。 各講義の前半は, 学生主体の小学校理科実験の模擬実験を行い, 後半は教員主体の理科実験をおこなう。各会 2 時間連続で 7 回の講義(14 コマ分)と 2 回のパフォーマンステスト(15 コマ目分)を行う。期末試験(16 コマ目)を行う。									
到達目標	1.理科を総合的に学習することで科学的な見方や考え方を身に付けることができる。■ 2.小学校で理科を教えるにあたっての基本的な知識, 観察及び実験の技能を習得することができる。 3.自ら調べ, 教材を開発する能力を養うことができる。■ 4.小学校理科以降に, どのように小学校理科が発展するのか, サイエンスとしてどのような背景があるのか知ることができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説理科編, 小学校理科教科書, 自作プリント, 小学校採用試験理科問題集等									
参考文献	授業において紹介。									
評価方法	毎回提出するレポート 80%, パフォーマンステスト及び考査 10%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。総合評価で評定を決めるが, 考査は一定の水準を超えることを条件とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにおける修正すべき点を示し, 再レポートを促す。パフォーマンステストの不合格者には, 不十分な点を指摘し, 後日再テストを行う。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限、金曜 2 限 (9 号館 4 階 411 研究室)				メールアドレス (#→@)	katayama#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション, 学習指導案について								
	該当到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説理科編の総説, 小学校理科の目標を読んでおく。						1.5	時間
		復習	講義の方針を確認するとともに, 学習指導案の内容を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	実験の計画と実践, 実験レポートの書き方■								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	コンピュータ入門で学習した Word や Excel の使い方を復習しておく。						1	時間
		復習	実験のレポートを書く。						2	時間
3	講義内容	化学(小学校で扱う主な薬品とその調整)■								
	該当到達目標	予習	濃度計算に関する課題を行う。						1	時間

	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2	時間
4	講義内容	小学校理科実験(3年生:エネルギー・粒子)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5	時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5	時間
5	講義内容	現場教師による指導の実際(魚の誕生)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1	時間
	1,2,3,4	復習	レポート(メダカの発生の観察記録)を書く。	2	時間
6	講義内容	小学校理科実験(3年生:生命・地球, 4年生:エネルギー)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5	時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5	時間
7	講義内容	生物(生命倫理, 体のつくりとはたらき)			
	該当到達目標	予習	生命倫理に関する課題をまとめておく。	1	時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2	時間
8	講義内容	小学校理科実験(4年生:粒子:生命・地球)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5	時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5	時間
9	講義内容	地学(地質, 天文)			
	該当到達目標	予習	方位磁針, 星座早見, 実態顕微鏡の使い方を調べておく。	1	時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2	時間
10	講義内容	小学校理科実験(5年生:エネルギー・粒子)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5	時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5	時間
11	講義内容	生物(水の中の小さな生き物)■			
	該当到達目標	予習	顕微鏡の使い方を調べておく。	1	時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2	時間
12	講義内容	小学校理科実験(5年生:生命・地球, 6年生:エネルギー)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5	時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5	時間
13	講義内容	物理(速度, エネルギー)			
	該当到達目標	予習	速度やエネルギーの計算に関する課題を行う。	1	時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2	時間
14	講義内容	小学校理科実験(6年生:粒子・生命・地球)			
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5	時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5	時間
15	講義内容	パフォーマンステスト(薬品の調整, 顕微鏡の使い方)■			
	該当到達目標	予習	教師として薬品の準備や顕微鏡の指導ができるように練習しておく。	1.5	時間
	1,2	復習	指摘事項を確認し, 再度練習する。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生活(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES205	
英文名	Living Environment Studies							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験) ・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	2 3 6 12 13 14 15									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○		○	○	○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・講義中、チームを組んで授業分析をおこない、22 の実践紹介をすることを通して、生活科の具体的な授業イメージを習得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校教育における生活科の意義と内容について、具体的事例を通して、方法や内容について理解する。また、生活科においては、近年幼児教育との関連性が重視されてきていることから、その方向性について検討する。学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせ、アクティブラーニングを目指す。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。セレクトレポートや小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1. 小学校生活科の学習内容について、具体的な事例を通して理解し、指導の見通しを持つことができる。 2. 生活科の成立過程を知ることを通して、生活科の意義を理解し説明することができる。 3. 生活科の授業づくりについての具体的知識や方法を習得することができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説生活編(134円) 新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―(学術図書出版 1900 円+税)									
参考文献	講義内容に沿って印刷配布する									
評価方法	定期試験(小論文を含む)50% 日常の提出物(小テストや感想を含む)やプレゼンテーション(50%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー(研究室)	8 号館 1 階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	生活科の意義と目標								
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編に目を通しておく。						2 時間	
	1. 2	復習	目標と意義について、事例をもとにノートにまとめる。						1 時間	
2	講義内容	生活科個人調査活動のまとめ								
	該当到達目標	予習	春期課題として課せられた虫についての調査研究をまとめておく。						2 時間	
	2	復習	虫調べシートに調査研究内容をまとめる。						1 時間	
3	講義内容	生活科の成立と変遷								
	該当到達目標	予習	「新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―」の関連箇所 に目を通しておく。						2 時間	
	1	復習	生活科導入の経緯と、学校における定着の推移についてノートにまとめる。						1 時間	
4	講義内容	生活科の内容構成								

	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編及び「新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―」の関連箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 2	復習	生活科の内容構成について理解し、ノートにまとめる。	1 時間
5	講義内容	教育課程と生活科(教育課程における位置づけ)・生活科単元のセレクトレポート①		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編の関連する箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 2	復習	講義全体をふり返し、教育課程における生活科の位置づけを理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
6	講義内容	生活科の指導計画Ⅰ(年間指導計画の理解)・生活科単元のセレクトレポート②■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編の関連する箇所を目を通しておく。	1 時間
	1. 2. 3	復習	生活科の年間指導計画について理解し、年間指導計画のモデルを構想する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	2 時間
7	講義内容	生活科の指導計画Ⅱ(年間指導計画の作成)・生活科単元のセレクトレポート③■		
	該当到達目標	予習	年間指導計画のモデル作成の構想を立案する。	2 時間
	1. 2. 3	復習	学習指導要領に基づいた年間指導計画モデルを作成する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
8	講義内容	生活科の年間指導計画の変遷・生活科単元のセレクトレポート④■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編の関連する箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 3	復習	生活科の年間指導計画の変遷についてノートにまとめる。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
9	講義内容	生活科と単元(単元構想シートの作成演習)・生活科単元のセレクトレポート⑤■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領と自身の年間指導計画表をもとに、単元構想を検討する。	2 時間
	1. 3	復習	単元構想シートに、単元構想を記述し提出する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
10	講義内容	生活科の内容Ⅰ・Ⅱ(自然・動植物に係る領域)・生活科単元のセレクトレポート⑥■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―」の講義内容に係る箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 3	復習	自然・動植物に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
11	講義内容	生活科の内容Ⅲ(遊び・季節に係る領域)・生活科単元のセレクトレポート⑦■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―」の講義内容に係る箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 3	復習	遊び・季節に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
12	講義内容	生活科の内容Ⅳ(社会生活に係る領域)・生活科単元のセレクトレポート⑧■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―」の講義内容に係る箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 3	復習	社会生活に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
13	講義内容	生活科の内容Ⅴ(自分・家族に係る領域)・生活科と単元(学習指導案作成演習)・生活科単元のセレクトレポート⑨■		
	該当到達目標	予習	自分の年間指導計画及び単元構成シートを元に学習指導案の構成を検討しておく。	2 時間
	2. 3	復習	自分・家族に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。学習指導案を年間指導計画、単元構想と整合性をもって学習評価も考慮して作成する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
14	講義内容	生活科の内容Ⅵ(人々・学校・地域に係る領域)・生活科単元のセレクトレポート⑩■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―」の講義内容に係る箇所を目を通しておく。	2 時間
	1. 3	復習	人々・学校・地域に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1 時間
15	講義内容	生活科単元のセレクトレポート⑪■・期末試験		
	該当到達目標	予習	配付資料並びに教科書に目を通しておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	生活科単元セレクトレポートを作成する。	2 時間

合計時間(予習・復習)		45.5 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	家庭(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES206	
英文名	Home Economics							講義形態	講義	
担当教員	内田 幸子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修2単位							
履修を必須とする資格	免許・資格指定科目:小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	2 3 6 7 11 12 13 15									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校5・6年生の家庭科で学ぶ学習内容について理解し、小学校家庭科の指導に必要な基礎的知識と技術の習得をめざす。小学校教員に必要なとなる、衣生活、食生活、家庭生活、消費生活について知識と技術を身に着ける。授業の進め方は到達目標を達成できるようパワーポイントによる講義のほか、板書、プリント配布による解説を行う。また、実際の授業場面における実践力を身につけられるよう、衣生活実習、調理実習も行う。									
到達目標	1.小学校家庭科で学ぶ学習内容について関心を深めることができる 2.衣生活、食生活、家庭生活、消費生活の基礎的な知識・技術を身につける 3.各分野の課題に意欲的に取り組むことができる									
使用教材	教科書「わたしたちの家庭科」(開隆堂)ISBN978-4-304-08064-7 プリント									
参考文献	参考図書「授業力 UP 家庭科の授業」鶴田敦子他(日本標準)ISBN978-4-8208-0416-1									
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%で評価する 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価してフィードバックする 定期試験後に掲示で正解を示す									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限 水曜日 3 限 (1 号館 5 階 505 研究室)				メールアドレス (#→@)		uchida#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、小学校家庭科の目標及び内容								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する							1.5 時間
	1,2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する							1.5 時間
2	講義内容	衣生活:衣服の働きと快適な着方								
	該当到達目標	予習	教科書 4, 9 に目を通す							1.5 時間
	1,2	復習	暑い季節と寒い季節を快適にする工夫を理解する							1.5 時間
3	講義内容	衣生活:衣服の手入れ								
	該当到達目標	予習	教科書 4 に目を通す							1.5 時間
	1,2,3	復習	手洗いによる洗濯をしてレポートを作成する							1.5 時間
4	講義内容	衣生活:実習(手縫いのしかた)								
	該当到達目標	予習	教科書 3 に目を通す							1.5 時間
	1,2,3	復習	手縫い、ボタンつけ、フェルトの小物を完成させレポートを作成する							1.5 時間

5	講義内容	衣生活:実習(ミシン縫い・小物作成)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 6 に目を通す	1.5 時間
		復習	ミシンの安全な使い方を理解して作品を完成する	1.5 時間
6	講義内容	住生活:快適な住まい		
	該当到達目標 1.2	予習	教科書 4, 9 に目を通す	1.5 時間
		復習	あたたかく住まう工夫、涼しく住まう工夫を理解する	1.5 時間
7	講義内容	住生活: 掃除のしかた		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 3 に目を通す	1.5 時間
		復習	掃除のしかたを理解する	1.5 時間
8	講義内容	家庭生活:子どもと家庭生活		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 8 に目を通す	1.5 時間
		復習	生活時間を調査し、家庭のできる仕事を理解する	1.5 時間
9	講義内容	家庭生活:お金の管理と消費生活		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 8 に目を通す	1.5 時間
		復習	生活とお金、金銭の管理と消費生活、SDGsと家庭科について理解する	1.5 時間
10	講義内容	家庭生活:地域での暮らし		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 7 に目を通す	1.5 時間
		復習	家庭生活・地域での生活を理解する	1.5 時間
11	講義内容	食生活:食事の意義		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 7 に目を通す	1.5 時間
		復習	「なぜ食べるのか」食事の意義について理解する	1.5 時間
12	講義内容	食生活:栄養素の種類と働き		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 7 に目を通す	1.5 時間
		復習	栄養素の種類と働きを理解する	1.5 時間
13	講義内容	食生活:献立作成と調理のしかた		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 2 に目を通す	1.5 時間
		復習	献立作成と調理のしかたを理解し、調理実習Ⅰ、Ⅱの手順を確認する	1.5 時間
14	講義内容	食生活:調理実習Ⅰ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	調理実習プリントに目を通す	1.5 時間
		復習	各グループで安全に調理、試食、片付け、レポートを作成する	1.5 時間
15	講義内容	食生活:調理実習Ⅱ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	調理実習プリントに目を通す	1.5 時間
		復習	各グループで安全に調理、試食、片付け、レポートを作成する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名		音楽(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES207	
英文名		Music						講義形態	講義	
担当教員		佐藤 和貴								
科目に関連した 実務経験		音楽科教諭として高等学校に勤務(経験)								
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位						
履修を必須とする 資格		免許・資格指定科目:小学校教諭								
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4								
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		本講義では、小学校における児童の音楽活動を豊かに展開するための、音楽表現の知識や技能を実践的に習得する。具体的には、(1)小学校教師に必要な実践的な音楽表現知識の習得、(2)小学校音楽科で扱うアンサンブル、合奏曲の表現技能の習得、(3)音楽指導のために必要な、リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の楽器及び指揮等の表現技能の習得を目的とする。 授業では、音楽科の教材を実際に体験することを通し、小学校教師として身に着けるべき技術を確認しながら、主体的に音楽表現の知識技能を学んでいくことができるように進める。また、表現技能の習得に当たっては、一斉指導とグループ活動により、毎時の課題と習熟度を確認しながら、目標に到達できるように進める。授業の最終回には、グループごとに演奏作品を練習、準備し発表会として評価を行う。								
到達目標		1.小学校音楽科における音楽表現の実際を理解する。■ 2.器楽におけるアンサンブルや、合奏曲の表現技能を身につける。■ 3.音楽指導における基礎技能を身につける。■ 4.児童の自発的な表現を促すための打楽器・鍵盤楽器等の演奏・指揮等の指導技術を身につけることができる。■								
使用教材		①『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』初等科音楽教育研究会編、音楽之友社 ②『小学生のおんがく1』教育芸術社 ③『小学生の音楽2』教育芸術社 ④『小学生の音楽3』教育芸術社								
参考文献		①『小学校学習指導要領解説(平成 29 年告示)音楽編』文部科学省								
評価方法		実技発表の評価(各回で設定する課題 50%・15 回目のアンサンブル発表 50%)を総合する。								
課題・評価に対する フィードバック方法		授業課題はコメントをつけて返却する。実技課題はその都度コメントをする。								
オフィスアワー (研究室)		水曜・時限または、木曜・3 時限 (503 研究室)			メールアドレス (#→@)		sato-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション・小学校音楽科における音楽表現■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、授業概要を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	授業内容を確認する。小学校音楽科における音楽表現を復習する。						1.5 時間	

2	講義内容	歌唱の内容・リコーダー①■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	指示された歌唱教材を練習する。リコーダーの運指を確認しておく。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
3	講義内容	器楽の内容・リコーダー②■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	指示された楽曲を練習する。指示されたパートを練習しておく。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
4	講義内容	鑑賞の内容・鍵盤ハーモニカ①■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	指示された楽曲を予習する。鍵盤ハーモニカの演奏方法を確認しておく。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
5	講義内容	音楽づくりの内容・鍵盤ハーモニカ②■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	指示された課題を練習する。指示されたパートを練習しておく。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
6	講義内容	器楽アンサンブル			
	該当到達目標 2	予習	担当するパートを練習しておく。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
7	講義内容	指揮の方法■			
	該当到達目標 3,4	予習	拍子について調べておく。	1.5 時間	
		復習	拍子ごとの指揮の図形を復習しておく。	1.5 時間	
8	講義内容	打楽器とその奏法①■ 太鼓、他			
	該当到達目標 2,4	予習	小学校音楽科で扱う打楽器の奏法を調べる。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
9	講義内容	打楽器とその奏法②■ シロフォン、他			
	該当到達目標 2,4	予習	シロフォン等、鍵盤打楽器の奏法を調べる。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
10	講義内容	打楽器アンサンブル			
	該当到達目標 2	予習	担当のパートを練習しておく。	1.5 時間	
		復習	打楽器の奏法について復習する。	1.5 時間	
11	講義内容	楽曲の編曲①「編曲の方法」■			
	該当到達目標 3	予習	コードネームと主要三和音について調べる。	1.5 時間	
		復習	編曲のために必要な知識を復習する。	1.5 時間	
12	講義内容	楽曲の編曲②「教材の編曲」■			
	該当到達目標 3,4	予習	言語ごとの音名の読み方を確認しておく。	1.5 時間	
		復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間	
13	講義内容	アンサンブル発表会の準備			
	該当到達目標 2,4	予習	楽器の構成、アンサンブルの編成を調べる。	1.5 時間	
		復習	グループで決めた発表内容を踏まえ、練習の計画を確認する。	1.5 時間	
14	講義内容	アンサンブル発表会の練習			
	該当到達目標 2,4	予習	発表に向けて個別練習をする。	1.5 時間	
		復習	発表へ向けた課題を確認し、次回までに練習をする。	1.5 時間	
15	講義内容	アンサンブル発表会			
	該当到達目標 2,4	予習	発表に向けてグループ練習する。	1.5 時間	
		復習	発表を振り返り、スキルアップに向けて、自己課題を設定する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	1)「音楽」を履修するにあたり、「音楽基礎Ⅰ」「音楽基礎Ⅱ」を履修済みであること、またはそれに相当する技術・知識が				

求められます。

2)講義で扱う教材は、十分に譜読みを行っておいてください。

3)講義で扱う楽曲はインターネット上で検索閲覧するなどして鑑賞し、予習をしておいてください。

4)ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを使用します。音楽科授業で使用する上で適切な楽器を準備しておいてください。

5) 実技課題は、毎日練習して授業に臨んでください。

■:実務経験に基づく経験を示す。

科目名		図画工作(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES208		
英文名		Drawing and Handicrafts						講義形態	演習		
担当教員		増田 金吾									
科目に関連した 実務経験		中学校美術科教諭として東京都公立中学校に勤務(経験)、幼稚園長として国立大学附属幼稚園に勤務(経験)、東京都公立小学校で教育実習の指導教員を行う(経験)									
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位、教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格		免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針 との対応		3	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○	○				
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		図画工作科を指導する際、子ども理解とその教科内容の把握が重要である。 「小学校学習指導要領 図画工作」が示す造形遊びをする活動、絵や立体に表す活動、工作に表す活動、鑑賞の活動など各学年の内容を、美術教育の意義や諸領域の教育的意義・目標を踏まえた上で演習し習得する。 全員が演習(実技中心)を充実して行えるよう努める。									
到達目標		1.小学校図画工作科の目標と内容、及びその意義を理解できる。 2.教材や資料等について触れ、演習を通して実践的な指導力を身に付ける。■ 3.題材研究について、演習を通して理解し習得する。									
使用教材		小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編、文部科学省著作、日本文教出版、平成 30 年発行、100 円＋税 プリントも配付するのでファイルにとじるなどしておき、とじたものを毎回持参すること(このシラバスもとじておくこと)									
参考文献		教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育、橋本美保・田中智志監修、増田金吾編著、一藝社、平成 27 年発行、2,200 円＋税。これは、「図画工作科指導法」で使用教材として用いる。									
評価方法		課題作品(80%)、「造形遊び」の活動に関わる自己の記録(20%)により総合的に判断する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法		課題作品は、必要に応じてコメントを付して返却する。「造形遊び」の活動に関わる自己の記録も、コメントを付して返却する。これらの返却の際、評価規準などをクラス全体に解説する。									
オフィスアワー (研究室)		出講日の昼休み、8 号館 4 階 407 研究室(または、講師控室)				メールアドレス		masuda-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス。美術教育映画「トントンギコギコ」の鑑賞 (DVD 使用)(1.2 回目は、指定した教室で行う)。実践に基づいた説明を行う。■									
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで、本講義の目標などを理解しておくこと。							1.5 時間	
		復習	本演習の到達目標、内容、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							1.5 時間	
2	講義内容	『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編』を通して図画工作科の目標と内容、意義を理解する。併せて作品製作の趣旨を理解する。									
	該当到達目標 1,3	予習	使用教材(教科書)の第2章 図画工作科の目標及び内容、を中心に目を通す。							2.0 時間	
		復習	作品製作の趣旨と意義を理解する。							1.0 時間	
3	講義内容	絵に表す:「想像の世界」(1)。製作(題材)の意義説明。「絵に表す」の説明。アイディアを基に下絵作成。導入で実践に基づいた説明を行う。■ 以下、14 回まで実技製作。									
	該当到達目標	予習	想像の世界の構想を練る。併せて、使用材料を考える。							1.5 時間	

	1,2,3	復習	「絵に表す」の題材としての意義を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	絵に表す：「想像の世界」(2)。製作（作品完成）		
	該当到達目標	予習	作品の完成を想定する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	作品製作を通じて学んだことを振り返る。	1.5 時間
5	講義内容	立体に表す：「ぎゅっとしたい私の友だち」(1)。「立体に表す」の説明。本題材の意義説明。製作（アイデアを生かす）。導入で実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	動物や魚など、どんな「友だち」にするか考える。	2.0 時間
	1,2,3	復習	「立体に表す」の題材としての意義を理解する。	1.0 時間
6	講義内容	立体に表す：「ぎゅっとしたい私の友だち」(2) 製作（クラフト紙で袋を作り、中に紙を詰め込んで製作）		
	該当到達目標	予習	製作の過程を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	アイデアと製作活動との結びつきを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	立体に表す：「ぎゅっとしたい私の友だち」(3) 製作（作品完成）		
	該当到達目標	予習	製作の表現としての意味を考え、今まで受けた授業の理論面について整理する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	作品製作を通じて学んだことを振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	造形遊び：「新聞紙で何ができるかな」(1)。「造形遊び」の説明。本題材の意義説明、活動（アイデアを生かす、新聞紙など）。導入で実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	新聞紙で何ができるか、加えて自分が使いたい材料を準備する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「造形遊び」の題材としての意義を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	造形遊び：「新聞紙で何ができるかな」(2)。活動（新聞紙など）。「造形遊び」の活動を記録		
	該当到達目標	予習	どんな活動になるか構想してみる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「造形遊び」を通じて学んだことを振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	工作に表す：「紙工作」(1)。「工作に表す」の説明。作品例の提示と製作（題材）趣旨・製作工程の説明。作品のコンセプト（着想による考え、主張）を練り文章化する。導入で実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	工作の製作の意図について考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「工作に表す」の題材としての意義を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	工作に表す：「紙工作」(2)。アイデアスケッチ（作品）を描く。		
	該当到達目標	予習	アイデアスケッチを構想する。	2.0 時間
	1,2,3	復習	コンセプト（文章）とアイデアスケッチ（作品）を固める。	1.0 時間
12	講義内容	工作に表す：「紙工作」(3)。製作（本製作）を行う。		
	該当到達目標	予習	コンセプト（文章）とアイデアスケッチ（作品）をもとに、完成作品を想像する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	計画通りに本製作に入れたか考える。	1.5 時間
13	講義内容	工作に表す：「紙工作」(4)。製作（本製作、前回の続き）を行う。		
	該当到達目標	予習	本製作に向けて考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	思い通りに進んでいるか確認する。	1.5 時間
14	講義内容	工作に表す：「紙工作」(5)。製作（作品完成）		
	該当到達目標	予習	作品完成に向けて、問題点などないか考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	思い通りに製作できたか、また作品製作を通じて学んだこと、を振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	題材研究のまとめ：「合評会」（プレゼンテーション、ディスカッション）を通して鑑賞を行い、題材研究について考える。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	鑑賞の活動としての題材研究にふさわしく、最も他の人に見てもらいたい自分の作品1点を準備する。	1.0 時間
	1,2,3	復習	自己評価を行うと共に、表現と鑑賞の意味について理解し、題材研究の意義を理解する。	2.0 時間
合計時間（予習・復習）				45 時間

備考

- ・授業は、通常は実習室で行いますが、パワーポイントや DVD を使用する 1.2 回目の授業は普通教室で実施します。
 - ・予習・復習の際に生じた不明な点があれば、当日の授業中のことも含め質問を授業中にしてください。クラス全員で共有することが大切であるためです。しかし、その後別の質問等が生じたら、メールで連絡してください。できるだけ速やかに答えます。
 - ・ルールとして、けじめのある態度で受講するようお願いします。
 - ・製作の際に、ヒント(アイディア)を得るためにスマートフォンを見ることは認めますが、そこにあるものをそのまま引き写して自分の作品とすることはしないこと。
 - ・オンラインで実施する場合は、おおむねこの講義内容で、C-learning を用いてオンデマンド式(授業動画とパワーポイントの pdf を使用)による授業を行います。
- :この印は、実務経験に基づく内容を示します。

科目名	体育(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES209	
英文名	Physical Education							講義形態	講義	
担当教員	山西 加織 金子 伊樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭・レクリエーションインストラクター									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校における体育科学学習領域の内容について、さまざまな運動や運動遊びの実践をとおして理解を深めていく。それぞれの運動の特性を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた教材の工夫や援助・指導の方法について学習する。 【授業の進め方】実技を中心に、補足説明を加えながら授業を進めていく。教材研究と教材の紹介は、グループで行う。									
到達目標	1. 幼少期の運動発達の特徴を説明することができる。 2. 各運動の基本的技術を身につけることができる。 3. 発達に適した教材を選択し、活動内容を工夫することができる。									
使用教材	教科書 「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省(東洋館出版社)、その他適宜資料を配布する。									
参考文献	授業時に紹介する。									
評価方法	授業への参加度・態度(60%)、グループワークへの貢献度(10%)、小テスト・レポート課題(30%)を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 5 時限、火曜日 3 時限 (8 号館 505 研究室)				メールアドレス (#→@)		yamanishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 幼少期の運動遊び・体育								
	該当到達目標	1	予習	シラバスと教科書に目を通し、授業でどのようなことを学んでいくのかを確認する。						1.5 時間
		2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。						1.5 時間
2	講義内容	体づくりの運動遊び・体づくり運動								
	該当到達目標	1	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。						1.5 時間
		2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。						1.5 時間
3	講義内容	走の運動遊び・運動								
	該当到達目標	1	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。						1.5 時間
		2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。						1.5 時間

4	講義内容	跳の運動遊び・運動		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
5	講義内容	器械・器具を使つての運動遊び		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
6	講義内容	器械運動		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
7	講義内容	ゲーム・ボール運動(ゴール型)		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
8	講義内容	ゲーム・ボール運動(ネット型)		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
9	講義内容	ゲーム・ボール運動(ベースボール型)		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
10	講義内容	表現リズム遊び・表現運動		
	該当到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
11	講義内容	教材研究		
	該当到達目標	予習	児童期の運動発達を踏まえ、どのような運動・運動遊び経験が必要とされているのか、教科書をよく読む。	1.0 時間
	3	復習	グループで教材研究を進める。	2.0 時間
12	講義内容	教材の紹介(1)低学年の運動・運動遊び		
	該当到達目標	予習	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5 時間
	3	復習	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5 時間
13	講義内容	教材の紹介(2)中学年児童の運動		
	該当到達目標	予習	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5 時間
	3	復習	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5 時間
14	講義内容	教材の紹介(3)高学年児童の運動		
	該当到達目標	予習	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5 時間
	3	復習	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5 時間

15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1,3	予習	授業全体を振り返り、要点を復習する。	1.0 時間
		復習	運動・運動遊びの教材研究におけるポイントと、子どもの運動経験をどのように支えていきたいのかを考え、レポートにまとめる。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。			

科目名	外国語(英語)(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES210		
英文名	Foreign Language (English) Learning and Teaching						講義形態	講義		
担当教員	姉崎 達夫・松田 幸子・ステイシー クローズ・鈴木 文也									
科目に関連した実務経験	姉崎:英語教師として中学校に勤務(経験) クローズ:英語教師として小学校に勤務(経験) 鈴木:英語教師として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ピアレビュー									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力と授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。これらの授業は、テキストなどを中心とした講義と、グループ単位の討議や英語での言語活動の実践を行うことで進める。									
到達目標	1. 外国語(英語)教育を理解し、児童に対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。 2. 外国語(英語)に関する実践的な英語運用力を身につけるために、英語に関する基本的な知識・技能を身につけることができる。■ 3. 第二言語習得・児童文学・異文化理解に関する基本的な知識を学び、授業実践に生かすことができる。 4. 自ら進んで小学校の外国語教育に携わる意欲を高めることができる。									
使用教材	『最新 小学校英語教育法入門』(樋口忠彦他、研究社、2023、2,420 円) ISBN:9784327411084 Let's Try! 1 (文部科学省)ISBN:978-4-487-25870-3 Let's Try! 2 (文部科学省)ISBN:978-4-487-25871-0									
参考文献	小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月 31 日告示 文部科学省) https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf その他、適宜授業内で紹介する。									
評価方法	レポート 60%、授業内の貢献度 40%で評価する。 総合 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにはコメントを付けて返却する。 授業中の貢献度についてはその都度評価する。									
オフィスアワー (研究室)	姉崎:火曜 2 限、水曜 3 限 (研究室:9 号館 3 階 303) 松田:木曜 3 限、金曜 2 限 (研究室:9 号館 3 階 304) クローズ:月曜 4 限、火曜 3 限 (研究室:9 号館 3 階 307) 鈴木:火曜 2 限、木曜 2 限 (研究室:9 号館 3 階 306) 質問はメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)		姉崎:anezaki # takasaki-u.ac.jp 松田:matsuda-y # takasaki-u.ac.jp クローズ:stacy-c # takasaki-u.ac.jp 鈴木:suzuki-b # takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	ガイドンス・デジタル教科書での単語導入の仕方(姉崎) ■		
	該当到達目標	予習	テキストのまえがき、シラバスの内容をよく読んで、授業の目標などを理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	デジタル教材の特徴とその使い方を理解する。	1.5 時間
2	講義内容	Let's try! 1, 2を用いた英語の語彙と発音の指導(姉崎) ■		
	該当到達目標	予習	テキスト第 4 章と Let's try! 1, 2に目を通し、どのような語彙が使われているのかを確認する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	Let's try! 1, 2に収録されている語彙の種類・レベルを理解し、児童への単語の発音指導の具体例を身につける。	1.5 時間
3	講義内容	母語習得と第二言語習得の違いについて(姉崎)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章の母語習得と第二言語習得の違いに関する記述と配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	母語習得と第二言語習得の違いについて復習し、児童の発達段階にあわせた外国語教育のあり方を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	第二言語習得と学習者要因について(姉崎)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章の第二言語習得と学習者要因に関する記述と配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	学習者における様々な認知・情意要因が第二言語習得にどのように影響しているのかを理解する。	1.5 時間
5	講義内容	第二言語習得と児童の発達段階に即した動機づけについて(姉崎)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章の動機づけに関する記述と配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	動機づけの種類を理解したうえで、児童の発達段階においてどのようにすれば外国語学習の動機づけが高まるのかを考えてみる。	1.5 時間
6	講義内容	児童向けの絵本と小学校におけるその使用法(松田)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 7 章 4 節の絵本について読む。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	英語による歌・チャンツと小学校におけるその使用法(松田)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 7 章 1 節のうた・チャンツについて読む。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	英語におけるゲームと小学校におけるその使用法(松田)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 7 章 3 節のクイズについて読む。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	異文化コミュニケーションとは何か: 英語圏の子ども文化(松田)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 2 章 5 節の異文化コミュニケーションについて読む。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがって、異文化コミュニケーションを生かしたレッスン・プランを考えてくる。	1.5 時間
10	講義内容	小学校における異文化コミュニケーションの実践(松田)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 8 章 2 節の教材研究について読む。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	グループごとでレッスン・プランをまとめて提出する。	1.5 時間
11	講義内容	授業場面を意識した実践的な英語運用力(鈴木) ■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領の授業における言語活動に関する箇所目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業で使用する実践的な英語運用能力を身につけることができる。	1.5 時間
12	講義内容	使用する教科書の読みと板書などにおける英語の表記(「読むこと」・「書くこと」)(鈴木) ■		
	該当到達目標	予習	テキストの第 6 章と学習指導要領の「読むこと」と「書くこと」に関する箇所目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	「読むこと」と「書くこと」の指導に必要な知識と技術を身につけることができる。	1.5 時間
13	講義内容	場面や目的に応じた ALT との会話(「話すこと[やり取り]」)(クローズ) ■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領の ALT と「話すこと[やり取り]」に関する箇所目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	ALT との TT を行うために必要な知識と技術を身につけることができる。	1.5 時間
14	講義内容	英語のやり取りを中心とした言語活動(「聞くこと」・「話すこと」)(クローズ) ■		
	該当到達目標	予習	テキストの第 6 章と学習指導要領の「聞くこと」と「話すこと」に関する箇所目を通す。	1.5 時間

	1, 2, 3, 4	復習	話すこと[やり取り]の指導に必要な知識と技能を身につけることができる。	1.5 時間
15	講義内容	自己紹介・地域や文化などの紹介を通した英語の発話について(「話すこと[発表]」)(クローズ)■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領の「話すこと[発表]」に関する箇所に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	「話すこと[発表]」の指導に必要な知識と技能を身につけることができる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・授業(1～5 回)は、第二言語習得の特徴を理解しながら、外国語学習の初期段階における指導の理論と方法を学ぶ。 ・授業(6～10 回)は、児童向けの英語の歌、チャンツ、ゲームなどを学び、英語に関わる文化を理解するとともに異文化コミュニケーションの力を養う。 ・授業(11～15 回)は、身につけた英語の知識や技能を用いて、授業指導を行うための英語コミュニケーション能力を培う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		英語学概論(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES301		
英文名		Introduction to English Linguistics						講義形態	講義		
担当教員		姉崎 達夫									
科目に関連した実務経験		姉崎:英語教師として中学校に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針との対応		4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
			問題発見・解決力								
SDGs との関連		410									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		英語学分野における主なテーマや問題について、異文化コミュニケーションの視点から考察し、国際共通語である英語に対する理解を深める。そのため授業では、様々な英語の用例を検討しながら、コミュニケーションでどのような役割を果たすのかを議論することに重点を置く。教科書の内容を踏まえ、異文化コミュニケーションの視点で英語学の基礎的内容を解説する講義形式と受講生とのディスカッションをまじえた形で進める。									
到達目標		1. 英語の構造と機能を分析しながら、英語という言葉の特徴を理解する。 2. 異文化コミュニケーションという場で、英語の果たす役割を理解する。■									
使用教材		平賀正子. (2016). 『ベーシック新しい英語学概論』. 東京:ひつじ書房. 1,700 円 ISBN:9784894765542									
参考文献		講義内で紹介する。									
評価方法		授業への参加度、発表、レポート(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題のフィードバックは翌週に提示する。									
オフィスアワー (研究室)		月曜 2 限、水曜 3 限 研究室:9 号館 3 階 303 研究室				メールアドレス (#→@)		anezaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・英語学とは何か									
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。							1.5	時間
	1,2	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。							1.5	時間
2	講義内容	英語の歴史とさまざまな英語(母語、第二言語、外国語としての英語)									
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	教科書第 2 章の専門用語の意味等を理解する。							1.5	時間
3	講義内容	母語英語の特徴(イギリス英語、オーストラリア英語の音声、語彙、文法の特徴)									
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	教科書第 3 章の専門用語の意味等を理解する。							1.5	時間
4	講義内容	母語英語の特徴(アメリカ英語、カナダ英語の音声、語彙、文法の特徴)									
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	教科書第 4 章の専門用語の意味等を理解する。							1.5	時間
5	講義内容	英語と社会的属性(社会言語学の観点から)									
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	教科書第 5 章の専門用語の意味等を理解する。							1.5	時間

6	講義内容	語用論と対人コミュニケーション		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 6 章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	英語の発話行為		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 6 章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	英語のポライトネスと談話分析 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 7 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	英語文化とコミュニケーション・スタイル		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 章・9 章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 8 章・9 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	語彙から見る英語らしさ(形態論の観点から)		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 10 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	文法から見る英語らしさ(統語論の観点から)		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 11 章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	語彙や文の意味から見る英語らしさ(意味論の観点から)		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 11 章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	音声から見る英語らしさ(音声学の観点から)		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 12 章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	音韻から見る英語らしさ(音韻論の観点から)		
	該当到達目標	予習	教科書第 12 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 12 章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・国際共通語としての英語コミュニケーション ■		
	該当到達目標	予習	教科書各章末の演習課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書各章末の演習課題の内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	学校英文法論(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES302		
英文名	Theory of Teaching Grammar in English Classes						講義形態	講義		
担当教員	鈴木 文也									
科目に関連した実務経験	英語教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目:中学校教諭									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	3	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 8 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を身につけるための科目である。特に、英語の文法に関する知識を習得し、学習者に分かりやすく英文の基本的な仕組みを説明できるようになる。 授業は講義と発表、小テストとレポートに関する討論によって構成される。									
到達目標	1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.英語の文法に関する知識を理解し身につけることができる。 3.文法の知識を応用して、学習者に分かりやすく英文の基本的な仕組みを説明することができる。■ 4.自ら進んで英語の文、品詞、準動詞、関係詞、構文、修飾語句などについて、発表したり議論したりして、文法の知識をさらに深めて学習者の疑問に答えることができる。									
使用教材	教科書『改訂版 英文法総覧』、安井稔、開拓社、2015、2,476 円									
参考文献	参考となる文献についてはその都度紹介する。									
評価方法	授業参加(10%)、小テスト(40%)、レポート(30%)、発表など(20%)から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト・レポートには、評価及びコメントを付けて返却する。発表については全員で検討し、その都度コメントやアドバイスをする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 2 限、木曜日 2 限 (9 号館 306 研究室)				メールアドレス (#→@)	suzuki-b#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス (国際共通語としての英語の使用と日本の英語教育)								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の目次を読み、英文法の学修内容を概観する。						1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位受与方針、成績評価方法などを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	英語の文法とその仕組みの説明 ■								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第 1 章～第 7 章に目を通す。						1.5	時間
		復習	英語の文法を理解し、英文の基本的な仕組みを学習者に説明することができる。						1.5	時間
3	講義内容	品詞 (1) 名詞、代名詞、形容詞に関する文法とその仕組みの説明 ■								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第 8 章～第 10 章に目を通し、小テストの対策をする。						1.5	時間
		復習	名詞、代名詞、形容詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。						1.5	時間
4	講義内容	品詞 (2) 冠詞、副詞、動詞に関する文法とその仕組みの説明 ■								

	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章～第 13 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	冠詞、副詞、動詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
5	講義内容	品詞 (3) 助動詞、接続詞、前置詞に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 14 章～第 16 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	助動詞、接続詞、前置詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
6	講義内容	準動詞に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 17 章～第 19 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	準動詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
7	講義内容	関係詞に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 20 章～第 21 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	関係詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
8	講義内容	構文 (1) 時制に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 22 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	時制に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
9	講義内容	構文 (2) 態に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 23 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	態に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
10	講義内容	構文 (3) 仮定法、話法に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 24 章～第 25 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	仮定法、話法に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
11	講義内容	構文 (4) 比較、否定に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 26 章～第 27 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	比較と否定に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
12	講義内容	構文 (5) 動詞、名詞、形容詞に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 28 章～第 30 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	動詞、名詞、形容詞を中心とする構文に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
13	講義内容	構文 (6) 一致、形式語 it、there を中心とする構文に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 31 章～第 32 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一致、形式語 it、there を中心とする構文に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
14	講義内容	修飾語句に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 33 章～第 35 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	形容詞的修飾語句、副詞的修飾語句、副詞節、副詞句に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間
15	講義内容	情報構造に関する文法とその仕組みの説明 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 36 章～第 38 章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	文の主題と情報構造、協調、省略・挿入に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	質問はメールでも受け付ける。毎時間既習事項の小テストを行い、課題のレポートについての発表をする。これらの活動のための授業外学修(予習と復習)をしっかりと行うこと。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	現代英語学の理論と応用 I（保育・教育の内容）							科目ナンバリング	CES303	
英文名	Theory and Practical Applications of English Linguistics I							講義形態	講義	
担当教員	姉崎 達夫									
科目に関連した実務経験	姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択2単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	410									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の読解力を高める訓練を行いながら、英語の構造と機能を分析する力をつけることを目的とする。授業は、教科書の内容を踏まえ、現代の英語学の基礎的な知識を解説する講義形式と受講生とのディスカッションを交えた形で進める。									
到達目標	1. 英語の構造と機能を分析できるようになる。 2. 英語の形態論、意味論、統語論、音韻論、音声学の理論が中学校・高等学校の外国語（英語）の授業内容、教材にどのように反映しているのかを理解できる。■ 3. 比較的平易に書かれた英語学に関する文献を英語で読めるようになる。									
使用教材	影山太郎他. (2004). <i>First Steps in English Linguistics</i> (2nd ed.). 東京：くろしお出版. 1,600 円 ISBN 978-4-87424-277-3 C3082									
参考文献	講義内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、課題（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題のフィードバックは翌週に提示する。									
オフィスアワー （研究室）	火曜 2 限、水曜 3 限 研究室：9 号館 3 階 303 研究室				メールアドレス （#→@）		anezaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・Why Study English Linguistics (1): What is English Linguistics?								
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						1.5	時間
	1	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	Why Study English Linguistics (2): How English Has Been Studied								
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章を読む。						1.5	時間
	1,3	復習	教科書第 1 章の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。						1.5	時間
3	講義内容	How English Has Changed over the Centuries (1): The Old and Middle English Period								
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章前半を読む。						1.5	時間
	1,3	復習	教科書第 2 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。						1.5	時間
4	講義内容	How English Has Changed over the Centuries (2): The Modern English Period								
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章後半を読む。						1.5	時間
	1,3	復習	教科書第 2 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。						1.5	時間
5	講義内容	How Words Are Made (1): Morphology								

	該当到達目標 1,3	予習	教科書第3章前半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第3章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
6	講義内容	How Words Are Made (2): Derivation, Conversion, and Inflection		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第3章後半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第3章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
7	講義内容	英語史(The History of English)・形態論(Morphology)のまとめ		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第1章、第2章、第3章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
		復習	教科書第1章、第2章、第3章で学んだ英語学、英語史、形態論に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。■	1.5 時間
8	講義内容	How Words Mean : Kinds of Meaning		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第4章を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第4章の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
9	講義内容	How English Phrases Are Formed (1): Syntax I		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第5章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
		復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
10	講義内容	How English Phrases Are Formed (2): Syntax II		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第6章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
		復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
11	講義内容	意味論(Semantics)・統語論(Syntax)のまとめ■		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第4章、第5章、第6章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
		復習	教科書第4章、第5章、第6章で学んだ意味論・統語論に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5 時間
12	講義内容	The Sound of English (1): Phonetics		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第9章前半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第9章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
13	講義内容	The Sound of English (2): Phonology		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第9章後半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第9章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
14	講義内容	音声学・音韻論(Phonetics, Phonology)のまとめ■		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第9章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
		復習	教科書第9章で学んだ音声学・音韻論に関する知識を実際に使うことができるように練習を行う。	1.5 時間
15	講義内容	本学期のまとめ、ディスカッション(英語史、形態論、意味論、統語論、音声学、音韻論の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか)■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	本学期で学んだ専門用語の意味をもう一度整理する。	1.5 時間
		復習	本学期で学んだ英語史、形態論、意味論、統語論、音声学、音韻論の知識をどのように中学校英語の授業に取り入れるか、考えをまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	現代英語学の理論と応用Ⅱ（保育・教育の内容）							科目ナンバリング	CES304	
英文名	Theory and Practical Applications of English Linguistics II							講義形態	講義	
担当教員	姉崎 達夫									
科目に関連した実務経験	姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	410									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「現代英語学の理論と応用Ⅰ」に引き続き、英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の読解力を高める訓練を行いながら、英語の機能に関する知識を身につけることを目的とする。授業は、教科書の内容を踏まえ、現代の英語学の基礎的な知識を解説する講義形式と受講生とのディスカッションを交えた形で進める。									
到達目標	1. 英語の機能を分析できるようになる。 2. 英語の語用論、社会言語学、心理言語学、応用言語学の理論が中学校・高等学校の外国語（英語）の授業内容、教材にどのように反映しているのかを理解できる。■ 3. 比較的平易に書かれた英語学に関する文献を英語で読めるようになる。									
使用教材	影山太郎他. (2004). <i>First Steps in English Linguistics</i> (2nd ed.). 東京：くろしお出版. 1,600 円 ISBN 978-4-87424-277-3 C3082									
参考文献	講義内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、課題（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題のフィードバックは翌週に提示する。									
オフィスアワー（研究室）	月曜 2 限、水曜 3 限 研究室：9 号館 3 階 303 研究室				メールアドレス （#→@）		anezaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・形態論、意味論、統語論、音声学、音韻論の復習								
	該当到達目標 1	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						1.5	時間
		復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	How to Communicate with Other People (1): What is Pragmatics?								
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 8 章前半を読む。						1.5	時間
		復習	教科書第 8 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。						1.5	時間
3	講義内容	How to Communicate with Other People (2): Conversational Implicature								
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 8 章後半を読む。						1.5	時間
		復習	教科書第 8 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。						1.5	時間
4	講義内容	Regional Varieties of English (1): Intranational Variation								
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 10 章前半を読む。						1.5	時間
		復習	教科書第 10 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。						1.5	時間
5	講義内容	Regional Varieties of English (2): International Variation								

	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 10 章後半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 10 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
6	講義内容	English in Society (1): Grammatical Variation		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 11 章前半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 11 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
7	講義内容	English in Society (2): Phonological Variation		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 11 章後半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 11 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
8	講義内容	第 2 回～第 7 回のまとめ、ディスカッション(語用論、社会言語学の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか) ■		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 8 章、第 10 章、第 11 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
		復習	教科書第 8 章、第 10 章、第 11 章で学んだ語用論、社会言語学に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5 時間
9	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (1): Theories of Language Acquisition		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 12 章の前半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 12 章の前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
10	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (2): Theories of Language Acquisition		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 12 章の後半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 12 章の後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
11	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (3): Applied Linguistics ■		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 13 章の前半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 13 章の前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
12	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (4): Applied Linguistics ■		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書第 13 章の後半を読む。	1.5 時間
		復習	教科書第 13 章の後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
13	講義内容	第 9 回～第 12 回のまとめ、ディスカッション(心理言語学、応用言語学の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか) ■		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書第 12 章、第 13 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
		復習	教科書第 12 章、第 13 章で学んだ心理言語学、応用言語学に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5 時間
14	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired : Applied Linguistics ■		
	該当到達目標 1,3	予習	教科書の指定された箇所、配布プリントの内容を読み、理解する。	1.5 時間
		復習	教科書の指定された箇所、配布プリントの専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
15	講義内容	本学期のまとめ、ディスカッション(語用論、社会言語学、心理言語学、応用言語学の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか) ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第 8 章、第 10 章、第 11 章、第 12 章、第 13 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
		復習	教科書第 8 章、第 10 章、第 11 章、第 12 章、第 13 章で学んだ語用論、社会言語学、心理言語学、応用言語学に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。また、本学期で学んだ言語学の知見について、中学校英語の授業に取り入れる方法をまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語文学入門(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES305		
英文名	Introduction to English Literature						講義形態	講義		
担当教員	松田 幸子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学 習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○	○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語文学が、いかに構築されてきたのかについて、社会的・歴史的なコンテキストを踏まえながら概観する。とりわけ、各時代における代表的なテキストを原文で確認し、その特徴をとらえながら、英語圏において、どのように文学が文化的・社会的な意味をもってきたのかについて考える。 授業は講義形式で進み、理解を促すため映像資料・英語資料を用い、学生は適宜翻訳などの作業を行う。									
到達目標	1.社会的・歴史的なコンテキストにしたがって英語文学史について理解する。 2.英語文学を原文で読む。 3.英語圏で文学テキストが担ってきた文化的・社会的な意味をとらえる。									
使用教材	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社、2014)									
参考文献	講義で指定する。									
評価方法	授業参加度(30%)、課題(20%)、最終試験(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	課題については添削・コメントをしたのち返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 1、2 限(9 号館 3 階 304 室)				メールアドレス (#→@)	matsuda-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	イントロダクション:英語文学とは何か								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、自身の英語文学体験について考えてくる。						1.5	時間
	3	復習	ハンドアウトを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	中英語チョーサー『カンタベリー物語』								
	該当到達目標	予習	テキスト「ジェフリー・チョーサー」を読む						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
3	講義内容	ルネサンスの詩と演劇:宮廷・民衆・劇場								
	該当到達目標	予習	テキスト「16 世紀:歴史／文学史のアウトライン」を読む						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
4	講義内容	シェイクスピア作品の概観								
	該当到達目標	予習	「ウィリアム・シェイクスピア」を読む						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
5	講義内容	シェイクスピアを読む:『ハムレット』								
	該当到達目標	予習	ハムレットあらすじを読む						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間

6	講義内容	17 世紀後半の詩と演劇			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「17 世紀: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
7	講義内容	18 世紀における小説の登場			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「18 世紀: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
8	講義内容	ジャーナリズムと『ロビンソン・クルーソー』			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	「ダニエル・デフォー」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
9	講義内容	Sentimental の時代: リチャードソン『パメラ』			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	「サミュエル・リチャードソン」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
10	講義内容	18 世紀における小説の成熟: オースティン『高慢と偏見』			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	「ジェイン・オースティン」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
11	講義内容	ゴシック小説と恐怖			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	「ゴシック・ファンタジー」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
12	講義内容	ロマン主義の到来とロマン派詩人(ブレイク、ワーズワス、シェリー)			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「ロマン主義の時代」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
13	講義内容	ヴィクトリア朝の社会と文学: ダーウィニズム・都市化・帝国主義			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「ヴィクトリア時代: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
14	講義内容	ヴィクトリア朝の小説: ディケンズ、トマス・ハーディ、キプリング			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	「チャールズ・ディケンズ」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
15	講義内容	20 世紀の小説: ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「20 世紀前半: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考					

科目名	英語文学批評(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES306		
英文名	English Literary Criticism							講義形態	講義		
担当教員	松田 幸子										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位								
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力									
SDGs との関連	410										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○		○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	文学を論じる際に必要となる、文学理論について学ぶ。理解力・思考力・プレゼン能力を高めるため、担当者には、指定テキスト担当箇所についてのまとめと発表を課す。担当者は必ずハンドアウトを用意すること。また、テキスト終了後は、それらの文学理論を用いて、主に 19 世紀に書かれた英米の小説を毎時間読み、それについてディスカッションを行う。英米文学を出来るだけ多く読み、また実践的に英文学を論じる能力を得ることがこの授業の目的である。 講義は基本的に学生の発表によって進む。学生同士での議論も行うため積極的に授業に参加すること。										
到達目標	1.文学を批評的に論じるための文学理論について理解を深める。 2.英語圏の文学作品についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。 3.英語圏の文学テキストを原語で読み、自らの考えを述べるができるようになる。										
使用教材	適宜資料を配布する。										
参考文献	講義で指定する。										
評価方法	授業参加度(30%)、授業での発表(50%)、毎回の課題(20%)で総合的に評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	課題については添削・コメントをしたのち返却する。										
オフィスアワー (研究室)	水曜 2、4 限(9 号館 3 階 304 室)				メールアドレス (#→@)	matsuda-y#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	オリエンテーション、担当の決定									
	該当到達目標 1	予 習	テキストの序章を読んでくる							1.5	時間
		復 習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる							1.5	時間
2	講義内容	英文学はどこから来たか									
	該当到達目標 1, 2, 3	予 習	テキスト第 1 章を読んでくる							1.5	時間
		復 習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる							1.5	時間
3	講義内容	批評的態度とは何か									
	該当到達目標 1, 2, 3	予 習	配布資料(批評的態度)を読んでくる							1.5	時間
		復 習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる							1.5	時間
4	講義内容	精神分析批評									

	該当到達目標	予習	テキスト「精神分析批評」を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
5	講義内容	ジェンダー批評		
	該当到達目標	予習	テキスト「ジェンダー批評」を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	新歴史主義		
	該当到達目標	予習	テキスト「新歴史主義批評」を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	ポスト・コロニアリズム		
	該当到達目標	予習	テキスト「ポスト・コロニアリズム批評」を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	Conrad, “The Disturber of Traffic”を読む①		
	該当到達目標	予習	Conrad, “The Disturber of Traffic”	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	Conrad, “The Disturber of Traffic”を読む②		
	該当到達目標	予習	Conrad, “The Disturber of Traffic”	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	Stevenson, “The Bottle Imp”を読む ①		
	該当到達目標	予習	Stevenson, “The Bottle Imp”を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	Stevenson, “The Bottle Imp”を読む ②		
	該当到達目標	予習	Stevenson, “The Bottle Imp”を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”を読む ①		
	該当到達目標	予習	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”を読む ②		
	該当到達目標	予習	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	Dickens, “A Madman's Manuscript”を読む①		
	該当到達目標	予習	Dickens, “A Madman's Manuscript”を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間

15	講義内容	Dickens, “A Madman's Manuscript”を読む②			
	該当到達目標	予習	Dickens, “A Madman's Manuscript”を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考					

科目名	英語文学論(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES307		
英文名	Studies in English Literature						講義形態	講義		
担当教員	松田 幸子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	410									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	19 世紀末のイギリス作家 R. L. スティーヴンソンの短編を鑑賞・精読することで、文学作品を英語で読み、また、それを批判的に論じる方法について学ぶ。とりわけ、スティーヴンソンの小説のもつ様々な側面—ゴシック的要素、冒険小説とイギリス帝国主義、スコットランドとナショナル・アイデンティティ—to に注目することで、文学作品と社会とがどのように関わっているのかについて考え、教員になるにあたって必要となる英語圏文化に関する知識を身につける。 授業は教員による講義と、学生の発表の交互で行う。英語文学についての理解を促すため、適宜映像資料や英語テキスト・資料を用いる。									
到達目標	1.文学作品を英語で読解できるようになる。 2.英語圏の文化について理解する。 3.英語によるテキストを批判的に読解できるようになる。									
使用教材	R. L. スティーヴンソン著『スティーヴンソン ポケットマスターピース 08』辻原登訳(集英社、2016 年)									
参考文献	講義で指定する。									
評価方法	授業参加度(30%)、課題(40%)、最終試験(30%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	課題については添削・コメントをしたのち返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 1、2 限(9 号館 3 階 304 室)				メールアドレス (#→@)	matsuda-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション・担当の決定								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでくる						1.5	時間
	1	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
2	講義内容	スティーヴンソンと 19 世紀末の医療言説								
	該当到達目標	予習	テキスト「ゴシック・ファンタジー」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
3	講義内容	「ジキル博士とハイド氏」を読解する								
	該当到達目標	予習	「ジキル博士とハイド氏」を読む						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
4	講義内容	「ジキル博士とハイド氏」と 19 世紀末の医療言説								
	該当到達目標	予習	「ジキル博士とハイド氏」を読む						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
5	講義内容	「死体泥棒」を読解する								

	該当到達目標	予習	「死体泥棒」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
6	講義内容	「死体泥棒」と19世紀末の医療言説			
	該当到達目標	予習	「死体泥棒」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
	講義内容	スティーヴンソンと冒険小説			
7	該当到達目標	予習	『宝島』該当部を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
8	講義内容	「声の島」を読解する			
	該当到達目標	予習	「声の島」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
	講義内容	「声の島」と南洋幻想			
9	該当到達目標	予習	「声の島」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
10	講義内容	「ファレサーの浜」を読解する			
	該当到達目標	予習	「ファレサーの浜」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
	講義内容	「ファレサーの浜」と植民地主義批判			
11	該当到達目標	予習	「ファレサーの浜」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
12	講義内容	スティーヴンソンとナショナル・アイデンティティ			
	該当到達目標	予習	『さらわれたデービッド』を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
	講義内容	『さらわれたデービッド』とスコットランドの歴史			
13	該当到達目標	予習	『さらわれたデービッド』を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
14	講義内容	「メリー・メン」を読解する			
	該当到達目標	予習	「メリー・メン」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
	講義内容	「メリー・メン」とスコテッシュネス			
15	該当到達目標	予習	「メリー・メン」を読む	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考					

科目名	英語児童文学論(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES308	
英文名	Studies in English Children's Literature							講義形態	講義	
担当教員	松田 幸子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数		選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	410									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語児童文学の誕生と発展を、トピックに沿って理解する。適宜テキストを参照しつつ、描かれた子どもの表象を確認することで、近代社会の中で理想とされる子ども像がいかに形成されてきたのかを確認する。最終的に、何らかの児童文学作品について論じることができるようになることが、本授業の目的である。また、後半は作品の解説を学生自身が行う。 授業は講義形式で進むが、英語の作品に親しむため、適宜映像資料や英語のテキストを用い、学生は自身で翻訳も行う。									
到達目標	1.英語児童文学を原文で読めるようになる。 2.子どものありようが、英米児童文学のなかでどのように変化してきたのかを学ぶ。 3.多様な社会・文化における子ども像を理解し、教育と文学のかかわりについて考える。									
使用教材	適宜資料を配布する。									
参考文献	講義で指定する。									
評価方法	授業参加度(40%)、課題(20%)、期末課題(40%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題については添削し返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 1、2 限(9 号館 3 階 304 室)				メールアドレス (#→@)		matsuda-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	今まで読んだことのある英米児童文学の作品名を挙げる						1.5	時間
	1	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
2	講義内容	〈子ども〉の発見と児童文学の誕生								
	該当到達目標	予習	テキスト「子どもの発見」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
3	講義内容	教育と児童文学: 乳母・学校・教師								
	該当到達目標	予習	「教育と児童文学」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
4	講義内容	『トム・ブラウン』(1857)と『チョコレート戦争』(1974)								
	該当到達目標	予習	『チョコレート戦争』指定箇所を訳文で読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
5	講義内容	家族と児童文学								
	該当到達目標	予習	「家族と児童文学」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる						1.5	時間
6	講義内容	『小公子』(1886)、『小公女』(1888)、『若草物語』(1868)								

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	『小公子』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
7	該当到達目標 1, 2, 3	講義内容	社会問題と児童文学: 孤児・労働・貧困		
		予習	「社会問題と児童文学」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
		講義内容	『水の子』(1863)と『赤毛のアン』(1908)		
8	該当到達目標 1, 2, 3	予習	『水の子』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
9	該当到達目標 1, 2, 3	講義内容	ファンタジーと児童文学		
		予習	「ファンタジーと児童文学」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
		講義内容	『柳に吹く風』(1911)と『ホビット』(1937)		
10	該当到達目標 1, 2, 3	予習	『柳に吹く風』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
11	該当到達目標 1, 2, 3	講義内容	J. M. バリ『ピーター・パン』①		
		予習	『ピーター・パン』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
		講義内容	J. M. バリ『ピーター・パン』②		
12	該当到達目標 1, 2, 3	予習	『ピーター・パン』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
13	該当到達目標 1, 2, 3	講義内容	『ネヴァーランド』をみる		
		予習	『ネヴァーランド』あらすじをまとめる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
		講義内容	『ピーター・パン』まとめ		
14	該当到達目標 1, 2, 3	予習	『ピーター・パン』と映画の相違点をまとめる	1.5	時間
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
15	該当到達目標 1, 2, 3	講義内容	まとめ: 現代の児童文学		
		予習	「現代の児童文学」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5	時間
		合計時間(予習・復習)			45
備考					

科目名		英語教育学Ⅰ（保育・教育の内容）						科目ナンバリング	CES309		
英文名		English Language Teaching I						講義形態	講義		
担当教員		姉崎 達夫									
科目に関連した実務経験		姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）									
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 5 10									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		英語教育学分野における主なテーマや問題について、これまでの英語教育・教授法の流れを概観しながら、俯瞰的に捉える力を養う。その上で、授業では、第二言語習得研究の知見に基づいた、新しい英語教育のアプローチである「フォーカス・オン・フォーム（FonF）」の理解を深めることを目標とする。また授業では、講義だけでなく、受講生による発表やディスカッションも行う。									
到達目標		1. 伝統的教授法、コミュニケーション言語教授法、フォーカス・オン・フォームの特徴を理解する。■ 2. 日本の英語教育の現場で、複数の教授法をどのように取舍選択、活用すればよいのかを検討できる力を身につける。■									
使用教材		和泉伸一. (2009). 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』. 東京：大修館書店. 2,200 円 ISBN:978-4-469-24547-9									
参考文献		講義内で紹介する。									
評価方法		授業への参加度、発表、レポート(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題のフィードバックは翌週に提示する。音声課題はコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー （研究室）		月曜 2 限、水曜 3 限 （研究室：9 号館 3 階 303）				メールアドレス （#→@）		anezaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・英語教育観と第二言語習得研究									
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						1.5	時間	
	1,2	復習	教科書第 1 章を参考にして、自分がこれまで受けてきた英語教育を振り返りながら、その長所・短所をまとめる。						1.5	時間	
2	講義内容	伝統的教授法（1）：教え方■									
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章の指定された箇所を読む。						1.5	時間	
	1,2	復習	教科書第 2 章の専門用語の意味等を理解する。						1.5	時間	
3	講義内容	伝統的教授法（2）：限界と問題点■									
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章の指定された箇所を読む。						1.5	時間	
	1,2	復習	教科書第 2 章を参考にして、伝統的教授法の長所・短所をまとめる。						1.5	時間	
4	講義内容	コミュニケーション言語教授法（1）：内容中心教授法の特徴■									
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章の指定された箇所を読む。						1.5	時間	
	1,2	復習	教科書第 3 章の専門用語の意味等を理解する。						1.5	時間	
5	講義内容	コミュニケーション言語教授法（2）：内容中心教授法の課題■									
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章の指定された箇所を読む。						1.5	時間	
	1,2	復習	教科書第 3 章を参考にして、内容中心教授法の長所・短所をまとめる。						1.5	時間	

6	講義内容	コミュニケーション言語教授法 (3): タスク中心教授法の特徴 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 4 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	コミュニケーション言語教授法 (4): タスク中心教授法の課題 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 4 章を参考にして、タスク中心教授法の長所・短所をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	第 1 回～第 7 回のまとめ、ディスカッション(日本の英語教育が伝統的教授法からコミュニケーション言語教授法になぜシフトしていったのか) ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章～4 章までをもう一度読む。	1.5 時間
	1,2	復習	日本の英語教育が伝統的教授法からコミュニケーション言語教授法になぜシフトしていったのか、その理由をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (1): FonF の特徴 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 5 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (2): 内容中心教授法と FonF ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	内容中心教授法と FonF の違いをまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (3): タスク中心教授法と FonF ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	タスク中心教授法と FonF の違いをまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (4): FonF の課題 ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 6 章を参考にして、FonF の長所・短所をまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	これからの日本の英語教育 (1): 理解可能なインプットからアウトプットへどう結び付けるか ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 7 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	これからの日本の英語教育 (2): 学習者、学習環境、カリキュラムと教授法を考える ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書第 7 章を参考にして、学習者、学習環境、カリキュラムと教授法の関係について、理解したことをまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	第 9 回～第 14 回のまとめ、ディスカッション(FonF を実際の授業でどのように取り入れて、英語学習への学習者の動機づけと自律性を高めていくか) ■		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 章～7 章までをもう一度読む。	1.5 時間
	1,2	復習	FonF を日本の英語教育でどのように取り入れていけばよいか、その具体的な実践例を検討する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語教育学Ⅱ（保育・教育の内容）							科目ナンバリング	CES310	
英文名	English Language Teaching II							講義形態	講義	
担当教員	鈴木 文也									
科目に関連した実務経験	英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目：中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性を高めるための科目である。特に、英語教育学に基づいて、英語教育の基盤となる歴史的、理論的背景や教授理論を学び、自立して英語を学び続ける力を育み、時代のニーズに応えられる英語教師をめざす。実践的な内容を学ぶ英語科指導法Ⅱの授業と、対になる講義である。 授業は主に講義形式で行い、その都度提示される課題について、その成果をレポートにまとめて提出するという形式で進められる。									
到達目標	1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.中学校英語教育で必要とされる英語教育の歴史的背景や現代の教授理論に関する知識を身につけることができる。 3.英語教育に関する学校現場での問題点を整理して、解決策を講じ実践的に応用することができる。■ 4.学習者や教育現場のニーズに応えられる英語教育の理論を、自ら進んで追求することができる。									
使用教材	教科書『新・英語教育学概論』高梨康雄、高橋正夫、金星堂、2023、3300 円＋税									
参考文献	参考となる文献については、その都度紹介する。									
評価方法	授業参加(10%)、レポート(90%)から総合的に評価する。レポートは各回 6 点満点で、計 15 回。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは、コメントを付けて返却する。									
オフィスアワー （研究室）	火曜日 2 限、木曜日 2 限 (9 号館 306 研究室)				メールアドレス (#→@)	suzuki-b#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、外国語としての英語教育の目的								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書のはじめにと第1章に目を通し、講義の目標と英語教育の目的を理解する。						1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価などを確認する。また、日本の外国語学習の目的を理解できる。						1.5	時間
2	講義内容	外国語教授法と小学校英語教育 ■								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第 2 章と第 11 章に目を通す。						1.5	時間
		復習	外国語教授法と小学校英語教育について理解を深めることができる。						1.5	時間
3	講義内容	我が国における外国語指導法の変遷								
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章に目を通す。						1.5	時間

	1,2,3,4	復習	指導法の変遷を学び、現代の主な指導法を理解できるようになる。	1.5 時間
4	講義内容	授業論 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案に基づく授業展開と授業に関する研究について理解を深め、授業指導に応用できる知識をもつことができる。	1.5 時間
5	講義内容	言語スキルと指導技術 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 5 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	各スキルの指導原理を理解し、指導方法や技術を身につけることができる。	1.5 時間
6	講義内容	ICT を活用した英語教育 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	現代の様々な情報技能を英語教育に応用することの重要性を理解することができる。	1.5 時間
7	講義内容	評価論 ① ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章、第 1 節から第 3 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	評価に関する基本的な概念を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	評価論 ② ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章、第 4 節から第 8 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	観点別評価など 5 領域の実践的な評価を展開できるよう知識を得ることができる。	1.5 時間
9	講義内容	第二言語習得理論から見た英語教育 ①		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章、第 1 節から第 2 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第二言語習得理論から見た、母語修得や学習者要因と、第二言語習得の関係について理解することができる。	1.5 時間
10	講義内容	第二言語習得理論から見た英語教育 ②		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章、第 3 節から第 4 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第二言語習得の説明アプローチについて理解することができる。	1.5 時間
11	講義内容	国際理解教育 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	英語教育の中で扱うことができる国際理解教育について理解することができる。	1.5 時間
12	講義内容	教師論、教育実習 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章と 13 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	求められる教師像と実習生として必要な能力について理解することができる。	1.5 時間
13	講義内容	教材開発		
	該当到達目標	予習	教科書の第 14 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教材作成とその活用について学び、指導に活かすことができる。	1.5 時間
14	講義内容	英文の難易度をいかに測定するか		
	該当到達目標	予習	教科書の第 15 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	英文の難易度の測定の仕方を学び、学習者に適切なレベルの英文を提供できる。	1.5 時間
15	講義内容	英語教育研究法 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 16 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	英語教育関係の卒業研究について、研究方法や論文の書き方について理解することができる。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	質問はメールでも受け付ける。オンラインで実施する、オンデマンド型授業。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	Communicative Classroom English I(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES311	
英文名	Communicative Classroom English I							講義形態	演習	
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験	ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)									
学年・開講期	2年 前期		選必・単位数	選択		2単位				
関連資格	免許・資格指定科目:中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGsとの関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	相互評価(ピアレビュー)									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide a foundation for using English in the Japanese classroom. This course will emphasize the practical application of English teaching through creating, demonstrating, and discussing lessons ideas to promote inclusive and fair practices in the classroom. As English is a global language, mastering teaching practices promotes cooperative opportunities and is a key factor in developing a just and equitable educational system. Students will use a variety of media (for example, puppets, skits, and video) to bring their ideas to life. Students will have individual and group presentations and participate in peer reviews.									
到達目標	1. 教室の英語を使用する際の文化的および言語的な違いを理解する 2. 中学校レベルの指導に適した、流暢で高度な理解力 3. ALTと共同でレッスンを設計、計画、指導、評価できる■									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の2限、水曜日の3限(9号館307研究室)				メールアドレス (#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、中・高等学校の英語の授業に資する5領域の十分な英語運用能力について								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							1.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases							1.5 時間
2	講義内容	家族・友達に関する話題の英語を聞いて、話者の音声的な特徴を理解する力の修得 Mastery of listening to English on topics related to family and friends and understanding the phonetic features of the speakers■								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							1.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases							1.5 時間
3	講義内容	家族・友達に関する話題の英語を聞いて、要旨の把握から細部の内容把握をできる力の習得■ Acquire the Ability to listen to English on topics related to family and friends and understand the gist and details of the content								

	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
4	講義内容	家族・友達に関する話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解する力の習得 Acquisition of The ability to listen to English on topics related to family and friends and understand information, ideas, etc. according to the purpose ■		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	衣食住に関する話題の英語の精読指導を通じた内容理解の力の習得■ Acquisition of content Comprehension skills through instruction in close reading of English on topics related to food, clothing, and shelter		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	衣食住に関する話題の英語の速読指導を通じた内容理解の力の習得 Acquisition of content Comprehension skills through instruction in speed-reading English on topics related to food, clothing, and shelter ■		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	健康・衣食住に関する英語の多読指導を通じた内容理解の力の習得 Acquiring the ability to understand Content through the teaching of multiple readings in English related to health, clothing, food, and housing		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	旅行など趣味に関する話題について、英語で会話をする力(やり取り)の習得 Acquire the ability to converse in English on topics related to hobbies, such as travel.		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	旅行など趣味に関する話題について、英語でディスカッションする力(やり取り)の習得 Ability to discuss topics related to hobbies such as travel in English ■		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	旅行など趣味に関する話題について、英語でスピーチする力(発表)の習得 Acquire the ability to give speeches (presentations) in English on topics related to hobbies, such as travel ■		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	教育や Internet に関する話題について、和文英訳する力の習得■		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	教育や Internet に関する話題について、パラグラフからエッセイまでを英語で書く力の習得 Acquisition of The ability to translate Japanese into English on topics related to education and the Internet ■		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	教育や Internet に関する話題について、手紙や電子メールなどを英語で書く力の習得■ Acquisition of The ability to write letters, e-mails, etc. in English on topics related to education and the Internet		
		該当到達目標 1,2,3	予習 Preparation for the activity	1.5 時間
	講義内容	英文で読んだ内容について自分の考えを加えてスピーチする力(発表)の習得 Acquisition of the ability to Make speeches (presentations) about what you have read in English, adding your own ideas to the content ■		
		該当到達目標	予習 Preparation for the activity	1.5 時間

	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
15	講義内容	他者の発表を聞いて、その話題についてディスカッションする力(やり取り)の習得 Acquisition of the ability to listen to presentations by others and discuss the topics (exchange)		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には Google Classroom を用いる。			

科目名	Communicative Classroom English II(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES312	
英文名	Communicative Classroom English II							講義形態	演習	
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験	ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3458101617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○			○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	相互評価(ピアレビュー)									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide an advanced foundation for using English in the Japanese classroom. This course will emphasize the practical application of English teaching through creating, demonstrating, and discussing lessons ideas to promote inclusive and fair practices in the classroom. As English is a global language, mastering teaching practices promotes cooperative opportunities and is a key factor in developing a just and equitable educational system. Students will use a variety of media (for example, puppets, skits, and video) to bring their ideas to life. Students will have individual and group presentations and participate in peer reviews.									
到達目標	1. 教室の英語を使用する際の文化的および言語的な違いを理解する 2. 中学校レベルの指導に適した、流暢で高度な理解力 3. ALT と共同でレッスンを設計、計画、指導、評価できる■									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。Quizzes and assignments due every week based on the previous week									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 4 限、水曜日の 2 限(9 号館 307 研究室)				メールアドレス (#→@)		stacy#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、文化に関する英語を聞いて理解し、英語で情報交換できる能力の習得								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義内容を把握する。							1.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases							1.5 時間
2	講義内容	文化に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得.Listen to a variety of cultural information, summarize one's own thoughts, and present them in English■								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							1.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases							1.5 時間
3	講義内容	文化に関するアイデアを英語で発表し、評価する(ピアレビュー)Present and evaluate ideas (peer review) about culture in English■								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity							1.5 時間
	1,2,3	復習	Review the new words and phrases							1.5 時間

4	講義内容	英語で教授法について議論する能力を身につける(グループワーク) Acquiring the ability to discuss teaching methods in English (groupwork) ■。		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
5	講義内容	教育に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 Listen to various information on education, summarize one's own ideas and present them in English ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
6	講義内容	英語による模擬授業を作成し、評価する(相互評価) Create a mock lesson in English and evaluate it (peer evaluation) ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
7	講義内容	Internet に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 Listen to various information about the Internet, discuss thoughts, and present them in English. ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
8	講義内容	Internet に関連した英語の模擬授業を作成する。 ■ Create a model lesson in English related to the Internet ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
9	講義内容	グループ内で仲間と一緒にインターネット模擬授業を評価する Evaluate Internet mock lessons with peers in groups ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
10	講義内容	感情に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 Listen to a variety of information about emotions, summarize one's thoughts, and present them in English ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
11	講義内容	感情の役割について英語で議論し、英語で模擬授業を作成し発表する。 Discuss in English about the role of emotions and create and present a mock lesson in English ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
12	講義内容	感情をテーマにした模擬授業を英語で議論し、評価する力を身につける Acquire the ability to discuss and evaluate mock lessons about emotions in English ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
13	講義内容	社会問題に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 Listen to a variety of information on social issues, summarize one's thoughts, and present them in English ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
14	講義内容	社会問題についての模擬授業を行い、考えをまとめ、英語で発表する能力を身につける。 Conduct mock classes on social issues, summarize their thoughts, and present their ideas in English. ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
15	講義内容	社会問題についての考えを英語で議論し、評価する(ピアレビュー)能力を身につける。 Acquire the ability to discuss and evaluate (peer review) ideas about social issues in English ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

科目名	Writing for English Teaching(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES313	
英文名	Writing for English Teaching							講義形態	講義	
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した 実務経験	ALT として小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3458101617									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○				○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	相互評価									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	Students will keep a writing journal for weekly assignments. Students will work in groups and discuss writing techniques. Students must come prepared to speak in English about their writing. As English is a global language, mastering good writing practices promotes future skills to promote cooperative opportunities between peoples and is a key factor in developing partnerships to build a just and equitable world. In the classroom, we will study how to use English as a tool to promote fairness and inclusion. We will analyze texts to learn the various purposes of writing and how to incorporate writing activities into the school English curriculum through mock lessons.									
到達目標	1. To understand the writing process 2. To improve and develop writing skills for effective communication for teaching in schools■ 3. To be able to analyze reading passages and write in the 7 different genres of writing									
使用教材	Provided by instructor									
参考文献										
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対す る フィードバック方法	レポートは添削・コメントを付した後返却する。期末試験は採点后返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 4 限、水曜日の 2 限(9 号 館 307 研究室)				メールアドレス (#→@)		stacy-c#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Introduction: Understanding writing genres								
	該当到達目標	予習	Writing journal (every week)						1.5 時間	
	1,2,3	復習	Review new words and phrases						1.5 時間	
2	講義内容	Mentor texts and descriptive writing. Students will work in groups to understand how to categorize texts■								
	該当到達目標	予習	Writing journal (every week)						1.5 時間	
	1,2,3	復習	Review new words and phrases						1.5 時間	
3	講義内容	Descriptive writing■								
	該当到達目標	予習	Writing journal (every week)						1.5 時間	
	1,2,3	復習	Review new words and phrases						1.5 時間	
4	講義内容	Narrative writing character and setting■								

	該当到達目標 1,2,3	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
5	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Narrative writing story forms. Students will give peer feedback on story writing entries■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Expository writing – general students will work in groups to discuss feathers of expository writing. ■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Expository descriptive writing elements- in groups, students will analyze junior high textbook expository writing. ■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Mid term test	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Study new words and phrases	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Compare and Contrast writing. Students will create a mock lesson using comparison■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Cause and effect writing Students will work in groups to analyze news for cause and effect■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Problem and solution writing Students will present a solution to a global problem.■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Sequence writing Students will give presentation on their “how to” journal entries■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Persuasive writing ■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Presentations■	
		予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3	講義内容	Final review	
		予習	Writing journal (summary)	1.5 時間
		復習	Review new words and phrases	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には Google Classroom を用いる			

科目名	Speech Workshop(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES314	
英文名	Speech Workshop							講義形態	講義	
担当教員	ステイシー・クローズ									
科目に関連した実務経験	ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 前期		選必・単位数		選択 2単位					
関連資格	免許・資格指定科目:中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGsとの関連	2 3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○		○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	相互評価									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	The goal of this course is to provide an advanced foundation for speaking English in a Japanese classroom environment. Students will work in pairs and groups to create, discuss and evaluate presentation techniques. As English is a global language, mastering speaking practices promotes future skills to promote cooperative opportunities between different peoples and is a key factor in developing partnerships to build an equitable world. In the classroom, we will study how to use spoken English appropriately to promote fairness and inclusion. Students will prepare individual presentations on a variety of topics, including live, poster and computer based. Students will work in groups to construct, deliver and critique their work.									
到達目標	1. 適切に設計されたプレゼンテーションの原則を学ぶ 2. 英語を話すプレゼンテーションの自信を高める 3. プレゼンテーションを行うスキルを開発する ■									
使用教材	Materials provided									
参考文献										
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。									
オフィスアワー(研究室)	月曜日の2限、水曜日の3限(9号館307研究室)				メールアドレス(#→@)	stacy-c#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、中・高等学校の英語の授業に資する5領域の十分な英語運用能力について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義内容を把握する。						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						1.5	時間
2	講義内容	様々なジャンルや話題の英語のスピーチを聞いて、話者の音声的な特徴を理解する力の習得 Understand the main types of speech and the elements of presentation through group presentations■								
	該当到達目標	予習	Presentation 1 Impromptu						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases						1.5	時間
3	講義内容	即興での英語を聞いたり話したりして、要旨の把握から細部の内容把握をできる力の習得 Giving and discussing impromptu speeches on a variety of topics.■								
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity						1.5	時間

	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
4	講義内容	様々なジャンルや話題の英語の例を見聞きて、情報を提供するスピーチの構成を理解する力の習得 Give an informative speech through watching and listening to examples ■		
	該当到達目標	予習	Presentation 2	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
5	講義内容	様々なジャンルや話題の英語の精読を通して、発表内容を理解する力の習得 Learning the ability to understand presentation content through careful reading of English in various genres and topics ■		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
6	講義内容	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、内容を理解する力の習得 Discuss speech acts as they apply to Junior High school text books		
	該当到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
7	講義内容	様々なジャンルや話題の英語の多読指導を通じた内容理解の力の習得 Plan and design mock lessons using technology by reading, watching videos, using powerpoint ■		
	該当到達目標	予習	Presentation 3	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
8	講義内容	ビデオや他者のスピーチを聞いて、説得力のある発表について理解する力の習得。 Understand about persuasive speeches through watching video and listening to others		
	該当到達目標	予習	Preparation for the midterm exam	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
9	講義内容	新聞を読むことや周りのできごとを通して、中・高校生のスピーチについて英語で議論する力の習得。 Discuss relevant high school and junior high speech topics through reading newspapers and current events		
	該当到達目標	予習	Prepare for activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
10	講義内容	英語で説得力のあるスピーチを行い、英語で聞き手と意見交換(やり取り)をする力の習得(相互評価)。 Give a persuasive speech and get feedback from classmates ■		
	該当到達目標	予習	Prepare for activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
11	講義内容	寸劇を通してスピーチにおける体やジェスチャーの役割を理解する力の習得 Understand the role of the body and gestures in speech through making a skit		
	該当到達目標	予習	Prepare for activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
12	講義内容	スピーチにおける音声の正しい使い方(音声の明瞭性)について理解する力の習得。 Learn to use the voice correctly in speech: volume, tone, and clarity		
	該当到達目標	予習	Prepare for activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
13	講義内容	メモを取ったりあらすじを書いたりして、スピーチを企画、構成する力の習得。 Learn the ability to plan and organize your speech through writing notes and outlines		
	該当到達目標	予習	Prepare for activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
14	講義内容	様々なジャンルや話題の英語を自分の考えを加えてスピーチする力(発表)の習得 Mastering the ability (speech) to speak in a variety of genres and topics		

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare for activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
15	講義内容	他者の発表を聞いて評価し、その話題についてディスカッションする力(やり取り)の習得 Acquire the ability to give, evaluate, and discuss speeches based on mastery of English content, using appropriate voice and gestures■		
		該当到達目標	予習	Prepare for activity
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
		合計時間(予習・復習)		
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には Google Classroom を用いる			

科目名	異文化コミュニケーション論(保育・教育の内容)						科目 ナンバリング	CES315		
英文名	Studies in Intercultural Communication						講義形態	講義		
担当教員	松田 幸子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数		選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	3	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 10 11									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	異文化について理解するための議論を参照しつつ、「文化とは何か」、「見える文化」と「見えない文化」、ステレオタイプ、集団主義と個人主義、外国語の学習、交渉力など、異文化間コミュニケーションにおける基本的な事項について学ぶ。国際化しつつある現代の教育現場において必要とされる異文化についての理解、コミュニケーション・スキルを得ることが、この講義の目的である。 授業は講義形式で行うが、異文化コミュニケーションの体験を促すため、2 度の課外活動を行う。									
到達目標	1.グローバル化社会における多様性と異文化理解の必要性を学ぶ。 2.グローバル化しつつある現代の教育現場において必要とされるコミュニケーション・スキルを身につける。 3.多文化主義を教育現場においてどのように実践するかについて学ぶ。									
使用教材	八代京子ほか『異文化コミュニケーションワークブック』(三修社、2001 年)									
参考文献	講義で指定する。									
評価方法	授業参加度(30%)、課題(20%)、最終試験(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	課題については添削・コメントをしたのち返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 2 限(9 号館 3 階 304 室)				メールアドレス (#→@)		matsuda-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章「異文化コミュニケーションとは」を読んでくる						1.5	時間
	1	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解						1.5	時間
2	講義内容	ステレオタイプ・異文化理解への態度								
	該当到達目標	予習	テキスト「ステレオタイプ」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解						1.5	時間
3	講義内容	文化とコミュニケーション								
	該当到達目標	予習	テキスト「文化とコミュニケーション」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解						1.5	時間
4	講義内容	コンテキスト・双方向コミュニケーション								
	該当到達目標	予習	テキスト「コンテキスト」について読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解						1.5	時間
5	講義内容	自己開示								
	該当到達目標	予習	テキスト「自己開示」を読んでくる						1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解						1.5	時間

	講義内容	パラ言語			
6	該当到達目標	予習	テキスト「パラ言語」について読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	言語コミュニケーション			
7	該当到達目標	予習	テキスト「言語コミュニケーション」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	非言語コミュニケーション			
8	該当到達目標	予習	テキスト「非言語コミュニケーション」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	空間と対人距離			
9	該当到達目標	予習	テキスト「空間と対人距離」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	価値観:ことわざ			
10	該当到達目標	予習	テキスト「価値観」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	異文化ケース・スタディー・基本価値志向			
11	該当到達目標	予習	「異文化ケース・スタディー」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	対立管理スタイル			
12	該当到達目標	予習	テキスト「対立管理スタイル」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	共感(エンパシー)			
13	該当到達目標	予習	テキスト「共感(エンパシー)」について読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	D.I.E.メソッド			
14	該当到達目標	予習	テキスト「D.I.E.メソッド」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
	講義内容	アサーティヴ・コミュニケーションとエポケー			
15	該当到達目標	予習	テキスト「アサーティヴ・コミュニケーション」を読んでくる	1.5	時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	オンライン授業の場合、オンデマンド形式で動画を配信し、内容に応じたワークシートによって授業を進める。				

科目名	ヨーロッパ思想と多文化理解(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES501	
英文名	History of European Culture and Philosophy							講義形態	講義	
担当教員	石原 綱成									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		問題発見・解決力								
SDGs との関連	5 10 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義は保育者・教育者をめざす学生が、より広い視野を持ち、社会により実践的に関することで、豊かな人間性を育むことができる科目である。 多様な文化を学ぶことで、自己を相対化し、他者理解を深めることをテーマにしている。 講義の進め方は、レポート、発表(報告)、文献購読、視覚教材にて行う。講義に関して必ずフィードバックを行う。									
到達目標	1. あらゆる文化を総合的に理解できる 2. 異なる文化を学ぶことで、自国の文化を相対的に理解できる。 3. 保育者・教育者に必要な豊かな教養を身に着けることができる。 4. 国際紛争の原因を理解することにより、異文化理解を深めることができる。									
使用教材	講義スライドの資料を配布する。									
参考文献	担当教員が逐次紹介する。									
評価方法	学期末にレポート課題 50 点、与えられたテーマのプレゼンテーション 30 点、日常点 20 点									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜3限、金曜 2 限 (8 号館 501 研究室)				メールアドレス (#→@)		ishihara#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。							1.5 時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。							1.5 時間
2	講義内容	子どもの発見ーアリエスの学説								
	該当到達目標	予習	アリエスの『子供の発見』の指定されたページを読む。							1.5 時間
	1,2,3	復習	現代の子ども観を再考する。							1.5 時間
3	講義内容	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って①								
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとにブリューゲルの芸術作品を理解する。							1.5 時間
	1,2, 3	復習	「子どもの遊戯」の図像のテーマを理解する。							1.5 時間
4	講義内容	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って②								
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。							1.5 時間
	1,2, 3	復習	中世の子ども像を概観する。							1.5 時間
5	講義内容	絵で読む子供の社会史①								
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。							1.5 時間
	1,2, 3	復習	中世の子ども像を概観する。							1.5 時間
6	講義内容	歴史の中の女性①ージェンダーの起源ー								

	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに図像に現れた女性の姿を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	近世における女性像を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	歴史の中の女性②ー聖書の中の女性ー		
	該当到達目標	予習	キリスト教の教義を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	配布した聖書を読む。	1.5 時間
8	講義内容	世界の宗教を理解する。ーキリスト教ー		
	該当到達目標	予習	キリスト教の教義を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	キリスト世界の特徴を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	世界の宗教を理解する。ー仏教ー		
	該当到達目標	予習	仏教の教えを理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	多神教と一神教の特色を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	教育史のなかの「よい子」を考えるー戦中の教育ー		
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに戦争中現れた子どもの姿を理解する。	1.5 時間
	1,2, 3,4	復習	軍事教育とは何かを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	戦争の本質ー多文化理解欠如の悲惨ー		
	該当到達目標	予習	戦争の歴史を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	戦争の原因を理解する。帝国主義の末路を考える。	1.5 時間
12	講義内容	原子爆弾投下の背景		
	該当到達目標	予習	原子爆弾の構造と破壊力への理解。	1.5 時間
	1,2,4	復習	ヒロシマ・ナガサキで起こったことを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ナチス・ドイツと戦争		
	該当到達目標	予習	ホロコーストについて調べる	1.5 時間
	1,2,4	復習	人種差別の問題を問い直す	1.5 時間
14	講義内容	ハンナ・アーレントと全体主義		
	該当到達目標	予習	ハンナ・アーレントの思想を理解する。	1.5 時間
	1,2,4	復習	全体主義の現代的意味を考察する	1.5 時間
15	講義内容	多文化理解と他者理解		
	該当到達目標	予習	今までの授業を総合的に振り返る。	1.5 時間
	1,2, 3,4	復習	教育者・保育者が心がけるべき「平和」を考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	表現演習(保育・教育の内容)							科目 ナンバリング	CES502	
英文名	Expression Practice							講義形態	演習	
担当教員	岡本 拓子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする 資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子どもを対象とした人形劇やミュージカル等の舞台制作について、企画、台本制作、演出、舞台装置や衣装制作等を行い、さらにそれらを演じる技術を習得し発表する。また、保育・教育現場において子どもが発表会等で行う表現活動の指導方法についても実践を通して学ぶ。 授業は演習形式でグループワークを中心に行う。毎時、取り組むテーマに関するプリント等を配布し、要点について説明を行った後、グループで課題に取り組む時間を設ける。									
到達目標	1. 子どもを対象とした表現発表の舞台制作を企画立案し、制作・発表を行う。 2. 保育・教育現場における子どもの表現活動の指導方法の実際を学ぶ。									
使用教材	毎時資料等を配布する。									
参考文献										
評価方法	課題への取り組み 40%, 期末レポート 60%を総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎授業ごとに振り返りの時間を設け、次週までの課題を明確にして共有をはかる。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404				メールアドレス (#→@)		岡本:okamoto#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション。授業の概要説明とグループ分け。演目検討。								
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標を理解する。							1 時間
	1	復習	講義内容、評価方法を確認する。							1 時間
2	講義内容	台本制作、演出、舞台装置、衣装制作、出演者等の役割ごとの作業確認と準備。								
	該当到達目標	予習	どのような表現媒体を用いるか、検討しておく。							1 時間
	1	復習	授業時間内でまとまらなかった意見について検討しておく。							1 時間
3	講義内容	各グループの演目について発表し、意見交換を行い内容についての再検討。								
	該当到達目標	予習	演目について発表準備を行う。							1 時間
	1	復習	表現媒体の準備を進める。							1 時間
4	講義内容	音楽練習。使用楽曲の選曲、パート練習								
	該当到達目標	予習	予め使用楽曲について調べておく。							1 時間
	1	復習	音楽練習を進めておく。							1 時間

5	講義内容	立ち稽古① 実際に演じながら練習および演技指導。		
	該当到達目標	予習	台本制作等準備を行う。	1 時間
	1	復習	修正点をグループ内で共有し練習する。	1 時間
6	講義内容	中間発表。各グループの演目を発表し、意見交換、演技指導。		
	該当到達目標	予習	中間発表に向けてグループ内で課題について検討しておく。	1 時間
	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
7	講義内容	立ち稽古② 中間発表を踏まえて、修正、演技指導。		
	該当到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
8	講義内容	通しリハーサル① 照明、衣装、舞台装置等確認		
	該当到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
9	講義内容	通しリハーサル② 最終リハーサル		
	該当到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
10	講義内容	舞台発表		
	該当到達目標	予習	準備不足のないようグループ内で意見交換を行っておく。	1 時間
	1	復習	発表の反省と評価を行う。	1 時間
11	講義内容	発表後の振り返り 反省と評価		
	該当到達目標	予習	課題を明確にしておく。	1 時間
	1,2	復習	他者の意見を受けて、グループあるいは個々の課題を明確化する。	1 時間
12	講義内容	子どもの発表会における表現活動の指導方法について。模擬保育の内容検討		
	該当到達目標	予習	模擬保育に実施する内容について検討しておく。	1 時間
	2	復習	授業内でまとまらなかった課題についてさらに検討しておく。	1 時間
13	講義内容	表現活動の指導について。指導案の作成		
	該当到達目標	予習	指導案作成に向けての教材研究を事前に行っておく。	1 時間
	2	復習	授業内でまとまらなかった指導案の作成を終わらせておく。	1 時間
14	講義内容	模擬保育 グループごとに発表し相互に評価し合う。		
	該当到達目標	予習	模擬保育に向けて必要な準備を各自で進める。	1 時間
	2	復習	反省点の振り返りを行う。	1 時間
15	講義内容	指導案再検討 模擬保育後の反省と評価。指導案の再検討を行う。		
	該当到達目標	予習	指導案再検討に向けて課題を明確にしておく。	1 時間
	2	復習	個々の課題を明確にし、実践にいかす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	絵本論(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES503	
英文名	Studies of Picture Story Books							講義形態	演習	
担当教員	今井 邦枝									
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養						多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)		
	5	専門的知識					2	自律的・意欲的に学習する力		
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育の現場において絵本は、多く使われている児童文化材の一つであり、子どもたちが楽しむことができる媒体である。この講義では多くの絵本に触れ、絵本の特性や種類などについて理解を深める。また、子どもに読み聞かせをする際の絵本の選択の仕方、絵本の読み聞かせに関する方法を習得する。各自行った絵本分析を順番に発表し、それについてディスカッションする形式で授業を進める。									
到達目標	1.児童文化材の一つである絵本についての種類や特性を理解する。 2.保育教材として絵本を捉え、保育現場での活用法などを学び、実践力を養う。■									
使用教材	各時間に必要な絵本を指定するので、図書館などで用意をすること。									
参考文献	授業内に提示する。									
評価方法	絵本分析シート(15 回提出)90%、授業の参加度 10%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された絵本分析シートは、適宜返却するので、各自見直しておくこと。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 4 限、火曜 4 限(8 号館 5 階 507)				メールアドレス (#→@)		kimai#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	児童文化材としての絵本								
	該当到達目標	予習	自分の好きな絵本を準備し、読む。							0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。							0.5 時間
2	講義内容	保育教材としての絵本								
	該当到達目標	予習	子どもに読んであげたい絵本を準備し、読む。							0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。							0.5 時間
3	講義内容	絵本の種類①:赤ちゃん絵本								
	該当到達目標	予習	赤ちゃん絵本を準備し、読む。							0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。							0.5 時間
4	講義内容	絵本の種類②:創作・物語絵本								
	該当到達目標	予習	創作・物語絵本を準備し、読む。							0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。							0.5 時間
5	講義内容	絵本の種類③:昔話・民話絵本								
	該当到達目標	予習	昔話・民話絵本を準備し、読む。							0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。							0.5 時間
6	講義内容	絵本の種類④:知識絵本(科学絵本、図鑑絵本、数の絵本)								
	該当到達目標	予習	知識絵本を準備し、読む。							0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。							0.5 時間

7	講義内容	絵本の種類⑤:言葉の絵本、文字のない絵本、写真絵本		
	該当到達目標	予習	ことば絵本、文字なし絵本、写真絵本などを準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
8	講義内容	絵本の種類⑥:しかけ絵本		
	該当到達目標	予習	しかけ絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
9	講義内容	絵本の歴史		
	該当到達目標	予習	出版年を確認し、古い絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
10	講義内容	絵本分析方法論		
	該当到達目標	予習	比較する2冊の絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
11	講義内容	絵本分析①(構造分析)		
	該当到達目標	予習	構造的に面白い絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
12	講義内容	絵本分析②(ストーリー分析)		
	該当到達目標	予習	ストーリー展開が面白い絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
13	講義内容	絵本分析③(教材分析) ■		
	該当到達目標	予習	保育に良く用いられる絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1, 2	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
14	講義内容	保育現場での絵本の展開 ■		
	該当到達目標	予習	実習で読んだことのある絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
15	講義内容	読み聞かせの実践方法、まとめ ■		
	該当到達目標	予習	読み聞かせをしたい絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	・絵本を事前に準備すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	家庭教育と幼児教育(保育・教育の内容)							科目ナンバリング	CES504	
英文名	Home-based Education and Early Childhood Education and Care							講義形態	講義	
担当教員	今井 麻美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34589101617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	既習の内容を踏まえ、本授業では、家庭教育と幼児教育、それぞれの役割や機能、両者の関係性に関する議論を歴史的に学ぶ。さらに、現在、家庭教育と幼児教育との関係は、どのように位置づけられているのかについて議論を通して、理解を深める。授業は、関係する文献を読み進めながら進む。									
到達目標	1. 家庭教育と幼児教育、それぞれの役割や機能、両者の関係性に関する議論を歴史的に理解する。 2. 家庭教育と幼児教育、それぞれ独自の役割や機能について自分なりに考えを深めることができる。									
使用教材	適宜資料を配布する									
参考文献										
評価方法	議論への参加意欲、貢献 40%、最終レポート 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題の意義について説明する。 提出された課題にはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー：火曜 3 限、金曜 2 限 研究室：8 号館 5 階 504				メールアドレス (#→@)		imai-a@takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する							1.5 時間
	1,2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する							1.5 時間
2	講義内容	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ①幼児教育の誕生								
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む							1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する							1.5 時間
3	講義内容	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ②両者の対等性								
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む							1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する							1.5 時間
4	講義内容	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ③現在の問題と課題								
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む							1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する							1.5 時間
5	講義内容	近代家族と「学校」								
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む							1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する							1.5 時間
6	講義内容	近年の家庭教育関係施策								

	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
7	講義内容	行政文書から捉える「家庭教育」		
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
8	講義内容	メディアから捉える「家庭教育」		
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
9	講義内容	家庭教育と幼児教育に対する自分たちのものの見方		
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
10	講義内容	家庭教育言説から捉える子ども像, 親像 ①文献検討		
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
11	講義内容	家庭教育言説から捉える子ども像, 親像 ②ディスカッション		
	該当到達目標	予習	他者と共有したい内容を整理する	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションを通して, 気づいたことを整理する	1.5 時間
12	講義内容	家庭教育から幼児教育への移行 ①親にとっての変化		
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
13	講義内容	家庭教育から幼児教育への移行 ②親子が保育者と関わることの意味		
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
14	講義内容	家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義 ①グループディスカッション		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容を振り返り, 自分なりの考えを整理する	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションを通して, 気づいたことを整理する	1.5 時間
15	講義内容	家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義 ②レポート作成		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容を振り返り, 自分なりの考えを整理する	1.5 時間
	1,2	復習	レポートを読み返し, 自分自身のものの見方がどのように変化したのかについて考えたり, 気づいたりする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、C-learning を用いてオンデマンド型授業とします。			

科目名	パーソナリティの心理学(保育・教育の内容)						科目ナンバリング	CES505		
英文名	Personality Psychology						講義形態	講義		
担当教員	佐々木 典彰									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	4	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ② 講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 パーソナリティ(性格や個性)が何によって規定されるかについて学び、教師に求められるパーソナリティについて考察する。 ② 講義の実施方法 適宜、性格テスト等を実施し、自分のことを客観的に調べたり体験したりしながら学ぶ。									
到達目標	1. パーソナリティが何によって規定されるかを理解する。 2. 子どもや保護者のパーソナリティをどのように捉えることが望ましいかを理解する。									
使用教材	テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。									
参考文献	ジュディス・リッチ・ハリス著 子育ての大誤解(上・下) 早川書房 その他、適宜紹介する。									
評価方法	レポート課題 70 点、リアクションペーパー30 点、計 100 満点で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート課題にコメント等を付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、水曜日 3 限 (8 号館 409 研究室)				メールアドレス (#→@)					
1	講義内容	性格とは何か								
	該当到達目標	予習	「パーソナリティ」について文献やインターネット等で調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
2	講義内容	性格は何によって規定されるか								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
3	講義内容	親のしつけは子どもの性格に影響を及ぼすのか								
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。						1.5	時間

	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
4	講義内容	生まれ持つ性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
5	講義内容	好き嫌いの性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
6	講義内容	心の安全装置(防衛機制)と性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
7	講義内容	自尊心と性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
8	講義内容	性格に対する思い込み			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1,2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
9	講義内容	教師の性格、保育者の性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
10	講義内容	県民性と性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
11	講義内容	表情と性格			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
12	講義内容	事例をもとに子どもの性格を考える①			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
13	講義内容	事例をもとに子どもの性格を考える②			
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
14	講義内容	事例をもとに保護者の性格を考える			

	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5	時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5	時間
15	講義内容	振り返り			
	該当到達目標	予習	全体のポイントを振り返る。	1.5	時間
	1,2	復習	レポート課題に取り組む。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	C-learning を活用する場合がある。				

科目名		特別の支援を必要とする子ども理解と支援法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW002	
英文名		Understanding and Supporting Children with Special Need							講義形態	講義	
担当教員		千葉 千恵美 五十嵐一徳									
科目に関連した実務経験		千葉:公立保育所に保育士として勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数		必修 2 単位						
関連資格		免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		① ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童生徒の学習上又は生活上の困難上の理解を目指す。 ② 個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を目指す。■ 授業の進め方:配布した講義用プリントに基づき授業を行う。授業内容によっては視覚機器を用いながら説明を行う。毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式をとる。									
到達目標		10. 特別な支援を必要とする子どもについて説明出来る。 11. 特別な支援を必要とする子どもへの教育的対応について説明出来る。 12. 特別な支援を必要とする子どもに対する支援システムについて説明出来る ■									
使用教材		講義のスライド等を随時プリントして配布する。									
参考文献		授業内で紹介する									
評価方法		定期試験 70%と毎回のリアクションペーパー30%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		コメントに対して、随時授業内でフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)		千葉千恵美(8号館4階401):火曜日4.5限目 五十嵐一徳(8号館5階506):木曜日2限目,金曜日2限目				メールアドレス (#→@)		千葉: chiba#takasaki-u.ac.jp 五十嵐: igarashi-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	特別の支援が必要とする子ども理解とは									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義目標等を理解する。							1.5	時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							1.5	時間
2	講義内容	特別支援教育の概要とシステム									
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し予習する。							1.5	時間
	1,2	復習	特別支援教育の概要とシステムについて理解する。							1.5	時間
3	講義内容	障害の基礎知識									
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容についてふれる。							1.5	時間
	1	復習	講義内容の資料を読み返し、障害の基礎知識について理解を深める。							1.5	時間
4	講義内容	知的障害の理解									
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。							1.5	時間
	1	復習	講義内容の資料を読み返し、知的障害について理解を深める。							1.5	時間
5	講義内容	発達障害の理解 I 自閉症スペクトラム障害									
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。							1.5	時間

	2	復習	講義内容の資料を読み返し、自閉症スペクトラムについて理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	発達障害の理解 II ADHD・LD		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 時間
	1	復習	講義内容の資料を読み返し、ADHD・LD について理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	発達障害の理解 III 言語障害・情緒障害		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 時間
	1	復習	講義内容の資料を読み返し、言語障害・情緒障害の理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	運動・感覚面に困難のある幼児・児童生徒の理解		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 時間
	1	復習	講義内容資料を読み返し、運動・感覚面に困難のある児童の理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	通常学級における教育的支援		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる	1.5 時間
	2	復習	講義資料を読み返し、通常学級の教育支援が必要な児童の理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	特別の支援を必要とする幼児・児童生徒への個別的支援■		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 時間
	2	復習	講義資料を読み返し、特別の支援が必要な幼児・児童生徒の理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	外国籍や貧困問題のある子ども等特別の教育的ニーズのある子どもの理解		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 時間
	1	復習	講義資料を読み返し、外国籍や貧困家庭の子どもについての理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	幼稚園・保育所における特別の支援が必要とする幼児への支援		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 時間
	2	復習	講義資料を読み返し、特別支援が必要な幼稚園等幼児の理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	乳幼児時期への支援システム		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 時間
	3	復習	講義資料を読み返し乳幼児に向けた支援システムの理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	関係機関との連携・協働■		
	該当到達目標	予習	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる	1.5 時間
	3	復習	講義資料を読み返し、関係機関との連携・協働の必要性の理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 特別の支援を必要とする子どもがいたら家族支援		
	該当到達目標	予習	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する	1.5 時間
	2,3	復習	講義資料をまとめ、総合的に特別支援を必要とする子どものまとめをする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORDS 特別の支援 子どもの理解 支援方法 (■は実務経験に基づく内容を示す。) ・オンラインで実施する場合、c-learning を通じて課題を提示する。			

科目名	子どもの理解と援助(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW112		
英文名	Understanding and Supporting Children							講義形態	演習		
担当教員	内田 祥子										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位								
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	34										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	こども理解は保育のあらゆる営みの基本となるものである。こどもの生活や遊びの実態に即して、こども一人ひとりの発達や学び及びその過程で生じるつまずきを把握し指導を改善するための原理や対応の方法を学ぶことを目指す。様々な記録方法や事例検討を通じて、子どもの発達や心情を理解する方法を具体的に示す。										
到達目標	1. 幼児理解の意義を理解している 2. 幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している 3. 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している 4. 観察及び記録の意義並びに目的に応じた観察方法等の基礎的な事柄を例示することができる。 5. 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解している 6. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係及びその他の背景から理解することができる。 7. 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。										
使用教材	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 認定こども園教育保育要領解説										
参考文献	授業時に紹介する										
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価の具体的方法と基準は初回にアナウンスする										
課題・評価に対するフィードバック方法	課題にコメントし、返却する										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1、2 限(8 号館 410 研究室)				メールアドレス (#→@)	uchida-s#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	幼児理解とは									
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んでくる						1.5	時間	
		復習	授業の内容に関する小レポート						1.5	時間	
2	講義内容	過去の実習記録を振り返る									
	該当到達目標 1・2・3	予習	講義テーマについて考え、自分なりの考えを書いてくる						1.5	時間	
		復習	授業の内容に関する小レポート						1.5	時間	
3	講義内容	保育における幼児理解の特質									
	該当到達目標 1・2・3	予習	保育における子ども理解の特質と意義について考え、自分なりの考えを書く						1.5	時間	
		復習	授業の内容に関する小レポート						1.5	時間	
4	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法①時系列記録									
	該当到達目標	予習	時系列記録の特徴をまとめる						1.5	時間	

	1・2・3・4	復習	時系列記録を作成する	1.5	時間
5	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法②個人記録			
	該当到達目標	予習	個人記録の特徴をまとめる	1.5	時間
	1・2・3・4・5	復習	個人記録を作成する	1.5	時間
6	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法③エピソード記録			
	該当到達目標	予習	エピソード記録の特徴をまとめる	1.5	時間
	1・2・3・4・5	復習	エピソード記録を作成する	1.5	時間
7	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法④環境図記録			
	該当到達目標	予習	環境図記録の特徴をまとめる	1.5	時間
	1・2・3・4・5	復習	環境図記録を作成する	1.5	時間
8	講義内容	気になる子どもの理解と方法			
	該当到達目標	予習	気になる子どもの理解においてどのような視点が重要かを考える	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6	復習	授業内容に関する小レポート	1.5	時間
9	講義内容	気になる子どもの理解と対応①気持ちのコントロールが苦手			
	該当到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
10	講義内容	気になる子どもの理解と対応②自己表現が苦手			
	該当到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
11	講義内容	気になる子どもの理解と対応③集団活動が苦手			
	該当到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
12	講義内容	保育におけるカウンセリングマインドの意義			
	該当到達目標	予習	カウンセリングマインドとはなにか、自分なりの考えを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6・7	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
13	講義内容	保護者への対応(連絡帳等の活用)			
	該当到達目標	予習	保護者への対応に関して、自分なりの考えを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6・7	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
14	講義内容	視聴覚機器を用いた記録の意義			
	該当到達目標	予習	ビデオカンファレンスの意義について自分なりの考えを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6・7	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
15	講義内容	現代の保育におけるこども理解の課題			
	該当到達目標	予習	講義全体を通じて学んだことを書いてくる	1.5	時間
	1・2・3・4・5・6・7	復習	授業の内容に関する小レポート	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考					

科目名	造形(保育・内容の方法と技術)							科目ナンバリング	LAH005		
英文名	Artistic Theory and Practice for Nursery teachers							講義形態	演習		
担当教員	石原綱成										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択・必修 2 単位							
種別	免許・資格指定科目:保育士										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	3	専門的知識					自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○	○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、実際の制作を通して、教育者・保育者に必要な専門的知識を身につけ、豊かな人間性を育むことを目標としている。さらに、造形表現を通して、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、豊かな人間性を持った保育者を養成する。										
到達目標	1.子どもの造形原理を理解できる。 2.保育者に必要な造形への実践力が身につく。 3.保育現場にてすぐに役立つ造形の指導力がつく。 4.保育者に必要な人間力をつけることができる。										
使用教材	授業中に行った制作を作品として提出することにより評価する。										
参考文献	教科書は使用せず、逐次制作のプリントを配布する。必要な教材は別途指示する。										
評価方法	授業中に逐次指示する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回課題を出し、完成させる。 課題の意味や意義は毎回解説する。 制作のアドバイスは丁寧に行う。										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限、木曜日 4 限				メールアドレス (#→@)	Ishihara#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する							1.5	時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する							1.5	時間
2	講義内容	子どもの絵画の原理を学ぶ①(子どもの絵画の造形原理)									
	該当到達目標	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく							1.5	時間
	1,2,4	復習	課題を完成させる							1.5	時間
3	講義内容	子どもの絵画の原理を学ぶ②(対象へのまなざし)									
	該当到達目標	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく							1.5	時間
	1,2,4	復習	課題を完成させる							1.5	時間
4	講義内容	子どもと画材①(クレヨンの特色と使い方を学ぶ)									
	該当到達目標	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく							1.5	時間
	1,2,4	復習	課題を完成させる							1.5	時間
5	講義内容	子どもと画材②(絵の具の特色と使い方を学ぶ)									
	該当到達目標	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく							1.5	時間
	1,2,4	復習	課題を完成させる							1.5	時間
6	講義内容	子どものイメージネーションを考える(糸引き版画とデカルコマニー)									

	該当到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
7	講義内容	画材の安全性の指導を理解する(マーブリングの実践)			
	該当到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
8	講義内容	保育者に必要なデッサン力(キャラクター作りの実践)			
	該当到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
9	講義内容	壁面構成の作成①(保育室にある小物を作る)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
10	講義内容	壁面構成の作成②(夏の壁面構成)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
11	講義内容	壁面構成の作成③(秋の壁面構成)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
12	講義内容	壁面構成の作成④(冬の壁面構成)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
13	講義内容	壁面構成の作成⑤(お誕生日の壁面構成)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5	時間
		復習	課題を完成させる	1.5	時間
14	講義内容	造形表現と言葉かけ			
	該当到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、言葉かけを考える	1.5	時間
		復習	言葉かけの実践に移す	1.5	時間
15	講義内容	造形表現と保育者の関わり(提出課題の確認)			
	該当到達目標 2,3,4	予習	提出課題が完成しているか確認する	1.5	時間
		復習	提出課題を完成させる	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	授業ごとに与えられた課題を実践することにより、演習形式で進める。試験は課題提出とする。また、制作を中心に授業を進めるが、途中で、制作に関する全体的なアドバイスを。また、画材、文具等を指定することがある。				

科目名	幼児音楽(保育・教育の方法技術)							科目 ナンバリング	CEW151	
英文名	Music for Children							講義形態	演習	
担当教員	岡本 拓子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする 資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	乳幼児期の子どもの音楽表現について理解し、保育の中で子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開するために必要な保育者の音楽表現の知識や演奏技法を習得する。 授業は演習形式で行い、グループワークを中心に進める。 毎時、取り組むテーマに関するプリントを配布し、要点について説明を行った後、グループで課題に取り組む時間を設ける。									
到達目標	1. 子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。 2. 基本的な歌唱法や楽器の奏法を習得し、音の出る仕組みについて理解する。 3. 保育内容における音楽表現について理解する。 4. 様々な音楽表現について理解し、豊かな音楽表現力を習得する。 5. 音楽表現に必要な音楽の基礎的知識に関する理解を深める。									
使用教材	こどものうた 100(チャイルド社), 続こどものうた 200(チャイルド社), はじめての楽譜の読み方(kmp)									
参考文献										
評価方法	課題への取り組み 10%, 実技試験 60%, 筆記試験 30%を総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎時、授業についての振り返りの時間を設け、課題を明確にし、改善点について助言を行う。									
オフィスアワー (研究室)	水曜日 3 限 金曜日 2 限 研究室 8 号館 4 階 404				メールアドレス (#→@)		okamoto#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。								
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、授業内容について理解を深めておく。							1.5 時間
	1	復習	子どもの発達と音楽表現の基本について理解を深めておく。							1.5 時間
2	講義内容	幼児の声帯と発声および歌唱表現の発達について理解する。								
	該当到達目標	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。							1.5 時間
	1	復習	幼児、児童の歌唱表現の発達について理解を深めておく。							1.5 時間
3	講義内容	基本的な発声法の習得 発声のメカニズム, 姿勢, 呼吸法								
	該当到達目標	予習	自身の歌唱表現についての課題を明確にしておく。							1.5 時間
	2	復習	授業で学んだ発声法について繰り返し復習する。							1.5 時間

4	講義内容	保育内容における子どもの音楽表現について理解する。			
	該当到達目標 3	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1.5 時間	
		復習	保育内容における音楽表現について理解を深めておく。	1.5 時間	
5	講義内容	歌唱教材① 手遊び歌に関する知識と演奏技法を習得する。			
	該当到達目標 3,4	予習	手遊びについて予め下調べをしておく。	1.5 時間	
		復習	授業で学んだ手遊び歌を繰り返しかえし練習する。	1.5 時間	
6	講義内容	歌唱教材② 乳幼児の歌唱曲に関する知識と演奏技法を習得する。			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1.5 時間	
		復習	授業で学んだ曲を繰り返しかえし練習する。	1.5 時間	
7	講義内容	輪唱や合唱など、重なり合う声の響きを楽しむ音楽表現技法を習得する。			
	該当到達目標 2,3,4	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1.5 時間	
		復習	授業で学んだ曲を繰り返しかえし練習する。	1.5 時間	
8	講義内容	楽器作りと音遊び① 叩いたりこすったりして音を出す楽器の表現技法を習得する。			
	該当到達目標 2,3,4	予習	楽器作りにいかせる身近な材料を探しておく。	1.5 時間	
		復習	製作した楽器を用いた音楽表現を行う。	1.5 時間	
9	講義内容	楽器作りと音遊び② 吹いたり吸ったりして音を出す楽器の表現技法を習得する。			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	楽器作りにいかせる身近な材料を探しておく。	1.5 時間	
		復習	製作した楽器を用いた音楽表現を行う。	1.5 時間	
10	講義内容	手作り楽器を製作し、音の鳴る仕組みを理解する。			
	該当到達目標 2,3,4	予習	楽器作りにいかせる身近な材料を探しておく。	1.5 時間	
		復習	手作り楽器を用いたアンサンブルの練習をしておく。	1.5 時間	
11	講義内容	器楽合奏 様々な楽器を組み合わせたアンサンブルの演奏技法を習得する。			
	該当到達目標 2,3,4	予習	様々な楽器の奏法について予め調べておく。	1.5 時間	
		復習	課題曲の練習を行う。	1.5 時間	
12	講義内容	生活や遊びの中での音楽表現について理解する。			
	該当到達目標 3,5	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1.5 時間	
		復習	生活や遊びの中でどのような音楽表現を用いているか理解を深める。	1.5 時間	
13	講義内容	自然の中にある音に気づき、聴くことへの意識を高め、音の環境について理解する。			
	該当到達目標 3,5	予習	自然の中にある音、音環境について考えておく。	1.5 時間	
		復習	授業で学んだことをいかし、日常生活の中での音や自然音を書きだす。	1.5 時間	
14	講義内容	子どもの音楽表現を引き出すための音楽的な環境構成について理解する。			
	該当到達目標 3,5	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1.5 時間	
		復習	音楽的な環境構成について理解を深める。	1.5 時間	
15	講義内容	音楽表現に必要な音楽の基礎的知識に関する理解を深める。			
	該当到達目標 3,5	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1.5 時間	
		復習	音楽の基礎的知識について理解を深めておく。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考					

科目名	幼児音楽演習Ⅰ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW501		
英文名	Music Practice for Nursery TeachersⅠ						講義形態	演習		
担当教員	坂田 恭子									
科目に関連した実務経験	音楽教室主宰（ピアノ、リトミック、声楽、ソルフェージュ、音楽理論等指導）									
学年・開講期	2年 前期	選必・単位数	選択 1単位							
関連資格	免許・資格指定科目：なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGsとの関連	③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育士、幼稚園教諭に必要な、音楽に関する知識と実践的な演奏技法を習得する。 具体的には、読譜に必要な音楽に関する知識をさらに深めるとともに、弾き歌いや伴奏法の習得をと して、保育者・教師に必要な音楽的表現力を身につける。 授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎 回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行 う時間を設ける。 選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望まし い。									
到達目標	1. 音階、調号、和声、コード等、音楽に関する知識についての理解を深める。 2. 音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。 3. 伴奏しながら歌う弾き歌いの際の音楽的表現力を身につける。									
使用教材	井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー									
参考文献	井戸和秀編「続こどものうた 200」チャイルド社									
評価方法	定期試験において、筆記試験 30%、実技試験 30%、毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。									
オフィスアワー（研究室）	質問等がある場合は授業の前後に応じる。					メールアドレス（#→@）	連絡手段は初回授業時に提示する			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表								
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。							1 時間
	1,2	復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。							1 時間
2	講義内容	音楽の知識に関する理解① 音階と調号 ハ長調、ト長調、ニ長調								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。							1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。							1 時間
3	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法① 「やぎさんゆうびん」を教材として								
	該当到達目標	予習	「やぎさんゆうびん」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。							1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。							1 時間
4	講義内容	音楽の知識に関する理解② 音階と調号 ヘ長調、変ロ長調、イ短調								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。							1 時間

	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
5	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法②「ドキドキドン 1 年生」を教材として		
	該当到達目標	予習	「ドキドキドン 1 年生」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
6	講義内容	音楽の知識に関する理解③ ハ長調、ト長調、ニ長調の主要三和音、属七和音とコード奏		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、カデンツの練習をしておく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
7	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法③「カレンダーマーチ」を教材として		
	該当到達目標	予習	「カレンダーマーチ」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
8	講義内容	音楽の知識に関する理解④ ヘ長調、変口長調、イ短調の主要三和音、属七和音とコード奏		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、カデンツの練習をしておく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1 時間
9	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法④「ふしぎなポケット」を教材として		
	該当到達目標	予習	「ふしぎなポケット」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
10	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑤「ゆき」を教材として		
	該当到達目標	予習	「ゆき」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
11	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑥「さんぽ」を教材として		
	該当到達目標	予習	「さんぽ」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
12	講義内容	弾き歌いにおける音楽的表現力①「やぎさんゆうびん」,「ドキドキドン 1 年生」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	1, 2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
13	講義内容	弾き歌いにおける音楽的表現力①「カレンダーマーチ」,「ふしぎなポケット」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	1, 2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
14	講義内容	弾き歌いにおける音楽的表現力①「ゆき」,「さんぽ」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	1, 2,3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
15	講義内容	音楽に関する知識をいかした、歌唱教材の弾き歌いにおける音楽的表現力		
	該当到達目標	予習	すべての課題曲について、音楽的表現を考えながら弾き歌いができるようにしておく。	1 時間
	1, 2,3	復習	保育者・教師に必要な音楽的表現力とは何かについて理解を深めておく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 予習・復習は欠かさず行うこと。			

科目名	初等音楽演習Ⅰ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW502		
英文名	Music Practice for Elementary School TeachersⅠ						講義形態	演習		
担当教員	佐藤 和貴 田中 悠一郎 中村 郁野									
科目に関連した実務経験	佐藤：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験） 田中：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験） 中村：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	免許・資格指定科目：なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の実技指導に対しその場でコメントを行い、より良い音楽表現方法について学生と対話を積み重ねていく。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、小学校教員に必要な歌唱や楽器演奏の技術のさらなる習得を目標とする。歌唱では、声楽の基本発声から独唱に必要な発声法の習得、および声楽アンサンブル、合唱の表現技法を学ぶ。楽器演奏では、学生の興味に応じてピアノ奏法や小学校教員として身につけるべき様々な楽器の独奏技術の上達を目指すほか、様々な楽器を組み合わせ合わせた合奏、アンサンブルを体験する。 毎回の授業では、学生が準備してきた楽曲に対し教員の専門性を生かした指導を行う。また、習得した楽曲を発表する場を設定し、人前で演奏する経験を積み重ねていく。そのほか、演奏だけでなくコンサートを行うための準備（ステージの裏方の役割、広報）を体験する。将来、音楽の専門的な知識と経験を持った教員として、現場で活躍する力を身につける。									
到達目標	1. 歌唱表現に必要な発声法と表現技法を習得する。 ■ 2. 様々な楽器の演奏技法を習得する。 ■ 3. 合唱に必要な表現技法を習得する。 ■ 4. 様々な楽器を用いた合奏に必要な表現技法を習得する。 ■									
使用教材	教科書は使用しないが、各教員から資料の配布、参考書の紹介などを予定している。									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	歌唱表現 30%，楽器演奏 30%，合唱・合奏 30%，日ごろの授業への参加度 10%で総合的に評価する。また、5 回欠席からは受験資格なしとなり、単位取得ができない。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎時の実技課題に対し、各教員からその都度コメントする。									
オフィスアワー （研究室）	佐藤和貴：水曜・2時限または、木曜・3時限(503 研究室) 田中 悠一郎・中村 郁野：授業開始前、終了後				メールアドレス （#→@）	sato-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション・歌唱表現の発声法と表現技法① ■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容を理解する。						1 時間	
	1	復習	実技課題を復習する。						1 時間	
2	講義内容	歌唱表現の発声法と表現技法② 基本的な発声法の習得 ■								

	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	1	復習	実技課題を復習する。	1 時間
3	講義内容	歌唱表現の発声法と表現技法③ 日本歌曲を題材として ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	1	復習	実技課題を復習する。	1 時間
4	講義内容	歌唱表現の発声法と表現技法④ 世界の歌を題材として ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	1	復習	実技課題を復習する。	1 時間
5	講義内容	歌唱表現の発声法と表現技法⑤ 発表 ■		
	該当到達目標	予習	発表に向けて練習しておく。	1 時間
	1	復習	発表での課題について整理し、次の課題に向けて練習する。	1 時間
6	講義内容	様々な楽器の演奏技法① ピアノの練習曲を題材として ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	2	復習	実技課題を復習する。	1 時間
7	講義内容	様々な楽器の演奏技法② ピアノ曲を題材として ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	2	復習	実技課題を復習する。	1 時間
8	講義内容	様々な楽器の演奏技法③ 打楽器の奏法 ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	2	復習	実技課題を復習する。	1 時間
9	講義内容	様々な楽器の演奏技法④ その他の楽器の奏法 ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	2	復習	実技課題を復習する。	1 時間
10	講義内容	様々な楽器の演奏技法⑤ 発表 ■		
	該当到達目標	予習	発表に向けて練習しておく。	1 時間
	2	復習	発表での課題について整理し、次の課題に向けて練習する。	1 時間
11	講義内容	合唱・合奏の演奏技法① 合唱曲の練習 ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	3,4	復習	実技課題を復習する。	1 時間
12	講義内容	合唱・合奏の演奏技法② 合奏曲の練習 ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	3,4	復習	実技課題を復習する。	1 時間
13	講義内容	合唱・合奏の演奏技法③ グループに分かれて発表課題に取り組む ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	3,4	復習	実技課題を復習する。	1 時間
14	講義内容	合唱・合奏の演奏技法④ グループに分かれて発表課題に取り組む ■		
	該当到達目標	予習	予め配布された課題を練習しておく。	1 時間
	3,4	復習	実技課題を復習する。	1 時間
15	講義内容	合唱・合奏の演奏技法⑤ 発表 ■		
	該当到達目標	予習	発表に向けて練習しておく。	1 時間
	3,4	復習	発表での課題を整理する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	本講義は、音楽基礎Ⅰ・Ⅱの学習内容を踏まえ、さらに音楽を専門的に学ぶものである。クラシック曲や合奏(連弾・			

楽器合奏), 歌のアンサンブルなど, 自身の音楽表現力をより高めたい学生のために開講する。授業では, 学生それぞれが独奏として取り組んでみたい楽器に挑戦する。また, 合唱など複数人でのアンサンブルを課題とし, 自ら選択した音楽を中心に学ぶ。実技課題が毎回出されるので, 毎日の予習・復習をして主体的に授業に臨むこと。学生が自ら学びたい内容を持って受講することを想定している。また, 授業で扱う教材の譜読みは, 学生個人で主体的に行うことを想定している。

■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名		幼児音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW503		
英文名		Music Practice for Nursery Teachers Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員		坂田 恭子									
科目に関連した実務経験		音楽教室主宰（ピアノ、リトミック、声楽、ソルフェージュ、音楽理論等指導）									
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格		免許・資格指定科目：なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力									
SDGs との関連		3 4 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○		○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		幼児音楽演習Ⅰに引き続き、保育士、幼稚園教諭に必要な、音楽に関する知識と実践的な演奏技法を習得する。 音楽に関する知識をさらに深め、弾き歌いにおける初見伴奏、移調奏、コード奏、およびリズム遊びなどで用いる即興演奏の技法などを習得する。 授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。									
到達目標		1. 音階と調号に関する理解を深め、移調奏についての知識を深める。 2. 子どもの歌の弾き歌いにおける初見伴奏、移調奏、コード奏等の演奏技法を習得する。 3. 即興演奏の技法を習得する。									
使用教材		井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー									
参考文献		井戸和秀編「続こどものうた 200」チャイルド社									
評価方法		定期試験において、筆記試験 30%、実技試験 30%、毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。									
オフィスアワー（研究室）		質問等がある場合は授業の前後に応じる。				メールアドレス（#→@）		連絡手段は初回授業時に提示する			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表									
	該当到達目標	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。						1 時間		
	1,2	復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。						1 時間		
2	講義内容	音楽の知識に関する理解① 各調の関係について									
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。						1 時間		
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。						1 時間		
3	講義内容	音楽の知識に関する理解② 移調について									
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。						1 時間		
	1	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。						1 時間		
4	講義内容	子どもの歌の伴奏法① 移調奏 「雪のこぼうず」を教材として									

	該当到達目標	予習	課題曲を練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
5	講義内容	子どもの歌の伴奏法② 移調奏「とけいのうた」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲を練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
6	講義内容	子どもの歌の伴奏法③ 移調奏「かたつむり」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲を練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
7	講義内容	子どもの歌の伴奏法④ 初見伴奏「もりのくまさん」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲の旋律を弾けるようにしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
8	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑤ 初見伴奏「おもちゃのチャチャチャ」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲の旋律を弾けるようにしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
9	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑥ コード伴奏「せかいじゅうのこどもたちが」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲を歌えるようにしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
10	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑦ コード伴奏「カレンダーマーチ」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲を歌えるようにしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
11	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑧ コード伴奏「ふるさと」を教材として		
	該当到達目標	予習	課題曲を歌えるようにしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
12	講義内容	即興演奏① 歩く, 走る		
	該当到達目標	予習	歩いたり走ったりすることのできる音楽について調べておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
13	講義内容	即興演奏② スキップ		
	該当到達目標	予習	スキップすることのできる音楽について調べておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
14	講義内容	即興演奏③ 様々な動き		
	該当到達目標	予習	様々な動きのできる音楽について調べておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1 時間
15	講義内容	音楽に関する知識をいかした, 歌唱教材の弾き歌いにおける音楽的表現力		
	該当到達目標	予習	すべての課題曲について, 音楽的表現を考えながら弾き歌いができるようにしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育者・教師に必要な音楽的表現力とは何かについて理解を深めておく。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	選択科目ではあるが, 音楽の基礎知識に不安のある学生, 音楽初学者は履修することが望ましい。 予習・復習は欠かさず行うこと。			

科目名	初等音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW504		
英文名	Music Practice for Elementary School TeachersⅡ						講義形態	演習		
担当教員	佐藤 和貴									
科目に関連した実務経験	音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	免許・資格指定科目：なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○		○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の実技指導に対しその場でコメントを行い、より良い音楽表現方法について学生と対話を積み重ねていく。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、小学校等における音楽発表会を指導する場面を想定し、合唱や合奏を指導するために必要な、音楽の表現技能の習得を目指すことを目標とする。また、音楽発表会を企画立案し、発表会を開催するほか、実際の指導場面を想定した模擬授業を行うことを通して実践力を身に着ける。 毎回の授業では、学生が準備してきた各回の課題に対し個別に指導を行う。また、習得した楽曲を発表する場を設定し、人前で演奏する経験を積み重ねていく。そのほか、演奏だけでなくコンサートを行うための準備（ステージの裏方の役割・広報）を体験する。将来、音楽の専門的な知識と経験を持った教員として、学校内でリーダーシップを取ることでできる力を身につける。									
到達目標	1. 合唱や合奏を指導するために必要な音楽の演奏技法を習得する。 ■ 2. 子どもや児童を対象とした表現発表の舞台制作を企画立案し、制作・発表を行う。 ■ 3. 小学校等における子どもの表現発表の指導方法の実際を学ぶ。 ■									
使用教材	必要に応じて資料等を配布する。									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	表現発表の評価 70%，模擬授業の評価 30%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業ごとに振り返りの時間を設け、次週までの課題を明確にして共有をはかる。									
オフィスアワー（研究室）	水曜・2時限または、木曜・3時限 （503 研究室）				メールアドレス （#→@）	sato-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション。授業の概要説明と合唱・合奏などのグループ分け。演目検討。 ■								
	該当到達目標 1	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標を理解する。						1 時間	
		復習	講義内容、評価方法を確認する。						1 時間	
2	講義内容	合唱・合奏の演奏技法の習得① グループごとに練習し、課題を共有する。 ■								
	該当到達目標 1	予習	課題曲の練習をしておく。						1 時間	
		復習	授業時間内でまとまらなかった意見について検討しておく。						1 時間	
3	講義内容	各グループの演奏を聴き合う。意見交換と内容についての再検討を行う。 ■								
	該当到達目標 1	予習	発表準備を行う。						1 時間	
		復習	発表を通しての課題を共有しておく。						1 時間	

4	講義内容	合唱・合奏の演奏技法の習得② 共有した課題を解決するためにグループでの練習に取り組む。 ■		
	該当到達目標	予習	各自の課題に取り組んでおく。	1 時間
	1	復習	課題解決のための練習を進めておく。	1 時間
5	講義内容	発表会に向けた練習① 音楽発表会の構成について企画立案する。 ■		
	該当到達目標	予習	各自で発表会の構成について考えておく。	1 時間
	2	復習	修正点をグループ内で共有し練習する。	1 時間
6	講義内容	発表会に向けた練習② 各グループの演奏を中間発表し、意見交換する。 ■		
	該当到達目標	予習	発表に向けてグループ内で課題について検討しておく。	1 時間
	2	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
7	講義内容	発表会に向けた練習③ 中間発表を踏まえて、修正する。 ■		
	該当到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	2	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
8	講義内容	通しリハーサル① 照明、衣装、舞台装置等確認 ■		
	該当到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	2	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
9	講義内容	通しリハーサル② 最終リハーサル ■		
	該当到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	2	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1 時間
10	講義内容	舞台発表 ■		
	該当到達目標	予習	準備不足のないようグループ内で意見交換を行っておく。	1 時間
	2	復習	発表の反省と評価を行う。	1 時間
11	講義内容	発表後の振り返り、反省と評価。 ■		
	該当到達目標	予習	課題を明確にしておく。	1 時間
	1, 2	復習	他者の意見を受けて、グループあるいは個々の課題を明確化する。	1 時間
12	講義内容	子どもの発表会における表現活動の指導方法について。模擬授業の内容検討。 ■		
	該当到達目標	予習	模擬授業で行う内容について検討しておく。	1 時間
	3	復習	授業内でまともになかった課題についてさらに検討しておく。	1 時間
13	講義内容	音楽表現活動の指導について。指導案の作成。 ■		
	該当到達目標	予習	指導案作成に向けての教材研究を事前に行っておく。	1 時間
	3	復習	授業内でまともになかった指導案の作成を終わらせておく。	1 時間
14	講義内容	模擬授業 グループごとに発表し相互に評価し合う。 ■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に向けて必要な準備を各自で進める。	1 時間
	3	復習	反省点の振り返りを行う。	1 時間
15	講義内容	指導案再検討 模擬授業後の反省と評価。指導案の再検討を行う。 ■		
	該当到達目標	予習	指導案再検討に向けて課題を明確にしておく。	1 時間
	3	復習	個々の課題を明確にし、実践にいかす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	実技課題は、毎回予習・復習をして授業に臨むこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	在宅保育論(保育・教育の方法技術)							科目 ナンバリング	CEW505	
英文名	Home Childcare Theory							講義形態	講義	
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 認定ベビーシッター資格									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	家庭訪問保育とは、保育所などの施設ではなく、乳幼児の生活の基盤である個々の家庭で行う保育のことである。同じ保育の名が付いているものの、それらは施設での保育とは異なる知識や技能が必要となる。さらに、家庭訪問保育は一般型家庭訪問保育(ベビーシッター)と居宅訪問型保育に分けられる。本講義では、近年の子育て支援事業の展開を踏まえ、家庭訪問保育者として不可欠な知識や技能を体系的に学んでいく。 授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1. 一般型家庭訪問保育・居宅訪問型保育の歴史や制度、役割、現状について説明できる。 2. 施設における保育との違いについて説明できる。 3. 一般型家庭訪問保育・居宅訪問型保育で必要とされる知識・技能を習得し、実践できる。									
使用教材	全国保育サービス協会(2022)『家庭訪問保育の理論と実際 第3版』中央法規出版。									
参考文献	厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館。									
評価方法	試験(70%)、授業内課題・参画度(30%)									
課題・評価に対する フィードバック方法	各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	家庭訪問保育の体系と保育マインド(序章 1・2)								
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
	1,2	復習	わが国の保育政策と家庭訪問保育の体系、保育マインドについて理解する。						1.5	時間
2	講義内容	居宅訪問型保育の概要(第1章)								
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
	1,2	復習	居宅訪問型保育の歴史や実態、有効性と課題について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	乳幼児の生活と遊び・発達と心理(第2・3章)								
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
	2,3	復習	乳幼児期の子どもの発達、生活、遊びについて理解する。						1.5	時間
4	講義内容	乳幼児の食事と栄養(第4章)								
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
	2,3	復習	授乳・離乳、栄養、アレルギーおよび乳幼児期の食育について理解する。						1.5	時間
5	講義内容	小児保健(第5・6章)								
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。						1.5	時間
	2,3	復習	子どもに多い病気や事故とその対応について理解する。						1.5	時間

6	講義内容	居宅訪問型保育の保育内容(第7章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	居宅訪問型保育の特徴を踏まえ、ニーズや配慮事項について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	居宅訪問型保育における環境整備(第8章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	保育における環境とその整備、安全の確保について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	居宅訪問型保育の運営(第9章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	居宅訪問型保育の業務の流れ、マナーについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	安全の確保とリスクマネジメント(第10章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	事故の予防や対応、リスクマネジメント、賠償責任について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項(第11章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	職業倫理や自己管理、評価、地域や行政との関係について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	居宅訪問型保育における保護者への対応(第12章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	保護者支援の必要性和保護者への対応について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	子ども虐待(第13章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	子ども虐待の定義や実態、対応について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	特別に配慮を要する子どもへの対応(第14章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	特別に配慮を要する子どもの行動特徴と対応について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	保育技術(第15・16章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	居宅訪問型保育に必要な保育技術を習得する。	1.5 時間
15	講義内容	一般型家庭訪問保育の業務の流れ(第17・18章)		
	該当到達目標	予習	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	一般型家庭訪問保育の事業形態や業務について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名	子ども家庭支援論(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW152		
英文名	Child Family Support theory						講義形態	講義		
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	公立保育所に保育士として勤務(経験) 学内子ども・家族支援センターで保育士 心理相談員勤務									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○						○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中では、事例検討の実践力習得方法としてロールプレイを取り入れる。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭の支援体制、多様なニーズに応じた支援の展開と多職種連携・協働の必要性について習得を目指す。 授業の進め方: 講義内容のスライド資料を配布して講義を行う。講義の中では前半と後半に分け、前半は家族支援に必要な支援方法として事例検討を講義で行い、後半はグループワークによる話し合いを取り入れ、問題解決に向けた内容を深め、発表し、出てきた内容をクラス全体に周知できるように展開する。授業内容で出た発表内容を板書し、まとめを行う方法を取る。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。									
到達目標	13. 家庭の意義と機能、役割等子育て家庭への支援や施策について理解する事が出来る。 ■ 14. 家庭支援の必要性、保育場面での子育て支援方法を考え、応用的に活動する事が出来る。 ■ 15. 様々な課題を持つ家庭への事例検討を行い、地域支援の必要性を理解する事が出来る。 ■ 16. 多機関連携・協働の必要性や保育現場が対応する役割機能を理解する事が出来る。 ■									
使用教材	保育士をめざす人の家庭支援 白幡久美子編著 (株)みらい 2021 年度版									
参考文献	保育所保育指針 厚生労働省編 プレーベル館									
評価方法	事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験 80%とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィードバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5限目 (8号館401講義室)				メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスや p1-p8 を読み子ども家庭支援を予習する。						1.5 時間	
	1,2	復習	子ども家庭支援にむけた組み立て講義内容を振り返り理解を深める。						1.5 時間	
2	講義内容	家族や家庭の意義と機能 ■								
	該当到達目標	予習	事前に第 1 章 p13-p29 を読み、内容にふれる。						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、家庭や家族について理解を深める。						1.5 時間	
3	講義内容	家族が抱える子育ての家庭の課題について ■								
	該当到達目標	予習	事前に第 2 章 p31-p47 を読み、講義内容についてふれる。						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て家庭の課題について理解を深める。						1.5 時間	
4	講義内容	子育て家庭と地域の関係 ■								
	該当到達目標	予習	事前に第 3 章 p48-p65 を読み、内容にふれる。						1.5 時間	

	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、子育てと地域の関係について理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	保育所と他の専門機関の連携 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p66-p79について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、他機関連携について理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	施設での家庭支援の出し方の家庭支援の考え方■		
	該当到達目標	予習	事前に第5章 p80-p94を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、家庭支援の相談援助について理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	家庭支援の基本としての相談援助 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第6章 p95-p111について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、相談援助の考え方の理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	保育所による家庭支援の実践 (1) 在所児に向けた対応 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第7章 p112-p125について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、保育所の家庭支援について理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	保育所による家庭支援の実践 (2) 地域に開かれた保育所の役割 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第7章 p126-p135を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、地域子育て支援について理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	特別な配慮を必要とする家庭への支援の実践 (1)養育を必要とする家庭支援 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第8章 p136-p146を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、要保護児童やその家庭支援に理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	特別な配慮を必要とする家庭への支援の実践 (2)外国にルーツをもつ家庭支援 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第8章 p146-p148を読み、内容にふれる	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義資料を読み返し、が帰国にルーツを持つ家庭支援の理解を深める	1.5 時間
12	講義内容	特別な配慮を必要とする家庭への支援の実践 (3) 障害児のいる家庭支援		
	該当到達目標	予習	事前に第8章 p150-p158を読み、内容にふれる	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義資料を読み返し、障害児のいる家庭支援の理解を深める	1.5 時間
13	講義内容	特別な配慮を必要とする家庭への支援の実践		
	該当到達目標	予習	事前に第8章 p136-p146を読み内容にふれる	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義資料を読み返し、特別な配慮を必要とする家庭支援の理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	各家庭に対する支援の実践 様々な支援方法(箱庭療法)を体験する		
	該当到達目標	予習	事前に第9章 p159-p175を読み、内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料を読み返し、各家庭の支援について理解を深める	1.5 時間
15	講義内容	子ども家庭支援についてのまとめ		
	該当到達目標	予習	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料をまとめ、総合的に子ども家庭支援のまとめをする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORDS:子育て支援、家庭支援、子育て支援、虐待防止、子ども家庭 オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 (■は実務経験に基づく内容を示す)			

科目名	親子遊び論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW114	
英文名	Parent and Child Relationships through Play Activities							講義形態	講義	
担当教員	今井 麻美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34589101617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	親子関係を多角的な視点から捉えうることを学び、理解を深めることを通して、保育者として親子を援助するための視野を広げる。指定した教科書以外にも、関係する文献を読む機会を多く取りながら授業を進める。									
到達目標	1. 現代の親子関係の在り方や遊びを多角的な視点から理解することができる 2. 保育とのかかわりから親子関係や遊びを理解し、家庭生活とのつながりをもった保育内容を構想することができる									
使用教材	資料については適宜配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験50%, 授業内課題50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回授業の前半に、提出されたレポートに対するコメントや解説を行う。 課題の意義について説明する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー:火曜 3 限、金曜 2 限 研究室:8 号館 5 階 504				メールアドレス (#→@)	imai-a@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション:授業の概要と進め方								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する							1.5 時間
	1. 2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する							1.5 時間
2	講義内容	親子関係を捉えるものの見方(1) 発達心理学の知見から								
	該当到達目標	予習	「親子」に関する既習の内容を振り返る							1.5 時間
	1. 2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する							1.5 時間
3	講義内容	親子関係を捉えるものの見方(2) 社会学の知見から								
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む							1.5 時間
	1. 2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する							1.5 時間
4	講義内容	親子関係を捉えるものの見方(3) 歴史的な視点から								
	該当到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む							1.5 時間
	1. 2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する							1.5 時間
5	講義内容	親子の遊びの観察(1) どのような遊びがなされているのか								
	該当到達目標	予習	自分が子どもだった頃家庭でどのような遊びをしたのか振り返ってくる							1.5 時間

	1. 2	復習	記録をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	親子の遊びの観察(2) 父親と母親とでは遊び方や遊ぶ内容は違うのか		
	該当到達目標	予習	父親との遊び, 母親との遊び, 自分が持っているそれぞれの遊びに対するイメージを整理してくる	1.5 時間
	1. 2	復習	記録をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	親子の遊びの観察(3) 保育現場で展開される遊びと違うのか		
	該当到達目標	予習	保育現場で展開される遊びと親子での遊びの違いについて考えてくる	1.5 時間
	1. 2	復習	自分なりに気づいた点をノートにまとめる	1.5 時間
8	講義内容	親子の遊びを 5 領域の視点から捉える		
	該当到達目標	予習	保育内容 5 領域を振り返ってくる	1.5 時間
	1. 2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
9	講義内容	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性		
	該当到達目標	予習	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性について, 既習の内容を振り返る	1.5 時間
	1. 2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し, 復習する	1.5 時間
10	講義内容	家庭生活とつながりを持った保育内容を展開するための指導案 (1) 教材研究		
	該当到達目標	予習	指導案を立てる活動を考えてくる	1.5 時間
	1. 2	復習	自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 時間
11	講義内容	家庭生活とつながりを持った保育内容を展開するための指導案 (2) グループディスカッション		
	該当到達目標	予習	教材研究を踏まえた指導案を考えてくる	1.5 時間
	1. 2	復習	グループディスカッションを踏まえて, 指導案を修正する	1.5 時間
12	講義内容	模擬保育の実施		
	該当到達目標	予習	模擬保育の準備をしてくる	1.5 時間
	1. 2	復習	自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 時間
13	講義内容	模擬保育を振り返り		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションを踏まえて, 指導案の改善点を考えてくる	1.5 時間
	1. 2	復習	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性について, 理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	保育者として親子関係や遊びを援助する方法や配慮事項		
	該当到達目標	予習	保育者として親子での遊びに対して, どのように援助できるのか考える	1.5 時間
	1. 2	復習	保育者として親子での遊びに対する援助方法を自分なりに深める	1.5 時間
15	講義内容	親子関係の在り方や遊びに対する自分自身の「ものの見方」の変化		
	該当到達目標	予習	これまでの授業内容と自分自身の気づきを振り返る	1.5 時間
	1. 2	復習	親子関係を多角的な視点から捉えうることが保育実践にどのように活きるのか自分なりに考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業で扱う資料を必ず読んだ上で, 授業に参加することを求めます。また, 授業内容を自分なりに噛み砕いて, 自分なりの意見を持つとする姿勢を求めます。 オンラインで実施する場合は, C-learning を用いてオンデマンド型授業とします。			

科目名	教育課程論 A(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW201	
英文名	School Curriculum A							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	341011									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小・中学校教育における教育課程の意義や編成の方法について、学習指導要領総則編の読解や教育課程(教育内容)の変遷を知ることを通して理解すると共に、学校の実情を踏まえた、現代的な教育的課題に対応するカリキュラム・マネジメントの重要性について理解する。学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせアクティブラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1.教育課程とは何かについて具体的に理解し、設問等に解答し、記述することができる。 2.教育課程が不易な教育的内容の定着を図るためにあるのと同時に、社会からのニーズによって編成されていることを知り、変遷の過程を説明する事ができる。 3.教育課程編成の主体である学校組織について理解を深め教育実習に向けての視点を明確にできる。■ 4.カリキュラム・マネジメントについての認識を深め、説明することができる。■ 5.教育課程編成に重要な意味を持つ、道徳教育等を理解することができる。									
使用教材	文部科学省小学校学習指導要領解説総則編									
参考文献	学校要覧等は授業中に適宜配付する。									
評価方法	定期試験(50%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(30%)等を総合的に勘案して評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	講義の概要と幼小中学校学習指導要領概略とカリキュラム・マネジメント								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説総則編(小)及び幼稚園教育要領に目を通し、講義目標をつかむ。						1.5	時間
	1,2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。						1.5	時間
2	講義内容	教育課程の意義とその変遷								
	該当到達目標	予習	学習指導要領の資料「学習指導要領の改訂の経過」に目を通す。						1.5	時間
	1,2	復習	社会的ニーズと教育課程の関連について、自分の考えを説明できる。						1.5	時間
3	講義内容	教育課程を支える関係法規								
	該当到達目標	予習	教育法規についてインターネット等を用いて調べておく。						1.5	時間

	1,3	復習	教育課程を規定する関係法規について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅰ(学校教育目標・学校経営案)■		
	該当到達目標	予習	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所を目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅱ(日課表・教職員配置)■		
	該当到達目標	予習	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所を目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅲ(校務分掌と年間指導計画)■		
	該当到達目標	予習	事前配資料に目を通しておく。	1.5 時間
	2,4	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織と年間指導計画を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	カリキュラム・マネジメント		
	該当到達目標	予習	講義 1 の資料に目を通すと共にカリキュラム・マネジメントについてインターネット等を用いて調べておく。	1 時間
	2,4	復習	カリキュラム・マネジメントとは何かについて理解する。	2 時間
8	講義内容	校長によるカリキュラム・マネジメント■		
	該当到達目標	予習	経験した学校における校長について想起しておく。	1.5 時間
	3	復習	2 校における校長のマネジメントの把握を通して、学校組織について理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	学習評価の現状と課題■		
	該当到達目標	予習	事前配資料に目を通しておくとともに、自身のこれまでの評価に対する経験について想起し、ノートにまとめておく。	1.5 時間
	5	復習	学習評価演習の課題をまとめ、学習評価の課題を検討する。	1.5 時間
10	講義内容	学習評価演習■		
	該当到達目標	予習	前時の学習評価の方法について、ノート等にまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習評価の方法と課題についてまとめ、説明できるようにする。	1.5 時間
11	講義内容	道徳教育		
	該当到達目標	予習	文部科学省小学校学習指導要領解説道徳編に目を通す。	1.5 時間
	5	復習	道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、道徳教育の目的と課題について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	特別支援教育と生徒指導		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説総則編並びに道徳編の障がいがある児童生徒の指導に係る章及び生徒指導提要に目を通す。	1.5 時間
	5	復習	特別支援教育実施に必要なカリキュラム・マネジメントについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	教科・領域を横断する生活科・総合的な学習の時間		
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の総合的な学習の時間の経験を想起し、ノートにまとめる。	1.5 時間
	1,4	復習	生活・総合的な学習の時間の意義と、授業づくりの方法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	社会に開かれた教育課程■		
	該当到達目標	予習	社会に開かれた教育課程について、インターネット等を用いて情報を集める。	1.5 時間
	1,4	復習	社会に開かれた教育課程について、自分の考えをノートにまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	教育課程論のまとめ・期末記述試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育課程についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	カリキュラム論(保育・教育の方法技術)							科目 ナンバリング	CEW115		
英文名	Curriculum Theory							講義形態	講義		
担当教員	富田 純喜										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位								
関連資格	免許・資格指定科目： 幼稚園教諭・保育士										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	4										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
									○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育は意図的に実践を展開するものであり、計画や評価なしには成立しない。また、それらは所与のものではなく、長い歴史のなかで構想、構築されてきた。本講義では、カリキュラム研究の動向やカリキュラムに関する基礎的な理論、わが国に幼稚園が創設された明治初期から保育所・認定こども園の創設を経て今日に至るまでの保育内容等の変遷、さらには、保育の基本的な考え方を踏まえた計画の作成、評価の方法に関する理解を深めることを目標とする。 授業は主に講義形式で進めるが、課題に取り組んでもらい、それを受講者全員で共有することもある。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。										
到達目標	1.カリキュラムに関する基礎的な理論を説明できる。 2.保育に関するカリキュラムの変遷を説明できる。 3.保育における計画および評価の要点を説明できる。 4.保育実践とカリキュラムの関連を多角的な視点から考察できる。										
使用教材	必要に応じて資料を配布する。										
参考文献	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説										
評価方法	試験(60%)、授業内課題(40%)										
課題・評価に対する フィードバック方法	各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。										
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)	tomita-t#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、授業の概要を理解する。							1.0	時間
		復習	本講義で扱う内容について理解する。							1.0	時間
2	講義内容	カリキュラムとはなにか									
	該当到達目標 1	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。							1.5	時間
		復習	カリキュラムの意味と機能について理解する。							1.5	時間
3	講義内容	制度としてのカリキュラム									
	該当到達目標 1,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。							1.5	時間
		復習	カリキュラムを制度的側面から理解する。							1.5	時間
4	講義内容	カリキュラムの必要性和その類型									
	該当到達目標 1,4	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。							1.5	時間
		復習	カリキュラムの必要性和複数あるカリキュラムの類型を理解する。							1.5	時間
5	講義内容	カリキュラムの諸要素									
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。							1.5	時間

	1,4	復習	カリキュラムの要素と作用について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	カリキュラムの変遷(1)戦前から戦後		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,4	復習	保育制度と保育内容の歴史的展開について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	カリキュラムの変遷(2)現行の要領・指針		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	2,4	復習	現行の要領・指針に至るまでの変遷を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	教育課程・全体的な計画から指導計画へ(1)関係と特徴		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	教育課程・全体的な計画と指導計画の違いとそれらの関係を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	教育課程・全体的な計画から指導計画へ(2)編成と作成		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	編成および作成における基本事項を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	教育課程・全体的な計画から指導計画へ(3)指導計画作成の留意点		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	指導計画の作成における留意点を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	教育課程・全体的な計画から指導計画へ(4)各施設の違い		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	幼稚園・保育所・認定こども園の指導計画の違いを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	保育の評価(1)省察と記録		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	評価の基本となる省察と記録の意義を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	保育の評価(2)要録と新たな評価観		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	要録の記載内容を例に評価観の変化を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	保育の評価(3)カリキュラム・マネジメント		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	保育におけるカリキュラム・マネジメントの必要性和重要性を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をとおして理解を深める)		
	該当到達目標	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理にする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を整理するとともに、関連する文献を読んで理解を深める。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名	幼児教育の方法と技術(保育・教育の方法技術)							科目 ナンバリング	CEW116		
英文名	Teaching Methods and Skills of Early Childhood Education and Care							講義形態	講義		
担当教員	今井 邦枝										
科目に関連した 実務経験	非常勤講師として幼稚園に勤務(経験:今井)										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位								
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士										
学位授与方針 との対応	0	豊かな人間性と教養				0	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	5	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	3	問題発見・解決力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○	○				○	○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幼児教育の基本を理解し、実際の指導に生かすための専門性を高めることを目指す。授業は教員が作成した資料に基づき、適宜グループワークも取り入れながら講義形式で行う。										
到達目標	1.幼児教育における活動と評価の特性について理解し説明することができる。 2.教材研究の重要性を理解し実践することができる。■ 3.こどもの実態に即して適切な指導計画をたてることができる。■ 4. ICT を活用した実践例を学び、自分の指導計画に取り入れることができる。										
使用教材	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説 保育・教育実習日誌の書き方										
参考文献	授業時に紹介する										
評価方法	授業の取り組み 30% 課題(教材ワークシート・指導案)70%										
課題・評価に対する フィードバック方法	課題にコメントし、返却する										
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1、2 限(8 号館 507 研究室)				メールアドレス (#→@)	kimai#takasaki-u.ac.jp					
1	講義内容	幼児教育における方法と技術①主体的・対話的で深い学び									
	該当到達目標	予習	主体的・対話的で深い学びの特徴をまとめる							1.5	時間
	1	復習	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる							1.5	時間
2	講義内容	幼児教育における方法と技術②育みたい資質能力と幼児理解に基づいた評価									
	該当到達目標	予習	幼児教育における評価の特徴をまとめる							1.5	時間
	1	復習	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる							1.5	時間
3	講義内容	幼児教育における方法と技術③ICT を活用した幼児教育の意義									
	該当到達目標	予習	幼児理解における視聴覚資料の意義をまとめる							1.5	時間
	4	復習	幼児教育における ICT 活用事例を調べる							1.5	時間
4	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開①ー1 制作活動における子ども■									
	該当到達目標	予習	製作活動における保育事例を読んでくる							1.5	時間
	1・2	復習	製作活動における子どもへの留意事項を考える							1.5	時間
5	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開①ー2 グループでの話し合い(ICT の活用事例も含む)■									

	該当到達目標	予習	製作活動における子どもへの留意点を踏まえた指導内容を考える	1.5 時間
	1・2	復習	グループワークでの学びをまとめる	1.5 時間
6	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開②ー1 ルール遊びにおける子ども■		
	該当到達目標	予習	ルール遊びにおける保育事例を読んでくる	1.5 時間
	1・2	復習	ルール遊びにおける子どもへの留意事項を考える	1.5 時間
7	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開②ー2 グループでの話しあい(ICT の活用事例も含む)■		
	該当到達目標	予習	ルール遊びにおける子どもへの留意点を踏まえた指導内容を考える	1.5 時間
	1・2	復習	グループワークでの学びをまとめる	1.5 時間
8	講義内容	教材研究の意義■		
	該当到達目標	予習	教材研究の意義を考える	1.5 時間
	1・2	復習	教材研究の意義をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	教材研究①ー1 製作に関する題材■		
	該当到達目標	予習	題材の特性や面白さ、学びの可能性について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート作成	1.5 時間
10	講義内容	教材研究①ー2 活動の流れと評価のポイントを考える■		
	該当到達目標	予習	教材ワークシート作成	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート修正	1.5 時間
11	講義内容	教材研究②ー1 ルール遊びに関する題材■		
	該当到達目標	予習	題材の特性や面白さ、学びの可能性について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート作成	1.5 時間
12	講義内容	教材研究②ー2 活動の流れと評価のポイントを考える■		
	該当到達目標	予習	教材ワークシート作成	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート修正	1.5 時間
13	講義内容	部分指導案作成		
	該当到達目標	予習	題材をきめる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	指導案作成	1.5 時間
14	講義内容	全日指導案作成		
	該当到達目標	予習	題材を決める	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	指導案作成	1.5 時間
15	講義内容	まとめ:子どもの視点から指導計画をたてるということ		
	該当到達目標	予習	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	本実習に向けての課題を明確にする	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	初等特別活動論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW202	
英文名	Special Activities in Elementary School							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 8 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・課題作成にあたって、学齢期を共有した家族や友人との話し合いを促す。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校教育全体を通して実施する特別活動の意義と内容を理解し、具体的な実践事例を通して、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や方法を身に付ける事ができると共に、活動に潜む課題について検討し、教員としての実践力を高めることを目標とする。学習指導要領及び実務経験に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせアクティブラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1.特別活動の意義について理解し、説明することができる。 2.特別活動の具体的活動について知り、その課題を具体的事例を通して考え、対応策を検討する力を習得することができる。■ 3.特別活動に係る課題について知り、教員としての実践力を高める事ができる。									
使用教材	小学校学習指導要領解説特別活動編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)									
参考文献	講義中に適宜配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の感想記述等(20%) 課題レポート(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	特別活動とは・・・								
	該当到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、概要をつかんでおく。							2 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。また、特別活動の概要を理解する。							1 時間
2	講義内容	学級活動Ⅰ(係活動)■								
	該当到達目標 2. 3	予習	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学級活動の概略を把握する。							1.5 時間
		復習	効果的な学級経営のための具体的方法を理解し、ノートにまとめる事ができる。							1.5 時間
3	講義内容	学級活動Ⅱ(席替え)■								
	該当到達目標 2. 3	予習	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学級活動の概略を把握する。							1.5 時間
		復習	席替えの計画立案を通して、学級活動における教員の重要性を理解する。							1.5 時間
4	講義内容	学級活動Ⅲ(お楽しみ会・清掃活動)■								
	該当到達目標	予習	自分の小学校時代のお楽しみ会や清掃活動について想起しノートにまとめてお							1 時間

			く。	
	2. 3	復習	清掃活動の計画立案を通して、学級活動における教員の重要性を理解する。	2 時間
5	講義内容	児童会活動 ■		
	該当到達目標	予習	自分の小学校時代の児童会活動について想起しノートにまとめておく。	1 時間
	2. 3	復習	児童会活動の持つ意義や課題について、課題に取り組むことを通して自分の考えをまとめる。	2 時間
6	講義内容	学校行事 I ■		
	該当到達目標	予習	経験した小学校における儀式的行事・文化的行事について、その内容と教育的効果についてノートにまとめておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	学校行事の持つ課題について自分の考えを説明することができる。	1.5 時間
7	講義内容	学校行事 II ■		
	該当到達目標	予習	経験した小学校における健康安全体育的行事・遠足集団宿泊的行事・勤労生産奉仕的行事について、その内容と教育的効果についてノートにまとめておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	学校行事の持つ意義について自分の考えを説明することができる。	1.5 時間
8	講義内容	初等特別活動論のまとめと期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1. 3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、小学校における特別活動についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	初等教育方法論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW203	
英文名	Educational Methods in Elementary School							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10 11 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・課題作成にあたって、学齢期を共有した家族や友人との話し合いを促す。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	次世代を作る児童の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を習得する。教科書に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての研究協議・演習を組み合わせアクティブラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1.教育の質の向上に向けて、教育方法学的重要性を理解する事ができる。 2.多様な教育観を理解し、資質・能力の育成に効果的な授業構成論を取得する。 3.学習指導要領の具現化に向けての教育技術を習得し、授業づくりをする方法論を理解する。■									
使用教材	テキスト 教育方法学(佐藤学著 岩波テキストブックス本体 2,000 円)									
参考文献	講義に沿って適宜配付する。									
評価方法	定期試験(50%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(30%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	学級崩壊と教育方法Ⅰ(学級崩壊とは)■								
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の経験に即し、学級崩壊について想起する。							1.5 時間
	1	復習	学級崩壊の要因としての教員の教育方法について理解し、自分自身の教員的資質について考察する事ができる。							1.5 時間
2	講義内容	学級崩壊と教育方法Ⅱ(学級崩壊の事例研究)■								
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の学級崩壊の内容を、ノートにまとめておく。							1 時間
	2	復習	学級崩壊の事実から、教育方法の重要性を理解する。							2 時間
3	講義内容	教育方法学の歴史 その1(文献調査)								
	該当到達目標	予習	教科書「教育方法学」の歴史の記述に目を通しておく。							1.5 時間
	3	復習	教育方法学の変遷の概略をノートにまとめる。							1.5 時間
4	講義内容	教育方法学の歴史 その2(ギリシャ哲学から、ヘルバルト、デューイ、ビゴツキーへ)								
	該当到達目標	予習	教科書「教育方法学」の歴史の記述をまとめておく。							1.5 時間
	3	復習	教育方法学の変遷を理解し、現代の教育における教育方法の多様性を理解す							1.5 時間

			る。	
5	講義内容	教科書と教育方法学Ⅰ（検定制度・採択制度）■		
	該当到達目標	予習	小・中・高において、教科書をどう活用してきたかを想起しておく。	1.5 時間
	2	復習	日本の教科書検定と採択のシステムを海外諸国の実情と比較しながら整理し、ノートにまとめておく。	1.5 時間
6	講義内容	教科書と教育方法学Ⅱ（発行・給与システム）■		
	該当到達目標	予習	教科書検定と採択のシステムをノートにまとめ、理解しておく。	1 時間
	2,3	復習	教科書の意義と活用方法について、課題作成を通して考えをまとめる。	2 時間
7	講義内容	教育方法学と授業研究■		
	該当到達目標	予習	授業研究について、小学校学習指導要領解説総則編の関連ある箇所について目を通しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教育方法学にとって授業研究は不可欠である事を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	明日からの授業に向けて（授業づくりとは）・期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1,3	復習	記述試験の内容を振り返り、授業づくりと教育方法学との関連についてまとめる。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				24 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中等特別活動論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW204	
英文名	Special Activities in Junior High School							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	3 年	前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34581016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・自らの体験を他の受講者と共有することにより、学修内容の深化を図る。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校教育全体を通して実施する中学校における特別活動の意義と内容を理解し、具体的な実践事例を通して、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や方法を身に付ける事ができると共に、思春期における課題について検討し、教員としての実践力を高めることを目標とする。特別活動の実践を元にした講義に、関連した項目についての協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1.特別活動の意義について理解し、説明することができる。 2.特別活動の具体的活動について知り、その課題を具体的事例を通して考え、対応策を検討する力を習得することができる。■ 3.特別活動に係る思春期における特性について理解する事ができる。									
使用教材	中学校学習指導要領解説特別活動編(256 円)									
参考文献	講義中に適宜配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(20%)を元に総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)		kurihara-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	特別活動の意義と内容								
	該当到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、概要をつかんでおく。						1.5	時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。また、特別活動の概要を理解する。						1.5	時間
2	講義内容	思春期①								
	該当到達目標	予習	学習指導要領に記述された「思春期」に関する内容に目を通しておく。						1.5	時間
	1. 2	復習	思春期の特性について理解し、自分の身の回りに存在した思春期に係る事例をレポートとしてまとめる。						1.5	時間
3	講義内容	思春期② & 学級活動の特異性								
	該当到達目標	予習	思春期のレポートを発表できるようにしておく。						1.5	時間
	1. 2	復習	中学における特別活動の内容について知り、その内容を想起し、まとめておく。						1.5	時間

4	講義内容	学級活動の内容(適応と成長&健康安全)■		
	該当到達目標	予習	中学校における学級活動について振り返り、説明できるようにする。	1.5 時間
	2	復習	適応と成長や健康安全について、思春期との関連性で理解し、重要なポイントをノートにまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	学業と進路■		
	該当到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。	1.5 時間
	1. 2. 3	復習	中学校における進路指導について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生徒会活動・部活動の現状と課題		
	該当到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。また、部活を巡る課題について、新聞等から情報を集める。	1.5 時間
	2. 3	復習	生徒会の活動や部活についてのメリットとデメリットをノートにまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	学校行事(健康安全体育的行事)と生徒指導■		
	該当到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学校行事に係る概略を把握する。また、インターネット等で生徒指導提要について調べる。	1.5 時間
	2.3	復習	特別活動における生徒指導の重要性について、説明する事が出来るようにする。	1.5 時間
8	講義内容	学校行事(旅行集団宿泊的行事)・期末試験		
	該当到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学校行事Ⅱに係る概略を把握する。教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、中学校における特別活動についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中等教育方法論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW205	
英文名	Educational Methods in Junior High School							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・実際の中学校の授業ビデオの視聴を元に協議・考察を行い、リアルな小中の授業観の差異を学修する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	次世代を作る生徒の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を習得する。具体的な授業実践等の視聴を通して、教科指導等に必要な知識や方法を身に付ける事ができると共に、教員としての実践力を高めることを目標とする。実践を元にした講義に、関連した項目についての協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1. 多様な教育観について理解し、中学における教育方法学の現状と課題について理解できる。 2. 授業の在り方の重要性並びに方法について理解し、学校現場で主体的に授業研究に参画することができる素養を習得する。 3. 授業づくりの方法について、学習指導要領の示す具体的方策に沿って習得する事ができる。■									
使用教材	教育方法学(佐藤学著 岩波テキストブックス本体 2,000 円) : 初等教育方法論で購入済み。									
参考文献	講義中に適宜配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(20%)を元に総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	学習観の変遷①(教育方法の歴史的意義)								
	該当到達目標	予習	テキスト p7～p32 に目を通し、教育の概要をつかんでおく。							1.5 時間
	1	復習	教育観の変遷の流れをノートにまとめる。							1.5 時間
2	講義内容	学習観の変遷②(中学校における教育方法)								
	該当到達目標	予習	自身の中学校時代の授業を想起し、授業方法の課題をノートにまとめておく。							1.5 時間
	1. 2	復習	中学校における教育方法学の課題について講義内容を元に理解しておく。							1.5 時間
3	講義内容	中学校における授業研究								
	該当到達目標	予習	テキスト p33～p62 に目を通しておく。							1.5 時間
	1. 2	復習	授業を見取る視点についてノートにまとめておく。							1.5 時間
4	講義内容	教育方法の実際①(中学校数学科の授業ビデオを視聴)■								
	該当到達目標	予習	授業研究の視点や方法について、文献やインターネットで調べておく。							1.5 時間

	2	復習	授業で気づいた事、疑問に思った事をノートにまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	教育方法の実際②(視聴した中学校数学科の授業研究)■		
	該当到達目標	予習	視聴した授業について、ノート等を見て振り返っておく。	1.5 時間
	1. 2. 3	復習	理科系授業と授業研究の特徴についてノートにまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	教育方法の実際③(中学校社会科の授業ビデオを視聴)■		
	該当到達目標	予習	授業研究の視点や方法について、文献やインターネットで調べておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	授業で気づいた事、疑問に思った事をノートにまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	教育方法の実際④(視聴した中学校社会科の授業研究)		
	該当到達目標	予習	視聴した授業について、ノート等を見て振り返っておく。	1.5 時間
	2.3	復習	文科系授業と授業研究の特徴についてノートにまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	小学校と中学校の授業の差異・期末試験■		
	該当到達目標	予習	小学校と中学校の授業の違う点について発表できるようにしておく。教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、中学校における特別活動についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		教育における ICT 活用						科目ナンバリング	CEW220	
英文名		ICT utilization in education						講義形態	講義	
担当教員		大橋博 村田美和								
科目に関連した実務経験		【大橋】小学校教員時代に情報教育の指導経験 【村田】高崎先端 ICT 教育協議会で小中学校における ICT 教育の指導・講習（経験）								
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース選択 1 単位 教員養成コース必修 1 単位						
関連資格		免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭								
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	2	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		④⑧⑨⑩⑪⑰								
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 本科目では教育現場での ICT 活用の現状や今後の方向性を理解する。その上で児童生徒が授業で ICT 活用をしたり、教員が授業・校務で ICT 活用をしたりするための考え方や能力を育むことを目指す。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけなどの理解も目指す。 ② 本科目では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が ICT 機器を使って体験的に学修する機会も設ける。								
到達目標		1.教育現場における ICT 活用の意義や理論について理解する 2.ICT を活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する■ 3.情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける								
使用教材		自主作成教材を使用する。								
参考文献		●文部科学省・情報教育の推進(2024.1 accessed) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369613.htm ●文部科学省・GIGA スクール構想の実現について(2024.1 accessed) https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm ●初等中等教育にける情報教育推進(2024.1 accessed) https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/koyou/dai6/siryu4.pdf								
評価方法		授業毎のリフレクション提出物(30%)，期末試験(70%)で評価する。								
課題・評価に対するフィードバック方法		授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。								
オフィスアワー （研究室）		大橋：月曜1限，火曜1限 （9号館3階302研究室）， 村田：火曜2限，月曜3限 （8号館5階502研究室）			メールアドレス （#→@）		ohashi#takasaki-u.ac.jp murata-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	教育現場における ICT を活用する意義について理解する								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読み、授業の目的を理解する。						1.5 時間	
		復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに教育現場における ICT を活用する意義をまとめ、整理しておく。						1.5 時間	
2	講義内容	教育現場における ICT 活用の現在とこれからについて理解する								
	該当到達目標	予習	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，ICT 活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。						1.5 時間	

	1. 2	復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに教育現場での ICT 活用の現在とこれからがどのようになるのかをまとめ、整理する。	1.5 時間
3	講義内容	特別支援・幼児教育における ICT 活用について理解する ■		
	該当到達目標	予習	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し、ICT 活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5 時間
	1. 2	復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに特別支援・幼児教育における ICT 活用がどのように行われているのかをまとめ、整理する。	1.5 時間
4	講義内容	小中学校の授業の中での ICT 活用について理解する ■		
	該当到達目標	予習	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し、ICT 活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5 時間
	2	復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに小中学校の授業の中での ICT 活用がどのように行われているのかをまとめ、整理する。	1.5 時間
5	講義内容	小中学校の授業や校務での ICT 活用について理解する ■		
	該当到達目標	予習	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し、ICT 活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5 時間
	1. 2. 3	復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに小中学校の校務や授業の中での ICT 活用がどのように行われているのかをまとめ、整理する。	1.5 時間
6	講義内容	児童生徒の情報活用能力の育成について理解する ■		
	該当到達目標	予習	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し、情報活用能力育成を目指す教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに児童生徒の情報活用能力とはどのようなもので、どのように育てようとしているのかをまとめ、整理する。	1.5 時間
7	講義内容	情報モラル教育と情報セキュリティ教育について理解する ■		
	該当到達目標	予習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに児童生徒の情報活用能力の育成とはどのようなもので、どのように育てようとしているかをまとめ、整理する。	1.5 時間
	2.3	復習	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに児童生徒の情報モラル教育と情報セキュリティ教育とはそれぞれどのようなもので、どのように育てようとしているかをまとめ、整理する。	1.5 時間
8	講義内容	様々な指導法と講座のまとめ・期末試験		
	該当到達目標	予習	参考文献及びこれまでの講義中に配付された資料をもとに本科目で学んだことをまとめ、整理する。	1.5 時間
	2. 3	復習	試験内容を振り返り、教育現場での ICT 活用についてまとめ、理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・講義は教員と学生が双方向な意見のやり取りを行う。授業中や課題としてプレゼンテーションをすることがある。 ・本講義中に、高崎市の小中学校における ICT ボランティアの紹介を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	国語科指導法(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW206		
英文名	Teaching Methods in Japanese Language						講義形態	講義		
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した実務経験	中学校での国語科の指導(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:小学校教諭									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3489									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・小学校学習指導要領国語の目標及び内容について理解する。 ・小学校国語科の教科書教材を用いて、グループごとに教材研究をおこない、学習目標・学習内容及び活動・評価等について検討し、学習指導案の作成および模擬授業をおこなう。 ・上記により、小学校で国語科の授業をおこなうための知識・技能を確かなものとする。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 ・小学校国語科の指導法に関する理論および教材の活用や実践の在り方について考えていく。第 1 回～第 8 回は国語科を取り巻く問題や個別の学習内容・指導に関する内容、第 9 回～第 13 回は授業づくりに関する内容と模擬授業、第 14 回～第 15 回は書写の指導に関する内容となる。 ・講義形式の授業のほか、グループごとの検討や発表、模擬授業を実施する。 ・各回の予習・復習は C-learning 上で提出する。									
到達目標	1. 学習指導要領に示される国語科の目標及び内容について理解することができる。 2. 国語科において育む資質・能力について理解することができる。 3. 小学校国語科の教科書教材から、学習内容や学習活動を構想することができる。 4. 小学校国語科の授業を構想し、適切な教材や指導法を選択したり開発したりすることができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説国語編, その他は授業で配布									
参考文献										
評価方法	・作成した学習指導案(30%) ・模擬授業(20%) ・課題の取り組み状況(50%) 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	作成した学習指導案にコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー(研究室)	水曜 2 限・金曜 2 限(8 号館 508 研究室)				メールアドレス (#→@)	kanno-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	国語科の目標と内容について								
	該当到達目標	予習	学習指導要領の国語の「目標」に目を通す。						1 時間	
	1,2	復習	学習指導要領解説の「国語科の目標」に目を通す。						2 時間	
2	講義内容	国語科における今日的な課題について								
	該当到達目標	予習	全国学力・学習状況調査や PISA などに関する情報を収集する。						2 時間	
	1,2,	復習	国語科における課題とそれに対する考えをまとめる。						1 時間	
3	講義内容	「言葉の特徴や使い方に関する事項」について								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」に目を通す。						1 時間	
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。						2 時間	
4	講義内容	「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について								

	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「(2)情報の扱い方に関する事項」「(3)我が国の言語文化に関する事項」に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
5	講義内容	「話すこと・聞くこと」の指導について(情報機器及び教材の活用を含む)		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「A 話すこと・聞くこと」に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
6	講義内容	「書くこと」の指導について(情報機器及び教材の活用を含む)		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「B 書くこと」に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
7	講義内容	「読むこと」(文学的文章)の指導について(情報機器及び教材の活用を含む)		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「C 読むこと」に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
8	講義内容	「読むこと」(説明的文章)の指導について(情報機器及び教材の活用を含む)		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「C 読むこと」に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
9	講義内容	「読むこと」における教材研究の事例と検討		
	該当到達目標	予習	指定された教科書教材について教材研究をおこなう。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りながら指導方法について考える。	1.5 時間
10	講義内容	国語科の授業における情報機器の活用など■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説において情報(ICT)機器に言及している箇所を目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業で想定する児童の実態や学習内容に合わせた情報機器の活用について考える。	1.5 時間
11	講義内容	学習指導案の意義と作成について■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に向けた教材研究をおこなう。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業の学習指導案を作成する。	1.5 時間
12	講義内容	国語科における板書の機能と構造■		
	該当到達目標	予習	模擬授業の板書内容をまとめる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業の板書計画を作成する。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業の実施と振り返り■		
	該当到達目標	予習	模擬授業の内容・計画を見直す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業の振り返りをもとに学習指導案を修正する。	1.5 時間
14	講義内容	書写の指導について(1)目標と内容など		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の書写に関する箇所を目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
15	講義内容	書写の指導について(2)手本中心型授業と課題発見型授業など■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の書写に関する箇所を目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・小学校学習指導要領および小学校学習指導要領解説国語編については、授業時に適宜該当箇所を紹介するが、各自必要に応じて購入(「小学校学習指導要領解説国語編」文部科学省・東洋館出版社・2018・175 円)したり、文部科学省ホームページで確認したりすること。 ・Word および PowerPoint が使用できる環境を準備しておくこと。 ・資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会科指導法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW207	
英文名	Teaching Methods in Social Studies							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○		○	○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・授業実践で実際に作成された児童の作品やレポートを見ることを通して、リアルな授業観を習得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学習指導要領に示された内容を、実際に実践された社会科授業の授業研究や、具体的な社会科に係る活動を行うことを通して理解し、実践のための方策や方法を習得することができる。社会科の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1.学習指導要領に基づく社会科における資質・能力の育成について理解する事ができる。 2.授業づくりに不可欠な、教材研究、授業技術、取り組み手法を習得し、実践することができる。 3.社会科の授業づくりに係る課題について知り、課題克服に向けて考える事ができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説社会編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 新社会科授業づくりハンドブック(全国社会科教育学会編 2260 円+税 明治図書)									
参考文献	授業中に適宜資料を配付する。									
評価方法	定期試験(40%) 授業後の小レポート(10%) 授業内で作製した成果物(20%) 模擬授業と発表(30%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー(研究室)	8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	講義の概要 & 社会科教育の現状と課題								
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p10～p19 並びに新社会科授業づくりハンドブック第 1 章に目を通しておく。							1.5 時間
	1,3	復習	社会科教育の目標と、現状についてノートにまとめる。							1.5 時間
2	講義内容	栗原実践から学ぶ(6 年生単元 戦国時代の人々「真田幸村を追い」を通して) ■								
	該当到達目標	予習	事前配布資料に目を通し、実践内容の概要をつかんでおく。							1.5 時間
	1,3	復習	実践内容の概略と意義についての自分の考えをまとめ、社会科の授業に大切な視点を理解する。							1.5 時間
3	講義内容	社会科授業の実際 I その 1(単元「海物語」江ノ島編を通して①) ■								
	該当到達目標	予習	社会科教育と教育の「画一化」について、自分の意見をまとめる。							1.5 時間
	2,3	復習	社会科における授業の画一化のメリットとデメリットについて理解する。							1.5 時間
4	講義内容	社会科授業の実際 I その 2(単元「海物語」江ノ島編を通して②) ■								
	該当到達目標	予習	単元「海物語」の授業構成をノートにまとめ、整理しておく。							1.5 時間

	1,2,3	復習	江ノ島に係る授業で、授業づくりに大切なポイントは何かをノートにまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	社会科授業の実際Ⅰ その3(単元「海物語」横浜編を通して) ■		
	該当到達目標	予習	江ノ島に係る授業で、児童が習得した資質・能力についてまとめる。	1 時間
	1,2,3	復習	単元「海物語」の実践から得られた質の高い社会科の授業づくりに不可欠な要素をノートにまとめ、説明できるようにする。	2 時間
6	講義内容	社会科授業の実際Ⅱ(防災教育①:中澤実践を通して)		
	該当到達目標	予習	新社会科授業づくりハンドブック p204～p213 に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	中澤実践の概要をノートにまとめ、講義中のセッションを踏まえて、実践の成果と課題について検討する。	2 時間
7	講義内容	社会科授業の実際Ⅲ(防災教育②:山井実践を通して)		
	該当到達目標	予習	新社会科授業づくりハンドブック p214～p223 に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	山井実践の概要をノートにまとめ、講義中のセッションを踏まえて、実践の成果と課題について検討する。	2 時間
8	講義内容	社会科授業の実際Ⅳ(防災教育③:大河原実践を通して)		
	該当到達目標	予習	新社会科授業づくりハンドブック p224～p234 に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	社会科の授業づくりに不可欠な教材研究及び保護者連携の重要性を理解する。	2 時間
9	講義内容	社会科授業の実際Ⅴ(5年栗原実践「ハンバーガーショップを作ろう」①) ■		
	該当到達目標	予習	前講義をふり返し、授業づくりの概略を把握し、実践の意義を検討する。	2 時間
	2	復習	5年社会科の授業づくりに不可欠な教材研究の重要性を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	社会科授業の実際Ⅴ(6年栗原実践「ハンバーガーショップを作ろう」②) ■		
	該当到達目標	予習	前講義をふり返し、授業の概略を把握し、実践の意義を検討する。	1.5 時間
	2	復習	6年社会科の授業づくりに不可欠な多方面からの教材研究の重要性を理解する。	1 時間
11	講義内容	模擬授業①(模擬授業の構想と授業づくり)		
	該当到達目標	予習	事前提示のあったテーマに沿って、授業化する領域・内容を検討しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	授業づくりに取り組むための教材や方法に係る準備をする。	1.5 時間
12	講義内容	模擬授業②(模擬授業づくり演習)		
	該当到達目標	予習	授業づくりに向けての各自のアイデアをノートにまとめておく。	1.5 時間
	2	復習	模擬授業実施に向けて、チームで方法・役割分担を決める。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業③(模擬授業の実際と授業評価①)		
	該当到達目標	予習	模擬授業の方法についてチームで検討する。	1.5 時間
	2	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業④(模擬授業の実際と授業評価②)		
	該当到達目標	予習	模擬授業の方法についてチームで検討する。	1.5 時間
	2	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	社会科指導法のまとめ・記述試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1 時間
	1,2,3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、社会科教育についての理解を深める。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	算数科指導法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW208	
英文名	Teaching Methods in Elementary Mathematics							講義形態	講義	
担当教員	大橋 博									
科目に関連した実務経験	小学校教諭として新潟県内の公立小学校に 26 年間勤務									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 8 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①小学校算数科の目標および5領域の内容を教科固有の側面および教育的側面から考察しつつ理解する。それらをもとに算数科授業を行う上での実践的な授業力の基礎を身に付けていく。 ②10回目までの講義は、担当が話題や課題を提供し、それをもとに履修生は授業を構想したり、指導案を作成したりする。11回目以降は、グループ単位の模擬授業中心の演習を行う。									
到達目標	1.小学校算数科の目標および5領域の内容について理解することができる。 2.小学校算数科の内容の系統性や教育的な意味について理解することができる。■ 3.小学校算数科における授業の具体について、構想・計画、実施、評価をすることができる。■									
使用教材	必要に応じて資料を配布する。									
参考文献	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』 日本文教出版 224 円									
評価方法	授業内課題 70%、期末レポート 30%、その他授業中の発言等により総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	・課題レポートについてはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜、火曜 1 限。授業時間外の質問はメールにて受付。(9 号館 3 階 302)				メールアドレス (#→@)	ohashi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	算数教育の目的と今日的な課題について知る								
	該当到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説・算数編第 1 章(p1～p20)をよく読む。						1.5	時間
		復習	学習指導要領における教科の目標について、講義内容と関連付けて考える。						1.5	時間
2	講義内容	算数科の目標と学習内容の系統について知る								
	該当到達目標 1,2	予習	小学校学習指導要領解説・算数編第 2 章(p21～p74)をよく読む。						1.5	時間
		復習	学習指導要領の記述について、講義内容と関連付けて考える。						1.5	時間
3	講義内容	「数と計算」領域について(1)領域の概観を知る								
	該当到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説・算数編「A 数と計算」領域(第 2 章 p42～p49)をよく読む。						1.5	時間
		復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。						1.5	時間
4	講義内容	「数と計算」領域について(2)授業の実際■								
	該当到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「A 数と計算」領域における、四則計算に関連する記述を中心によく読む。						1	時間
		復習	「数と計算」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。						2	時間
5	講義内容	「図形」領域について(1)領域の概観を知る								

	該当到達目標	予習	学習指導要領解説・算数編「B 図形」領域(第2章 p50～p56)をよく読む。	1.5 時間
	1,2	復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。	1.5 時間
6	講義内容	「図形」領域について(2)授業の実際■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「B 図形」領域における、図形の構成に関連する記述を中心によく読む。	1 時間
	1,2	復習	「図形」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
7	講義内容	「測定」及び「変化と関係」領域について(1)領域の概観を知る		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説・算数編「C 測定」および「D 変化と関係」領域(第2章 p56～p66)をよく読む。	1.5 時間
	1,2	復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。	1.5 時間
8	講義内容	「測定」及び「変化と関係」領域について(2)授業の実際■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「C 測定」領域は3学年単元、「C 変化と関係」領域は5学年単元を中心によく読む。	1 時間
	1,2	復習	「C 測定」および「C 変化と関係」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
9	講義内容	「データの活用」領域について(1)領域の概観を知る		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説・算数編「D データの活用」領域(第2章 p67～p75)をよく読む。	1.5 時間
	1,2	復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。	1.5 時間
10	講義内容	「データの活用」領域について(2)授業の実際■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説の「D データの活用」領域における、数学的活動に関連する記述を中心によく読む。	1 時間
	1,2	復習	「データ活用」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
11	講義内容	算数科授業について(1)模擬授業による演習1。■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	1 時間
	1,2,3	復習	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	2 時間
12	講義内容	算数科の授業づくりについて(2)模擬授業による演習2。■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	2 時間
	1,2,3	復習	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	1 時間
13	講義内容	算数科の授業づくりについて(3)模擬授業による演習3。■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	1 時間
	1,2,3	復習	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	2 時間
14	講義内容	算数科の授業づくりについて(4)模擬授業による演習4。■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	2 時間
	1,2,3	復習	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	1 時間
15	講義内容	算数科の授業づくりについて(5)模擬授業による演習5。■		
	該当到達目標	予習	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授	1 時間

	1,2,3		業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。同時に、これまでの講義内容をふり返り、整理し期末レポートの作成に備える。	
		復習	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善するとともに、指定された期末レポートの作成に取り組む。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・小学校学習指導要領解説算数編については、文部科学省ホームページを確認したり、各自で購入(「小学校学習指導要領解説算数編」文科省・日本文教出版・2018・224 円)したりして、第 2 章(P75)までを読み込んでおく。 ・演習は模擬授業や指導案作成を実際に行う。(オンラインへの変更時も基本的に、記載の内容で行うが、11 回以降の演習部分については変更の可能性あり。) ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	理科指導法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW209	
英文名	Teaching Methods in Science							講義形態	講義	
担当教員	片山 豪									
科目に関連した実務経験	教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位, 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4 6 7 13 14 15									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学習指導要領の内容を理解するとともに、小学校理科の授業における指導法を学ぶ。また、小学校理科の授業を行うにあたって計画、準備ができるようになるとともに、学習指導案の書き方を習得する。各講義の前半は、前回の授業の小テスト、学習指導要領に関する講義や学生の発表を行う。後半は学生が作成した学習指導案についての検討を行う。									
到達目標	1.小学校理科の授業における指導法を学習指導要領の内容を理解する。 2.小学校理科の授業の計画、準備ができる。 3.詳細な学習指導案が書くことができる。■ 4.学習指導要領の理科の目的に伴った理科授業が行える。■ 5.情報機器(PC やタブレット等)及び教材の活用を含む理科の教材を開発することができる。									
使用教材	小学校学習指導要領解説理科編, 小学校理科教科書, 自作プリント等									
参考文献	授業において紹介。									
評価方法	学習指導要領の解説のための資料(プレゼン資料, 小テスト)作成 10%, 学習指導案 20%, 小テスト 10%, 考査 50%, 授業への参加度、態度、積極性等 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	学習指導案に関して修正すべき点を示し、再度提出していただく。 小テストを返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限、金曜 2 限 (9 号館 4 階 411 研究室)				メールアドレス (#→@)	katayama#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション, 学習指導要領について, 教材開発(情報機器及び教材の活用を含む)について								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編の総説, 小学校理科の目標を読んでおく。							1.5 時間
	1,2,3	復習	講義の方針を確認するとともに, 学習指導要領の内容を理解する。							1.5 時間
2	講義内容	学習指導案の書き方, 評価規準について								
	該当到達目標	予習	評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料。							1.5 時間
	1,2,3	復習	評価規準を理解し, 学習指導案の構成を再度確認する。							1.5 時間
3	講義内容	学習指導要領の総説, 理科の目標及び内容について								
	該当到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。							1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。							1.5 時間
4	講義内容	現場教師による指導の実際(授業の組み立て方と学習指導案の書き方)								

	該当到達目標	予習	学習指導要領，評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を復習して授業の組み立て方と学習指導案の書き方を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	第3学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
6	講義内容	第3学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
7	講義内容	第4学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
8	講義内容	第4学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
9	講義内容	第5学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
10	講義内容	第5学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
11	講義内容	第6学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
12	講義内容	第6学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
13	講義内容	指導計画の作成と内容の取扱い他について		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	模擬授業を振り返り，良い点，改善点をまとめておく。模擬授業の学習指導案を見直す。	1.5 時間

15	講義内容	模擬授業 B 生命・地球の内容■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
		復習	模擬授業を振り返り, 良い点, 改善点をまとめておく。模擬授業の学習指導案を見直す。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		生活科指導法(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW210		
英文名		Teaching Methods in Living Environment Studies						講義形態	講義		
担当教員		栗原 幸正									
科目に関連した実務経験		・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験) ・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営(経験)									
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		2 4 8 11 12									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○	○	○	○	○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		・フィールドワークや物作り等を、受講生自らが体験することを通して、生活科の授業に不可欠なコミュニケーション能力や気づきや思いの具体化への技術や教授法等を習得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		生活科における学習指導要領に基づく授業づくりについて、生活科で目指すべき資質・能力を理解した上で、具体的事例や具体的活動を通して、各学問と関連づけながら多面的に考える事ができる。また同時に、生活科に係る技術や方法を習得することで、生活科の授業実践をする事ができる。生活科の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う授業感想記述を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標		1.児童や学校の実態に即した、学習指導要領の主旨に沿った、生活科の理論を習得する事ができる。 2.生活科に係る、授業技術や教材研究の手法を習得する。 3.生活科に係る授業づくりを行い、模擬授業を行うことができる。■									
使用教材		生活科教科書(光村図書 上 874 円) 【小学校学習指導要領解説生活編(134 円) 新しい生活科教育の創造―体験を通じた資質・能力の育成―(学術図書出版 1900 円+税)】については 2 年前期で購入済み。編入等の学生は自分で注文して要購入。									
参考文献		授業内容に対応して、適宜資料を配付する。									
評価方法		定期試験(40%) 授業後の小レポート(20%)課題レポート(20%) 成果物(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法		授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)		8 号館1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)		kurihara-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	講義ガイダンス・生活科の意義と目標・生活科お宝探偵団■									
	該当到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説生活編及び新しい生活科教育の創造に目を通しておく。							2 時間	
		復習	目標と意義について、ノートにまとめる。お宝探偵団の課題に取り組む。							1 時間	
2	講義内容	生活科の実践Ⅰ:(栗原実践「基地づくり」を通して)■									
	該当到達目標 1. 2	予習	事前配付資料に目を通しておく。							2 時間	
		復習	生活科単元の広がり、単元構成について理解する。							1 時間	
3	講義内容	生活科の実践演習: 基地を創ろう■									
	該当到達目標 1. 2	予習	栗原実践から、生活科のフィールドづくりに不可欠な条件を考える。							1.5 時間	
		復習	生活科の趣旨に沿った基地作りの計画書を作成する。							1.5 時間	

4	講義内容	生活科の実践を読み解く: (栗原実践 & 栽培に係る実践) ■		
	該当到達目標	予習	栗原実践の概要について、ノートにまとめて把握しておく。	1.5 時間
	1. 2	復習	生活科の授業を授業研究する際の視点についてまとめ、説明できるようにしておく。	1.5 時間
5	講義内容	生活科の実際①: 学区探検 (学校に係る領域)		
	該当到達目標	予習	学習指導要領並びに教科書を読み、実践の概要をつかむ。自然観察の準備をすると共に、写真が撮れる機材をそろえておく。	1 時間
	1. 2	復習	学区探検について、生活科としての留意点を理解する。見つけた季節を、所定の書式で発表用の資料としてまとめ提出する。	2 時間
6	講義内容	生活科の実際②: おもちゃを作ろう (遊びに係る領域)		
	該当到達目標	予習	事前に指示された遊び道具づくりに必要な材料を準備する。	1.5 時間
	1. 2	復習	作成した遊び道具を写真に撮り、振り返りを記述して提出する。	1.5 時間
7	講義内容	生活科の実際③: 生活科の物作りについて考える		
	該当到達目標	予習	教科書の金田実践に目を通しておく。	2 時間
	1. 2	復習	金田実践について教科書を用いて吟味し、課題についてレポートにまとめる。	1 時間
8	講義内容	生活科の実際④: 自分コラージュの制作構想 (自分に係る領域)		
	該当到達目標	予習	コラージュ製作に必要な写真や新聞、文字等を準備しておく。	1.5 時間
	1. 2	復習	コラージュの主旨がわかりやすくなるよう作品の構成を考える。	1.5 時間
9	講義内容	生活科の実際⑤自分コラージュの制作 (表現技術と評価)		
	該当到達目標	予習	作成コラージュの制作意図が他者に伝わるようなデザインを考える。	1.5 時間
	1. 2	復習	作成したコラージュの完成度を上げ、制作意図を添付して提出する。	1.5 時間
10	講義内容	生活科の単元構想演習		
	該当到達目標	予習	既に履修した「生活」の講義で説明された単元構想について、資料等を読み返しておく。	1.5 時間
	2. 3	復習	指示されたテーマの単元構想を考え、シートにまとめて提出する事とおして、次の講義からの模擬授業づくりに必要な教育方法をノートにまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	模擬授業の授業構想と教材研究・授業準備		
	該当到達目標	予習	授業づくりに向けての各自のアイデアをノートにまとめておく。	1 時間
	2. 3	復習	模擬授業実施に向けて、チームで方法・役割分担を決める。	2 時間
12	講義内容	模擬授業発表と授業研究① ■ (模擬授業の役割分担の把握)		
	該当到達目標	予習	模擬授業に向けての各自の分担に基づき教材研究を行う。	1.5 時間
	2. 3	復習	模擬授業実施に向けて、授業の質を高める。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業発表と授業研究② ■ (模擬授業の技術習得)		
	該当到達目標	予習	模擬授業の質を高めると共に、授業研究の視点を明確にする。	1.5 時間
	3	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業発表と授業研究③ ■ (模擬授業の授業評価)		
	該当到達目標	予習	模擬授業の質を高めると共に、授業研究の視点を明確にする。	1.5 時間
	3	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	生活科指導法のまとめと期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、生活科教育についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間 (予習・復習)				45 時間
備考	・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	家庭科指導法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW211	
英文名	Teaching Methods in Home Economics							講義形態	講義	
担当教員	内田 幸子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
履修を必須とする資格	免許・資格指定科目:小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	2 3 6 7 11 12 13 15									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○			○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	提出された学習指導案にコメントを付しフィードバックする									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校家庭科の目標、教育的意義、教育内容を理解した上で、家庭科の授業をつくるために必要な知識を理解し、指導案の作成・具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようにする。授業の進め方は、分野毎の学習指導案を作成し、模擬授業と相互評価を行う。小学校家庭科教育の意義や目標を理解しながら、ICTを活用した教材の活用を通して指導のあり方を考える。									
到達目標	1.小学校家庭科の学習内容について理解する 2.衣生活、食生活、家庭生活、消費生活の実践的な学びを深めることができる 3. 小学校学習指導要領「家庭」に基づいて教材研究や指導計画の立案できる 4.グループワークを通じて、他を尊重して自己表現できる 5.模擬授業の中で児童の考えを引き出す工夫ができる									
使用教材	教科書「小学校学習指導要領解説」(文部科学省)ISBN978-4-491-02374-8 プリント									
参考文献	参考図書 「はじめての家庭科指導」櫻井順子著(開隆堂)ISBN978-4-304-02076-6 「家庭科の基本」流田直著(学研)ISBN978-4-05-405222-2									
評価方法	授業内活動 30%、提出された指導案と模擬授業 70%により評価する 総合評価 60%以上を合格とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	指導案は評価してフィードバックする									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 3 限 水曜日 3 限 1 号館 505 研究室				メールアドレス (#→@)	uchida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス グループ分け 家庭科指導法を学ぶ意義								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する						1.5 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する						1.5 時間	
2	講義内容	小学校家庭科の目標と内容								
	該当到達目標	予習	教科書と学習指導要領解説に目を通す						1.5 時間	
	1,2	復習	小学校家庭科の目標と学習内容を理解する						1.5 時間	
3	講義内容	家庭科の授業づくり 教材研究(衣生活・住生活)								
	該当到達目標	予習	小学生用教科書の QR コードでデジタルコンテンツを確認する						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる						1.5 時間	
4	講義内容	家庭科の授業づくり 教材研究(食生活)								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	小学生用教科書の QR コードでデジタルコンテンツを確認する	1.5 時間
		復習	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる	1.5 時間
5	講義内容	家庭科の授業づくり 教材研究(家庭生活・消費生活)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	小学生用教科書の QR コードでデジタルコンテンツを確認する	1.5 時間
		復習	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる	1.5 時間
6	講義内容	家庭科の評価について		
	該当到達目標 1,2,3	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
		復習	家庭科の評価について理解する	1.5 時間
7	講義内容	家庭科と他教科との関連		
	該当到達目標 1,2,3	予習	前回配布したプリントに目を通す	1.5 時間
		復習	家庭科と他教科との関連について理解する	1.5 時間
8	講義内容	学習指導案の書き方		
	該当到達目標 1,2,3	予習	前回配布した指導案作成用プリントに目を通す	1.5 時間
		復習	授業資料や小学生用教科書をもとに講義内容をふり返る	1.5 時間
9	講義内容	学習指導案の作成と授業の工夫Ⅰ(衣生活・住生活)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	小学校学習指導要領解説家庭編の該当箇所に目を通す	1.5 時間
		復習	学習指導案の作成(ICTを活用した教材の活用を含む)	1.5 時間
10	講義内容	学習指導案の作成Ⅱと授業の工夫(衣生活)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	小学校学習指導要領解説家庭編の該当箇所に目を通す	1.5 時間
		復習	学習指導案を作成する	1.5 時間
11	講義内容	学習指導案の作成Ⅲと授業の工夫(家庭生活・消費生活)		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	小学校学習指導要領解説家庭編の該当箇所に目を通す	1.5 時間
		復習	学習指導案を作成する	1.5 時間
12	講義内容	模擬授業と評価Ⅰ(衣生活・住生活)		
	該当到達目標 1,2,3,5	予習	模擬授業に備え準備する	1.5 時間
		復習	相互評価をする	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業と評価Ⅱ(食生活)		
	該当到達目標 1,2,3,5	予習	模擬授業に備え準備する	1.5 時間
		復習	相互評価をする	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業と評価Ⅲ(家庭生活・消費生活)		
	該当到達目標 1,2,3,5	予習	模擬授業に備え準備する	1.5 時間
		復習	相互評価をする	1.5 時間
15	講義内容	模擬授業の振り返りとまとめ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	模擬授業の振り返りと自己評価をする	1.5 時間
		復習	模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身につける	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	音楽科指導法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW212	
英文名	Teaching Methods in Music							講義形態	講義	
担当教員	佐藤 和貴									
科目に関連した実務経験	音楽科教諭として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
履修を必須とする資格	免許・資格指定科目:小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、「音楽基礎Ⅰ・Ⅱ」、「音楽」等で学んだ音楽技術と知識を踏まえ、小学校における音楽科の指導法を学ぶ。具体的には、(1)幼稚園との接続を踏まえた初等音楽教育の目的と概要、(2)音楽科の各内容における指導方法の実際、(3)学習指導要領の内容を踏まえた授業の立案方法を学ぶ。 授業では、音楽科の各領域における題材例や教材を体験することを通して、指導すべき内容を実践的に理解していく。また、指導案の立案や模擬授業を行う中で、指導法や音楽教材についての考えを深めていく。各回、講義とともに弾き歌い(範唱・範奏)や模擬授業を行い、技術指導のポイントを習得することを積み重ね、音楽科授業の実践力を身に着ける。									
到達目標	1.小学校における音楽科指導の意義・目的を理解し、説明できる。 2.児童の音楽表現力を引き出す指導者としての知識・技術を習得し、範唱・範奏、伴奏、弾き歌い、指揮等ができる。 3.音楽科授業作りの基礎能力を身につけ、学習指導案作成や模擬授業ができる。■ 4.授業で扱う様々な音楽に関心を持ち、教材化について課題や意見を述べる事が出来る。									
使用教材	①『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』初等科音楽教育研究会編、音楽之友社 ②『小学生のおんがく1』教育芸術社 ③『小学生の音楽2』教育芸術社 ④『小学生の音楽3』教育芸術社									
参考文献	①『小学校学習指導要領解説(平成 29 年告示)音楽編』文部科学省									
評価方法	学習指導案の内容 30%、範唱・範奏の内容 30%、模擬授業の内容 40%を総合する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	模擬授業はその都度コメントをする。授業課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー(研究室)	水曜・2 時限または、木曜・3 時限 (503 研究室)				メールアドレス (#→@)		sato-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 音楽科の目標								
	該当到達目標	予習	使用教材①pp.12-15 を読んでおく。						1 時間	
	1	復習	音楽科の目標を理解し、まとめる。						2 時間	
2	講義内容	歌唱の学習と指導①「歌唱の意義と留意点」■								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.52-55 を読んでおく。	1 時間
		復習	歌唱指導の意義をまとめる。	2 時間
3	講義内容	歌唱の学習と指導②「歌唱教材研究」■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.56-60 を読んでおく。	1 時間
		復習	歌唱指導のポイントをまとめる。	2 時間
4	講義内容	器楽の学習と指導①: 打楽器 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.61-68 を読んでおく。	1 時間
		復習	器楽指導のポイントをまとめる。	2 時間
5	講義内容	器楽の学習と指導②: リコーダー ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	ソプラノリコーダーの運指(使用教材①p.107)を確認しておく。	1 時間
		復習	リコーダーの指導法や留意点をまとめる。(使用教材①pp.69-71)	2 時間
6	講義内容	鑑賞の学習と指導①「鑑賞の意義と留意点」■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.93-94 を読んでおく。	1 時間
		復習	鑑賞指導の意義をまとめる。	2 時間
7	講義内容	鑑賞の学習と指導②「指導法」■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.95-97 を読んでおく。	1 時間
		復習	鑑賞指導のポイントをまとめる。	2 時間
8	講義内容	音楽づくりの学習と指導①「音楽づくりの意義と留意点」■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.83-84 を読んでおく。	1 時間
		復習	音楽づくりの意義をまとめる。	2 時間
9	講義内容	音楽づくりの学習と指導②「指導法」■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	使用教材①pp.85-92 を読んでおく。	1 時間
		復習	音楽づくりのポイントをまとめる。	2 時間
10	講義内容	学習指導案の書き方と作成 ■		
	該当到達目標 1,3,4	予習	これまで学習した音楽科の指導内容のポイントを復習しておく。	1 時間
		復習	学習指導案作成上の留意点を復習し、完成させておく。	2 時間
11	講義内容	模擬授業(歌唱) ■		
	該当到達目標 3	予習	指示された学習指導案を読んでおく。	1 時間
		復習	模擬授業の内容をまとめる。	2 時間
12	講義内容	模擬授業(器楽) ■		
	該当到達目標 3	予習	指示された学習指導案を読んでおく。	1 時間
		復習	模擬授業の内容をまとめる。	2 時間
13	講義内容	模擬授業(鑑賞) ■		
	該当到達目標 3	予習	指示された学習指導案を読んでおく。	1 時間
		復習	模擬授業の内容をまとめる。	2 時間
14	講義内容	模擬授業(音楽づくり) ■		
	該当到達目標 3	予習	指示された学習指導案を読んでおく。	1 時間
		復習	模擬授業の内容をまとめる。	2 時間
15	講義内容	教材の範唱・範奏(発表)		
	該当到達目標 2	予習	範唱、範奏の準備をする。	1 時間
		復習	使用教材①pp.242-248 を復習する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	1)講義で扱う教材は、十分に譜読みを行っておいてください。			

	2)講義で扱う楽曲はインターネット上で検索閲覧するなどして鑑賞し、予習をしておいてください。 3)器楽では、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを使用します。音楽科授業で使用する上で適切な楽器を準備しておいてください。 4)歌唱や弾き歌い、ピアノ伴奏、リコーダー等の技術課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	図画工作科指導法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW213	
英文名	Teaching Methods in Drawing and Handicrafts							講義形態	講義	
担当教員	増田 金吾									
科目に関連した実務経験	中学校美術科教諭として東京都公立中学校に勤務(経験)、幼稚園長として国立大学附属幼稚園に勤務(経験)、東京都公立小学校で教育実習の指導教員を行う(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	図画工作科を指導する際、子ども理解とその教科内容の把握が重要である。加えて、その内容をいかに児童に伝えていくかを考えた時、十分に検討された方法を踏まえなければ望ましい指導はできないと言えよう。 造形教育の歴史や様々な考え方を幅広く考察することを通して、子どもの日常生活から生まれる表現活動の意義を捉え、図画工作科の目標、教育内容・方法(実際の授業例や指導法など)の全体像を把握する。 全員が授業を充実して受けることができるよう努める。また、講義受講に加えて模擬授業も行い、教育実践に結びつけるようにする。									
到達目標	1.図画工作科の特性、子どもの発達、思考、表現、知識・技能などについて理解できる。 2.造形教育の歴史や意義を踏まえつつ、図画工作科教育の目標や課題が分かる。 3.教材や資料等(情報機器の活用を含む)について理解し、題材研究の仕方が分かる。 4.図画工作科の教育内容・実践的指導方法を理解し、学習指導案が書ける。■									
使用教材	(1) 教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育、橋本美保・田中智志監修、増田金吾編著、一藝社、平成27 年発行、2,200 円＋税 (2) 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編、文部科学省著作、日本文教出版、平成 30 年発行、100 円＋税									
参考文献	必要に応じて、授業時に紹介する。									
評価方法	中間まとめ(小テスト)(20%)、「学習指導案」作成(20%)、最終段階での提出レポート(60%)の内容により総合的に判断する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストは各自に返却し、課題の解説と結果に対するコメントをクラス全体に行う。学習指導案には、個々にコメントをつけて返却する。最終レポートについては、最終回に課題の解説を行う。これら課題について、評価規準を示す。									
オフィスアワー (研究室)	出講日の昼休み、8 号館 4 階 407 研究室(または、講師控室)				メールアドレス	masuda-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、今日の教育現場と図画工作科、図画工作科の目標について、実践的視点で解説する。■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで本講義の目標・内容などを理解する。教科書(1)のまえがき、序章 今日の教育と美術科教育 第1・2・3節に目を通す。							2.0 時間
		復習	講義の到達目標、内容、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							1.0 時間
2	講義内容	図画工作科の実態-映画(DVD VIDEO)「トントンゴギゴ 図工の時間」の鑑賞を通して。実践に基づいた詳細な説明を行う。■								

	該当到達目標	予習	教科書(2)の中の学習指導要領部分「小学校学習指導要領 図画工作」に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	「小学校学習指導要領 図画工作」を踏まえて、映画で見た授業から継承したい点をまとめる。	1.5 時間
3	講義内容	美術教育の意義について。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	教科書(1)の第1章 美術教育の意義 第1・2・3・4節に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	美術教育の意義を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	戦前の図画工作教育の要点を示した上で、学習指導要領の変遷を中心とした戦後の図画工作教育について説明する。		
	該当到達目標	予習	教科書(1)の第2章、第3章 美術教育の歴史 戦後 ― 学習指導要領の変遷を軸にして 第1・2・3・4節に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	学習指導要領誕生の意義と変遷について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	造形表現と発達段階(1) なぐり描き期、前図式期、図式期。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	教科書(1)の第5章 造形表現と子どもの成長 第1・2節、第3節1.と第3節2.の(1)～(4)に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	子どもの発達と造形表現との関係、なぐり描き期、前図式期、図式期を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	造形表現と発達段階(2) 写実の芽生え期、擬写実期、決定期。実践に基づいた説明を行う。■ この頃(時期未定)、中間まとめとして小テストを実施する。		
	該当到達目標	予習	教科書(1)の第5章 造形表現と子どもの成長 第3節2.の(5)～(7)に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	写実の芽生え期、擬写実期、決定期を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	表現と鑑賞の活動 ― 平成29年版小学校学習指導要領図画工作科を踏まえて。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	教科書(2)全体に目を通す。	2.0 時間
	1,2,3	復習	平成 29 年版「小学校学習指導要領解説 図画工作」を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	小学校低学年の題材と指導事例。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	教科書(1)の第8章 小学校低学年の題材と指導事例 第1・2・3節に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	小学校低学年の図画工作の題材と指導事例を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	小学校中学年・高学年の題材と指導事例。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	教科書(1)の第9章 小学校中学年の題材と指導事例 第1・2・3節、同 第10章 小学校高学年の題材と指導事例 ― 指導計画と評価 第1・2・3節に目を通す。	2.0 時間
	1,3,4	復習	小学校中学年・高学年の図画工作の題材と指導事例を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	授業と学習の構想、指導計画・学習指導案(学習評価、情報機器の活用法を含む)の作成。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	教科書(2)の「指導計画の作成と内容の取扱い」を熟読する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	図画工作科指導計画・学習指導案の作成について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	題材・教材研究についてグループワークで、ディスカッションする。		
	該当到達目標	予習	題材・教材研究について考えてくる。	1.5 時間
	1,3	復習	題材・教材研究について、ディスカッションしたことを整理する。	1.5 時間
12	講義内容	図画工作科学学習指導案をグループワークでディスカッションし作成する。		
	該当到達目標	予習	自分の考える図画工作科学学習指導案を考えてくる。	1.5 時間
	1,3,4	復習	図画工作科の学習指導案について考える。	1.5 時間
13	講義内容	図画工作科学学習指導案をもとに、グループごとに模擬授業(プレゼンテーション)を行う(1)。実践に基づいた解説を行う。■		
	該当到達目標	予習	グループごとに模擬授業の準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	図画工作科の教育内容・実践的指導方法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	図画工作科学学習指導案をもとに、グループごとに模擬授業(プレゼンテーション)を行う(2)。実践に基づいた解説を行う。■		

	該当到達目標	予習	グループごとに模擬授業の準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	図画工作科の教育内容・実践的指導方法について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	最終レポート提出。図画工作科指導法のあり方。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当到達目標	予習	最終の課題レポートを作成する。本授業の全体をまとめる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	図画工作科指導法の望ましいあり方を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				46.0 時間
備考	・予習・復習の際に生じた不明な点があれば、当日の授業中のことも含め質問を授業中にしてください。クラス全員で共有することが重要であるためです。しかし、その後別の質問等が生じたら、メールで連絡してください。できるだけ速やかに答えます。 ・ルールとして、けじめのある態度で受講するようお願いします。 ・オンラインで実施する場合は、ほぼこの講義内容で、C-learning を用いてオンデマンド式(授業動画とパワーポイントのpdfを使用)による授業を行います。しかし、模擬授業は極力対面で行えるよう努めます。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	体育科指導法(保育・教育の方法技術)							科目 ナンバリング	CEW214	
英文名	Teaching Methods in Physical Education							講義形態	講義	
担当教員	山西 加織 金子 伊樹									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○		○	○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校学習指導要領における体育科の目標と内容を踏まえ、生涯にわたって運動に親しみ、心と体の健康を維持する態度を育むための指導法について学習する。各学年における運動領域や保健領域の授業づくりに関して、基本的な進め方を理解し、指導計画の作成および教材づくり、評価など、授業を運営する能力を身につける。さらに、ビデオカメラ等を用いて児童が運動課題を視覚的に見つけて自らの技能を高められるようにするなど、学習場面に応じた ICT 機器の効果的な活用法を学習する。 【授業の進め方】講義により小学校体育の授業計画・運営について概説する。その後、学習指導案の作成と模擬授業の実践を繰り返し進めていく。模擬授業後には、意見交換によるフィードバックの機会を毎回設ける。									
到達目標	1.小学校学習指導要領「体育科」の目標および内容について理解することができる。 2.各運動領域における実践内容を学習し、指導法を習得する。 3.小学校体育科の学習指導案を作成することができる。									
使用教材	教科書 「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省(東洋館出版社)、その他適宜資料を配布する。									
参考文献	授業時に紹介する。									
評価方法	授業への参加度・態度(30%)、貢献度(10%)、学習指導案(20%)、模擬授業(20%)、レポート課題(20%)を総合的に評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 5 時限、火曜日 3 時限 (8 号館 505 研究室)				メールアドレス (#→@)	yamanishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション なぜ「体育」の授業があるのか？								
	該当到達目標	予習	教科書を読み、小学校学習指導要領体育科の目標と内容を学習する。							1.5 時間
	1	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。							1.5 時間
2	講義内容	小学校体育科の目標及び各運動領域の内容								
	該当到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。							1.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。							1.5 時間
3	講義内容	体育科における年間・単元学習計画作成のポイント								
	該当到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。							1.5 時間
	1,3	復習	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。							1.5 時間
4	講義内容	体育科における指導方法と評価方法								

	該当到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。	1.5 時間
	1,3	復習	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。	1.5 時間
5	講義内容	体育科における教材研究と学習指導案作成		
	該当到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。	1.5 時間
	1,3	復習	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(1) 体づくり運動		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「体づくり運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(2) 器械・器具を使つての運動遊び、器械運動		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「器械・器具を使つての運動遊び」または「器械運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(3) 走・跳の運動遊び		
	該当到達目標	予習	低学年の「走・跳の運動遊び」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
9	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(4) 走・跳の運動、陸上運動		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「走・跳の運動」または「陸上運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
10	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(5) 水遊び、水泳運動		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「水遊び」または「水泳運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
11	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(6) ゲーム		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「ゲーム」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
12	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(7) ボール運動		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「ボール運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(8) 表現リズム遊び、表現運動		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「表現リズム遊び」または「表現運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(9) 保健		
	該当到達目標	予習	学年を選択し、「保健」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでに実施した学習指導案や模擬授業から課題を見つける。	1.0 時間
	1,2,3	復習	小学校体育科における学習指導案作成や授業実践のポイントをレポートにまとめる。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。			

科目名	外国語(英語)の指導法(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW215		
英文名	Teaching Methods in Foreign Language (English) Classes						講義形態	講義		
担当教員	姉崎 達夫・ステイシー クローズ・鈴木 文也									
科目に関連した実務経験	姉崎:英語教師として中学校に勤務(経験) クローズ:英語教師として小学校に勤務(経験) 鈴木:英語教師として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ピアレビュー									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校外国語教育の役割を理解し、外国語活動(中学年)や外国語(高学年)の学習、指導、評価に関する基本的な英語教育の知識や指導技術を身につける。これらの授業は講義形式と模擬授業、それらに関する討議などで構成し進める。									
到達目標	1. 外国語(英語)教育を理解し、児童に対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。 2. 第二言語習得の特徴を理解し、実践に必要な基本的な指導技術(英語での語りかけなど)を身につけることができる。 3. 学習指導要領に基づいた、実際の授業づくりに必要な知識・技術(指導計画作成など)を習得することができる。■ 4. 自ら進んで小学校の外国語教育に携わる意欲を高めることができる。									
使用教材	『最新 小学校英語教育法入門』(樋口忠彦他、研究社、2023、2,420 円) ISBN:9784327411084 Let's Try! 1 (文部科学省)ISBN:978-4-487-25870-3 Let's Try! 2 (文部科学省)ISBN:978-4-487-25871-0									
参考文献	小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月 31 日告示 文部科学省) https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf その他、適宜授業内で紹介する。									
評価方法	レポート・模擬授業 80%、授業内の貢献度 20%で評価する。 総合 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにはコメントをつけて返却する。 授業中の貢献度についてはその都度評価する。									
オフィスアワー (研究室)	姉崎:月曜 2 限、水曜 3 限 (研究室:9 号館 3 階 303) クローズ:月曜 4 限、火曜 3 限 (研究室:9 号館 3 階 307) 鈴木:火曜 2 限、木曜 2 限 (研究室:9 号館 3 階 306) 質問はメールでも受け付ける				メールアドレス (#→@)		姉崎:anezaki # takasaki-u.ac.jp クローズ:stacy-c # takasaki-u.ac.jp 鈴木:suzuki-b # takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、学習指導要領にもとづく小学校外国語教育について(姉崎)								

	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキストの資料②学習指導要領を読み、小学校外国語教育の目的と目標を確認する。	1.5 時間
		復習	学習指導要領をもう一度読み、外国語活動(中学年)と外国語(高学年)の違いを理解する。	1.5 時間
2	講義内容		小・中・高の外国語教育における小学校の役割について(姉崎)■	
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキスト第 1 章に目を通す。特に小・中・高の外国語教育の目標を確認する。	1.5 時間
		復習	義務教育段階の外国語教育における外国語活動・外国語の役割を理解する。	1.5 時間
3	講義内容		小学校外国語活動・外国語における主な教材の構成と内容について(姉崎)	
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキスト第 4 章の小学校外国語活動・外国語における教材に関する記述に目を通す。	1.5 時間
		復習	Let's Try! 1・2の構成と内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容		児童の多様性に応じた外国語の指導と母語使用について(姉崎)	
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキスト第 2 章に目を通す。特に児童の多様性に関する記述を確認する。	1.5 時間
		復習	外国語の指導において、いつ、そしてどの程度母語を使用すれば効果的であるかを児童の状況に応じて考えてみる。	1.5 時間
5	講義内容		児童の発達段階の特性を踏まえた外国語の学習形態(一斉、グループ、ペア、個人)の選択について(姉崎)	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 2 章に目を通す。特に児童の言語習得の特徴に関する記述に目を通す。	1.5 時間
		復習	児童の発達段階に即した授業づくりの例とそのねらいを理解する。	1.5 時間
6	講義内容		コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りの重要性を理解し、受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについての理解とその指導(鈴木)	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 7, 8 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
		復習	国語と英語の両面から、コミュニケーションの重要性や面白さに気づく指導を身につけることができる。	1.5 時間
7	講義内容		題材の選定、教材研究、ICT 等の活用、文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方に関する実践練習(鈴木)	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 9, 10 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
		復習	適切な教材提示により、児童の読む活動、書く活動を円滑に行う指導を身につけることができる。	1.5 時間
8	講義内容		学習到達目標、指導計画(年間指導計画、学習指導案、短時間学習などの授業時間の設定を含むカリキュラム・マネジメント等)、学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)について(鈴木)■	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 11, 12 章に目を通す。学習指導要領の目標に関する事項に目を通す。	1.5 時間
		復習	学習到達目標、指導計画、学習状況の評価等の基本を理解し、授業実践に結びつく指導案作成を行うことができる。	1.5 時間
9	講義内容		模擬授業(5 年生)、授業づくり(読む活動中心)についてのディスカッション(鈴木)■	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 13 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
		復習	読む活動を中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
10	講義内容		模擬授業(6 年生)、授業づくり(書く活動中心)についてのディスカッション、まとめ(鈴木)■	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 13 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
		復習	書く活動を中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
11	講義内容		音声によるインプットの内容を類推し理解するプロセス、児童の発達段階の特徴を踏まえた音声によるインプットの在り方(クローズ)	
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト第 7 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
		復習	児童の発達段階を踏まえた音声指導を身につけることができる。	1.5 時間
12	講義内容		児童の発話につながる英語での語りかけとやり取り、その実践練習(クローズ)	

	該当到達目標	予習		
12 13	1,2,3,4	復習		
12 13 13 14	講義内容	ALT 等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方について(クローズ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 7 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教師や ALT 等の語りかけが、児童の発話につながる指導を身につけることができる。	1.5 時間
13 14 14 15	講義内容	模擬授業(3 年生)、授業づくり(発話につながる語りかけ)についてのディスカッション(クローズ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 9 章 4 節に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ALT との TT に向けての準備、授業実践、評価を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
14 15 15 合計 時間 (予 習・ 復 習) 備考	講義内容	模擬授業(4 年生)、授業づくり(発話を引き出すやり取り)についてのディスカッション(クローズ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第 13 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書を教材として、発話につながる語りかけを中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
	45	時間		
15 合計 時間 (予 習・ 復 習) 備考	・授業(1～5 回)は、学習指導要領に基づいた小学校外国語活動・外国語の目的と目標及びその教材の特徴を理解し、児童の発達段階に応じた指導方法を学ぶ。 ・授業(6～15 回)は、身につけた授業指導の知識や技能を用いて、授業指導の実践を行うための知識・技能を身につける学修をおこなう。		テキスト第 13 章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5 時間

	・3回、4回、9回、10回、11回については、対面で授業を行う。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			
			教科書を教材として、発話につながる語りかけを中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間

科目名		英語科指導法Ⅰ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW301		
英文名		English Teaching MethodsⅠ						講義形態	講義		
担当教員		鈴木 文也									
科目に関連した実務経験		英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目：中学校教諭									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 5 10									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		この授業は、中学校の英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を身につけるための科目である。小・中・高等学校の学習指導要領やそれぞれで使われる教科書を理解し、英語の授業指導に活かせる力を身につける。特に、5 領域の能力とその背景的知識を身につけ、授業指導に活かせるようになる。 授業は主にパワーポイントを用いた講義、そして学生による模擬授業とその後の全体での授業検討等で進められる。									
到達目標		1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.英語科教育法の理論に基づいて 5 領域の指導方法と指導技術を理解することができる。■ 3.5 領域の指導を効率的に行うための指導方法と指導技術を身につけることができる。■ 4.教育課程の意義及び編成の方法と「言語活動」や「言語材料」などを理解し、学習指導要領に従って、自ら進んで英語の授業を計画し、生徒の実態に即した授業指導を展開できる。■									
使用教材		教科書『英語授業の「型」づくりおさえておきたい指導の基本』、小菅和也他、大修館書店、2021、2,200 円＋税									
参考文献		『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』（文部科学省）、その他参考となる文献についてはその都度紹介する。									
評価方法		授業参加（10%）、授業中の議論の内容やレポート等（30%）、模擬授業とその指導案（60%）等から総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		模擬授業の指導案は事前に個別指導を行い、模擬授業終了後の全員での授業検討については、その都度コメントやアドバイスをする。									
オフィスアワー（研究室）		火曜日 2 限、木曜日 2 限 （9 号館 306 研究室）				メールアドレス （#→@）		suzuki-b#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、英語教員に求められること、学習指導要領（小・中・高等学校）									
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の目次や中学校学習指導要領の 10 ページから 28 ページに目を通す。							1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、英語教員が備えておくべき能力と学習指導要領（小・中・高等学校）について、理解することができる。							1.5 時間	
2	講義内容	小・中・高等学校で使用されている英語の教科書									
	該当到達目標 1,2,3	予習	指示に従い、配布されている検定教科書に目を通す。							1.5 時間	
		復習	小・中・高等学校の英語の教科書を概観し、言語材料と言語活動に関して理解する。							1.5 時間	

3	講義内容	外国語として学ぶ英語の音声の特徴とその聞き方と発音の仕方 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章のV、第1章のVI、第2章のVIに目を通す。	1.5 時間
		復習	英語の音声の特徴とその聞き方と発音の仕方について理解することができる。	1.5 時間
4	講義内容	アルファベットからまとまりのある文章までの文字指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章のXIに目を通す。	1.5 時間
		復習	アルファベットから文章までの文字指導手順について理解することができる。	1.5 時間
5	講義内容	授業指導で使用する英語の語、語句、文、文章の表現指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第3章のVI・VIIIに目を通す。	1.5 時間
		復習	英語の語、語句、文、文章の表現指導について理解することができる。	1.5 時間
6	講義内容	授業指導で用いる文法 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第2章の50～55ページ、58～66ページ、85～88ページに目を通す。	1.5 時間
		復習	英語習得の1つの手段として文法をとらえ、指導方法を理解することができる。	1.5 時間
7	講義内容	話し手の意向などを理解できる「聞くこと」の指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第1章のIII、第2章の55～58ページに目を通す。	1.5 時間
		復習	話し手の意向などを理解できる「聞くこと」の指導方法を身につけることができる。	1.5 時間
8	講義内容	語、語句、文単位からまとまりのある文章まで理解できる「読むこと」の指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第1章のV、第2章の88～90ページに目を通す。	1.5 時間
		復習	文単位からまとまりのある文章までの英語を読んで、書き手の意向などを理解できる「読むこと」の指導方法を身につけることができる。	1.5 時間
9	講義内容	自分の考えなどを話す「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第1章のVII、第2章の104～114ページに目を通す。	1.5 時間
		復習	自分の考えなどを話すことができる「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導方法を身につけることができる。	1.5 時間
10	講義内容	語、語句、文単位からまとまりのある文章を書く「書くこと」の指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第2章の114～118ページに目を通す。	1.5 時間
		復習	文単位からまとまりのある文章を書くことができる「書くこと」の指導方法を身につけることができる。	1.5 時間
11	講義内容	異文化(教科書に登場する外国の文化や外国の友など)の理解の指導 ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布される資料に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書に登場する外国の文化やALTの出身地などの文化を、教材として活用して、異文化理解の指導に応用できる指導方法を身につける。	1.5 時間
12	講義内容	学習到達目標に基づく複数の領域の学習指導案の作成とその模擬授業 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第3章のI～IV、XIIと「実習の手引き」に目を通す。	1.5 時間
		復習	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5 時間
13	講義内容	英語でのインタラクションを中心とした学習指導案の作成とその模擬授業 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第3章のI～IV、XIIと「実習の手引き」に目を通す。	1.5 時間
		復習	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5 時間
14	講義内容	生徒の実態や特性、習熟度を考慮した学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第3章のI～IV、XIIと「実習の手引き」に目を通す。	1.5 時間
		復習	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5 時間
15	講義内容	ALT等とのチーム・ティーチングの授業の学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布される資料に目を通す。	1.5 時間
		復習	外国語指導助手とのチーム・ティーチングの授業についての理解を深め、実践	1.5 時間

		できるようにする。	
合計時間(予習・復習)			45 時間
備考	質問はメールでも受け付ける。授業指導で求められる、英語の知識・技能をしっかりと身につけておくこと。模擬授業の事前指導は余裕をもって受け、授業は英語で行うことが望まれる。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名		英語科指導法Ⅱ（保育・教育の方法技術）						科目 ナンバリング	CEW302		
英文名		English Teaching Methods II						講義形態	講義		
担当教員		鈴木 文也									
科目に関連した 実務経験		英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）									
学年・開講期		3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目：中学校教諭									
学位授与方針 との対応		3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力 （多様性理解）			
		3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 5 10									
アクティブラーニング 実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○	○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		この授業は、中学校の英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を身につけるための科目である。中学校の英語教育の学習指導要領及び教科書について理解し、必要な英語教授法と英語科指導に関する知識と技術を身につける。さらに、学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、授業指導に活かせるようになる。理論的な内容を学ぶ英語科教育学Ⅱの授業と、対になる講義である。授業は主に講義、そして学生による模擬授業とその後の全体での授業検討等で進められる。									
到達目標		1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.英語教授法の知識と技術、5 領域の指導を行うための指導方法と技術を身につけることができる。■ 3.英語科教育学の理論に基づいて、5 領域を意識した授業計画を立て、生徒に 5 領域の能力を確実に身につけるよう指導することができる。■ 4.学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、さらに外国語指導助手の活用などに配慮した授業等を実践することができる。■									
使用教材		教科書『新学習指導要領にもとづく英語科教育学 第 3 版』、望月明彦他、大修館書店、2018、2,300 円 必要な講義内容はプリントして配布する。									
参考文献		『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』（文部科学省）、その他参考となる文献についてはその都度紹介する。									
評価方法		授業参加(10%)、模擬授業とその指導案(60%)、授業中の議論の内容等(20%)、テストの作成(10%)等から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法		模擬授業の指導案は事前に個別指導を行い、模擬授業終了後の全員での授業検討については、その都度コメントやアドバイスをする。									
オフィスアワー （研究室）		火曜日 2 限、木曜日 2 限 （9 号館 306 研究室）				メールアドレス （#→@）		suzuki-b#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、小・中・高等学校の英語教育と中学校及び高等学校の学習指導要領									
	該当到達目標	予習	教科書の第 1、2、3 章に目を通す。							1.5 時間	
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、日本の小・中・高等学校の英語教育の実態を確認する。							1.5 時間	
2	講義内容	英語教授法を背景に、学習到達目標に基づいた授業の構想と展開 ■									
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章に目を通す。							1.5 時間	

	1,2,3	復習	授業の目標に応じた英語教授法を背景に、授業を構想し展開する能力を身につけることができる。	1.5 時間
3	講義内容	学習到達目標に合った教材作成、言語活動、ICT の活用 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 16 章と第 17 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業の目標に応じて、指導方法に合った教材作成等を行うことができる。	1.5 時間
4	講義内容	「CAN-DO リスト」などに基づいた言語能力の測定と評価 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章と第 15 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「CAN-DO リスト」を学び、教育課程や学習指導要領との関連性において、実際の授業で配慮することを理解することができる。	1.5 時間
5	講義内容	学習指導案の構成と内容の理解及び年間指導計画や単元毎の指導計画との関連性 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章、第 4 章、第 15 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案の構成と内容を理解し、教育課程に基づく年間指導計画や単元毎の指導計画との関連性を理解することができる。	1.5 時間
6	講義内容	観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評価への総括 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章、第 4 章、第 15 章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案の例（教育課程を踏まえた『実習の手引』参照）を見て、学習指導案を作成し、実際の授業との関連性を理解することができる。	1.5 時間
7	講義内容	中学校 3 年間の英語学習過程と第二言語習得プロセス ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章、第 7 章、第 8 章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第二言語習得の理論に基づいた英語教育を理解し、英語教授法に基づいた学習指導案を学習者の実態に応じて作成することができる。	1.5 時間
8	講義内容	学習指導案（日本語版・英語版）と実際の授業指導 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の第 14 章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案の日本語版と英語版を参考にして、実際の授業指導の展開を理解したり、構想したりすることができる。	1.5 時間
9	講義内容	授業演習(1) TT の学習指導案作成と模擬授業 ■		
	該当到達目標	予習	TT の指導案を作成し、実践できるように準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	TT の模擬授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
10	講義内容	授業演習(2) 「聞くこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当到達目標	予習	「聞くこと」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるように準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「聞くこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
11	講義内容	授業演習(3) 「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当到達目標	予習	「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
12	講義内容	授業演習(4) 「読むこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当到達目標	予習	「読むこと」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「読むこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間

13	講義内容	授業演習(5) 「書くこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	「書くこと」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間	
		復習	「書くこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間	
14	講義内容	授業演習(6) ICT を活用した学習指導案の作成と模擬授業 ■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	ICT を活用した授業の学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間	
		復習	ICT を活用した授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間	
15	講義内容	授業演習(7) All in English の学習指導案の作成と模擬授業 ■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	All in English の授業の学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間	
		復習	All in English の授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)				45 時間	
備考	質問はメールでも受け付ける。模擬授業の事前指導は余裕をもって受ける。実習を意識した模擬授業を行うので、綿密な指導案の作成と指導案に基づいた授業を行うこと。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		英語科教材研究Ⅰ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW303		
英文名		English Teaching Materials I						講義形態	講義		
担当教員		姉崎 達夫									
科目に関連した実務経験		姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）									
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 5 10									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		学習指導要領に沿って、どのような教材を用いれば、生徒が効率的かつ興味をもちながら英語を学べるかを考える。そのため授業では、中学校及び高等学校で用いられる教科書を中心に、デジタル教材、オンライン教材などの基礎的知識を深める講義形式と教材の活用方法を学ぶための模擬授業・ディスカッションを交えた形で進める。									
到達目標		1. 英語科の教材について、どのような教材があるのかを理解する。■ 2. 英語科の教材がどのような目的・手順で開発（デザイン）されているのかを理解する。 3. 英語科の教材をどのように分析・評価すればよいのかを理解する。■ 4. 中学校の英語教科書を使って、学習指導要領で示された 5 領域の指導ができるようにする。■									
使用教材		講義内で適宜資料を配布する。									
参考文献		講義内で紹介する。									
評価方法		授業への参加度、発表、課題（20%）、模擬授業（40%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題のフィードバックは翌週に提示する。音声課題はコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー （研究室）		月曜 2 限、水曜 3 限 （研究室：9 号館 3 階 303）				メールアドレス （#→@）		anezaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・中学校・高等学校外国語（英語）における教材について■									
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						1.5	時間	
		復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。						1.5	時間	
2	講義内容	教材研究の方法（1）：教材分析■									
	該当到達目標 1,2,3	予習	中学校英語教科書数冊を読み、言語材料の配置について比較する。						1.5	時間	
		復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊を比較、検討し、そのデザインの違いを理解する。						1.5	時間	
3	講義内容	教材研究の方法（2）：言語材料とタスク■									
	該当到達目標 1,2,3	予習	タスクについて調べ、言語材料との関連を検討する。						1.5	時間	
		復習	言語材料とタスクの概念を理解する。						1.5	時間	
4	講義内容	中学校英語教科書の分析：第二言語習得理論と教材のシラバス・タスクの観点から■									
	該当到達目標 1,2,3	予習	中学校英語教科書数冊を読み、共通点と相違点をまとめる。						1.5	時間	
		復習	中学校英語教科書を第二言語習得理論とシラバス・タスクの観点から分析し、その教材の特徴を把握する。						1.5	時間	
5	講義内容	小学校外国語活動・外国語（英語）の教科書と中学校英語教科書の違いについて■									
	該当到達目標	予習	小学校と中学校の英語教科書を読み、相違点を理解する。						1.5	時間	

	1,2	復習	小中連携の観点から、小学校 6 年生と中学校 1 年生で使用する英語教科書の活動内容を比較し、スムーズな移行方法を検討する。	1.5 時間
6	講義内容	小学校外国語活動・外国語(英語)の教科書と中学校英語教科書の違いについて■		
	該当到達目標	予習	小学校と中学校の英語教科書を読み、相違点を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	小中連携の観点から、小学校 6 年生と中学校 1 年生で使用する英語教科書の音声と文字に関する指導を比較し、スムーズな移行方法を検討する。	1.5 時間
7	講義内容	デジタル教材とオンライン教材の活用・作成について■		
	該当到達目標	予習	指定されたデジタル教材にアクセスして実際に使用し、比較する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で紹介されたデジタル教材とオンライン教材を作成し、分かりやすさを検証する。	1.5 時間
8	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(1):タスクとクラスルームイングリッシュ		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
9	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(2):タスクとクラスルームイングリッシュ		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
10	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(3):タスクとクラスルームイングリッシュ		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
11	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(4):タスクとフォーカス・オン・フォーム		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
12	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(5):タスクとフォーカス・オン・フォーム		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
13	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(6):タスクとフォーカス・オン・フォーム		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
14	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(7):タスクとフォーカス・オン・フォーム		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
15	講義内容	まとめ・中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(8):インプット、アウトプット、インタラクション		
	該当到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		英語科教材研究Ⅱ（保育・教育の方法技術）						科目ナンバリング	CEW304		
英文名		English Teaching Materials II						講義形態	講義		
担当教員		姉崎 達夫									
科目に関連した実務経験		姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）									
学年・開講期		3 年 前期		選必・単位数		選択2単位					
関連資格		免許・資格指定科目： 中学校教諭									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 5 10									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		中学校・高等学校の英語教科書を軸に、それぞれの内容と使い方について講義・ディスカッションを通じて理解を深め、教科書のもととなるシラバス、言語材料、言語活動、トピックなどについて研究する。また、教員としての授業実践力をつけるために、教科書をもとにした補助教材の作成を行い、実際に模擬授業を通して、作成した教材の改善点を検討する。									
到達目標		1. 中学校英語教科書を様々な観点から分析し、教材の利点・欠点を述べることができる。■ 2. 補助教材の作成においては、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を育成できるよう、フォーカス・オン・フォームや CLIL（内容言語統合型学習）の知見を踏まえた工夫ができる。 3. 中学校英語教科書と自作の補助教材を使って、実際に授業を行うことができる。■									
使用教材		講義内で適宜資料を配布する。									
参考文献		講義内で紹介する。									
評価方法		授業への参加度、発表（20%）、模擬授業（40%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題のフィードバックは翌週に提示する。音声課題はコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー（研究室）		火曜日 2 限、水曜日 3 限 研究室：9 号館 3 階 303 研究室				メールアドレス （#→@）		anezaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・学習指導要領と中学校・高等学校外国語（英語）教科書のシラバスについて■									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。							1.5	時間
	1	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。							1.5	時間
2	講義内容	学習指導要領と中学校英語教科書に含まれる言語材料について■									
	該当到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊において、どのような言語材料が用いられているのかを確認する。							1.5	時間
3	講義内容	学習指導要領と中学校英語教科書をもとにした言語活動について■									
	該当到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊において、どのような言語活動が用いられているのかを確認する。							1.5	時間
4	講義内容	学習指導要領と中学校英語教科書で扱われるトピックについて■									
	該当到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。							1.5	時間
	1,2	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊において、どのようなトピックが用いられているのかを確認する。							1.5	時間
5	講義内容	中学校英語教科書を用いたICT活用の授業■									

	該当到達目標 1,2	予習	ICTを活用して授業を行うことを目的として、教材作成を行う。	1.5	時間	
		復習	ICTを活用した教材を比較し、考察する。	1.5	時間	
6	講義内容	中学校英語教科書を用いた AI 活用の授業■				
	該当到達目標 1.2	予習	AIを活用して授業を行うことを目的として、教材作成を行う。	2.0	時間	
		復習	AIを活用した教材を比較し、考察する。	1.0	時間	
7	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り①■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
8	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り②■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
9	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り③■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
10	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り④■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
11	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り①■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
12	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り②■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
13	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り③■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
14	講義内容	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り④■				
	該当到達目標 2,3	予習	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2.0	時間	
		復習	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0	時間	
15	講義内容	まとめ・生徒の言語習得を促す教材とは何か■				
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書と補助教材を使って、中学生の英語の 4 技能 5 領域をどのように高めていくことができるのかを検討する。	1.0	時間	
		復習	クラスメートの作った補助教材の長所・短所をまとめた上で、自作の補助教材の改善点を検討する。	2.0	時間	
合計時間(予習・復習)					45	時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。					

科目名	小学校理科実験(保育・教育の方法技術)						科目 ナンバリング	CEW506		
英文名	Teaching Methods in Science						講義形態	実験		
担当教員	片山 豪									
科目に関連した 実務経験	教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: なし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3467131415									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○	○	○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を、模擬授業等を通して学ぶ。そして、模擬授業の評価をフィードバックすることで、児童の資質・能力を育む観察・実験を用いた授業の計画、準備ができるようになる。また、博物館や科学学習センターなどと連携、協力を測りながら、それらを積極的に活用する態度を養う。 実験(野外実習や博物館見学を含む)や学生による模擬授業を行う。 野外観察に出たり、博物館や科学学習センターなどに出向いたりすることがある。 現職教員による指導をお願いすることもある。									
到達目標	1.小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を習得することができる。■ 2.学生自ら観察・実験における既存の教材教具の問題点を改善し、新たな教材教具の開発ができる能力を身につけることができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説理科編, 小学校理科教科書, 自作プリント等									
参考文献	授業において紹介。									
評価方法	毎回提出するレポート 80%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートにおける修正すべき点を示し、再レポートを促す。 実験技術に関して修正すべき点を指摘し、改善のアドバイスを受けることができる。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限、金曜 2 限 (9 号館 4 階 411 研究室)				メールアドレス (#→@)		katayama#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	観察・実験の方法, 教材教具の開発方法								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編の総説, 小学校理科の目標を読んでおく。						0.5	時間
	1,2	復習	講義の方針を確認するとともに, 学習指導案の内容を理解する。						2.5	時間
2	講義内容	身近な生物の観察Ⅰ(野外実習)								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。						0.5	時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。						2.5	時間
3	講義内容	身近な生物の観察Ⅱ(野外実習)								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。						0.5	時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。						2.5	時間
4	講義内容	実験の指導(1) 第3学年 A 物質・エネルギーの内容■								

	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
5	講義内容	実験の指導(2) 第3学年 B 生命・地球■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
6	講義内容	実験の指導(3) 第4学年 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
7	講義内容	実験の指導(4) 第4学年 B 生命・地球■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
8	講義内容	実験の指導(5) 第5学年 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
9	講義内容	実験の指導(6) 第5学年 B 生命・地球■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
10	講義内容	実験の指導(7) 第6学年 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
11	講義内容	実験の指導(8) 第6学年 B 生命・地球■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
12	講義内容	博物館や科学学習センターなどの利用(1) 講義		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
13	講義内容	博物館や科学学習センターなどの利用(2) 実践		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
14	講義内容	博物館や科学学習センターなどの利用(3) まとめ		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
15	講義内容	教材教具案の発表会(学生の開発した教材教具案)		
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。フィールドに出ることもあるので, 授業時間は柔軟に対応する。			

科目名	総合的な学習の時間論 A(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW216	
英文名	Teaching Methods in Integrated Studies A							講義形態	講義	
担当教員	北村 陽									
科目に関連した実務経験	・教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	348111214151617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○					○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小・中学校における総合的な学習の時間の意義と役割・目標について、資質・能力を育成する視点から理解する。さらに、各教科等との関連性を熟慮した指導計画の作成と、評価の在り方を理解することが目標となる。これらの学修を通じて履修者自身が主体的に現状を分析し、課題を発見する力、課題解決に向けた計画力および創造力と実行力を身につけることもねらいとしたい。とりわけ自己の生き方を考えながら物事に柔軟で的確な対応をしていくためには、主体的に判断し行動できる資質や能力の育成が肝要である。そのため、各教科等で育まれる見方や考え方を総合的に活用し、課題解決・横断的かつ探究型学習を実践するための指導計画と指導法および評価方法について、十分に検討していきたい。 受講者には、各回、担当教員の解説内容から学ぶだけではなく、学んだことや調べた事柄に対する自分自身の考えや意見をリアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を期待したい。また、指導案作成・模擬授業に関連した発表の機会を設定し、実践的な授業構成力の育成を図りたい。									
到達目標	1. 総合的な学習の時間の意義と内容について、学習指導要領と関連付けて理解する事ができる。 2. 総合的な学習の時間の授業づくりに必要な技術・教育評価・アクティブラーニングを理解する。 3. 総合的な学習の時間の授業づくりができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編(平成 29 年 7 月)文部科学省 (東洋館出版社 126 円+税)									
参考文献	文献等は講義内で適宜紹介する。また、担当教員が作成した資料を配付することがある。									
評価方法	リアクションペーパー20%(1 回目~6 回目が各 3%、7 回目~8 回目が各 1%)、指導案作成・模擬授業に関連した発表 30%、最終のテスト 50%の割合で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図などを説明する。また、リアクションペーパーや発表の内容については、様々な見解・事例を紹介しながらコメントをする。									
オフィスアワー(研究室)	月曜 2 限、木曜 2 限(9 号館 305 研究室)					メールアドレス(#→@)	kitamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーションおよび「総合的な学習の時間」の捉え方について■								
	該当到達目標	予習	シラバスおよび小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」に目を通しておく。							1.5 時間
	1	復習	総合的な学習の時間の捉え方を整理し、自身の見解を交えてまとめる。							1.5 時間
2	講義内容	「総合的な学習の時間」が創設された経緯とその意義について								
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第 1 章を読んでおく。							1.5 時間
	1	復習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第 1 章および講義内容を							1.5 時間

			まとめる。	
3	講義内容	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標とその役割について		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第2章を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第2章および講義内容をまとめる。	1.5 時間
4	講義内容	「総合的な学習の時間」の目標と実施内容の設定について■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第3章を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第3章および講義内容をまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	「総合的な学習の時間」における年間指導計画および単元計画の作成と実施例について■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第4章・第5章・第6章を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第4章・第5章・第6章および講義内容をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	「総合的な学習の時間」における指導の基礎・基本と評価の問題を考える■		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第7章・第8章を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第7章・第8章および講義内容をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	「総合的な学習の時間」の実践に関する発表■		
	該当到達目標	予習	これまでの学修内容を踏まえ、自身が発表する際に用いる資料・情報の収集およびレジュメを作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自身の発表内容について、他者の発表内容と比較・検討をし、寄せられたコメント等も参考にしながら、実践的な総合的な学習の時間の授業のあり方を考察する。	1.5 時間
8	講義内容	まとめ ～これまでの講義を振り返って～		
	該当到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第9章を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第9章および講義内容をまとめると共に、全8回にわたる講義内容を振り返り、総合的な学習の時間への理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行います。その際、内容に変更が生じる場合は適宜 C-Learning で指示します。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	初等道徳教育論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW217	
英文名	Elementary Moral Education							講義形態	講義	
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	41016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○				○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	道徳教育を通じた人間形成は、道徳的な判断力のほか、他者への思いやりや共感(道徳的心情)、正しいことを行おうとする意志と実践力を身につけることでもある。本講義では道徳教育の歴史、道徳性とその発達に関する基礎的知識を習得するほか、児童・生徒の発達の段階に応じた教育課題の理解、それに応じた教育法を考察する。また生徒の思考を深め、道徳的実践力を育成する対話型授業の手法、指導案作成と模擬授業といった演習を通して、道徳教育に必要な素養と指導力を養う。 講義は使用教材と配布プリントを中心に行う。定期的に課題を与え、その内容について学生同士での意見交換を行う。									
到達目標	1.教育勅語、教育基本法と、戦前・戦後の道徳教育の変化を理解し、概説できる。 2.道徳性について発達論的な視点や社会学的な視点から理解し、概説できる。 3.学習指導要領にある道徳教育の目標や内容、課題などについて理解し、概説できる。 4.道徳授業でのねらいの設定、展開や発問、評価の方法を理解し、応用できる。 5.講義内容をいかして指導案を作成し、模擬授業という形式で実践できる。									
使用教材	文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 中山幸男ほか『ともに学ぶ道徳教育―基礎理論から授業デザインまで―』 また、講義中に補助プリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	指導案作成および模擬授業(50%)、講義中に作成する課題(50%)に参加態度などを加味して総合的に評価する。評価基準については、講義中に説明する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題内容については、講義中に学生発表、教員による評価を行う。また模擬授業については、学生による相互評価を取り入れる。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス:道徳とは何か、道徳教育の目標と現代的な課題								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標・内容を確認する。「指導要領解説」の「改訂の経緯」に目を通す。							1 時間
	3	復習	「特別の教科 道徳」への改訂理由と、主な変更点を理解する。							1 時間
2	講義内容	道徳教育の変遷① 教育勅語と修身科								
	該当到達目標	予習	教育勅語について調べる。							1 時間

	1	復習	戦前の道德教育の変遷、国定教科書の内容などを理解する。	1 時間
3	講義内容	道德教育の変遷② 教育基本法、「特別の教科 道德」へ		
	該当到達目標	予習	教育基本法について調べる。	1 時間
	1	復習	戦後の道德教育の変遷、主な改訂の内容を理解する。	1 時間
4	講義内容	学習指導要領と道德教育の位置づけ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3	復習	学校教育における道德教育の役割を理解する。	1 時間
5	講義内容	道德性の発達論的理解:ピアジェ、コールバーグ等		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2	復習	子どもが自律的な道德判断を獲得する過程を理解する。	1 時間
6	講義内容	道德性の社会学的理解:デュルケム、ロールズ等		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2	復習	道德教育と社会的な目的の関連を理解する。	1 時間
7	講義内容	初等道德教育の特性と道德的課題①公德心と社会的態度		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所目を通す。	1 時間
	3	復習	社会規範を尊重する意義を理解する。	1 時間
8	講義内容	初等道德教育の特性と道德的課題②生命の尊重と人権		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所目を通す。	1 時間
	3	復習	障害への多様な視点、生命の尊厳を理解する。	1 時間
9	講義内容	初等道德教育の特性と道德的課題③自律性の獲得		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所目を通す。	1 時間
	3	復習	自由のあり方、自律の意義について理解する。	1 時間
10	講義内容	道德教育と家庭、地域社会の関わり		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所目を通す。	1 時間
	3	復習	学校と家庭・地域社会の連携の実例、教育に対する市民の意識を理解する。 指導計画の意義を理解する。	1 時間
11	講義内容	道德教育の実践①指導方法と実践事例の分析		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	児童の思考を深める「ねらい」の設定、発問の仕方を理解する。	1 時間
12	講義内容	道德教育の実践②教材研究の方法		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	児童の思考を深める展開の手法を理解する。	1 時間
13	講義内容	道德教育の実践③指導案の作成、評価の方法		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	評価の方法、指導案の内容や作成法を理解する。	1 時間
14	講義内容	道德教育の実践④模擬授業		
	該当到達目標	予習	模擬授業の指導案、使用する教材の準備をする。	14 時間
	5	復習	相互評価表などをもとに、授業の成功した点、改善点を分析する。	1 時間
15	講義内容	模擬授業の振り返り、総括		
	該当到達目標	予習	これまでの配布プリントに目を通し、模擬授業の改善案を考える。	2 時間
	4,5	復習	模擬授業の改善策をまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン講義になった場合は、C-Learning 上で講義資料(PDF 形式)の配布・課題提出で講義を行い、 模擬授業は指導案提出のみとします。			

科目名	中等道徳教育論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW305	
英文名	Secondary School Moral Education							講義形態	講義	
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:中学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○				○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	人々の価値観が多様化し、家庭や地域社会の教育力低下がしたといわれる現在、学校の道徳教育への期待は高まっている。情報モラルの習得、自己肯定感の獲得、いじめ問題の解決など、学校教育の課題に、道徳教育はどのように貢献できるか。国内外の道徳教育の理論・手法を手引きに、学生各自が探求・考察することを目標とする。 講義は「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」と、配布プリントを中心に行う。また、多様な道徳授業の実践例について検討し、学生同士による意見交換、グループワークを行う。									
到達目標	1.価値の多様化、情報化社会など、現代の状況から生じる道徳的課題を理解し、概説できる。 2.学習指導要領にある道徳教育の目標や内容、課題などについて理解し、概説できる。 3.道徳授業でのねらいの設定、展開や発問、評価の方法を理解し、概説できる。 4.国内外の道徳授業の、多様なアプローチを理解し、概説できる。 5.いじめなど学校教育の抱える問題について主体的に探究し、意見交換を通して思考を深めることができる。									
使用教材	文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」また、講義中に補助プリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	学生発表および模擬授業(50%)、講義中に作成する課題(50%)に参加態度などを加味して総合的に評価する。評価基準については、講義中に説明する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題内容については、講義中に学生発表、教員による紹介を行う。また学生発表については、学生による相互評価を取り入れる。									
オフィスアワー(研究室)	月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)	oishi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、道徳教育の目標と現代的な課題								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標・内容を確認する。文部科学省 HP から、指導要領解説をダウンロードし、「改訂の経緯」に目を通す。							1 時間
	1,2	復習	「特別の教科 道徳」への改訂理由と、主な変更点を理解する。							1 時間
2	講義内容	道徳教育の変遷:戦前と戦後の道徳教育、「特別の教科 道徳」での改訂								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1 時間
	2	復習	戦前の道徳教育の特徴、戦後の道徳教育の取り扱いの変遷を理解する。							1 時間

3	講義内容	学習指導要領と道德教育の位置づけ		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に通す。	1 時間
	2	復習	指導要領改訂の具体的な内容、道德性を構成する三要素を理解する。	1 時間
4	講義内容	道德性の発達論的理解と社会学的理解		
	該当到達目標	予習	配布プリントに通す。	1 時間
	4	復習	コールバーグ、デュルケムの理論と、それに基づいた教育の特徴を理解する。	1 時間
5	講義内容	道德のあり方:価値の多様性と共有		
	該当到達目標	予習	配布プリントに通す。	1 時間
	1	復習	価値の多様性や寛容の文化の特徴、共有可能な価値の特質を理解する。	1 時間
6	講義内容	中等道德教育の特性と道德的課題①公德心と社会的連帯		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に通す。	1 時間
	2	復習	個人と社会のかかわりの意義、義務について理解する。	1 時間
7	講義内容	中等道德教育の特性と道德的課題②相互理解と寛容		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に通す。	1 時間
	2	復習	他者への理解、共感、相互に尊重することの意義を理解する。	1 時間
8	講義内容	中等道德教育の特性と道德的課題③自律的判断と行動		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に通す。	1 時間
	2	復習	自律の意味、範囲、意義について理解する。	1 時間
9	講義内容	学生発表(いじめ問題の現状と構造、有効な対処法について)		
	該当到達目標	予習	いじめが発生する心理、社会的背景や環境を調べる。	5 時間
	1,5	復習	グループワークの成果を踏まえて、課題を完成させる。	2 時間
10	講義内容	道德教育の実践①指導理論の分析(1)「価値の明確化」等		
	該当到達目標	予習	配布プリントに通す。	1 時間
	4	復習	価値の明確化授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1 時間
11	講義内容	道德教育の実践②指導理論の分析(2)「モラルジレンマ授業」等		
	該当到達目標	予習	配布プリントに通す。	1 時間
	4	復習	モラルジレンマ授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1 時間
12	講義内容	道德教育の実践③指導理論の分析(3)「モラルスキルトレーニング」等		
	該当到達目標	予習	配布プリントに通す。	1 時間
	4	復習	モラルジレンマ授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1 時間
13	講義内容	道德教育の実践④教材研究の方法		
	該当到達目標	予習	配布プリントに通す。	1 時間
	3	復習	教科書、映像資料、書籍、新聞など多様な教材の取り扱い方を理解する。	1 時間
14	講義内容	道德教育の実践⑤指導案の作成方法と評価の方法		
	該当到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所および配布プリントに通す。	1 時間
	2,3	復習	指導案作成の流れ、評価基準の設定方法などを理解する。	1 時間
15	講義内容	模擬授業の発表と振り返り		
	該当到達目標	予習	模擬授業の指導案、ワークシート等を作成する。	10 時間
	1,2,3,4,5	復習	各自で模擬授業を振り返り、指導案に修正を加えて完成させる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン講義になった場合は、C-Learning 上で講義資料(PDF 形式)の配布・課題提出で講義を行い、模擬授業は指導案提出のみとします。			

科目名	保育内容指導法(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW117		
英文名	Teaching Methods in Early Childhood Education and Care						講義形態	講義		
担当教員	今井 麻美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	4	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育内容 5 領域を総合的に実践するための具体的な方法に対する理解を深める。特に、子ども一人ひとりに応じた保育を実践するための「省察」と「計画」に対する学びを深める。学生自身が課題に取り組んだ上で得られる気づきを出発点に授業を進め、学生同士がディスカッションする機会を多く取りながら、授業内容を深めていく。									
到達目標	1. 5 領域のねらい及び内容を踏まえた、具体的な保育実践を構想することができる 2. 子どもの興味や関心、発達に応じた保育内容を計画し、保育を改善する視点を身につける									
使用教材	適宜資料を配布する。									
参考文献										
評価方法	指導案 60%, その他課題 20%, 小レポート 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された課題には、コメントを付けて返却する。 課題の意義について説明する。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー: 火曜 3 限、金曜 2 限 研究室: 8 号館 5 階 504				メールアドレス (#→@)	imai-a#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション: 授業の概要と進め方								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する						1.5 時間	
2	講義内容	5 領域という視点から子どもの姿を理解する(1)3 歳未満児								
	該当到達目標	予習	保育内容5領域のねらい・内容を振り返ってくる						1.5 時間	
	1	復習	保育内容5領域を具体的な子どもの姿と結びつけながら、理解を深める						1.5 時間	
3	講義内容	5 領域という視点から子どもの姿を理解する(2)3 歳以上児								
	該当到達目標	予習	保育内容5領域のねらい・内容を振り返ってくる						1.5 時間	
	1	復習	保育内容5領域を具体的な子どもの姿と結びつけながら、理解を深める						1.5 時間	
4	講義内容	5 領域を踏まえた、ねらいの立て方								
	該当到達目標	予習	保育内容の各論の授業内容を振り返ってくる						1.5 時間	
	1	復習	保育者がねらいを持って実践する意義について理解を深める						1.5 時間	
5	講義内容	子どもになったつもりで、戸外で心を動かしてみる								
	該当到達目標	予習	子どもになったつもりで、戸外を散歩してみる						1.5 時間	
	1,2	復習	心動いた瞬間をとらえた写真を整理して、5 領域とのつながりを考えてみる						1.5 時間	

6	講義内容	自らの実践エピソードについてグループでディスカッション		
	該当到達目標 1,2	予習	自らの実践をエピソードと考察の形でまとめる	1.5 時間
		復習	グループワークを通じた気づきを反映させて、エピソードと考察をまとめ直す	1.5 時間
7	講義内容	エピソードの共有(1)子ども一人ひとりに応じた保育を実践するための省察		
	該当到達目標 1,2	予習	ディスカッションで検討したい点をまとめる	1.5 時間
		復習	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5 時間
8	講義内容	エピソードの共有(2)子ども一人ひとりに応じた保育の実践の難しさ		
	該当到達目標 1,2	予習	ディスカッションで検討したい点をまとめる	1.5 時間
		復習	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5 時間
9	講義内容	エピソードの共有(3)自らの実践を共有することの意味		
	該当到達目標 1,2	予習	グループディスカッション、クラス全体でのディスカッションを通して気づいたことを整理してくる。	1.5 時間
		復習	他者と自らの実践を共有することの意味について学んだことを整理する	1.5 時間
10	講義内容	模擬保育		
	該当到達目標 1,2	予習	模擬保育の準備をする	1.5 時間
		復習	模擬保育を振り返り、自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 時間
11	講義内容	模擬保育を振り返る(1)グループディスカッション		
	該当到達目標 1,2	予習	模擬保育を振り返り、他のメンバーと話し合いたい点を整理する。	1.5 時間
		復習	ディスカッションの内容を踏まえて、修正点を整理する	1.5 時間
12	講義内容	模擬保育を振り返る(2)グループディスカッションの内容を発表し、クラス全体でディスカッション		
	該当到達目標 1,2	予習	グループディスカッションを振り返り、クラス全体でのディスカッション準備を行う	1.5 時間
		復習	ディスカッションの内容を踏まえて、修正点を整理する	1.5 時間
13	講義内容	模擬保育の振り返りを踏まえた、指導計画案の練り直し		
	該当到達目標	予習	指導計画案の修正点を整理してくる	1.5 時間
		復習	これまでの授業内容を振り返りながら、指導計画案を自己添削する	1.5 時間
14	講義内容	練り直された指導計画案についてグループディスカッション		
	該当到達目標 1,2	予習	グループディスカッションで検討したい点をまとめてくる	1.5 時間
		復習	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5 時間
15	講義内容	5領域のねらい及び内容、子どもの興味、関心、発達に応じた保育内容を展開する上で大事なこと、大事にしたいこと		
	該当到達目標 1,2	予習	授業を通して、気づいたことや理解したことを整理する	1.5 時間
		復習	授業を通して学んできた指導案作成時の留意点が自身の指導案に反映されているか、自己評価を行う	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、C-learning を用いてオンデマンド型授業とします。			

科目名	幼小教育相談(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW001	
英文名	Educational Counseling in Kindergartens and Elementary Schools							講義形態	講義	
担当教員	角野 善司									
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・小学校教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動で必要な基礎的事項を習得する。 この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。 授業期間全体を通じた授業の進め方: 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでももらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。									
到達目標	1. 幼児児童の教育における教育相談の意義と理論を理解する。 2. 幼児児童の教育において教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。 ■ 3. 幼児児童の教育における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。 ■									
使用教材	原田眞理(編著)「教育相談の理論と方法 改訂第2版」玉川大学出版部 2020 年 2,400 円+税									
参考文献										
評価方法	毎回の課題・小レポート 75%、学期末レポート 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法	宿題は毎回授業時に、学期末レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	幼児児童の教育における教育相談の意義と課題								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
2	講義内容	幼児児童の教育における教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念								
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	
3	講義内容	幼児児童の不応や問題行動の意味／幼児児童の発するシグナルに気づき把握する方法 ■								
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間	

4	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(1): カウンセリングマインド ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(2): 受容・共感・傾聴 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	職種・校務分掌に応じた教育相談 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	学校・園における問題の理解と対応(1): いじめ / 不登校 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	学校・園における問題の理解と対応(2): 学級崩壊 / 児童虐待 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	学校・園における問題の理解と対応(3): 非行 / インターネットトラブル ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	学校・園における教育相談の年間計画および校内体制の整備 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	幼児児童の保護者に対する教育相談 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	地域の専門機関との連携 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	障害のある子どもの理解と対応 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	幼児児童に起こりやすい病気と対応 ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	教員のメンタルヘルス ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中学校教育相談(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW306	
英文名	Educational Counseling in Junior High Schools							講義形態	講義	
担当教員	角野 善司									
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	中学生およびその保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を習得する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。 授業期間全体を通じた授業の進め方: 基本的に、毎回の授業は、①講義 と ②グループワークの二相から構成される。①は 2 年前期科目「幼小教育相談」で学修したと有機的に関連づけつつ、簡潔に進める。②は、時間が許す限り、授業テーマに関わるさまざまなワークを行う。									
到達目標	1.中学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2.中学校において教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。 ■ 3.中学校における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。 ■									
使用教材	なし									
参考文献	原田眞理(編著)「教育相談の理論と方法 改訂第2版」玉川大学出版部 2020 年 2,400 円+税									
評価方法	平常点(ワーク・ロールプレイ等への積極的参加度、小レポート)75%、学期末レポート 25%。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小レポートは毎回授業時に、学期末レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	中学校における教育相談の意義と課題								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。事前配布資料を精読する。							1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間
2	講義内容	中学校における教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念								
	該当到達目標 1	予習	事前配布資料を精読する。							1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間
3	講義内容	生徒の不応や問題行動の意味／生徒の発するシグナルに気づき把握する方法 ■								
	該当到達目標 2	予習	事前配布資料を精読する。							1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間
4	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(1): カウンセリングマインド ■								

	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	2	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(2): 受容・共感・傾聴 ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
6	2	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	中学校における問題の理解と対応(1): いじめ ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
8	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	中学校における問題の理解と対応(2): 不登校 ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
10	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	中学校における問題の理解と対応(3): 非行 ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
12	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	中学校における教育相談の年間計画および校内体制の整備 ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
14	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	地域の特長・課題との連携 ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
16	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
17	講義内容	障害のある生徒の理解と対応／生徒に起こりやすい病気と対応 ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
18	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
19	講義内容	教員のメンタルヘルス ■		
	該当到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間

	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生徒指導論A(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW218	
英文名	Student Guidance A							講義形態	講義	
担当教員	角野 善司									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 小学校教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小学校教育において、学習指導と並ぶ重要な教育活動である生徒指導を効果的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 授業期間全体を通じた授業の進め方： 基本的に、毎回の授業は、①教科書の該当箇所に関する講義 と ②授業テーマと関連したグループディスカッション の二相から構成される。①は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。②は、小学校教育基礎実習での経験なども振り返りつつ積極的に討論してもらいたい。									
到達目標	1. 生徒指導の意義や原理を理解する。 2. すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 3. 児童の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。									
使用教材	文部科学省「生徒指導提要」(令和 4 年改訂版) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm									
参考文献										
評価方法	毎回の課題 45%(3 点× 15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法	平常課題は毎回授業時に、筆記試験は事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する(8 号館 405 室)					メールアドレス (#→@)	zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	教育課程における生徒指導の位置付け								
	該当到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。							1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間
2	講義内容	集団指導・個別指導の方法原理								
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。							1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間
3	講義内容	各教科・道徳教育における生徒指導								
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。							1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。							1.5 時間
4	講義内容	総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。							1.5 時間

	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	生徒指導と教育相談		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	生徒指導の意義や原理に関する総括		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	学校における生徒指導体制		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	基本的な生活習慣の確立／規範意識の醸成に関する指導		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	自己の存在感が育まれるような場や機会の設定		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(1): 暴力行為		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(2): いじめ		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(3): 不登校		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(4): 今日的な生徒指導上の課題		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	生徒指導に関する法制度等		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	学校と家庭・地域・関係機関との連携		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、学習に取り組んでもらいたい。対面授業における講義は難解な箇所に関する追加的な解説、復習課題は理解度の確認に重点を置く。			

科目名	初等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW219	
英文名	Elementary Career Education							講義形態	講義	
担当教員	吉田 浩之									
科目に関連した実務経験	公立学校教員(経験), 教育委員会のアドバイザー及び委員等(現在)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	4	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	キャリア教育・進路指導の意義や目的を理解した上で、全ての児童を対象としたキャリア教育・進路指導の考え方と指導の在り方と、児童個別のキャリア教育・進路指導上の課題に向き合う指導の考え方と在り方について、テキスト及び配付資料を通じて具体例を示し、学生相互の討議・発表等を取り入れ、講義を進めていく。									
到達目標	1. 教育課程におけるキャリア教育・進路指導の意義や原理について述べることができる。 2. 学級のキャリア教育・進路指導の計画・指導案を作成することができる。■ 3. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った指導の考え方と在り方について論じることができる。■									
使用教材	吉田浩之『生徒指導・キャリア教育(令和版)・生徒指導提要・学習指導要領・ウェルビーイング(対応)』(北樹出版) 2024 年 9 月刊行予定(持参し講義に参加のこと。)									
参考文献	小学校学習指導要領解説・総則編, 小学校学習指導要領解説・特別活動編									
評価方法	毎時の理解度確認シートの記述(60%), 対話的学びの記述(30%), レポート(10%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	・前時の理解度確認シート記述状況について、次時に取り上げ、全体あるいは個別に解説する。 ・課題提出前後に、出題意図を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業前後や右記メール等で応じる。				メールアドレス (#→@)		yoshida-h#gunma-u.ac.jp			
1	講義内容	キャリア教育・進路指導の意義・目的								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 11 キャリア教育・進路指導とは)を読み、概要を理解しておくこと。						1 時間	
	1	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						2 時間	
2	講義内容	学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 12 キャリア教育の充実)を読み、概要を理解しておくこと。						1.5 時間	
	1	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						1.5 時間	
3	講義内容	キャリア教育・進路指導における組織的な指導体制と家庭・関係機関との連携 ■								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 13 特別活動におけるキャリア教育)を読み概要を理解しておくこと						1.5 時間	
	1,2,3	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						1.5 時間	
4	講義内容	学級におけるキャリア教育・進路指導の年間計画作成の方法 ■								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 14 キャリア・パスポートの活用)を読み、概要を理解しておくこと。						1.5 時間	
	2	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						1.5 時間	
5	講義内容	学級におけるキャリア教育・進路指導の実際 ■								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 15 キャリア教育の学習指導案)を読み、概要を理解しておくこと。						1.5 時間	

	2	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	個別のキャリア教育・進路指導上の課題に向き合う指導の考え方と在り方 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 15 キャリア教育の学習指導案)を読み, 概要を理解しておくこと。	1.5 時間
	2	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った人生設計の考え方と方法 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 16 キャリア教育の教材)を読み, 概要を理解しておくこと。	1.5 時間
	3	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 11～16)を読み, 総合的に内容を理解しておくこと。	1.5 時間
	3	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		中等生徒指導論(保育・教育の方法技術)						科目 ナンバリング	CEW307		
英文名		Secondary Student Guidance						講義形態	講義		
担当教員		北村 陽									
科目に関連した 実務経験		教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期		3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目:中学校教諭									
学位授与方針 との対応		2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		生徒指導は、学校教育において学習指導(教科指導)と並ぶ重要な領域として位置づけられる。この授業では、学校における教師の生徒指導について、理論と実践の両面から考察していく。授業の進め方は、各テーマについて担当教員の解説(説明)から学ぶだけではなく、学んだことに対する受講者自身の考えや意見を毎回リアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を図る。									
到達目標		1.生徒指導の理論について理解している。 2.生徒指導について実践的に思考することができる。■ 3.生徒指導に関わる事例や情報を、文献や資料、メディア等から幅広く収集し、課題に対して意欲的に取り組むことができる。									
使用教材		『生徒・進路指導の理論と方法』(工藤亘・藤平敦編著、玉川大学出版部、2019 年、2,400 円(税別))									
参考文献		『生徒指導提要(改訂版)』(令和 4 年 12 月 文部科学省)									
評価方法		レポート 50%、リアクションペーパー45%(3%×15 回)、科目に関係した作文 5%により、総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法		課題における受講者の解答(回答)に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。									
オフィスアワー (研究室)		月曜 2 限、木曜 2 限(9 号館 305 研究室)				メールアドレス (#→@)		kitamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、中等教育における生徒指導の位置づけ									
	該当到達目標 1,3	予習	シラバスを読み毎回の授業内容を確認し、生徒指導の必要性などを考えておく。							1.5	時間
		復習	資料を再読して授業の概要を確認し、生徒指導を学ぶ意味を理解する。							1.5	時間
2	講義内容	校則・生徒心得について■									
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5	時間
		復習	資料を再読して授業の概要を確認し、校則・生徒心得について理解する。							1.5	時間
3	講義内容	懲戒・体罰について■									
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5	時間
		復習	資料を再読して授業の概要を確認し、懲戒・体罰について理解する。							1.5	時間
4	講義内容	不登校・ひきこもりについて■									
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5	時間
		復習	資料を再読して授業の概要を確認し、不登校・ひきこもりについて理解する。							1.5	時間
5	講義内容	いじめについて■									

	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、いじめについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	非行について■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、非行について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生徒指導における情報教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導における情報教育について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生徒指導と学習指導■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と学習指導の関連性について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	生徒指導における家庭・地域・社会との連携■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導を巡る連携のあり方について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	キャリア教育の意義と理論		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の意義と理論について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	キャリア教育の進め方■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の進め方について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	生徒指導と教育相談■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と教育相談の関連性について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	中学校でのキャリア教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、中学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	高等学校でのキャリア教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、高等学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	生徒指導と生涯学習■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と生涯学習の関連性について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習については、使用教材である『生徒・進路指導の理論と方法』等を活用し、補完してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW308	
英文名	Secondary Career Education							講義形態	講義	
担当教員	吉田 浩之									
科目に関連した実務経験	公立学校教員(経験), 教育委員会のアドバイザー及び委員等(現在)									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と教養					多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	4	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	キャリア教育・進路指導の意義や目的を理解した上で、全ての生徒を対象としたキャリア教育・進路指導の考え方と指導の在り方と、生徒個別のキャリア教育・進路指導上の課題に向き合う指導の考え方と在り方について、テキスト及び配付資料を通じて具体例を示し、学生相互の討議・発表等を取り入れ、講義を進めていく。									
到達目標	1. 教育課程におけるキャリア教育・進路指導の意義や原理について述べることができる。 2. 学級・ホームルームの進路指導・キャリア教育の計画・指導案を作成することができる。■ 3. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った指導の考え方と在り方について論じることができる。■									
使用教材	吉田浩之『生徒指導・キャリア教育(令和版)・生徒指導提要・学習指導要領・ウエルビーイング(対応)』(北樹出版) 2024 年 9 月刊行予定(持参し参加のこと。)									
参考文献	中学校・高等学校学習指導要領解説・総則編, 中学校・高等学校学習指導要領解説・特別活動編									
評価方法	毎時の理解度確認シート記述(60%), レポート(40%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	・前時の理解度確認シート記述状況について、次時に取り上げ、全体あるいは個別に解説する。 ・課題提出前後に、出題意図を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業前後や右記メール等で応じる。				メールアドレス (#→@)		yoshida-h#gunma-u.ac.jp			
1	講義内容	キャリア教育・進路指導の意義・目的								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 11 キャリア教育・進路指導とは)を読み、概要を理解しておくこと。						1 時間	
	1	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						2 時間	
2	講義内容	学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 12 キャリア教育の充実)を読み、概要を理解しておくこと。						1.5 時間	
	1	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						1.5 時間	
3	講義内容	キャリア教育・進路指導における組織的な指導体制と家庭・関係機関との連携 ■								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 13 特別活動におけるキャリア教育)を読み概要を理解しておくこと						1.5 時間	
	1,2,3	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						1.5 時間	
4	講義内容	学級・ホームルームにおけるキャリア教育・進路指導の年間計画作成の方法 ■								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 14 キャリア・パスポートの活用)を読み、概要を理解しておくこと。						1.5 時間	
	2	復習	本時確認シートをまとめておくこと。						1.5 時間	
5	講義内容	学級・ホームルームにおけるキャリア教育・進路指導の実際 ■								
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 15 キャリア教育の学習指導案)を読み、概要を理解しておくこと。						1.5 時間	

	2	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
6	講義内容	個別のキャリア教育・進路指導上の課題に向き合う指導の考え方と在り方 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 15 キャリア教育の学習指導案)を読み, 概要を理解しておくこと。	1.5 時間
	2	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った人生設計の考え方と方法 ■		
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 16 キャリア教育の教材)を読み, 概要を理解しておくこと。	1.5 時間
	3	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力		
	該当到達目標	予習	テキスト本(第 11～16)を読み, 総合的に内容を理解しておくこと。	1.5 時間
	3	復習	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの英語コミュニケーション指導(保育・教育の方法技術)						科目 ナンバリング	CEW507		
英文名	Teaching English Communication to Children						講義形態	講義		
担当教員	鈴木 文也 ステイシー・クローズ 村田 美和									
科目に関連した 実務経験	鈴木:英語教師として中学校・高等学校に勤務(経験) クローズ:英語教師として小学校に勤務(経験) 村田:地域の子どもたちに対する英語コミュニケーション指導(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: なし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 5 10									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この授業は、英語教育に携わろうとする学生が、子どもの英語コミュニケーション指導を行うにあたり、必要な英語運用能力と英語指導に関する知識と技能を学ぶための科目である。多様な子どもに対応できるように、ICT を駆使した教材提示やインターアクションの方法を身につける。 授業は、個別の学修、協働学修、実践的指導の練習を設定して進める。									
到達目標	1.英語コミュニケーション指導を理解し、子どもに対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。 2.英語コミュニケーション指導に必要な英語運用能力(クラスルームイングリッシュなど)と指導技術(英語の歌や言語活動など)の知識と技能を身につけることができる。■ 3.多様な学習者(障がいのある子どもを含む)に対応した教材の提示やインターアクションが可能な、ICT 機器を活用した指導ができる。 ■ 4.自ら進んで多様な子どもの英語コミュニケーション指導に携わる意欲を高めることができる。									
使用教材	各講義において資料等を配布する。									
参考文献	参考となる文献については、随時紹介する。									
評価方法	レポート(感想シート)40%、授業内の発表や貢献度 60%で評価する。 総合 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	レポートにはコメントをつけて返却する。 授業中の貢献度についてはその都度評価する。									
オフィスアワー (研究室)	鈴木:火曜日 2 限 (9 号館 306) クローズ:月曜日 2 限 (9 号館 307) 村田:月曜日 2 限 (8 号館 502)				メールアドレス (#→@)	鈴木:suzuki-b#takasaki-u.ac.jp クローズ:stacy-c#takasaki-u.ac.jp 村田:murata-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・英語を理解するための子どもの認知処理過程について(村田)								
	該当到達目標 1,3,4	予習	参考資料に目を通し、子どもの思考についてイメージする。						1.5	時間
		復習	子どもが英語を理解する認知処理過程について振り返る。						1.5	時間
2	講義内容	多様な学習者を想定した英語活動(村田)■								
	該当到達目標 1,3,4	予習	特別支援教育の対象者とその特性についてまとめる。						1.5	時間
		復習	多様な学習者を想定した英語活動について振り返る。						1.5	時間
3	講義内容	子どものための英語音韻指導(村田)								
	該当到達目標 1,3,4	予習	英語の音韻について、調べる。						1.5	時間
		復習	初期学習者に対する音韻指導の重要性について振り返る。						1.5	時間

4	講義内容	ICT を活用した英語指導(村田)■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	自分の持っている ICT の中でできる英語指導教材について調べる。	1.5 時間	
		復習	ICT を活用した英語指導について、自分の持っているデバイスで試してみる。	1.5 時間	
5	講義内容	世界と繋がるテレビ電話を活用した英語指導(村田)■			
	該当到達目標 1,3,4	予習	世界と繋がることの重要性について考える。	1.5 時間	
		復習	教育業界で使われている世界と繋がる技術についてまとめる。	1.5 時間	
6	講義内容	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践(聞くこと:英語の語句と音声)(鈴木)■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	基本的な英語の語句の発音について確認する。	1.5 時間	
		復習	音声学的な観点から英語の音声の聞き取りと発音の仕方が理解できる。	1.5 時間	
7	講義内容	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践(話すこと[やり取り]:挨拶等)(鈴木)■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	英語での挨拶などを発音に留意して指導する方法を考える。	1.5 時間	
		復習	場面に応じた挨拶などのやり取りの指導ができる。	1.5 時間	
8	講義内容	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践(母語と目標言語の使用)(鈴木)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	英語を指導する際に、目標言語だけでなく母語をどう活かせるかを考える。	1.5 時間	
		復習	英語を指導する際に、目標言語だけでなく母語をどう活かせるか理解できる。	1.5 時間	
9	講義内容	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践(言語習得の臨界期)(鈴木)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	言語習得の臨界期について考える。	1.5 時間	
		復習	言語習得の臨界期について理解できる。	1.5 時間	
10	講義内容	第 6 回～第 9 回の授業のまとめ・発展(鈴木)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 6 回～第 9 回で学修したことを発展させるために掘り下げてくる。	1.5 時間	
		復習	第 6 回～第 9 回で学修したことを自らの指導に具体的に活かすことができる。	1.5 時間	
11	講義内容	子どもの英語コミュニケーション指導のためのジェスチャーについて(クローズ)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	歌を選んでジェスチャーを準備する。	1.5 時間	
		復習	歌とジェスチャーを指導するために語句を復習する。	1.5 時間	
12	講義内容	子どもの英語コミュニケーション指導のための発音について(クローズ)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	歌を選んで発音練習をする。	1.5 時間	
		復習	歌にある語句の発音を復習する。	1.5 時間	
13	講義内容	歌やジェスチャーを用いた指導案の作成について(クローズ)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	歌を選び指導案を作成し、ジェスチャーを準備する。	1.5 時間	
		復習	歌を用いて指導案の構成について確認する。	1.5 時間	
14	講義内容	歌に合わせたオリジナルのジェスチャーの創作と使用について(クローズ)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書に出てくる英語の語句を歌詞にするための歌を選ぶ。	1.5 時間	
		復習	教科書に出てくる英語の語句を確認する。	1.5 時間	
15	講義内容	模擬授業における指導力や評価方法について(クローズ)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	模擬授業の準備をし、授業を評価するための規準を確認する。	1.5 時間	
		復習	評価やフィードバックのための規準を確認する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	質問はメールでも受け付ける。ICT を活用しながら多様な子どもの認知過程を考慮した授業指導を行う工夫ができるようになること。歌やアクティビティを学修した後、子どもへの指導方法をグループで考える。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	学校危機管理論(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW508		
英文名	Risk Management in Schools						講義形態	講義		
担当教員	平林 茂									
科目に関連した実務経験	公立小・中学校の教諭、校長(経験)。県教委教育事務所指導主事・管理主監・所長(経験)。児童生徒の安全教育・安全管理、学校経営における危機管理業務、教育行政における危機管理に関する指導業務(経験)。 ・元養護教諭(看護学科教員)をゲストスピーカーとして招く(第14回)									
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針との対応		1. 豊かな人間性と幅広い教養				3	4. 社会に適切に対応する技能			
	2	2. 問題を発見し、論理的に分析し解決				3	5. 健康社会の実現に貢献できる技能、態度			
	2	3. コミュニケーション能力					6. 生涯に渡って学習する態度、意欲			
SDGs との関連	3 4 11 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校・園は子ども達が安全に安心して学べる場所でないといけない。教師には子ども自らが安全に行動できる資質・能力の育成とともに、危機等から子どもの命や安全を守る的確な判断や行動が求められる。学校安全、危機管理の理論を習得すると共に、実際の安全にかかわる諸問題に対して教師はどう対応すればいいのか、事前・発生時・事後の事例をもとに考え、危機対応の実践力をつける。 授業の進め方:各テーマの説明を聞くだけでなく、安全指導や危機対応の実際についての演習やグループワーク、ロールプレイを行いながら理解を深め、教師としての実践力をつけていきます。									
到達目標	1.学校安全や危機管理の理論について理解できる。 2.安全教育の指導方法を習得し、実践に向けた取り組みを具体的に考えられる。■ 3.事例を通して危機管理の実践力をつけることができる。■									
使用教材	資料を配布する。									
参考文献	授業内に紹介する。									
評価方法	テストに50%、日常点(授業への参加、課題への取組、討論、授業貢献度等)に50%を配分して総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中の演習やグループワーク、貢献度については、その都度評価する。 試験の前後に出題の意図を説明したり、テスト返却時に解説したりする。									
オフィスアワー (研究室)	月曜1限、水曜2限 教職支援センター				メールアドレス (#→@)		s-hirabayashi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	学校管理下における危機の現状■								
	該当到達目標	予習	学校管理下における事故の発生状況について関係する図書で調べる。						1.5	時間
	1	復習	学校管理下の危機の状況の資料をまとめ、理解する。						1.5	時間
2	講義内容	学校安全の体系と位置づけ								
	該当到達目標	予習	学校安全について関係する図書などで調べる。						1.5	時間
	1	復習	講義や配布資料をまとめ、学校安全について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	安全教育の基本事項について								
	該当到達目標	予習	安全教育について関連する図書などで調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	学校における安全教育の理論と方法を理解する。						1.5	時間

4	講義内容	安全管理と安全教育の実際		
	該当到達目標	予習	学校・園における安全管理について関係の図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読んで学校管理と安全教育の実際についてまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	特別支援学校における安全学習と安全指導の展開■		
	該当到達目標	予習	特別支援学校における必要となる危機管理について調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	特別支援学校における安全指導についての展開例を復習する。	1.5 時間
6	講義内容	小学校における安全学習と安全指導の展開■		
	該当到達目標	予習	小学校における必要となる危機管理について調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	小学校における安全指導についての展開例を復習する。	1.5 時間
7	講義内容	中学校における安全学習と安全指導の展開■		
	該当到達目標	予習	中学校における必要となる危機管理について調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	中学校における安全指導の展開例を復習する。	1.5 時間
8	講義内容	東日本大震災の概要		
	該当到達目標	予習	東日本大震災の際の学校の状況について調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	災害時の対応についてシュミレーションを重ね、危機管理について復習する。	1.5 時間
9	講義内容	学校における危機管理体制■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目を、関連する図書などで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読んで学校における危機管理体制についてまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	緊急時における対応の基本的考え方		
	該当到達目標	予習	学校園・教師の緊急時における対応について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	緊急時や事後の対応についてまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	緊急時の対応の実際Ⅰ 演習(事件・事故)■		
	該当到達目標	予習	学校・児童生徒をめぐる事件・事故について調べる。	1.5 時間
	3	復習	演習をもとに、事件・事故への対応について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	緊急時の対応の実際Ⅱ 演習(災害)■		
	該当到達目標	予習	災害事故について調べる。	1.5 時間
	3	復習	演習をもとに、災害への対応について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	緊急時の対応の実際Ⅲ 演習(いじめの問題発生)■		
	該当到達目標	予習	いじめ防止対策推進法について調べる。	1.5 時間
	3	復習	演習をもとに、いじめ問題への対応について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	応急手当の理論と実際■		
	該当到達目標	予習	教師が行う応急処置について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学校における応急手当の対応について、シュミレーションを重ねる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ、学校危機管理と教師の取組		
	該当到達目標	予習	授業資料を整理し、教師の役割を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、学校危機管理の実践力を蓄える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		心理検査法(保育・教育の方法技術)						科目ナンバリング	CEW509	
英文名		Psychological Testing						講義形態	講義	
担当教員		佐々木 典彰								
科目に関連した実務経験										
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位						
関連資格		免許・資格指定科目： なし								
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	4	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連		③ ④								
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法		①講義の目標 性格検査、知能検査、発達検査等を実際に体験し、検査の内容、方法、留意点を理解する。また、検査の結果を解釈する場面で必要とされる統計学の基礎知識も身につける。さらに後半は、保育・教育でよく使われるデータ収集と分析法についても学ぶ。 ②講義の実施方法 実際に心理検査を行い体験的に学ぶ。後半は、簡単なアンケート等を実施し、Microsoft Excel 等を用いた簡単なデータ分析も行う。								
到達目標		1.授業で取り上げる心理検査の実施方法と解釈の仕方を理解する。 2.統計学、データ分析に関する基礎知識を身につける。								
使用教材		テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。								
参考文献		熊上崇 他著 子どもの心理検査・知能検査 保護者と先生のための 100%活用ブック 合同出版 その他、適宜紹介する。								
評価方法		レポート課題 100 点満点で評価する。								
課題・評価に対するフィードバック方法		レポート課題にコメント等を付して返却する。								
オフィスアワー (研究室)		火曜日 3 限、水曜日 3 限 (8 号館 409 研究室)				メールアドレス (#→@)				
1	講義内容	統計学の基礎①(代表値)								
	該当到達目標	予習	「心理検査」について文献やインターネット等で調べる。						1.5	時間
	2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
2	講義内容	統計学の基礎②(分布)								
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。						1.5	時間
	2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
3	講義内容	心理検査の例①								
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
4	講義内容	心理検査の例②								
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。						1.5	時間
5	講義内容	心理検査の例③								
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。						1.5	時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。						1.5	時間

6	講義内容	心理検査の例④		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
7	講義内容	心理検査の例⑤		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
8	講義内容	心理検査の例⑥		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
9	講義内容	心理検査の例⑦		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
10	講義内容	心理検査の例⑧		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
11	講義内容	心理検査の例⑨		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
12	講義内容	データ収集と分析法①		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
13	講義内容	データ収集と分析法②		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
14	講義内容	データ収集と分析法③		
	該当到達目標	予習	前回提示されたことについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	授業を振り返り、用語等の確認やそれに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
15	講義内容	振り返り		
	該当到達目標	予習	全体を振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	レポート課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	C-learning を活用する場合がある。			

科目名	家族療法(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW510	
英文名	Family Therapy							講義形態	講義	
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	公立保育所に保育士として勤務(経験) 学内子ども・家族支援センターで保育士 心理相談員勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:なし									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	34589101116									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	家族を家族メンバーの集合体として捉え、家族が抱える問題解決する。家族背景やジェノグラムを方法に用い知識、技術を学び、家族メンバー間の問題解決が出来る支援方法を目指す。 授業の進め方:授業スライドに添い講義を行う。講義は前半と後半に分け、前半では講義を行い家族問題が解決できるように取り組む。後半はグループワークを取り入れ、学生の意見や考えを表す形式をとる。話し合った内容の発表内容を板書しまとめを行う。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。									
到達目標	17. 家族療法の理論と技術を理解する事が出来る。 ■ 18. 家族を視野に置いた支援方法を理解する事が出来る。■ 19. 困難事例を検討しながら、解決策を考える事が出来る。 ■ 20. 実践的な対応を行うことや応用的な面接技法を取得する事が出来る。 ■									
使用教材	家族の心理 変わる家族の新しいかたち 小田切紀子 野口康彦 青木聡 金剛出版 2017 年									
参考文献	授業時に紹介する									
評価方法	事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験 80%とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィードバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5 限目 (8号館4階401研究室)				メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み家族療法について予習する。							1.5 時間
	1	復習	家族を治療するための講義内容を振り返り理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	家族とは何か ■								
	該当到達目標	予習	事前に序章 p3-p9 を読み、内容にふれる。							1.5 時間
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、家族の発展や変化について理解を深める。							1.5 時間
3	講義内容	恋愛の心理 ■								
	該当到達目標	予習	事前に第 1 章 p11-p24 を読み、講義内容についてふれる。							1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、恋愛の心理や課題について理解を深める。							1.5 時間
4	講義内容	結婚の心理 ■								
	該当到達目標	予習	事前に第 2 章 p27-p42 を読み、内容にふれる。							1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、結婚の心理について理解を深める。							1.5 時間
5	講義内容	日本における離婚の現状 ■								
	該当到達目標	予習	事前に第 3 章 p47-p59 について読み、内容にふれる。							1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、日本の離婚状況について理解を深める。							1.5 時間

6	講義内容	再婚家庭と子ども（1）ステップファミリーの課題■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p71-p81を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、家庭支援の相談援助について理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	再婚家庭の子ども（2）幼児期の子どもの心理		
	該当到達目標	予習	事前に事例内容について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、幼児期の子どもの考え方の理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	子ども発達と家族		
	該当到達目標	予習	事前に第5章 p85-p97について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、子どもの発達と家族について理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	中年期・老年期の家族		
	該当到達目標	予習	事前に第6章 p103-p114を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、中年期・高年期の家族について理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	人間発達の可塑性—児童虐待からの再生— ■		
	該当到達目標	予習	事前に第6章 p121-p131を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義資料を読み返し、児童虐待からの再生について理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	家族の課題とその支援 少年・家事事件の現状		
	該当到達目標	予習	事前に第7章 p139-p150を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料を読み返し、少年・家事事件について理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	子ども虐待と被虐待児(者)の心理 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第8章 p161-p166を読み、内容についてふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義資料を読み返し、子ども虐待と被虐待児の心理について理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	家族療法の基礎		
	該当到達目標	予習	事前に第8章 p173-p192を読み内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料を読み返し、家族療法の基礎について理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	心理療法についての体験 箱庭療法 家族の関係性を観察する ■		
	該当到達目標	予習	事前に箱庭療法について内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	箱庭療法を体験した後、グループワークを行いさらに理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 家族療法について		
	該当到達目標	予習	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義資料をまとめ、総合的に子ども家族療法のまとめをする。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORD:家族療法 家族メンバー 困難課題 問題解決 ジェノグラム (■は実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	保育方法論(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW118	
英文名	Child Care Methodology							講義形態	講義	
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	公立保育所に保育士として勤務(経験) 学内子ども・家族支援センターで保育士 心理相談員勤務									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3459101116									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育方法に必要な知識や技術を修得し、保育所・幼稚園等に対応する様々な関わりと保育者に求められる専門性を理解することを目指す。また大学内の子ども・家族支援センターの活動に参加し、実践と理論を総合的に習得する事も目指す。 授業の進め方:講義は前半後半の2部形式にわけ、前半は講義を行い、後半はグループワークを行い、それを発表し板書にてまとめ、授業終業後には毎回リアクションペーパーに記載しまとめを行う。インターナショナルスクールの施設訪問と併せ大学内設置子ども・家族支援センターの実践活動に参加し、これから必要となる具体的な保育方法を学ぶ形式を取る。書籍 1、書籍 2 を併用し学習内容をスライドにして配布し学習を展開する。									
到達目標	21. 保育方法の理解に必要な知識と技術を修得し保育の方法について考える事が出来る。■ 22. 具体的な保育を体験する事で子どもや親に添った保育の方法を理解する事が出来る。■ 23. 保育方法を学ぶ事でし、応用的に保育を理解する事が出来る。 ■ 24. 子どもの発達課題と親子の関係性から園との関わりや関係性を理解する事が出来る。■ 25. 理論と実践を通し、保育者に必要な専門性を総合的に理解する事が出来る。■									
使用教材	1. 千葉千恵美著 乳幼児保育と子育て支援 2023 年 風詠社 2. 保育方法論 神長美津子他 2023 年 光生館									
参考文献	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園保育要領解説									
評価方法	事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験 80%とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィードバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5限目 (8号館4階401講義室)					メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスや書籍 2 p2-p10 を読み予習する。							1.5 時間
	1,2	復習	保育の基本と保育方法について講義内容を振り返り理解を深める。							1.5 時間
2	講義内容	幼児理解と保育方法 保育における幼児理解ー ■								
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 2 章 p13-p25 書籍 1 第 2 章 p17-p31 を読み内容にふれる。							1.5 時間
	1,2	復習	家庭との連携や保育者との信頼関係等の必要性について理解を深める。							1.5 時間
3	講義内容	保育環境構成と子育てについて ■								
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 3 章 p27-p37 を読み、講義内容についてふれる。							1.5 時間
	1,2	復習	講義内容の資料を読み返し、現状の保育環境と子育て課題の理解を深める。							1.5 時間
4	講義内容	子どもに添った一人一人の対応 ■								
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 4 章 p38-p50 書籍 1p52-p53 を読み、内容にふれる。							1.5 時間

	1,2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な支援の理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	保育の質と評価について ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 5 章 p51-p62 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、保育の質と評価に向けた内容の理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	乳幼児期の遊びについて ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 6 章 p63-p73 書籍 1 第 1 章 p14-24 を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	資料を読み返し、乳幼児時期の遊びの理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	生活指導 基本的な生活習慣と自立にむけた保育者の役割 ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 7 章 p76-p88 書籍 1 第 6 章 p57-68 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し、生活課題に向け保育者の役割理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	園生活と保護者支援 ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 8 章 p89-p100 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、園生活からみた保護者支援の理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	地域子育て支援の展開 子ども・家族支援センターの事例検討 ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 1 第 7 章 p69-p79 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容資料を読み返し、地域子育て支援について理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	子育て支援の実践に生かす視点(地域子育て施設見学インターナショナル認定こども園) ■		
	該当到達目標	予習	様々な保育実践むけ書籍 2 第 10 章 pp113-p123 を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	施設見学を行い、様々なに保育むけた実践を理解し深める。	1.5 時間
11	講義内容	小学校との連携 円滑な接続方法について ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 9 章 p101-p112 を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、小学校連携とシステム作りの理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	保育者に必要な学び育ちあうクラス作りについて ■		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 12 章 p140-p152 を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し、保育者に必要なクラス作りの理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	保育者に求められる専門性		
	該当到達目標	予習	事前に書籍 2 第 15 章 p178-p190 を読み内容にふれる	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義資料を読み返し、保育者の専門性について理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	保育の実践と理論について ■		
	該当到達目標	予習	子ども・家族支援センターの活動参加及び計画を立てる	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	活動後グループディスカッションを行い実践と理論を統合し理解を深める	1.5 時間
15	講義内容	まとめ	保育方法と今後に必要な保育の関わりと実践	
	該当到達目標	予習	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義資料をまとめ、総合的に保育方法を総合的に理解し整理する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORDS:保育の方法、親子関係、実践と支援、子育て (■実務経験に基づく内容を示す)			

科目名	心身の発達と学習過程(保育・教育の方法技術)							科目 ナンバリング	CEW119		
英文名	Psychological, Physical Development and Learning Processes							講義形態	講義		
担当教員	佐々木 典彰										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位								
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	3	問題発見・解決力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○						○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ② 講義の実施方法	① 講義の目標 保育者として適切に子どもを理解し、目の前の子どもに対応できるようになるための基礎知識を身につける。特に、乳幼児の発達段階や心理について学ぶ。 ② 講義の実施方法 適宜、自分であればどのように考えるかを発言したり、グループで意見交換をしたりする。										
到達目標	1. 乳幼児の発達について理解する。 2. さまざまな乳幼児の事例について、心理学の知識を活用しながら保育者の対応を考える。										
使用教材	テキストは使用しない。適宜、資料配布等を行う。										
参考文献	文部科学省 幼稚園教育要領 内閣府 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 厚生労働省 保育所保育指針 その他、適宜紹介する。										
評価方法	定期試験 70 点、リアクションペーパー30 点、計 100 満点で評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	定期試験後、解説を行う。その方法は別途伝える。										
オフィスアワー (研究室)	火曜日 3 限、水曜日 3 限 (8 号館 409 研究室)				メールアドレス (#→@)						
1	講義内容	発達とは									
	該当到達目標	予習	「発達」について文献やインターネット等で調べる。							1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5	時間
2	講義内容	胎児期の発達									
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5	時間
3	講義内容	乳児期の発達									
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5	時間
4	講義内容	幼児期前半の発達									
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5	時間
5	講義内容	幼児期後半の発達									
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。							1.5	時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。							1.5	時間

6	講義内容	学童期以降の発達		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
7	講義内容	障害について		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	1	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの事例について対応を考える①		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
9	講義内容	子どもの事例について対応を考える②		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
10	講義内容	子どもの事例について対応を考える③		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
11	講義内容	子どもの事例について対応を考える④		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認しそれに、関連することをさらに調べる。	1.5 時間
12	講義内容	子どもの事例について対応を考える⑤		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
13	講義内容	子どもの事例について対応を考える⑥		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
14	講義内容	子どもの事例について対応を考える⑦		
	該当到達目標	予習	前回提示されたキーワードについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
15	講義内容	振り返り		
	該当到達目標	予習	全体のポイントを振り返る。	1.5 時間
	1,2	復習	全体のポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	C-learning を活用する場合がある。			

科目名	子育て支援(保育・教育の方法技術)							科目ナンバリング	CEW153	
英文名	Child Rearing Support							講義形態	演習	
担当教員	千葉 千恵美									
科目に関連した実務経験	公立保育所に保育士として勤務(経験) 学内子ども・家族支援センターで保育士 心理相談員勤務									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	345891016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	子育て支援の課題や現状を理解し、子育て支援に必要な支援方法を事例検討や分析する事により家族の関わりや背景、子育てに起因する問題解決を目指す。 授業の進め方: 講義はスライド資料を基に前半の講義を行う。後半は講義の後、グループワークを行い、講義で学習した内容のディスカッションし発表形式を取る。まとめには発表した内容を板書しより具体的に学習した内容を展開させる。授業終了後にはリアクションペーパーに授業で得られた内容をまとめより理解を深める形にする。									
到達目標	26. 子育て支援の理論と意義について理解する事が出来る。■ 27. 具体的な子育て支援の方法・技術では事例検討を通じて、支援方法を考える事が出来る。 28. 子育て支援を理解するとともに、児童虐待防止に向けた支援を考える事が出来る。■ 29. 子育て支援の過程で必要な記録、評価等、必要な事柄について理解することが出来る。■ 30. 他機関連携・協働等必要性並びに地域社会の資源と役割を総合的に理解する事が出来る。■									
使用教材	千葉千恵美著 子育て支援の実践 現代図書 2020 年度版									
参考文献	保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館									
評価方法	事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験 80%とする									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィードバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 4, 5 限目 (8号館4階401研究室)				メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み子育て支援の目標や到達目標等予備について予習する。						1.5 時間	
	1,2	復習	子育て支援にむけた組み立て講義内容を振り返り理解を深める。						1.5 時間	
2	講義内容	我が国における子育て支援の理念と目標について								
	該当到達目標	予習	子育て支援の理念や目標について第1章 p1-p9 を読み、内容にふれる						1.5 時間	
	1,2,3	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援について理解を深める。						1.5 時間	
3	講義内容	子育て支援の実践について ■								
	該当到達目標	予習	発達障害児と親を事前に第2章 p10-p24 を読み、講義内容についてふれる。						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援の実践の関わり理解を深める。						1.5 時間	
4	講義内容	被虐待児への子育て支援について ■								
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p25-p34 を読み、内容にふれる。						1.5 時間	

	1,2,3,5	復習	講義内容の資料を読み返し、被虐待児への子育て支援の理解を深める。■	1.5 時間
5	講義内容	国際結婚の子育て支援について(1)フィリピンの国籍の国際結婚 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p33-p39 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,5	復習	講義内容の資料を読み返し、国際結婚の子育て支援の理解を深める。■	1.5 時間
6	講義内容	国際結婚の子育て支援について(2)ブラジル国籍の国際結婚		
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p39-p41 を読み、講義内容についてふれる。」	1.5 時間
	2,3,5	復習	講義内容の資料を読み返し、国際結婚の子育て支援の理解を深める。■	1.5 時間
7	講義内容	国際結婚の子育て支援について(3)中国籍の国際結婚		
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p41-p52 を読み、講義内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,5	復習	講義内容の資料を読み返し、国際結婚の子育て支援の理解を深める。■	1.5 時間
8	講義内容	問題の早期発見と早期介入のための支援 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第2章 p53-p69 を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な支援の理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	保育所における子育て支援の現状と課題		
	該当到達目標	予習	事前に第3章 p70-p82 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	1,3,4	復習	講義内容の資料を読み返し保育所並びに地域子育て支援の理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	子育て支援にむけた教育内容 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p83-p94 について読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な教育内容理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	子育て支援の理解に必要な発達障害について ■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p94-p105 を読み、内容にふれる。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し子育て支援に必要な発達障害の理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	子育て支援に必要な愛着障害について ■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p106-p114 を読み、内容についてふれる。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し、愛着障害についての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	子育て支援に必要な家族理解 ■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p114-p121 を読み、内容についてふれる。	1.5 時間
	2,3,5	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な家族理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	子育て支援の実践について ■		
	該当到達目標	予習	事前に第4章 p121-p129 を読み、内容についてふれる。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容の資料を読み返し、子育て支援の実践に向けた理解を深める	1.5 時間
15	講義内容	子育て支援の実践のまとめ		
	該当到達目標	予習	今まで授業で得られた内容についての振り返りをする。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	子育て支援の実践で得られた授業内容についてのまとめをする。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	KEY WORDS:子育て支援 親支援 虐待防止 発達障害 愛着障害 国際結婚 困難事例 (■:実務経験に基づく内容を示す)			

科目名	チーム医療アプローチ演習(保育・教育の方法・技術)					科目 ナンバリング	CEW511			
英文名	Interprofessional Practice					講義形態	演習			
担当教員	渡邊秀臣(理学)、小池洋子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子・高橋雄太(薬学)、木村憲洋(情報)、竹内真理(栄養)、加藤大輔(社会福祉)、内田祥子(子ども教育)									
科目に関連した 実務経験	渡邊秀臣(理学): 非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務 小池(看護): 看護師として一般病院に勤務(経験) 篠原(理学): 理学療法士として急性期、回復期病院に勤務(経験)。生活期病院に非常勤勤務。 大林(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)大学病院に非常勤勤務。 高橋雄太(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務。 木村(情報): 病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務(経験) 竹内(栄養): 管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 加藤(社会福祉): MSWとしてケアミックス病院に勤務(経験) 内田(子ども教育): 保育者養成校での学外実習の指導(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と教養			4	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	3	専門的知識			1	自律的・意欲的に学習する力				
	1	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○		○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。									
到達目標	1.多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べる。■ 2.各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べる。■ 3.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■ 4.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。									
使用教材	関連する資料を随時配布する。									
参考文献	指定なし。									
評価方法	1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度 40%、5・6回の模擬症例検討内容等 20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度 20%、授業後レポート 20% (対面授業・オンライン授業共通)									
課題・評価に対する フィードバック方法	模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	渡邊(理学): 金曜 3 限、4 号館 2 階学部長室 小池(看護): 月曜 4 限、5 号館 412 研究室 篠原(理学): 水曜 3 限、3 号館 206 研究室 大林(薬学): 月曜 1 限、7 号館 307 研究室 高橋(薬学): 水曜 2 限、7号館 4 階・臨床薬学教育センター 木村(情報): 月曜 1 限 7 号館 610 研究室 竹内(栄養): 木曜 2 限、1 号館 308 研究室 加藤(社会福祉): 木曜 2 限、1 号館 513 研究室					メールアドレス (#→@)		渡邊(理学): watanabe-h#takasaki-u.ac.jp 小池(看護): koike-y#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学): shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 大林(薬学): obayashi#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学): takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp 木村(情報):		

		内田(子ども教育):月曜 1 限、8 号館 410 研究室		norihiro#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養): mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 加藤(社会福祉): kato-d#takasaki-u.ac.jp 内田(子ども教育): uchida-s#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	ガイダンス / チーム医療アプローチについて		
	該当到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。	1.5 時間
2	講義内容	効果的な情報伝達と共有■		
	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1.5 時間
3	講義内容	多職種連携教育の国内外の動向■		
	該当到達目標	予習	多職種連携について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	多職種連携教育の動向について整理する。	1.5 時間
4	講義内容	チームカンファレンスの目的と方法■		
	該当到達目標	予習	各専門職の役割について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	チームカンファレンスの目的・方法を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	模擬症例検討①(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
	該当到達目標	予習	疾病と治療について学習し、自職種の関わり方をまとめる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬症例検討②(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬症例検討③(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて) *グループワーク■【合同】		
	該当到達目標	予習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する方法について準備しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬症例検討④(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて) *グループワーク発表■【合同】		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。 2～8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。 オンライン授業になった際は、ZOOM を使い可能な限りグループワークを行うが、状況に応じてその都度指示する。 (生物生産学科のみ) 【副専攻対象科目】本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。 副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時に CAP のカウントには含めない。 【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	保育実習Ⅰ（実習）						科目ナンバリング	CEF151		
英文名	Practice in Early Childhood Education and CareⅠ						講義形態	実習		
担当教員	佐々木典彰 今井 麻美 大塚 恵美子 石川 徹 石原 綱成 野田 敦史 富田 純喜									
科目に関連した実務経験	野田：指導員（社会福祉士・介護福祉士）として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務（経験） 石川：保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 4 単位							
関連資格	免許・資格指定科目：保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	実習日誌に対してコメントを付し返却し、実習終了後の面談にて、実習の振り返りや質疑応答等の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育実習Ⅰを通じて保育士の業務内容や職業倫理についての知識および技術習得をめざす。また、保育専門職としての健康管理能力や責任感を身につけさせる。各実習種の具体的目標は以下のとおりとする。 【保育所における実習】 子どもと関わることを通して、子どもへの理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の業務内容、職業倫理を具体的に学ぶ。 【児童福祉施設等における実習】 生活や支援活動に参加し、児童・利用者との関わりや支援活動を通して児童・利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設などの機能や保育士・施設職員の役割及び職務内容などに関する知識・技術習得をめざす。									
到達目標	1.保育所、児童福祉施設の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。■ 2.観察やかかわりを通して利用児者の状態像を多面的に把握し、説明できる。 3.保育所、児童福祉施設における職務を理解し行動できる。■									
使用教材	実習先により適宜									
参考文献										
評価方法	実習日誌 50%（保育所 25%、施設 25%）と評価票 50%（保育所 25%、施設 25%）より総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。									
オフィスアワー（研究室）	担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。				メールアドレス（＃→＠）	担当教員のメールアドレスは、他の科目で確認すること。				
講義内容	保育所に概ね 2 週間（1 日 8 時間、週 5～6 日）11 日間程度通う、また児童福祉施設等に概ね 2 週間（1 日 8 時間、週 5～6 日）11 日間程度、宿泊もしくは通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。									
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認							適宜	
	復習	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備							適宜	
合計時間（予習・復習）									適宜	
備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 また、報告会を適宜予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。 ■：実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	保育実習指導 I (実習)						科目 ナンバリング	CEF152		
英文名	Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care I						講義形態	演習		
担当教員	佐々木 典彰 今井 麻美 大塚 恵美子 石川 徹 石原 綱成 野田 敦史 富田 純喜									
科目に関連した 実務経験	野田:指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験) 石川:保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務(経験)									
学年・開講期	2-3 年	通年	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育実習 I に向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下 を目標とする。 ・保育実習の意義、目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。									
到達目標	1.事前に保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場면을イメージした目標や行動指針が 立てられるようになる。■ 2.子ども・利用者との関わりや観察を通じた記録、振り返りができるようになる。■ 3.今後の実習に向け具体的な学習と目標設定ができるようになる。									
使用教材	高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育実習の手引」その1、その2 保育所保育指針解説:厚生労働省編著(フレーベル館) 2018 年 320 円+税 教科書:喜多一憲 他 編 保育士養成課程 五訂 福祉施設実習ハンドブック OHC(書画映写機)、スライド、DVD ビデオ等も使用する。									
参考文献										
評価方法	提出課題 40%、ディスカッションへの参加度 30%、平常点(出席、授業態度)30%									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出された課題は、コメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーは、他の科目 で確認すること。				メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは、他の科 目で確認すること。				
1	講義内容	保育所実習に向かう心構えと準備								
	該当到達目標	予習	1 年次の実習を振り返り、自身の課題を明確化する。						0.5	時間
	1	復習	授業内容を踏まえ、実習に向けて必要な準備について整理する。						0.5	時間
2	講義内容	保育所実習の実習先を決めるに向けて								
	該当到達目標	予習	希望する実習先を調べる。						0.5	時間
	1	復習	実習先の候補園の保育内容を調べる。						0.5	時間
3	講義内容	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める ①乳児								
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説 p.89～90 を読み、乳児の発達とその配慮について予習す る。						0.5	時間
	1,2	復習	保育所保育指針解説 p.118～120 を読み、乳児への援助と配慮について復習す る。						0.5	時間
4	講義内容	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める ②1 歳以上 3 歳未満児								

	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説 p.121～122 を読み、1 歳以上 3 歳未満児の発達とその配慮について予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	保育所保育指針解説 p.180～181 を読み、1 歳以上 3 歳未満児への援助と配慮について復習する。	0.5 時間
5	講義内容	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める ③3 歳以上児		
	該当到達目標	予習	保育所保育指針解説 p.182～183 を読み、3 歳以上児の発達とその配慮について予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	保育所保育指針解説 p.282～284 を読み、3 歳以上児の発達とその配慮について復習する。	0.5 時間
6	講義内容	保育所実習の日誌の書き方 ①時系列の記録について		
	該当到達目標	予習	1 年次に記録した実習日誌を読み返し、自身の課題を明確化する。	0.5 時間
	1,2	復習	自身の課題に合わせて、授業内容を踏まえて、保育記録の留意点を復習する。	0.5 時間
7	講義内容	保育所実習の日誌の書き方 ②エピソード記録について		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」の該当箇所を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	記録する上での留意点を復習する。	0.5 時間
8	講義内容	保育所実習の日誌の書き方 ③環境について		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」の該当箇所を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	記録する上での留意点を復習する。	0.5 時間
9	講義内容	保育所実習の目的と意義		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」の該当箇所を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業内容を踏まえ、自己課題を考える。	0.5 時間
10	講義内容	保育所実習に向けての自己課題		
	該当到達目標	予習	自己課題を整理する。	0.5 時間
	1,2	復習	自己課題を完成させる。	0.5 時間
11	講義内容	保育所実習に向かうための手続きや諸準備		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」の該当箇所を読み予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	保育所実習に向かうための手続きや諸準備に関する今後の計画を確認する。	0.5 時間
12	講義内容	保育所実習の指導案の作成		
	該当到達目標	予習	責任実習に使用したい指導案を作成する。	0.5 時間
	1,2	復習	指導を踏まえて、指導案を修正する。	0.5 時間
13	講義内容	保育所実習事後指導 ①実習態度に対する振り返り		
	該当到達目標	予習	実習日誌を読み、自身の実習態度を振り返る	0.5 時間
	3	復習	次の実習に向けた自己課題を考える	0.5 時間
14	講義内容	保育所実習事後指導 ②実習内容に対する振り返り		
	該当到達目標	予習	実習日誌を読み、自身の実習内容を振り返る。	0.5 時間
	3	復習	次の実習に向けた自己課題を考える。	0.5 時間
15	講義内容	保育所実習事後指導 ③事例検討		
	該当到達目標	予習	実習日誌を読み、印象に残った子どもの姿や場面を振り返る。	0.5 時間
	3	復習	次の実習に向けた自己課題を整理する。	0.5 時間
16	講義内容	施設実習に向かう心構えと配属に向けて■		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その 2 全体編を読んでおく。	0.5 時間
	1	復習	配布資料に基づき各児童福祉施設の目的・実習の特徴を調べる。	0.5 時間
17	講義内容	施設実習の配属調整・決定		
	該当到達目標	予習	前回授業時の配布資料を確認し配属希望が出せるようにしておく。	0.5 時間
	1	復習	配属実習種別の運営指針をダウンロードし目を通しておく。	0.5 時間
18	講義内容	施設実習に関連する事務手続きとスケジュール・体調管理		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その 1 を読んでおく。	0.5 時間
	1	復習	個人票の記入・提出。実習スケジュール自己管理表の記入・確認。	0.5 時間
19	講義内容	施設実習の目的・目標・内容■		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その 2 保育実習 I（施設）の部 I、II を読んでおく。	0.5 時間

	1,2	復習	施設実習の目的・目標などを理解する。	0.5 時間
20	講義内容	施設実習の実際 ①実習施設の事前学習■		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設種別の特徴、実習の相違点について理解する	0.5 時間
21	講義内容	施設実習の実際 ②事前オリエンテーションと準備物■		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	事前オリエンテーションに向けた手順、内容、留意点を理解する。	0.5 時間
22	講義内容	施設実習の実際 ③施設実習日誌の書き方■		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設実習日誌の書き方と留意点などを理解する。	0.5 時間
23	講義内容	施設実習の実際 ④実習中の心構え■		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅳを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実習中におけるトラブルシューティングを理解する。	0.5 時間
24	講義内容	施設実習の実際 ⑤事後指導の内容と方法		
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅴを読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	事後指導の内容と方法を理解できる。	0.5 時間
25	講義内容	施設実習事後集団指導 ①報告書の作成および指導		
	該当到達目標	予習	実習報告書の下書きを完成させる。	0.5 時間
	2,3	復習	添削指導のコメントをもとに加筆修正および報告会発表準備をする。	0.5 時間
26	講義内容	施設実習事後集団指導 ②実習報告会（児童養護施設）■		
	該当到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
27	講義内容	施設実習事後集団指導 ③実習報告会（乳児院・母子生活支援施設）■		
	該当到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
28	講義内容	施設実習事後集団指導 ④実習報告会（障害児入所施設・障害者支援施設）■		
	該当到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
29	講義内容	施設実習事後個別指導 ①（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）■		
	該当到達目標	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5 時間
	2,3	復習	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5 時間
30	講義内容	施設実習事後個別指導 ①（障害児入所施設・障害者支援施設）■		
	該当到達目標	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5 時間
	2,3	復習	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5 時間
合計時間（予習・復習）				30 時間
備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）（実習）							科目 ナンバリング	CEF153		
英文名	Practice in Early Childhood Education and Care II (Nursery)							講義形態	実習		
担当教員	佐々木 典彰 大塚 恵美子 今井 麻美										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	4 年 前期		選必・単位数		保育・教育コース 選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目： 保育士										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 （多様性理解）				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	3 4 8 16										
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
						○				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	実習日誌に対してコメントを付し返却する。実習終了後の面談にて、実習の振り返りや質疑応答等の時間を設ける。										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児に対する保育実践、保護者支援を総合的に理解し、自らの実践力の向上をめざす。										
到達目標	1.自分なりの課題や問題意識を持ちながら実習に取り組むことができる。 2.一人一人に応じる保育方法や援助方法について、試行錯誤する姿勢を持てる。 3.保育士としての自己の課題を明確化する。										
使用教材	高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1、その2 OHC(書画映写機)、スライド、DVD ビデオ等も使用する。										
参考文献											
評価方法	実習日誌 50%、評価票 50%										
課題・評価に対する フィードバック方法	事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。										
オフィスアワー （研究室）	担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。				メールアドレス （#→@）		担当教員のメールアドレスは、他の科目で確認すること。				
講義内容	保育所に概ね 2 週間(1 日 8 時間、週 5～6 日)11 日間程度通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。										
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認								実習中適宜	
	復習	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、 報告会用資料準備								実習中適宜	
合計時間(予習・復習)									実習中適宜		
備考	実習要件を確認した上で、履修すること。また、実習指導の履修登録が必要。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず学んだことや調べたことをチェックし、帰宅後も必ず思い出して指示されたことや学んだことを書き出すなどの行為が必要である。										

科目名	保育実習Ⅲ(施設)(実習)							科目 ナンバリング	CEF154	
英文名	Practice in Early Childhood Education and Care III							講義形態	実習	
担当教員	石原 綱成 野田 敦史■ 富田 純喜									
科目に関連した 実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務(野田)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育実習Ⅰで習得した保育士の業務内容や職業倫理についての基本的な知識・技術を踏まえて、より高度な保育・養護実践の経験を通じて汎用性のある実践力を養うことをめざす。具体的目標は以下のとおりとする。 1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。■ 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。■ 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。■ 4.保育士としての自己の課題を明確化する。									
到達目標	1.児童福祉施設の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。 2.観察やかかわりを通して利用児者の状態像を多面的に把握・アセスメントできる。 3.利用児者の生活課題を抽出し個別の支援計画を立案できる。 4.児童福祉施設における職務・倫理を理解し社会福祉援助技術実践ができる。									
使用教材	実習先により適宜									
参考文献	保育実習の手引き(その2)									
評価方法	実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)	ishihara#takasaki-u.ac.jp noda#takasaki-u.ac.jp tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	保育実習Ⅲに規定する施設・事業所で実習を行う									
	予習	保育実習指導Ⅲ及び実習先から提示された課題に取り組む								4 時間
	復習	保育実習指導Ⅲ及び実習報告書を作成する								4 時間
合計時間(予習・復習)									8 時間	
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。									

科目名	保育実習指導Ⅱ（実習）							科目ナンバリング	CEF155	
英文名	Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care II							講義形態	演習	
担当教員	佐々木 典彰 大塚 恵美子 今井 麻美									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目： 保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3 4 8 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児に対する保育実践、保護者支援に対する理解を総合的に深め、実践力を養う。保育の記録、および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。その際、教員や仲間と対話しながら学びを深めることを大事に授業を進める。									
到達目標	1.保育実習Ⅰや既習の教科の内容を踏まえ、事前指導において、自己の課題を明確にすることができる。 2.保育の様々な記録様式を学び、それぞれの利点と欠点について理解することができる。 3.自身の保育実践を多角的な視点から省察する態度を持つことができる。									
使用教材	高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1、その2 保育所保育指針解説									
参考文献										
評価方法	提出課題 60%，ディスカッションへの参加度 20%，平常点（出席，授業態度）20%									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出された課題にはコメントを付けて返却する									
オフィスアワー （研究室）	担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。				メールアドレス （#→@）	担当教員のメールアドレスは、他の科目で確認すること。				
1	講義内容	保育実習Ⅱの目的と意義								
	該当到達目標	予習	「保育・教育の手引き」の該当箇所を読み予習する						0.5 時間	
	1	復習	保育実習Ⅱの目的と意義について理解を深める						0.5 時間	
2	講義内容	実習園決定に向けて								
	該当到達目標	予習	希望する実習先を考えたり，調べたりする						0.5 時間	
	1	復習	実習先の候補園の保育内容を調べる						0.5 時間	
3	講義内容	保育実習Ⅰの振り返り ①記録								
	該当到達目標	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り，自身の課題を考える						0.5 時間	
	1,3	復習	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する						0.5 時間	
4	講義内容	保育実習Ⅰの振り返り ②自身の子どもへの関わり								
	該当到達目標	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り，自身の課題を考える						0.5 時間	

	1,3	復習	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する	0.5 時間
5	講義内容	保育実習Ⅰの振り返り ③3歳未満児の保育実践		
	該当到達目標	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り、疑問点などを明らかにする	0.5 時間
	1,3	復習	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する	0.5 時間
6	講義内容	保育実習Ⅱの実習日誌における記録方法 ①新たな記録方法を学ぶ		
	該当到達目標	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り、自身の課題を明確にする	0.5 時間
	1,2,3	復習	新たな記録方法を復習する	0.5 時間
7	講義内容	保育実習Ⅱの実習日誌における記録方法 ②新たな記録方法で記録してみる		
	該当到達目標	予習	これまで学んだ記録方法について、それぞれにおけるメリットデメリットについて考える	0.5 時間
	1,2,3	復習	新たな記録方法の留意点を整理して理解を深める	0.5 時間
8	講義内容	保育所実習に向けての自己課題		
	該当到達目標	予習	保育実習Ⅱの自己課題を考える	0.5 時間
	1,2,3	復習	保育実習Ⅱの自己課題を明確化する	0.5 時間
9	講義内容	保育実習Ⅱに向かうための手続きや諸準備		
	該当到達目標	予習	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.5 時間
	1	復習	保育実習Ⅱに向かうための手続きや諸準備に関する今後の予定を確認する	0.5 時間
10	講義内容	事後指導 ①グループディスカッション 自身の子どもへの関わり		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
11	講義内容	事後指導 ②グループディスカッション 保育者の援助から学んだこと		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
12	講義内容	事後指導 ③グループディスカッション 子どもの経験と保育環境		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
13	講義内容	事後指導 ④グループディスカッション 記録		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
14	講義内容	事後指導 ⑤グループディスカッション 責任実習		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
15	講義内容	事後指導 ⑥ まとめ		
	該当到達目標	予習	グループディスカッションを通して、気づいた自己課題を整理する	0.5 時間
	1,2,3	復習	保育士としての自己の課題を明確化する	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	保育実習指導Ⅲ(実習)							科目 ナンバリング	CEF156	
英文名	Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care III							講義形態	演習	
担当教員	石原 綱成 野田 敦史■ 富田 純喜									
科目に関連した 実務経験	社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務(野田)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 保育士									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑯									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	保育実習Ⅲに向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下を目標とし、各授業回で配布する資料や、提示する視聴覚教材をもとに説明・解説し、課題シート等への記述を通じた演習を実施する。アクティブラーニングの方法を用いたグループワークも行う。 ・保育実習の意義、目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。									
到達目標	1.事前に児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場面をイメージした目標や行動指針が立てられるようになる。 2.子ども・利用者との関わりや観察を通した記録、振り返りができるようになる。 3.社会福祉援助技術を活用した保育実践ができるようになる。■									
使用教材	高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1, その2 保育所保育指針解説書 教科書: 山根 希代子 他 著 全国児童発達支援協議会 (監修), 障害児通所支援ハンドブック OHC(書画映写機), スライド、DVD ビデオ等も使用する。									
参考文献	適宜、授業で紹介する。									
評価方法	実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出された課題は、コメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜2限と金曜 1 限、質問はメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)	ishihara#takasaki-u.ac.jp noda#takasaki-u.ac.jp tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	施設実習に向かう心構えと配属に向けて■								
	該当到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 全体編を読んでおく。							1.5 時間
	1	復習	配布資料に基づき各児童福祉施設の目的・実習の特徴を調べる。							1.5 時間
2	講義内容	施設実習の配属調整・決定								
	該当到達目標	予習	前回授業時の配布資料を確認し配属希望が出せるようにしておく。							1.5 時間
	1	復習	配属実習種別の運営指針をダウンロードし目を通しておく。							1.5 時間
3	講義内容	施設実習に関連する事務手続きとスケジュール・体調管理								

	該当到達目標 1	予習	「教育・保育実習の手引き」その1を読んでおく。	1.5	時間
		復習	個人票の記入・提出。実習スケジュール自己管理表の記入・確認。	1.5	時間
4	講義内容	施設実習の目的・目標・内容■			
	該当到達目標 1,2	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅲ（施設）の部Ⅰ，Ⅱを読んでおく。	1.5	時間
	1,2	復習	施設実習の目的・目標などを理解する。	1.5	時間
		講義内容	施設実習の実際 ①実習施設の事前学習■		
5	該当到達目標 1,2	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅲ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	1.5	時間
	1,2	復習	施設種別の特徴、実習の相違点について理解する	1.5	時間
	講義内容	施設実習の実際 ②事前オリエンテーションと準備物■			
	該当到達目標 1,2	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅲ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	1.5	時間
6	1,2	復習	事前オリエンテーションに向けた手順、内容、留意点を理解する。	1.5	時間
		講義内容	施設実習の実際 ③施設実習日誌の書き方■		
7	該当到達目標 1,2	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	1.5	時間
	1,2	復習	施設実習日誌の書き方と留意点などを理解する。	1.5	時間
	講義内容	施設実習の実際 ④実習中の心構え■			
	該当到達目標 1,2	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅳを読んでおく。	1.5	時間
8	1,2	復習	実習中におけるトラブルシューティングを理解する。	1.5	時間
		講義内容	施設実習の実際 ⑤事後指導の内容と方法		
9	該当到達目標 2,3	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅴを読んでおく。	1.5	時間
	2,3	復習	事後指導の内容と方法を理解できる。	1.5	時間
	講義内容	施設実習事後集団指導 ①報告書の作成および指導			
	該当到達目標 2,3	予習	実習報告書の下書きを完成させる。	1.5	時間
10	2,3	復習	添削指導のコメントをもとに加筆修正および報告会発表準備をする。	1.5	時間
		講義内容	施設実習事後集団指導 ②実習報告会（児童養護施設・乳児院）		
11	該当到達目標 2,3	予習	報告会発表準備をする。	1.5	時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	1.5	時間
	講義内容	施設実習事後集団指導 ③実習報告会（児童発達支援センター）			
	該当到達目標 2,3	予習	報告会発表準備をする。	1.5	時間
12	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	1.5	時間
		講義内容	施設実習事後集団指導 ④実習報告会（障害児入所施設・障害者支援施設）■		
13	該当到達目標 2,3	予習	報告会発表準備をする。	1.5	時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	1.5	時間
	講義内容	施設実習事後個別指導 ①（乳児院・児童養護施設）			
	該当到達目標 2,3	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	1.5	時間
14	2,3	復習	リフレクションカードの記入。		時間
		講義内容	施設実習事後個別指導 ①（障害児入所施設・障害者支援施設 その他の施設）		
15	該当到達目標 2,3	予習	個別指導の質問を想定したレクチャーの練習。	1.5	時間
	2,3	復習	保育実習Ⅲ総括レポートの作成	1.5	時間
合計時間（予習・復習）				45	時間
備考	■：実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	幼稚園教育基礎実習(実習)							科目ナンバリング	CEF101		
英文名	Basic Teaching Practice in Kindergarten							講義形態	実習		
担当教員	今井 邦枝 山西 加織 内田 祥子										
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園に勤務(経験:今井) 現職の幼稚園教諭をゲストスピーカーとして招く(2回)										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位								
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	0	専門的知識				4	自律的・意欲的に学習する力				
	4	問題発見・解決力									
SDGs との関連	3 4										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○	○	○			○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幼稚園教育基礎実習とは、幼稚園に出向いて 1 週間の教育実習をするもので、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等について主に観察を通じて学ぶことが目的である。 また、幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。 授業は講義形式及びグループワーク形式で実施する。										
到達目標	1.実習のねらいを理解し、自己課題を明確にする 2.実習に向けて主体的に準備に取り組む 3.日誌の記載方法を理解し、適切に記載できる■ 4.幼稚園生活の流れ、幼児の実態、教師の役割を理解し、説明できる■ 5.事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする■										
使用教材	「幼稚園教育要領解説」「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」「教育・保育実習の手引き その一、その二」										
参考文献	授業内で提示する。										
評価方法	実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。事前指導 30%、事後指導 20%、実習評価 50%										
課題・評価に対するフィードバック方法	提出課題にはコメントをつけて返却する。										
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	今井邦:kimai#takasaki-u.ac.jp 内田:uchida-s#takasaki-u.ac.jp 山西:yamanishi#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	・事前指導では、幼稚園教育基礎実習のねらいをふまえ、実習の自己課題を明確にする。また実習に向けて、課題に取り組んだり、必要な手続きを確認したり、実習生として相応しい態度を身に付ける。■ ・実習では、主に観察実習を通じて、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等、一日の保育の流れ等について主に学ぶ。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。 ・事後指導では、基礎実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。■										
	予習	事前に「実習の手引き」の該当部分を読んでくること。								5	時間
	復習	実習に必要な課題や実習の準備、実習中の日誌提出、実習後の課題提出								10	時間

合計時間(予習・復習)		15 時間
備考	・提出物は期日厳守で提出すること。 ・無断での遅刻欠席は厳禁。 ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名		小学校教育基礎実習(実習)						科目 ナンバリング	CEF201		
英文名		Basic Teaching Practice in Elementary School						講義形態	実習		
担当教員		大橋博 佐藤和貴 菅野陽太郎									
科目に関連した 実務経験		大橋: 小学校教諭として小学校に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位							
関連資格		免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針 との対応		2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		4 8									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○				
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		①小学校教員免許取得のため必須となる 3 週間の小学校教育実習(以下、本実習)の基礎基本を身につけるため、1 週間の短期での小学校教育実習を行い、本実習への目標を確立する。 ②実習事前指導では、実習の手引きや教員の自作資料で実習の事前指導を行う。実習事後指導では、本実習生の実習報告会に参加し、基礎実習で見てきたことと比較しながら振り返り、本実習への目標レポートを作成する。									
到達目標		1. 小学校教員の授業を中心とした仕事や児童の学びについて、観察や簡単な体験を行うことを通して、大学での学修に一層の動機づけをすることができる。 2. 小学校教員の授業を中心とした仕事や児童の学びについて観察や簡単な体験を行うことを通して、学校・教育・教師・児童への理解を深めることができる。 3. 小学校教員の仕事について、教師の目線で考えることができる。■									
使用教材		『教育・保育実習の手引 その 1(心構え・事務手続き 共通編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部) 『教育・保育実習の手引 その 2(事前・事後指導編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部)									
参考文献		参考となる文献については、各教員がその都度紹介する。									
評価方法		実習の評価(実習校による評価、実習日誌等)(90%)、事前事後指導の評価(課題レポート等の提出状況および内容、実習報告会リアクションペーパー、授業参加度等)(10%)。									
課題・評価に対する フィードバック方法		提出された課題(実習日誌や目標レポート等)に評価コメントなどを行う。									
オフィスアワー (研究室)		大橋: 月曜 1 限、火曜 2 限 (9 号館 3 階 302 研究室) 佐藤: 火曜 2 限 火曜 5 限 (8 号館 5 階 503 研究室) 菅野: 水曜 2 限 金曜 2 限 (8 号 5 階 508 研究室)				メールアドレス (#→@)		大橋; ohashi#takasaki-u.ac.jp 佐藤; sato-k#takasaki-u.ac.jp 菅野; kanno-y#takasaki-u.ac.jp			
	講義内容	実習前は、実習の準備や実習校との打ち合わせ方を指導する。また、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・接遇等について指導する。■ ・実習中は実習校の担当教員の指導を第一としつつ、大学の担当教員が実習校を訪問して、実習生に対する指導を行う。 ・実習後は、実習報告会参加などを通して、基礎実習での学びや今後の学修・進路にどのような意味をもつことができたか等を考え、本実習までの学修計画を作る。■									
	該当到達目標	予習	事前指導時に伝えられたを行う。 実習校から受けた指示を準備する。日誌の							5	時間

	1、2、3		事前に書くべきところを書いておく。	
		復習	実習日誌に記述不十分な箇所がないか確認し、適宜加筆し完成させ、提出する。 実習報告会参加等を受け、本実習までの学修計画を考える。	10 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	提出物等は、期日時間厳守。 実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中学校教育基礎実習(実習)						科目ナンバリング	CEF301			
英文名	Basic Teaching Practice in Junior High School						講義形態	実習			
担当教員	鈴木文也・姉崎達夫・松田幸子										
科目に関連した実務経験	鈴木・姉崎:英語教師として中学校に勤務(経験)										
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	教員養成コース 選択 1 単位								
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	410										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○	○	○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	中学校教員免許(英語)を取得するにあたって、中学校に出向いて1週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。講義は主に現場での実習となる。事前事後指導は、教員との個別面談と、資料・パワーポイント等を用いた学生の報告会によって進める。										
到達目標	1. 中学校に出向いて、そこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割等について、実践を通して基礎的な観察・体験を行う。 2. 基礎的な実習を行うことで、大学での学修にいつそうの動機づけをする。 3. 基礎実習に基づいて、現場での学校・教育・教師についての理解を深める。■										
使用教材	『保育・教育基礎実習の手引き』										
参考文献											
評価方法	実習の実際(実習日誌、研究授業等)(50%)、実習校の評価(40%)、事前事後指導(報告会、出席状況)(10%)の総合評価。										
課題・評価に対するフィードバック方法	実習日誌等については添削・コメントを付したのち返却する。										
オフィスアワー (研究室)	鈴木:火曜 3 限(8 号館 409 号室) 姉崎:水曜 3 限(9 号館 303 号室) 松田:金曜 2 限限(9 号館 304 号室)				メールアドレス (#→@)	suzuki-b#takasaki-u.ac.jp anezaki#takasaki-u.ac.jp matsuda-y#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。 ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問することで、実習生に対する指導を行う。 ・実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行う。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行う。■										
	予習	学習指導要領の通読・理解								8 時間	
	復習	観察授業のまとめ、報告書の作成								7 時間	
合計時間(予習・復習)									15 時間		
備考	■:実務経験位に基づく内容を示す。										

科目名	幼稚園教育実習(事前事後指導含む)(実習)							科目 ナンバリング	CEF102	
英文名	Teaching Practice in Kindergarten (Including Pre/Post Guidance)							講義形態	実習	
担当教員	今井 邦枝 山西 加織 内田 祥子									
科目に関連した 実務経験	非常勤講師として幼稚園に勤務(経験:今井)									
学年・開講期	3 年 通年	選必・単位数	保育・教育コース 必修 4 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:幼稚園教諭									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	0	専門的知識				4	自律的・意欲的に学習する力			
	4	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○		○	○		○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	幼稚園教育実習は 1 年次におこなった基礎実習での学びを基礎とし、教師の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高めることを目的とする。 幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。 授業は講義形式及びグループワーク形式で実施する。									
到達目標	1.基礎実習時の課題を踏まえ、本実習に向けての自己課題を明確にもつ 2.日誌の記載方法の理解し、適切に記載できる■ 3.責任実習に向けて指導計画をたてることのできる■ 4.教材研究の重要性を知り、実際におこなうことができる■ 5.指導計画に基づき適切に保育を展開できる■ 6.事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする■									
使用教材	「教育・保育実習の手引その一、その二」「幼稚園教育要領解説」「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」									
参考文献	授業内に提示する。									
評価方法	実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。事前指導 30%、事後指導 20%、実習評価 50%									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題にコメントをつけて返却する									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	今井邦:kimai#takasaki-u.ac.jp 内田:uchida-s#takasaki-u.ac.jp 山西:yamanishi#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	・事前指導では、日誌の書き方を確認すると共に、模擬保育・指導案作成などを通じて責任実習に向けての準備をおこなう。また基礎実習での学びを振り返り、本実習での自己課題を明確にする。また実習のために必要な準備事項の確認をし、実習生として相応しい態度を身に付ける。 ・実習では、主に教師の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高める。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。 ・事後指導では、実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。■									
	予習	事前に「実習の手引き」の該当部分を読んでくこと・指導案作成と模擬保育準備								10 時間

	復習	実習の手続きに必要な課題や実習の準備・実習中の日誌提出・実習後の課題提出	5 時間
合計時間(予習・復習)			15 時間
備考	・提出物は期日厳守で提出すること。 ・無断での遅刻欠席は厳禁。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	小学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)							科目 ナンバリング	CEF202	
英文名	Teaching Practice in Elementary School							講義形態	実習	
担当教員	大橋博 佐藤和貴 菅野陽太郎									
科目に関連した 実務経験	大橋:小学校教諭として小学校に勤務(経験)									
学年・開講期	3年 通年		選必・単位数	保育・教育コース 選択 4単位 教員養成コース 必修 4単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 小学校教諭									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4 8									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○		○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①小学校3週間の教育実習を行い、実習経験に基づき自律的に小学校教員としてのやりがいを見出したり、問題解決を行ったりできる資質・能力を身につける。 ②実習事前指導では、実習の手引きや教員の自作資料を通して、実習先での授業や指導案作成などの勤務の仕方、待遇等について事前指導を受ける。実習中は実習校の指導を受けながら、小学生の学習指導、生活指導等を行う。実習後、他の実習生たちと体験を共有したり、報告会に参加し、参会者に自分の学びを報告したりすることを通して、学校・教師・児童への理解と実践的力量について振り返り、教師としての自覚を深める。									
到達目標	1.実習校に出向くにあたって、種々の心構え・態度等を身につけることができる。■ 2.実習中は、実習校の指導のもと、授業実習中心の教育実習を行い、学校・教師・児童への理解を深め、実践力を養うことができる。 3.実習後は、教育に対する使命感を確立することができる。 4.授業を行うにあたって、留意すべきことを理解することができる。■									
使用教材	『教育・保育実習の手引 その1(心構え・事務手続き 共通編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部) 『教育・保育実習の手引 その2(事前・事後指導編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部)									
参考文献	参考となる文献については、各教員がその都度紹介する。									
評価方法	実習の評価(実習校による評価、実習日誌、研究授業等)(90%)、事前事後指導の評価(課題の提出状況および内容、実習報告会におけるプレゼンテーション、授業参加度等)(10%)。									
課題・評価に対する フィードバック方法	履修者は実習の報告を自分の経験や日誌などをもとに行い、それに対して実習担当者や報告会参加者が意見感想等のコメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)	大橋: 月曜 1 限、火曜 2 限 (9 号館 3 階 302 研究室) 佐藤: 火曜 2 限 火曜 5 限 (8 号館 5 階 503 研究室) 菅野: 水曜 2 限 金曜 2 限 (8 号 5 階 508 研究室)				メールアドレス (#→@)		大橋: ohashi#takasaki-u.ac.jp 佐藤: sato-k#takasaki-u.ac.jp 菅野: kanno-y#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	・実習前は、実習の準備や実習校との打ち合わせ方を指導する。また、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・待遇等について指導する。■ ・実習中は、実習校の担当教員の指導を第一としつつ、大学の担当教員が適宜訪問したり、Eメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。								

		・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができない時はEメール等を用い、実習校の指導教員とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。 ・実習後は実習報告会などを通じて、実習での学びや今後の学修・進路に実習がどのような意味を持ったか等を報告し、指導助言を与える。■		
	該当到達目標	予習	事前指導の課題(実習の目標、外部講師講演会の感想)を仕上げる。実習校からの指示を準備する。日誌の事前を書くべきところを書いておく。学習指導案の書き方を総復習し、実習における授業実践の準備をする。	5 時間
	1、2、3、4	復習	実習日誌、実習中に書いた学習指導案に記述不十分な箇所がないか確認し、適宜加筆し完成させる。実習を振り返り、実習報告会発表用のプレゼンを作成する。	10 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	提出物等は、期日時間厳守で提出すること。 実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)							科目 ナンバリング	CEF302		
英文名	Teaching Practice in Junior High School (Including Pre/Post Guidance)							講義形態	実習		
担当教員	鈴木文也・姉崎達夫・松田幸子										
科目に関連した 実務経験	鈴木・姉崎:英語教師として中学校に勤務(経験)										
学年・開講期	3 年 通年	選必・単位数	教員養成コース 選択 4 単位								
関連資格	免許・資格指定科目: 中学校教諭										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	410										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
						○		○			
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	中学校教員免許(英語)を取得するにあたって、中学校に出向いて3週間の教育実習をするもので、実習が確実にできるように、実習校と密に連携協力しながら、巡回及び研究授業参加等の方法で指導する。講義は主に現場での実習となる。事前事後指導は、教員との個別面談と、資料・パワーポイント等を用いた学生の報告会によって進める。										
到達目標	1. 中学校に出向き、教職員の仕事、役割、生徒の状況等について把握する。 2. 大学での学修を生かしながら、実際に授業を行い、授業実践力を身につける。 3. 教育実習を踏まえて、授業実践、生徒指導、教室運営などについての理解を深める。■										
使用教材	『保育・教育実習の手引き』										
参考文献											
評価方法	実習の実際(実習日誌、研究授業等)(50%)、実習校の評価(40%)、事前事後指導(報告会、出席状況)(10%)の総合評価。										
課題・評価に対する フィードバック方法	実習日誌・報告書については添削・コメントを付したのち返却する。										
オフィスアワー (研究室)	鈴木:火曜 3 限(8 号館 409 号室) 姉崎:水曜 3 限(9 号館 303 号室) 松田:金曜 2 限(9 号館 304 号室)				メールアドレス (#→@)	suzuki-b#takasaki-u.ac.jp anezaki#takasaki-u.ac.jp matsuda- y#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。 ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したり電話や E メールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。 ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができないときは電話や E メールを用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。 ・3 週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行う。実習中も当該校及び当該校の担当教師と連絡をとりながら、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを確認するため巡回し、適宜実習生に助言指導する。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、実習報告会を開催して体験を報告させるなど事後の指導を入念に行う。■										
	予 習	実際に中学校で授業を行うための、指導要領の通読、教材研究、指導案の作 成								10	時間
	復 習	研究授業のまとめ、報告書の作成								5	時間
合計時間(予習・復習)									15 時間		
備 考	■:実務経験に基づく内容を示す										

科目名	特別支援学校教育基礎実習(実習)							科目 ナンバリング	CEF304		
英文名	Basic Teaching Practice in Special Needs School							講義形態	実習		
担当教員	小竹 利夫 五十嵐 一徳 村田 美和										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
					○	○			○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生は、特別支援学校(知的障害、肢体不自由、病弱)でどのような教育が実際に行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・日々の授業について、基礎的な事柄を具体的に学ぶ。特に、担当教員が児童生徒の実態をどのように把握し、どのように目標を設定して授業を組み立てているか、教材の準備・同僚との打ち合わせ・チームティーチング・授業後の振り返りなどをどのように行っているかを観察し理解する。教員の指示の下で、授業の補助的な役割を体験する。特別支援学校における講話や実習記録を振り返り、自らの課題を明らかにする。										
到達目標	1.特別支援学校における教育課程・時間割・授業についての基礎的な事柄を理解する。 2.特別支援学校に在籍する児童生徒の実態について理解する。										
使用教材	教育・保育実習の手引										
参考文献											
評価方法	実習校における評価と実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見(50%)、事前事後指導(報告会・レポートなど)(50%)から総合的に評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。										
オフィスアワー (研究室)	小竹(8号館 403号室):月3限、火4限 五十嵐(8号館 5階 506):木曜日2限 目、金曜日2限目 村田(8号館 502号室):火曜2限、金曜 2限				メールアドレス (#→@)		小竹:kotake#takasaki-u.ac.jp 五十嵐:igarashi-k#takasaki-u.ac.jp 村田:murata-m#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	1. 事前学習として、実習生としての心構え、必要な基本的マナー、特別支援学校教育の概要、基礎実習の目的、実習記録の書き方などを講義する(3コマ)。 2. 5日間(1日8時間、計40時間)の特別支援学校教育基礎実習を実施する。そこでは、児童生徒の実態、教育課程、時間割、毎回の授業の目標設定、使用する教材、授業実践、授業後の振り返り(評価)などについて、実習校からの説明を受け、担当クラスあるいは学習グループにおいて参与観察を行う。また、教員の指示により、授業の補助を行う。毎日、実習記録を書き、実習校の担当教員に提出する。人間発達学部の教員が実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。 3. 事後学習として報告会を実施し、特別支援学校における講話や指導、実習記録を振り返り、3年次の特別支援学校教育実習に向けて各自が取り組むべき課題を明らかにする(3コマ)。										
	予習	教育・保育実習の手引を読んでおくこと								5 時間	
	復習	児童生徒の実態、教育課程、授業実践などについて理解する								10 時間	
合計時間(予習・復習)									15 時間		
備考	・1年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。										

	・特別支援学校教育基礎実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。 ・オンラインで実施する場合、c-learning を通じて課題を提示する。

科目名	特別支援学校教育実習(事前事後指導を含む)(実習)							科目 ナンバリング	CEF324		
英文名	Teaching Practice in Special Needs School (Including Pre/Post Guidance)							講義形態	実習		
担当教員	小竹 利夫 五十嵐 一徳 村田 美和										
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数		選択 3 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭										
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連	③										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
				○	○	○		○	○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生は、特別支援教育基礎実習で明らかになった課題について、教育実習においてどのように取り組むか、事前指導で具体的に検討し、教育実習の目的・方法を明確に自覚する。教育実習では、学生は特別支援学校での児童生徒との係わり方、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・評価・学級経営など、教員に求められる基礎基本を修得する。事後指導において、学生は教育実習を振り返り、自らの課題達成状況や新たな課題を明確にする。										
到達目標	1.児童生徒の実態把握を行い、それを基に指導案を作成することができる 2.児童生徒の実態に即した教材を作成することができる。 3.授業を実践し、授業評価を行い、それを次回の授業実践に活かすことができる。										
使用教材	教育・保育実習の手引										
参考文献	授業時に紹介										
評価方法	実習校における評価と実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見(50%)、事前事後指導(報告会、レポートなど)(50%)から総合的に評価する。										
課題・評価に対する フィードバック方法	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。										
オフィスアワー (研究室)	小竹(8号館 403号室):月3限、火4限 五十嵐(8号館 5階 506):木曜日2限 目、金曜日2限目 村田(8号館 502号室):火曜2限、金曜 2限				メールアドレス (#→@)		小竹:kotake#takasaki-u.ac.jp 五十嵐:igarashi-k#takasaki-u.ac.jp 村田:murata-m#takasaki-u.ac.jp				
講義内容	・事前指導として、実習にあたっての心構え・身だしなみ・言葉づかいなど、障害のある児童生徒の心身・健康の理解、特別支援学校及び教員の仕事について、学習指導案の書き方、優れた教育実践の紹介等を行い、各自の課題を明確に意識させる。 ・特別支援学校における実習では、参与観察も行いつつ、児童・生徒との係わり方、実態把握・指導案作成・授業実践・授業記録・評価・学級運営など、教員に求められる基礎基本の修得を促す。大学の教員が研究授業の日以外にも実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。 ・事後指導として、学生による実習体験の報告、研究授業内容の検討・確認、指導経験の報告、教職に向けての指導・助言などを行い、さらなる専門性と実践力の向上につなげる。										
	予習	・教育・保育実習の手引を読んでおくこと ・3 年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を振り返り、理解を深めておくこと								5 時間	
	復習	児童生徒の実態、教育課程、授業実践などについて理解する								10 時間	
合計時間(予習・復習)									15 時間		

備考	・3 年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。 ・特別支援学校教育実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。 ・オンラインで実施する場合、c-learning を通じて課題を提示する。

科目名	保育・教職実践演習(幼)(実践演習)							科目ナンバリング	CEF601	
英文名	Seminar on Teaching Practice for Students of Early Childhood Education							講義形態	演習	
担当教員	千葉千恵美 山西加織 内田祥子 富田純喜									
科目に関連した実務経験	千葉: 保育士として公立保育所に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 幼稚園教諭・保育士									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3416									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	これまでの授業・実習を通して得た個々の課題を学生相互に共有しあい、夫々の課題にグループごとに取り組みながら解決を目指す。授業はグループワークを中心に行う。保育等の実習や保育現場におけるフィールドワークを生かし、保育・教職演習に必要な振り返りを行い、グループによる発表形式を取る。									
到達目標	1. 保育者としての使命感・責任観を持ち、愛情をもって子どもと関わる力を身に付ける。 ■ 2. 保育者に必要な社会性や倫理観、対人関係能力を身に付ける。 ■ 3. 乳幼児の理解や学級運営に関する知識・能力を身に付ける。 ■ 4. 保育内容の指導にむけた知識・能力を身に付ける。									
使用教材	必要に応じて資料を配布する。									
参考文献										
評価方法	グループワーク(フィールドワークを含む)での取り組み: 60%、発表: 20%、個人レポート: 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	個人レポートは、担当教員が適宜返却する。									
オフィスアワー (研究室)	千葉: 火曜日 4,5 限目 山西: 月曜日 5 限目、火曜日 5 限目 内田: 月曜日 2,3 限目 富田: 火曜日 2 限目、水曜日 3 限目				メールアドレス (#→@)	chiba#takasaki-u.ac.jp yamanishi#takasaki-u.ac.jp uchida#takasaki-u.ac.jp tomita-t#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション (全員)								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、本授業の目標・内容を予習する。							1.5 時間
	1,2,3,4	復習	担当教員から説明があった点、今後の授業内容について復習する。							1.5 時間
2	講義内容	これまでに授業や実習で学んだことを振り返ってみよう(個人ワーク)(全員)								
	該当到達目標	予習	これまでの授業・実習を振り返り、課題について予習する。							1.5 時間
	1,2,3,4	復習	考えた課題について復習する。							1.5 時間
3	講義内容	テーマ 1: 保育現場における現代的課題を話し合おう(①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する)(富田)								
	該当到達目標	予習	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。							1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。							1.5 時間
4	講義内容	テーマ 1: 保育現場における現代的課題を話し合おう(②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする)(富田)								
	該当到達目標	予習	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。							1.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。							1.5 時間

5	講義内容	テーマ 1: 保育現場における現代的課題を話し合う(③グループで話し合ったことを発表する)(富田)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	発表資料を作成し、準備をする。	1.5 時間	
		復習	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5 時間	
6	講義内容	テーマ 2: 保育現場における現代的課題を話し合おう(①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する)(山西)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5 時間	
		復習	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5 時間	
7	講義内容	テーマ 2: 保育現場における現代的課題を話し合おう(②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする)(山西)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5 時間	
		復習	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5 時間	
8	講義内容	テーマ 2: 保育現場における現代的課題を話し合う(③グループで話し合ったことを発表する)(山西)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	発表資料を作成し、準備をする。	1.5 時間	
		復習	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5 時間	
9	講義内容	テーマ 3: 保育現場における現代的課題を話し合おう(①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する)(千葉)■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5 時間	
		復習	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5 時間	
10	講義内容	テーマ 3: 保育現場における現代的課題を話し合おう(②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする)(千葉)■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5 時間	
		復習	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5 時間	
11	講義内容	テーマ 3: 保育現場における現代的課題を話し合う(③グループで話し合ったことを発表する)(千葉)■			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	発表資料を作成し、準備をする。	1.5 時間	
		復習	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5 時間	
12	講義内容	テーマ 4: 保育現場における現代的課題を話し合おう(①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する)(内田)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5 時間	
		復習	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5 時間	
13	講義内容	テーマ 4: 保育現場における現代的課題を話し合おう(②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする)(内田)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5 時間	
		復習	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5 時間	
14	講義内容	テーマ 4: 保育現場における現代的課題を話し合う(③グループで話し合ったことを発表する)(内田)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	発表資料を作成し、準備をする。	1.5 時間	
		復習	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5 時間	
15	講義内容	まとめ(全員)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	指示を受けた授業内容を確認して予習する。	1.5 時間	
		復習	本授業で得られた成果を再度確認し復習する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	授業の進め方: 4 人の教員によるオムニバス形式で 4 年間の総まとめを行う。グループワークでは各テーマに基づきディスカッションを行い、話し合っただけでまとめたことを発表する。 Key Words: 4 年間のまとめ、個々の課題整理と解決策、グループディスカッション オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	教職実践演習（小中）（実践演習）					科目 ナンバリング	CEF602			
英文名	Seminar on Teaching Practice for Students of Elementary and Secondary Education					講義形態	演習			
担当教員	教職実践演習（小中）担当教員									
科目に関連した 実務経験	栗原：小学校教諭として小学校に勤務するとともに、小学校の教頭・校長を歴任（経験） 菅野：国語科講師として中学校に勤務（経験） 北村：社会科教諭として中学校に、公民科・福祉科教諭として高等学校に勤務（経験） 大橋：小学校教諭として小学校に勤務（経験） 片山：理科教諭として高等学校に勤務（経験） 姉崎：英語科教諭として中学校に勤務（経験） 平林：保健体育科教諭として中学校に勤務するとともに、小学校の校長を歴任（経験） 鈴木：英語科教諭として中学校・高等学校に勤務（経験） 三村：数学科教諭として中学校に勤務するとともに、中等教育学校の副校長・校長を歴任（経験） 小竹：障害児母子通所施設支援員・代表として勤務（経験）									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 （多様性理解）			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④ ⑩ ⑰									
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①教員をめざす4年間の学修の総仕上げとして、教職カルテを元に学生自身が教師となるにあたっての課題を明確にした上で、講義・講話（現職校長等）・事例研究等をおして、教育現場の様々な現象を認識し、それに伴う諸問題に対応できる力を身に付けることを目標とする。講義・講話では教科指導、生徒指導、特別支援、職場環境、保護者や地域との連携などの観点から、教育現場の多様性を理解する。また、実習や学校ボランティア等の経験などをもとに、教育現場の多様性に対処するため社会性や対人関係能力を身に付け、柔軟な指導力の習得をめざす。本講義を通して学校現場の様々な現象を検討し、教師としての自覚、使命感や責任感、教育的愛情を養い、学校教育に携わろうとする意欲を高める。 ②授業の進め方：講義、講話、討論、学校ボランティア等をおして学校現場の状況を把握し、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。また、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。									
到達目標	1.教育現場の様々な現象を、教科指導、生徒指導、特別支援、職場環境、保護者や地域との連携などの観点から認識することができる。■ 2.教育現場の多様性を理解し、それぞれの観点から諸問題に対応できる力を身に付けることができる。 3.実習や学校ボランティア等の経験などをもとに、現場での諸問題に対処するための指導の在り方の理解を深め、柔軟な指導力を身に付けることができる。 4.教師として教育現場で、児童生徒に対応できる資質・能力、及び、使命感や責任感、教育的愛情、さらには、社会性や対人関係能力等を備え、学校教育に携わろうとする意欲を高めることができる。									
使用教材	各講義の配点を 10 点とし、合計 150 点を 100 点に換算する。レポート 70%、授業への貢献度等 30% で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
参考文献	担当教員による講義スライド等の教材を配付する。									
評価方法	各教員がその都度紹介する。									

課題・評価に対する フィードバック方法		提出された感想シートやレポート等について、コメントなどを提示する。			
オフィスアワー (研究室)		担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。		メールアドレス (#→@)	担当教員のメールアドレスは、他の科目で確認すること。
1	講義内容	実践演習の意義、教員としての使命感や責任感、教育的愛情について(栗原)■			
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、教職カルテと実習の体験をもとに講義の目標や内容を理解する。		1.5 時間
	3,4	復習	講義の方針を確認するとともに、討論で得た教員の使命や職務について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	国語科の指導について(菅野)■			
	該当到達目標	予習	国語の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導(模擬授業)について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,2,3	復習	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	社会科の指導について(北村)■			
	該当到達目標	予習	社会の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導(模擬授業)について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,2,3	復習	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	算数科の指導について(大橋)■			
	該当到達目標	予習	算数の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導(模擬授業)について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,2, 3,4	復習	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	理科の指導について(片山)■			
	該当到達目標	予習	理科の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導(模擬授業)について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。		1.5 時間
6	講義内容	英語科の指導について(姉崎)■			
	該当到達目標	予習	英語の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導(模擬授業)について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。		1.5 時間
7	講義内容	特別支援教育について(五十嵐)			
	該当到達目標	予習	特別支援の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導(模擬授業)ならびに保護者支援について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,2	復習	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。また、保護者支援について理解する。		1.5 時間
8	講義内容	体育科の指導について(平林)■			
	該当到達目標	予習	体育の授業に関して課題を把握するとともに、教材の工夫、学習形態、指導と評価を踏まえた授業について考えをまとめておく。		1.5 時間
	1,3,4	復習	体育の授業の進め方や教材研究の工夫、指導と評価のポイントを理解し、授業づくりをどう進めるかをレポートにまとめる。		1.5 時間
9	講義内容	特別の教科 道徳の指導について(鈴木)■			
	該当到達目標	予習	学習指導要領を参考に、道徳の指導目標と取り扱う内容を中心に確認をしておく。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	道徳と「生徒指導・総合的な学習の時間・特別活動」との関連性および今後の課題について理解する。		1.5 時間
10	講義内容	学校事故等と教師の対応・役割 (三村)■			
	該当到達目標	予習	小・中学校における学校事故について、概要と対応を調べまとめておく。		1.5 時間
	1,2,4	復習	学校安全の観点や学校事故の対応をまとめ、危機管理シミュレーションを行う。		1.5 時間
11	講義内容	ICT 教育について(村田)			
	該当到達目標	予習	学校における ICT 教育について、インターネット等を用いて最新情報を集める。		1.5 時間

	1,2,4	復習	学校における ICT 教育について、現状と課題を理解し、まとめる。	1.5 時間
12	講義内容	インクルーシブ教育と合理的配慮（小竹）■		
	該当到達目標	予習	インクルーシブ教育の実践例を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義を振り返り、教職に就くことの意味を考える。	1.5 時間
13	講義内容	学校現場の教師等を招いての講話及び協議(高崎市立〇〇小校長:〇〇教育を中核とした学級づくり・授業づくり)(角野・松田・クローズ)■		
	該当到達目標	予習	これまでの講義や資料を活用して、教職員の実務についての自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教職員の実務について、講義内容に関する課題をレポートにまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	学校現場の教師等を招いての講話及び協議(高崎市立〇〇小校長:〇〇教育を中核とした学級づくり・授業づくり)(角野・松田・クローズ)■		
	該当到達目標	予習	これまでの講義や資料を活用して、教職員の実務についての自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教職員の実務について、講義内容に関する課題をレポートにまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	学校現場の教師等を招いての講話及び協議(高崎市立〇〇小校長:〇〇教育を中核とした学級づくり・授業づくり)(角野・松田・クローズ)■		
	該当到達目標	予習	これまでの講義や資料を活用して、教職員の実務についての自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教職員の実務について、講義内容に関する課題をレポートにまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	卒業研究(卒業研究)							科目 ナンバリング	CET601	
英文名	Research for Graduation Thesis							講義形態	演習	
担当教員	子ども教育学科各ゼミ担当教員									
科目に関連した 実務経験	・公立小学校、中学校、高校に勤務(経験) ・公立または私立幼稚園、保育園、認定こども園に勤務(経験) ・養護施設や社会福祉法人に勤務(経験) ・都道府県や市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		必修 4 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: なし									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑬ ⑭									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	卒業研究は、学生が4年間の学修の集大成として、自ら研究テーマを設定し研究目的にそって体系的・論理的に研究課題を検証し、指定された形式で論文を作成するための科目である。この卒業研究でのテーマは、保育・教育に関わる諸課題であり、事実に基づく実証的論文である。音楽・美術などの実技的分野においては、表現発表も可能であるが、その場合でも卒業研究論文を作成する。各ゼミの実施と卒業研究論文の作成は、到達目標に従い各ゼミの構成メンバーの実態に応じて行う。									
到達目標	1.保育・教育を巡る諸課題に関する明確な問題意識を持つことができる。 2.問題を整理し、先行研究を踏まえて研究目的を明確にすることができる。 3.研究目的にふさわしい研究方法を考え、具体化することができる。 4.研究方法に基づいて、先行研究論文等を読み、データを収集することができる。 5.データを適切な方法で整理し、分析することができる。 6.研究目的に照らしてデータから言えることは何かを検討することができる。 7.問題意識に照らして、今後の検討課題は何であるかを検討することができる。 8.学科の定めた卒業研究論文の様式に従って文章化することができる。									
使用教材	卒業研究に必要な教材は、随時紹介または提供する。									
参考文献	参考となる文献については、各教員がその都度紹介する。									
評価方法	テーマの内容、問題意識、文献の検索、取り組みへの積極性、執筆に際しての主体性、執筆内容、ゼミでの発言、発表の仕方等を総合して評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	学生の研究テーマや研究方法はそれぞれ異なることから、ゼミの担当教員は随時学生に必要なフィードバックを行う。なお、学生の自主性・自律性を最大限尊重するために、教員からのアドバイスは必要最小限に留める。									
オフィスアワー (研究室)	担当教員のオフィスアワーと研究室 は、他の科目で確認すること。				メールアドレス (#→@)		担当教員のメールアドレスは、他の 科目で確認すること。			
1	講義内容	卒業研究とは								
	該当到達目標 1,2	予習	先輩の卒業研究論文や卒業論文抄録集を読み、卒業研究の構想を考える。						1.5	時間
		復習	ゼミで出た意見を参考にして構想を深める。						1.5	時間
2	講義内容	保育・教育を巡る諸課題についての検討(その1)ー研究テーマの検討								
	該当到達目標 1,2	予習	自分の関心事に関する新聞記事やインターネットのニュースを読む。						1.5	時間
		復習	ゼミで出た意見を参考にして、テーマ設定について考える。						1.5	時間
3	講義内容	保育・教育を巡る諸課題についての検討(その2)ー暫定的研究テーマの決定								
	該当到達目標	予習	新聞記事やインターネット、書籍等の資料に目を通し、研究テーマを考える。						1.5	時間

	1,2	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究テーマの暫定案を決める。	1.5 時間
4	講義内容	研究テーマに関連する先行研究の検討(その 1)ー先行研究の探索		
	該当到達目標	予習	研究テーマに関連する先行研究を探し、目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	ゼミで出た意見を参考にして、さらに先行研究を探し、目を通す。	1.5 時間
5	講義内容	研究テーマに関連する先行研究の検討(その 2)ー問題意識のすり合わせ		
	該当到達目標	予習	先行研究に目を通し、自分の問題意識とすり合わせる。	1.5 時間
	1,2	復習	ゼミで出た意見を参考にして、先行研究を概括する。	1.5 時間
6	講義内容	研究目的に関する検討(その 1)ー研究目的の明確化		
	該当到達目標	予習	自分の問題意識と先行研究をもとにして、研究目的の明確化を図る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究目的について検討を深める。	1.5 時間
7	講義内容	研究目的に関する検討(その 2)ー研究目的の文章化		
	該当到達目標	予習	研究目的の文章化を図る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究目的の文章を整える。	1.5 時間
8	講義内容	研究方法に関する検討(その 1)ー研究方法の明確化		
	該当到達目標	予習	研究目的に適した研究方法について検討する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究方法の明確化を図る。	1.5 時間
9	講義内容	研究方法に関する検討(その 2)ー研究方法の文章化		
	該当到達目標	予習	研究方法の文章化を図る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究方法の文章を整える。	1.5 時間
10	講義内容	データの整理方法についての検討(その 1)ーデータ整理に関する先行研究参照		
	該当到達目標	予習	データの整理方法について先行研究も参考にして調べる。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について考える。	1.5 時間
11	講義内容	データの整理方法についての検討(その 2)ーデータ整理の明確化		
	該当到達目標	予習	データの整理方法について明確化を図る。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について明確化を図る。	1.5 時間
12	講義内容	データの整理方法についての検討(その 3)ーデータ整理の文章化		
	該当到達目標	予習	データの整理方法について文章を整える。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について文章を整える。	1.5 時間
13	講義内容	データの分析方法についての検討(その 1)ーデータ分析の準備		
	該当到達目標	予習	データの分析方法について下調べをする。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析の方法について検討を加える。	1.5 時間
14	講義内容	データの分析方法についての検討(その 2)ーデータ分析方針の検討		
	該当到達目標	予習	データ分析の方針を検討する。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析の方法を決める。	1.5 時間
15	講義内容	データの分析結果についての検討(その 1)ーデータ分析の概括		
	該当到達目標	予習	データの分析に着手し、結果の概括を進める。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析を進める。	1.5 時間
16	講義内容	データの分析結果についての検討(その 2)ーデータ分析の進化		
	該当到達目標	予習	データ分析を進める。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析を進める。	1.5 時間
17	講義内容	データの分析結果についての検討(その 3)ーデータ分析の文章化		
	該当到達目標	予習	結果の概括を踏まえて文章化を進める。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を参考にして、結果の総括を文章化する。	1.5 時間
18	講義内容	データの分析結果についての検討(その 4)ーデータ分析の文章整理		
	該当到達目標	予習	結果の文章を整える。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を踏まえて、結果の文章を整える。	1.5 時間
19	講義内容	考察の検討(その 1)ー考察の柱立て		
	該当到達目標	予習	考察の柱立てを考える。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、考察の柱立てと内容を考える。	1.5 時間

20	講義内容	考察の検討(その 2)－考察の文章化		
	該当到達目標	予習	考察の柱に沿って、文章化に着手する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、文章化を進める。	1.5 時間
21	講義内容	考察の検討(その 3)－考察の深化		
	該当到達目標	予習	考察全体の文章化を進める。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、考察の文章を整える。	1.5 時間
22	講義内容	卒業研究論文全体を通しての検討		
	該当到達目標	予習	卒業研究論文全体の構成や文章を見直す。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究論文全体を整える。	1.5 時間
23	講義内容	卒業研究論文提出に向けての最終チェック(その 1)－論文の整合性チェック		
	該当到達目標	予習	研究テーマ・研究方法・研究結果・考察・文献など、内容の整合性を検討する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究論文全体を見直す。	1.5 時間
24	講義内容	卒業研究論文提出に向けての最終チェック(その 2)－論文様式のチェック		
	該当到達目標	予習	卒業研究論文の様式が学部指定の様式に合致しているか検討する。	1.5 時間
	8	復習	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究論文の様式を確認し、必要な修正を加える。	1.5 時間
25	講義内容	卒業研究論文を提出した後の振り返り		
	該当到達目標	予習	卒業研究を通して学んだことを振り返る。	1.5 時間
	1,2,6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究全体を振り返る。	1.5 時間
26	講義内容	卒業研究論文の抄録用原稿作成		
	該当到達目標	予習	抄録用の原稿を作成する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、抄録用の原稿を完成させる。	1.5 時間
27	講義内容	卒業論文発表会のパワーポイント作成		
	該当到達目標	予習	卒業論文発表会用のパワーポイントを作成する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、パワーポイントを完成させる。	1.5 時間
28	講義内容	卒業論文発表会のリハーサル(その 1)－発表原稿の作成		
	該当到達目標	予習	卒業論文発表会用の原稿を作成する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミでのリハーサルで出た意見を参考にして、発表用原稿を整える。	1.5 時間
29	講義内容	卒業論文発表会のリハーサル(その 2)－発表原稿の修正		
	該当到達目標	予習	発表の練習を繰り返し、原稿の修正を行う。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミでのリハーサルで出た意見を参考にして、原稿を完成させる。	1.5 時間
30	講義内容	卒業論文発表会の振り返り		
	該当到達目標	予習	パワーポイントと発表原稿が意を尽くしていたか、振り返る。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、今後の課題を考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				90 時間
備考	保育・教育をめぐる諸問題に関して普段から問題意識を持っていること。研究テーマや研究の目的を明確にし、先行研究や文献研究を丁寧に行うこと。研究によってはデータを収集し、整理し、分析し、研究目的に照らしてデータから言えることは何かを検討すること。今後の検討課題は何であるか明らかにするとともに、学科の定めた卒業論文の様式に従って文章化する。			

科目名		特別支援教育概論(特別支援)						科目ナンバリング	CEE111		
英文名		Introduction to Special Needs Education						講義形態	講義		
担当教員		浦崎 源次									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力									
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法		適宜、反転授業と課題への解答をもとに授業を進める。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		特別支援教育に関する教育学全般にわたる基礎的知識を得ることを目標とする。 常に「すべての児童生徒に適切な教育を」という視点を持ち、小学校などの通常の学校・学級との異同を把握した上で特別支援学校・学級における教育をとらえ、児童生徒にもっとも適切な教育環境を模索する姿勢を養いたい。									
到達目標		1. 特別支援教育の対象となりうる障害の種類と程度を言語化できる。 2. 特別支援教育における先人の業績とその後の制度としての発展を通常の教育と対照して理解する。 3. 特別支援教育の教育課程の特徴を通常の教育と対照して理解する。 4. 自立活動と知的障害特別支援学校生活科の意義を理解する。									
使用教材		教科書は使用しないが、特別支援学校学習指導要領とその解説を読むことを予習課題としている回があるので、各自購入していることが望ましい。									
参考文献		柳本雄次・河合康編著『特別支援教育(第3版)一人ひとりの教育的ニーズに応じて』福村出版 2019 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 その他、授業中に適宜紹介する									
評価方法		定期試験 70%、課題提出等 30%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		講義中にコメントする。 定期試験の前に、出題について口頭で示す。									
オフィスアワー(研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる(8号館4階407)				メールアドレス(#→@)		g-urasaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション・特別支援学校教諭免許制度									
	該当到達目標	予習	教育職員免許法の第1章と第2章、教育職員免許法施行規則第7条を読む。							1.5 時間	

	1,3	復習	特別支援学校教諭免許状の種類と取得の方法についてまとめる。	1.5 時間
2	講義内容	障害概念と定義		
	該当到達目標	予習	配付資料を読み理解する ICF(国際生活機能分類)について調べる。	1.5 時間
	1	復習	ICFにおける障害の捉え方の特徴をまとめる 身体障害者と知的障害者の統計の特徴をまとめる	1.5 時間
3	講義内容	特別支援教育の対象: 特別支援学校		
	該当到達目標	予習	「障害のある子供の教育支援の手引き」(本あるいは文部科学省の HP)の第3編の74～86頁、103～117頁、122～140頁、156～169頁、185～214頁を読む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の障害の特徴についてまとめる	1.5 時間
4	講義内容	特別支援学校の対象: 特別支援学級・通級による指導		
	該当到達目標	予習	「障害のある子供の教育支援の手引き」(本あるいは文部科学省の HP)の第3編の232～239頁、254～263頁、276～282頁、296～303頁、316～323頁を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	言語障害、自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害の特徴についてまとめる	1.5 時間
5	講義内容	特別支援教育の現状		
	該当到達目標	予習	配付資料の統計から分かることをまとめる。 「障害のある子供の教育支援の手引き」(本あるいは文部科学省の HP)の第2編の25～40頁を読む。	1.5 時間
	1,3	復習	予習でまとめたことを加除修正する。 就学先決定の仕組みをまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	欧米の障害児教育の創始		
	該当到達目標	予習	視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育は、誰が、どこで、何年に、どのような社会的背景のもとで、どのようにして始めたかを調べる	1.5 時間
	1,2	復習	障害児教育の先駆者たちの業績を年代とともに比較、整理する	1.5 時間
7	講義内容	欧米の障害児教育の展開		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	欧米の障害児教育が公教育になる過程をまとめる 知的障害教育が教育として発展しなかった理由をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	日本の障害児教育の創始		
	該当到達目標	予習	視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育は、誰が、何年に、どのような社会的背景のときに、どのようにして始めたかを調べる	1.5 時間
	1,2	復習	配付資料を読み理解する。	1.5 時間
9	講義内容	公教育としての障害児教育		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	小学校令の就学猶予・免除規定、盲学校及び聾唖学校令の意義と問題点をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	第二次大戦後の障害児教育の展開		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	盲・聾学校と養護学校がいつ、どのように義務化されたのか、養護学校の義務化が遅れた理由についてまとめる	1.5 時間
11	講義内容	特殊教育から特別支援教育へ		
	該当到達目標	予習	国連障害者年、障害者の権利条約について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	特別支援教育に転換する前後の日本と世界的な動きをまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	教育課程の基礎		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。	1.5 時間
	3	復習	教育課程編成にかかわる法令を整理し、学習指導要領の法的根拠をまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	特別支援学校学習指導要領の変遷		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。	1.5 時間

	3、4	復習	それぞれの時期の学習指導要領の特徴を小学校等の学習指導要領と比較しながら、まとめる。	1.5 時間
14	講義内容	特別支援学校の教育課程		
	該当到達目標	予習	『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領』と『特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』の総則の章を読む。	1.5 時間
	3、4	復習	特別支援学校の教育課程の特徴を小学校、中学校と比較しながらまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	特別支援学級・通級の経営		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。	1.5 時間
	1,3、4	復習	小・中学校に設置されることの長所と問題点を整理して文章化する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる 場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含まない。			

科目名	特別支援教育の課題と実践(特別支援)							科目 ナンバリング	CEE131	
英文名	Future Issues and Practice of Special Needs Education							講義形態	講義	
担当教員	五十嵐 一徳									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	特別支援教育に関する基礎的事項、特別支援教育に関する現状と課題、特別なニーズを要する子ども への支援方法について理解するための内容を取り扱う。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づき 説明しながら授業を進めていく。									
到達目標	1.特別支援教育に関する基礎的事項について説明できる。 2.特別支援教育に関する現状と課題について説明できる。 3.特別なニーズを要する子どもへの支援方法について説明できる。									
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する									
参考文献	特になし									
評価方法	試験の成績を 80%、課題・授業態度 20%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 2 限目、金曜日 2 限目(8 号館 5 階 506)				メールアドレス (#→@)	igarashi-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス。特別支援教育について								
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。						1.5	時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	特別支援教育体制の現状と課題Ⅰ(特別支援学校)								
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。						1.5	時間
	2	復習	特別支援学校における現状と課題について振り返る。						1.5	時間
3	講義内容	特別支援教育体制の現状と課題Ⅱ(特別支援学級)								
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。						1.5	時間
	2	復習	特別支援学級における特別支援教育の現状と課題について振り返る。						1.5	時間
4	講義内容	特別支援教育体制の現状と課題Ⅲ(通常学級)								
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。						1.5	時間
	2	復習	通常学級における特別支援教育の現状と課題について振り返る。						1.5	時間
5	講義内容	特別支援教育の実践Ⅰ(知的障害)								
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。						1.5	時間
	2,3	復習	知的障害児への対応について振り返る。						1.5	時間
6	講義内容	特別支援教育の実践Ⅱ(病弱)								
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。						1.5	時間

	2,3	復習	病弱児への対応について振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	特別支援教育の実際Ⅲ(肢体不自由)		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	2,3	復習	肢体不自由児への対応について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	特別支援を必要とする子どもの幼児期における生活面等における課題とその対応		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	幼児期の生活面における課題とその対応について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	特別支援を必要とする子どもの学齢期以降の生活面等における課題とその対応		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	学齢期以降の生活面における課題と対応について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	特別支援教育を推進する条件の整備Ⅰ(特別支援教育コーディネーター)		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	特別支援教育コーディネーターの役割等について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	特別支援教育を推進する条件の整備Ⅱ(家族支援、放課後保障)		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	家族支援、放課後保障について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	特別支援学校の授業づくりⅠ(教科)		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	特別支援学校の授業づくりⅡ(自立活動)		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	特別支援学校の授業づくりⅢ(教科等合わせた指導)		
	該当到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 時間
	3	復習	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	14 回までの講義内容を復習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	全 15 回の講義内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・「特別支援教育概論」を履修していることが望ましい。 ・オンラインで実施する場合、c-learning を通じて課題を提示する。			

科目名	知的障害児の心理・生理・病理(特別支援)							科目 ナンバリング	CEE121	
英文名	Psychological and Medical Understanding of Children with Intellectual Disabilities							講義形態	講義	
担当教員	五十嵐 一徳									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	各回の学習内容を踏まえた「問題づくり」を行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	知的障害の生理・病理、知的障害の心理機能と支援、および知的障害に関連する他の障害について理解するための内容を取り扱う。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づき説明しながら授業を進めていく。									
到達目標	1.知的障害の生理・病理について説明できる。 2.知的障害の心理学的特徴について説明できる。 3.知的障害に関連する諸障害や支援について説明できる。									
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する									
参考文献	特になし									
評価方法	試験の成績を 90%、課題・授業態度 10%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 2 限目、金曜日 2 限目(8 号館 5 階 506)				メールアドレス (#→@)		igarashi-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、本講義の目標を理解する。						1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	知的障害の定義								
	該当到達目標	予習	知的障害について調べる。						1.5	時間
		1 復習	知的障害の定義について振り返る。						1.5	時間
3	講義内容	知的障害の分類								
	該当到達目標	予習	知的障害について調べる。						1.5	時間
		1 復習	知的障害の分類について振り返る。						1.5	時間
4	講義内容	知的障害の心理機能 知覚								
	該当到達目標	予習	知的障害の心理機能(知覚)について調べる。						1.5	時間
		2 復習	知的障害の心理機能について振り返る。						1.5	時間
5	講義内容	知的障害の心理機能 記憶								
	該当到達目標	予習	知的障害の心理機能(記憶)について調べる。						1.5	時間
		2 復習	知的障害の心理機能について振り返る。						1.5	時間

6	講義内容	知的障害の心理機能 学習Ⅰ		
	該当到達目標	予習	学習のメカニズムについて調べる。	1.5 時間
	2	復習	学習のメカニズムについて振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	知的障害の心理機能 学習Ⅱ		
	該当到達目標	予習	刺激等価性について調べる。	1.5 時間
	2	復習	刺激等価性について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	知的障害の心理機能 学習Ⅲ		
	該当到達目標	予習	弁別学習について調べる。	1.5 時間
	2	復習	弁別学習について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	知的障害の心理機能 言語コミュニケーションⅠ		
	該当到達目標	予習	言語機能について調べる。	1.5 時間
	2	復習	言語機能について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	知的障害の心理機能 言語コミュニケーションⅡ		
	該当到達目標	予習	コミュニケーション支援について調べる。	1.5 時間
	2	復習	コミュニケーション支援について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	知的障害の心理機能 言語コミュニケーションⅢ		
	該当到達目標	予習	PECS(絵カード交換コミュニケーションシステム)について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	PECS についてについて振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	知的障害に関連する諸障害 ダウン症		
	該当到達目標	予習	ダウン症について調べる。	1.5 時間
	3	復習	ダウン症について振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	知的障害に関連する諸障害 自閉症スペクトラム障害		
	該当到達目標	予習	自閉症スペクトラム障害について調べる。	1.5 時間
	3	復習	自閉症スペクトラム障害について振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	知的障害に関連する諸障害 強度行動障害		
	該当到達目標	予習	強度行動障害について調べる。	1.5 時間
	3	復習	強度行動障害について振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	14 回までの講義内容を復習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	全 15 回の講義内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・専門用語や知識として覚えて欲しい事項が多い科目であり、説明が中心となる。積極的に復習を行うことを期待する。 ・「知的障害者教育総論」を履修していることが望ましい。 ・オンラインで実施する場合、c-learning を通じて課題を提示する。			

科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理(特別支援)							科目 ナンバリング	CEE122	
英文名	Psychological and Medical Understanding of Children with Physical Handicaps							講義形態	講義	
担当教員	小竹 利夫									
科目に関連した 実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの実態を理解し支援につなげること、また、医学的・心理学的な背景も理解すること。授業は資料を読み、映像を見て、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。									
到達目標	1.肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の障害状況について理解すること。 2.肢体不自由児の発達状態を医学的・心理学的な背景も含めて理解すること。 3.肢体不自由児の支援の方法を把握する基本的視点を理解すること。■									
使用教材	必要な資料は随時配布する。 「特別支援学校学習指導要領」を随時参照する。									
参考文献	「障害のある子どもとの教育的係わり合い」他。									
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のプリントまたはレポート(60%)、作品(10%)を総合して評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	毎回のプリントまたはレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想・意見を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。(8号館 403号室)				メールアドレス (#→@)	kotake#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーションー肢体不自由という概念について								
	該当到達目標	予習	資料を概観し、構成について理解する。						1.5	時間
	1,2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
2	講義内容	肢体不自由児の状態像と配慮								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	1,2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
3	講義内容	肢体不自由児の医学的側面								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
4	講義内容	肢体不自由児の心理								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
5	講義内容	運動面の実態(障害の疑似体験を含む)								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	1	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間

6	講義内容	感覚・認知面の実態(障害の疑似体験を含む)		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	コミュニケーションの実態(その 1)－受信面 ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	コミュニケーションの実態(その 2)－発信面 ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	日常生活動作の実態(その 1)－食事・排泄		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活動作の実態(その 2)－着脱・清潔・移動		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	知能の発達と学習支援の工夫(教材・遊具の制作を含む) ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	感覚機能の発達と遊びの支援(教材・遊具の制作を含む) ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	肢体不自由児の学校教育と卒後の生活		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	家庭との連携と保護者支援について		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	医療機関との連携 まとめ		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	病弱児の心理・生理・病理(特別支援)						科目 ナンバリング	CEE123		
英文名	Psychological and Medical Understanding of Children with Health Impairments						講義形態	講義		
担当教員	村田 美和									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
関連資格	免許・資格指定科目:特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応		豊かな人間性と教養			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)				
	4	専門的知識			2	自律的・意欲的に学習する力				
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3481016									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①病弱児について、病理面・心理面・生理面の観点から解説する。幼児・児童・生徒の疾患特性に合わせた個々への教育的アプローチや、その子の親やきょうだい児を含めた家庭や学校、関係機関との連携について理解する。また、近年の小児医療の急激な進歩に伴う、教育現場や子どもの成育環境の変遷についても学ぶ。 ②授業は講義に加え、適宜ディスカッションの時間を織り交ぜながら進めていく。									
到達目標	1.病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2.観察や検査、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解する。 3.家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。									
使用教材	必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。									
参考文献	病気の子どもの教育支援ガイド・国立特別支援教育総合研究所・ジアース教育新社・2017・									
評価方法	授業中の発言(20%)、毎回のリアクションペーパー(20%)、試験(60%)を総合して評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回のリアクションペーパーに書かれた感想・疑問・意見について、次回の冒頭で補足説明を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 限、月曜 3 限 (8 号館 502 研究室)				メールアドレス (#→@)	murata-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、病弱児の概念								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、病弱児について考察する						1.5 時間	
	1,2,3	復習	講義の意味を理解し、病弱児の概念を理解する						1.5 時間	
2	講義内容	各県における病弱教育と家庭・学校・医療・福祉及び保健機関との連携の重要性								
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習						1.5 時間	
	1,2	復習	医療と教育の関係を正しく理解する						1.5 時間	
3	講義内容	群馬県における病弱児教育と医療の課題								
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習						1.5 時間	
	1	復習	群馬県の教育の特殊性と医療との関係を理解する						1.5 時間	
4	講義内容	病弱児における心理的諸問題Ⅰ 観察や検査、医療機関からの情報の連携								
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習						1.5 時間	

	1,2,3,	復習	病弱教育の場である病院の理解と児童生徒の心を理解する	1.5 時間
5	講義内容	病弱児における心理的諸問題Ⅱ 社会性の発達及び認知の特性把握		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	2,3	復習	精神医学を含む心の問題を理解する	1.5 時間
6	講義内容	小児がんと教育Ⅰ		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	小児がん患児の心理的特性と医療の変化を理解する	1.5 時間
7	講義内容	小児がんと教育Ⅱ		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	疾患の特殊性と教育の関係を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	肢体不自由児と病弱児の境界領域		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	腎疾患の治療の変化と教育の関係を理解する	1.5 時間
9	講義内容	腎疾患と病弱教育		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	腎疾患の治療の変化と教育の関係を理解する	1.5 時間
10	講義内容	呼吸器疾患と病弱教育(感染症を含む)		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	呼吸器疾患の特殊性と共通性について理解する	1.5 時間
11	講義内容	消化器疾患と病弱教育		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	食と教育についてしっかり理解する	1.5 時間
12	講義内容	自己免疫疾患と病弱教育		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	様々な自己免疫疾患について理解し、教育の現状を理解する	1.5 時間
13	講義内容	心疾患と病弱教育		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	感染症の変化と教育現場について理解する	1.5 時間
14	講義内容	循環器疾患の特殊性と共通性について理解する		
	該当到達目標	予習	プリントの事前学習	1.5 時間
	1,2,3	復習	命の教育について考察する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	講義全体の振り返り	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義全体の理解	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	障害児の発達診断(特別支援)						科目 ナンバリング	CEE201		
英文名	Developmental Diagnosis of Children with Special Needs						講義形態	講義		
担当教員	五十嵐 一徳									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では児童生徒や園児の実態把握に必要な発達アセスメントの技術を習得することを目指す。学生が①乳幼児期の発達の様相、②代表的な知能検査である WISC-Ⅳと田中ビネー知能検査Ⅴについて理解するための内容を取り扱う。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づき説明しながら授業を進めていく。									
到達目標	1.発達障害児や発達障害が疑われる児童に対するアセスメントの意義や方法について説明できる。 2.乳幼児期の発達の様相について説明できる。 3.代表的な知能検査である WISC-Ⅳと田中ビネー知能検査Ⅴについて説明できる。									
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する									
参考文献	特になし									
評価方法	試験の成績を 90%、レポート・授業態度 10%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 2 限目、金曜日 2 限目(8 号館 5 階 506)				メールアドレス (#→@)		igarashi-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス。発達アセスメントについて。								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	乳幼児期の社会性およびことばの発達								
	該当到達目標 2	予習	乳幼児期の社会性およびことばの発達を調べてくる。						1.5	時間
		復習	配付資料やノートを読みなおす。						1.5	時間
3	講義内容	乳幼児期の認知および情動の発達								
	該当到達目標 2	予習	乳幼児期の認知および情動の発達を調べてくる。						1.5	時間
		復習	配付資料やノートを読みなおす。						1.5	時間
4	講義内容	子どもの発達と気づきⅠ:感情の背景にある感覚について								
	該当到達目標 2	予習	感覚統合について調べてくる。						1.5	時間
		復習	配付資料やノートを読みなおす。						1.5	時間
5	講義内容	子どもの発達と気づきⅡ:障害への気づきとアセスメントの実態								
	該当到達目標 2	予習	子どもの発達について調べてくる。						1.5	時間
		復習	配付資料やノートを読みなおす。						1.5	時間

6	講義内容	知能検査について		
	該当到達目標	予習	知能検査について調べてくる。	1.5 時間
	1	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
7	講義内容	WISC－Ⅳ①検査の体験		
	該当到達目標	予習	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
8	講義内容	WISC－Ⅳ②検査の体験		
	該当到達目標	予習	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
9	講義内容	WISC－Ⅳ③検査の体験		
	該当到達目標	予習	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
10	講義内容	WISC－Ⅳ④結果の解釈と支援の立案		
	該当到達目標	予習	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
11	講義内容	WISC－Ⅳ⑤結果の解釈と支援の立案		
	該当到達目標	予習	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
12	講義内容	田中ビネー知能検査Ⅴ①検査の概要と検査器具に触れる		
	該当到達目標	予習	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
13	講義内容	田中ビネー知能検査の実際		
	該当到達目標	予習	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
14	講義内容	田中ビネー知能検査の結果の整理方法		
	該当到達目標	予習	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5 時間
	3	復習	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	14 回までの講義内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	全 15 回の学習内容を復習しておく。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・特別支援学校教諭免許取得に関わる科目を複数履修していることが望ましい。 ・オンラインで実施する場合、c-learning を通じた課題提示型授業とリモート型授業を組み合わせで行う。実際に検査道具に触れることが困難になるため、シラバス内容が大幅に変更される場合もある。			

科目名	知的障害児の指導(特別支援)							科目 ナンバリング	CEE141	
英文名	Curriculum and Teaching Methods for Children with Intellectual Disabilities							講義形態	講義	
担当教員	浦崎 源次									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	3	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	後半に学生と教員で指導案分析、授業分析を実施する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	知的障害児学校や学級で授業を計画し実践するために必要な知識を得る。さらに、知的障害教育にお ける授業の通常の学校における授業との共通点と差異点を知る。 学習指導要領の検討、指導案の検討、授業の検討という流れで進める。第 10 回以降は受講生の意見 交換を重視する。									
到達目標	1. 知的障害特別支援学校の教育課程の特徴を理解する。 2. 知的障害教育における教科の特徴を理解する。 3. 知的障害教育における指導内容のスマールステップをつくることができる。 4. 指導案を作成できる。 5. 授業における教師の言動を評価する視点をもつ									
使用教材	教科書は使用しないが、特別支援学校学習指導要領とその解説を読むことを予習課題としている回があ るので、各自購入していることが望ましい。									
参考文献										
評価方法	複数提出されたレポート 80%、授業中の発言等 20% 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	講義中にコメントする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もし くは終了後に応じる(8号館 4 階 407)					メールアドレス (#→@)	g-urasaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	知的障害特別支援学校における教育課程の編成とマネジメント								
	該当到達目標	予習	特別支援学校の教育課程における履修の原則と例外について復習する。							1.5 時間
	1	復習	特別支援学校における教育課程の特徴、知的障害特別支援学校の教育課程の 特徴をまとめる。							1.5 時間
2	講義内容	知的障害教科における教科内容と教材教具								
	該当到達目標	予習	配布した予習課題に答える。「障害のある子供の教育支援の手引き」(本ある いは文部科学省の HP)122～133 頁を読む。							1.5 時間
	1,2,4	復習	スマールステップ課題に答える。							1.5 時間
3	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(1)―生活科								
	該当到達目標	予習	学習指導要領と解説に記述されている小学校と知的障害特別支援学校の生活							1.5 時間

			科の目標と内容を比較し、異同をまとめる。	
	1,2,3,4	復習	基本的生活習慣(一部でよい)における教科内容のスマールステップを作成する。	1.5 時間
4	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(2)―国語科		
	該当到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領解説の小学部中学部の国語科の箇所を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	1段階の「話す・聞く」2段階までの「読む」、「書く」の教科内容のスマールステップを作成する。	1.5 時間
5	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(3)―算数・数学科		
	該当到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領解説の小学部中学部算数科数学科の箇所を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「10までの数」、「長さ」の教科内容のスマールステップを作成する。	1.5 時間
6	講義内容	知的障害特別支援学校における自立活動		
	該当到達目標	予習	「基本的生活習慣」に関することは生活科なのか自立活動なのか、「言語」に関することは国語科なのか自立活動なのか、について例をあげて考える。	1.5 時間
	1,3,4	復習	生活科と自立活動、他の教科と自立活動の関係を整理する。	1.5 時間
7	講義内容	個別の指導計画の作成・実施・評価		
	該当到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の第7章を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	6区分のうち1つの区分について、自立活動の指導内容を考える。	1.5 時間
8	講義内容	授業におけるコミュニケーションと環境		
	該当到達目標	予習	言葉を使わずに何かが伝わる例を考えたり、思い出したり、みつける。誤解が生じることばを3つ考えてみる。	1.5 時間
	5	復習	ノンバーバルコミュニケーションの種類と例をまとめる。疑問文なのに、指示命令になっていることばを探す。	1.5 時間
9	講義内容	教科別の指導のデザイン		
	該当到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、優れた点、問題点をみつける。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	指導案の講評をする。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活の指導のデザイン		
	該当到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、優れた点、問題点をみつける。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	指導案の講評をする。	1.5 時間
11	講義内容	遊びの指導のデザイン		
	該当到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、2つの指導案の問題点をみつける。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	2つの指導案の改善点を文章化する。	1.5 時間
12	講義内容	生活単元学習のデザイン		
	該当到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、2つの指導案の問題点をみつける。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	2つの指導案の改善点を文章化する。	1.5 時間
13	講義内容	授業の検討―関わりの視点から		
	該当到達目標	予習	配付資料(授業記録)を読む。	1.5 時間
	4,5	復習	授業の講評をする。	1.5 時間
14	講義内容	授業の検討―教科内容の視点から		
	該当到達目標	予習	配付資料(授業記録)を読む。	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業の講評をする。	1.5 時間
15	講義内容	授業づくりの視点		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	教科別の指導と合わせた指導の長短をまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	肢体不自由児の指導(特別支援)							科目 ナンバリング	CEE142	
英文名	Curriculum and Teaching Methods for Children with Physical Handicaps							講義形態	講義	
担当教員	小竹 利夫									
科目に関連した 実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生が肢体不自由児(単一障害、重複障害)に対して、個々の実態に適した支援のあり方を具体的に理 解すること。授業は資料を読み、映像を見て、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。									
到達目標	1.肢体不自由のある幼児・児童・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達等を理解すること。 2.肢体不自由のある幼児・児童・生徒を対象とする特別支援学校や特別支援学級で実践されている教育 課程や主な支援方法の要点を理解すること。 3.一人一人の幼児・児童・生徒の実態を把握して支援の方針を考える基礎を身に付けること。■									
使用教材	資料を読み、映像を見ながら進める。必要な資料は随時配布する。									
参考文献	「障害のある子どもの保育・教育」(建帛社)、「特別支援学校学習指導要領」を随時参照する。									
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のプリントまたはレポート(60%)、作品(10%)を総合して評価する。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	毎回のプリントまたはレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補 足説明や感想・意見を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には授業開始前もしくは は後に応じる。(8号館 403号室)				メールアドレス (#→@)	kotake#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーションー肢体不自由児の状態像の多様性とカリキュラム								
	該当到達目標	予習	資料を概観し、構成について理解する。						1.5	時間
	1,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
2	講義内容	特別支援学校における教育課程								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
3	講義内容	各種障害の疑似体験・介助体験による障害の理解と支援								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	1,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
4	講義内容	個別の指導計画と自立活動の支援■								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間
5	講義内容	教材・遊具の制作■								
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。						1.5	時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5	時間

6	講義内容	感覚・認知面の理解と支援		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	1	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	コミュニケーションの支援(その 1)－発信面 ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	コミュニケーションの支援(その 2)－受信面 ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	学習活動の支援(その 1)－国語 ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	学習活動の支援(その 2)－算数 ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	心理的な安定の支援－気持ちの調整		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	日常生活動作の支援－食事		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	余暇活動の支援－遊び		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	保護者支援		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	個別の指導計画の作成とまとめ ■		
	該当到達目標	予習	資料を読み理解に努める。	1.5 時間
	2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	病弱児の指導(特別支援)						科目 ナンバリング	CEE143		
英文名	Curriculum and Teaching Methods for Children with Health Impairments						講義形態	講義		
担当教員	村田 美和									
科目に関連した 実務経験	病弱児に対する学習支援を小中学校、病院、大学にて行っている。									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	選択・2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				1	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	①	③	④	⑧	⑩	⑯				
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○						○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①病弱の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 ②授業の後半では、理解を深めるためにディスカッションの時間を設け、知識や理解を定着させていく。									
到達目標	1.生きる力として知・徳・体に加え、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力をはぐくむことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。 2.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等並びに学習の進度を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。 3.各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児、児童又は生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することを理解している。 4. 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取り扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いを理解している。 5. 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげるることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。									
使用教材	必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。									
参考文献	病気の子どもの教育支援ガイド・国立特別支援教育総合研究所・ジアース教育新社・2017									
評価方法	授業中の発言(20%)、毎回のリアクションペーパー(20%)、試験(60%)を総合して評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回のリアクションペーパーに書かれた感想・疑問・意見について、次回の冒頭で補足説明を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 限、月曜 3 限 (8 号館 502 研究室)				メールアドレス (#→@)	murata-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーションー病弱児の実態と教育課程								
	該当到達目標 1,2	予習	病弱児を受け入れる特別支援学校のホームページを検索して、病弱児教育の骨格について理解に努める。						1.5 時間	
		復習	授業で配布した資料について振り返る。						1.5 時間	
2	講義内容	病弱児教育の変遷と全国および群馬県の現状								
	該当到達目標 1,2,3	予習	群馬県の病弱児教育について調べる。						1.5 時間	
		復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。						1.5 時間	
3	講義内容	病弱児への教科指導と自立活動の指導								

	該当到達目標	予習	自立活動について理解を深めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
4	講義内容	病弱児の学習又は生活上の困難を改善する力を育む教育課程		
	該当到達目標	予習	生活上の困難について事例を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
5	講義内容	病気の状態に合わせた教科教育の選定及びカリキュラムの編成		
	該当到達目標	予習	教科教育のカリキュラム編成について理解に努める。	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
6	講義内容	各教科の年間指導計画を踏まえた個別の指導計画の作成		
	該当到達目標	予習	年間指導計画について理解に努める。	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	個別の指導計画とカリキュラムマネジメント		
	該当到達目標	予習	カリキュラムマネジメントについて理解に努める。	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違い		
	該当到達目標	予習	教科と自立活動について理解に努める。	1.5 時間
	3,4,5	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	消化器疾患を伴う児童生徒の指導		
	該当到達目標	予習	消化器疾患を伴う児童生徒について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	脳性まひを伴う児童生徒の指導■		
	該当到達目標	予習	脳性まひについて理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	心身症・精神疾患を伴う児童生徒の指導		
	該当到達目標	予習	心身症・精神疾患について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	進行性筋ジストロフィ症を伴う児童生徒の指導		
	該当到達目標	予習	進行性筋ジストロフィ症について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	呼吸器疾患を伴う児童生徒の指導		
	該当到達目標	予習	呼吸器疾患について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	心臓疾患を伴う児童生徒の指導		
	該当到達目標	予習	心臓疾患について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	死に瀕した児童生徒および周囲の人への指導		
	該当到達目標	予習	死に瀕した児童生徒への教育的係わりについて考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	知的障害児教育演習(特別支援)							科目ナンバリング	CEE301	
英文名	Teaching Practice for Children with Intellectual Disabilities							講義形態	演習	
担当教員	浦崎 源次									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:特別支援学校教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				3	自律的・意欲的に学習する力			
	3	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	障害児教育の問題は情緒的に語られたり、経験至上主義に陥ることが多々ある。そこで、まず、理論的に考える習慣を身につけたい。次に実践について多角的にみる習慣を身につけたい。 受講生が輪番で文献等を選択し、発表し、それを受講生全員で討議する形式で進める。受講生の興味・関心によって、テーマの変更がありうる。									
到達目標	1. 障害児教育の諸問題について自分なりの意見を論理的に表現できる。 2. 知的障害教育の諸問題について自分なりの意見を論理的に表現できる。 3. PDCAの視点をもって授業を実践する態度を身につける。 4. 研究的な視点をもって子どもとかかわる態度を身につける。									
使用教材	原則として検討する教材は学会誌などから学生が見つけたものとする。 指導案の検討においてはできれば学生が教育実習において作成した指導案を教材としたい。適当なものがない場合は学生が見つけた指導案を教材とする。									
参考文献										
評価方法	レポート 60%、演習中の発言 40%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	演習中に適宜コメントする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる(8号館4階407)					メールアドレス (#→@)	g-urasaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	授業の概要と進め方(オリエンテーション)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。							0.5 時間
2	講義内容	指導案の検討(1)日常生活の指導ー指導計画について								
	該当到達目標 2,3,4	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。							1 時間
		復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる。							0.5 時間
3	講義内容	指導案の検討(2)日常生活の指導ー授業の展開について								
	該当到達目標 2,3,4	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。							1 時間
		復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる。							0.5 時間

			る	
4	講義内容	指導案の検討(3)遊びの指導－指導計画について		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5 時間
5	講義内容	指導案の検討(4)遊びの指導－授業の展開について		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5 時間
6	講義内容	指導案の検討(5)生活単元学習－指導計画について		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5 時間
7	講義内容	指導案の検討(6)生活単元学習－授業の展開について		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5 時間
8	講義内容	「障害児教育は教育の原点である」について考える(1)語られ方と機能		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
9	講義内容	「障害児教育は教育の原点である」について考える(2)原点の意味		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
10	講義内容	「障害は個性である」について考える(1)積極的主張の立場		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
11	講義内容	「障害は個性である」について考える(2)懐疑的立場		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
12	講義内容	出生前診断について考える		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
13	講義内容	早期発見・早期治療(支援)について考える		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
14	講義内容	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える(1)生活重視の立場		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
15	講義内容	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える(2)教科重視の立場		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
16	講義内容	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える(3)「教科も生活も」は可能か		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
17	講義内容	知的障害教育における学力について考える		

	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
18	講義内容	インクルーシブ教育時代における知的障害教育の課題(制度)		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
19	講義内容	インクルーシブ教育時代における知的障害教育の課題(教育課程)		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
20	講義内容	知的障害児の言語発達に関する文献を読む		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
21	講義内容	知的障害児の国語科に関する文献を読む。		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
22	講義内容	知的障害児の国語科の教科内容(話し言葉)		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
23	講義内容	知的障害児の国語科の教科内容(書き言葉)		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
24	講義内容	知的障害児の算数能力の発達に関する文献を読む		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
25	講義内容	知的障害児の算数・数学科に関する文献を読む		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
26	講義内容	知的障害児の算数・数学科の教科内容(数と計算)		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
27	講義内容	知的障害児の算数・数学科の教科内容(図形)		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
28	講義内容	知的障害児の言語障害に関する文献を読む		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
29	講義内容	知的障害児の青年期教育に関する文献を読む		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
30	講義内容	知的障害児教育の幼児教育・療育に関する文献を読む		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1 時間
	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	肢体不自由児教育演習(特別支援)							科目ナンバリング	CEE302	
英文名	Teaching Practice for Children with Physical Handicaps							講義形態	演習	
担当教員	小竹 利夫									
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	肢体不自由等のある幼児・児童・生徒の映像や文字資料を通して、実態の捉え方、支援の仕方などを実践的に考える。肢体不自由児等の理解を深め、具体的にどのような支援を図るか考える場にしたい。また、実際に教材や遊具を考え、制作する機会をもうけたい。さらに、障害の疑似体験を通して、障害者の気持ちの理解や支援技術の向上を図る。									
到達目標	1. 肢体不自由等のある幼児・児童・生徒の状態・特性・発達段階を理解する。 2. 特別支援学校(肢体不自由等)における教育課程の編成の意義について理解する。 3. 特別支援学校(肢体不自由等)における教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントについて理解する。 4. 肢体不自由等のある幼児・児童・生徒の実態に合わせて支援方法を身に付ける。■									
使用教材	資料を読み、映像を見ながら進める。必要な資料は随時配布する。									
参考文献	「障害のある子どもとの教育的係わり合い」他。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。									
評価方法	授業中の態度(30%)、リアクションペーパーまたはプリント(50%)、発表(10%)、作品(10%)を総合して評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実践事例の資料を読んだり映像を見たりして、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。回答を発表し合うなかで、補足説明やコメントを述べる。									
オフィスアワー(研究室)	質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。(8号館 403号室)				メールアドレス (#→@)	kotake#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その1) 保育所								
	該当到達目標 1	予習	障害についてこれまでに学んだことを振り返る。							1.5 時間
		復習	配布資料を読み直す。							1.5 時間
2	講義内容	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その2) 幼稚園								
	該当到達目標 1	予習	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その2)を読む。							1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。							1.5 時間
3	講義内容	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その3) 児童発達支援施設								
	該当到達目標 1	予習	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その3)を読む。							1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。							1.5 時間
4	講義内容	医療的ケア児について 特別支援学校								
	該当到達目標 1, 2	予習	医療的ケアについて調べる。							1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。							1.5 時間
5	講義内容	特別支援学校(肢体不自由)の教育課程								

	該当到達目標	予習	特別支援学校(肢体不自由)の教育課程を調べる。	1.5 時間
	2	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	障害の疑似体験(肢体不自由)		
	該当到達目標	予習	肢体不自由者のガイドの仕方を調べる。	1.5 時間
	1,4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 1) ■ コミュニケーション(VOCA を含む)		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 1)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 2) ■ 国語(文字)		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 2)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 3) ■ 算数(数)		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 3)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	障害者差別・合理的配慮について		
	該当到達目標	予習	障害者差別について調べる。	1.5 時間
	2	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	肢体不自由等のある児童の教材の制作■		
	該当到達目標	予習	障害のある児童の教材を調べる。	1.5 時間
	4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	重度重複障害児について■		
	該当到達目標	予習	重度重複障害児について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 4) 摂食		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 4)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 5) 情緒の安定		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 5)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 6) ■ 自立活動		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 6)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
16	講義内容	薬物療法について		
	該当到達目標	予習	薬物療法について調べる。	1.5 時間
	1	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
17	講義内容	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その 7) 遊び		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の遊びを調べる。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
18	講義内容	肢体不自由等のある児童の教材・教具の制作■		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある児童の教材・教具を調べる。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
19	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 1) ■ 国語(文章構成)		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 1)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
20	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 2) ■ 数学(計算)		
	該当到達目標	予習	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 2)を読む。	1.5 時間
	3, 4	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
21	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 3) ■ コミュニケーション(補助代替コミュニケーション手段を含む)		

	該当到達目標 3, 4	予習	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 3)を読む。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
22	講義内容	保護者支援について		
	該当到達目標 4	予習	保護者支援について調べる。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
23	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教材・教具の制作。■		
	該当到達目標 4	予習	肢体不自由等のある生徒の教材・教具を調べる。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
24	講義内容	障害と虐待について		
	該当到達目標 1	予習	障害と虐待の関連を調べる。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
25	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 4) ■ 自立活動		
	該当到達目標 3, 4	予習	障害のある生徒の教育実践事例(その 4)を読む。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
26	講義内容	重複障害の疑似体験(盲ろう)		
	該当到達目標 1, 2	予習	盲ろう者のガイドの仕方を調べる	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
27	講義内容	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 5) 作業		
	該当到達目標 3, 4	予習	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その 5)を読む。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
28	講義内容	卒業後の教育実践事例(その 1) ■ 就労支援		
	該当到達目標 3, 4	予習	卒業後の教育実践事例(その 1)を読む	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
29	講義内容	卒業後の教育実践事例(その 2) 生活介護		
	該当到達目標 3, 4	予習	卒業後の教育実践事例(その 2)を読む。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
30	講義内容	この演習で学んだことを振り返る		
	該当到達目標 1, 2, 3, 4	予習	これまで読んできた教育実践で特に関心を持った事例を読み返す。	1.5 時間
		復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				90 時間
備考	オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	病弱児教育演習(特別支援)						科目 ナンバリング	CEE303		
英文名	Teaching Practice for Children with Health Impairments						講義形態	演習		
担当教員	村田 美和									
科目に関連した 実務経験	病弱児、不登校児に対する学習支援を小中学校、病院、大学にて定期的に実施(現在)									
学年・開講期	4 年 通年	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	①	③	④		⑧		⑩		⑯	
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○		○	○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①これまで学習してきた知識を生かし、具体的な病気に合わせた指導とその周辺知識について演習する。病弱児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、具体的な支援についての考えを深めていく。 ②病弱児特別支援学校や病弱児特別支援学級に在籍している児童・生徒を対象とした事例研究に関する研究的な討議を行い、多様な病状にある子どもの個々の状態に応じた合理的配慮について調べたものを基に発表し合い検討する。それぞれの内容について、意見を交換しながら授業を進めていく。									
到達目標	1.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえ、学習環境に応じた学習効果を高めるために、間接体験や疑似体験、仮想体験を効果的に取り入れることについて理解している。 2.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえ、各教科等の指導の効果を高めるために、ICT の有効な活用とともに教材・教具や補助用具を工夫することについて理解している。 3.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえ、心身に負担過重とならないように、適切な活動量や活動時間の設定、姿勢の返還や適切な休養の確保に留意することについて理解している。 4.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。									
使用教材	学習指導要領。その他、必要な資料を授業内で配布する。									
参考文献	病気の子どもの教育支援ガイド・国立特別支援教育総合研究所・ジアース教育新社・2017									
評価方法	収集した資料の内容、資料整理の状態を 50%、研究討議における発言、報告会での発表を 50%として評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対す るフィードバック	発表や資料に関して、その都度解釈と評価をフィードバックする。 疑問点や不明点について、質問を受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 2 限、月曜 3 限 (8 号館 502 研究室)				メールアドレス (#→@)	murata-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容に目を通し、本講義の目標を理解する。						1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針などを確認する。						1.5	時間
2	講義内容	病弱児の心理等の実態について実践研究の事例検討								
	該当到達目標 1,3,4	予習	参考となりそうな書籍を自ら探す。						1.5	時間
		復習	病弱児の心理等の実態について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	病弱児の教育課程に関する事例を検討								
	該当到達目標	予習	参考となる書籍を自ら探す。						1.5	時間

	1,2,3,4	復習	病弱児の教育課程について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	病弱児の指導法に関する実践事例を検討		
	該当到達目標	予習	参考となる書籍を熟読する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	病弱児の指導法について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	病弱児の実践事例に関する発表及び討論		
	該当到達目標	予習	参考となる書籍の内容を資料にまとめる。	1.5 時間
	1,3,4	復習	実践研究の論文の読み方について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	病弱児の保護者、所属機関との関係について		
	該当到達目標	予習	実践事例と報告書が掲載されているページを確認する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	保護者や所属機関に対する配慮について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	先進的な病弱教育		
	該当到達目標	予習	実践報告書を熟読する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	先進的な病弱教育についてホームページなどを確認し理解する。	1.5 時間
8	講義内容	病弱児教育に関する先進的な実践事例について		
	該当到達目標	予習	実践報告書を発表資料としてまとめる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	参考文献の活用について理解し、文献を実際に探してみる。	1.5 時間
9	講義内容	先進的な病弱教育の事例に関する発表及び討論①		
	該当到達目標	予習	発表のための準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	先進的な実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	先進的な病弱教育の事例に関する発表及び討論②		
	該当到達目標	予習	発表資料を熟読する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	先進的な実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	病弱児を支える社会とテクノロジーに関する研究討議■		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	病弱児を支える社会とテクノロジーについて理解する	1.5 時間
12	講義内容	病弱児の間接体験や疑似体験、仮想体験の実践事例の検討■		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	病弱児に対する各体験の実践事例の指導案を理解する	1.5 時間
13	講義内容	病弱児に対する ABL の授業実践の検討■		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3,4	復習	病弱児に対する ABL の授業実践について理解する	1.5 時間
14	講義内容	実践事例を踏まえた病弱児の環境等の整備に関する研究討議		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実践事例を踏まえた病弱児の環境等の整備について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	実践事例の中間報告会		
	該当到達目標	予習	発表資料の準備をする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	他の人の発表を理解し、今後の自分の発表に生かせる部分についてまとめる。	1.5 時間
16	講義内容	ICT の有効な活用事例の検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	ICT の有効な活用事例について理解する。	1.5 時間
17	講義内容	デジタル端末と教材・教具や補助用具の工夫		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	デジタル端末と教材・教具や補助用具について理解する。	1.5 時間
18	講義内容	個々の状態を踏まえた活動量及び活動時間の設定に関する事例検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	活動量及び活動時間の設定について理解する。	1.5 時間
19	講義内容	個々の状態を踏まえた姿勢の変換及び適切な休養の確保に関する事例検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	姿勢の変換及び適切な休養の確保について理解する。	1.5 時間

20	講義内容	病気の状態に応じた自立活動と教科指導の事例検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3,4	復習	自立活動と教科指導の事例について理解する。	1.5 時間
21	講義内容	自立活動との関連を踏まえた各教科等の指導案作成		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科の指導案について理解する。	1.5 時間
22	講義内容	心臓病・腎臓病の状態等に応じた指導案の検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	心臓病・腎臓病の指導案について理解する。	1.5 時間
23	講義内容	不登校の状態等に応じた指導案の検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	不登校と指導案の事例について理解する。	1.5 時間
24	講義内容	発達障害の状態等に応じた授業実践の検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	発達障害の授業実践の事例について理解する。	1.5 時間
25	講義内容	糖尿病の状態等に応じた授業実践の検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	糖尿病の授業実践について理解する。	1.5 時間
26	講義内容	食物アレルギーの状態等に応じた指導上の合理的配慮の検討■		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	病弱児を支える社会とテクノロジーについて自分の考えをまとめる。	1.5 時間
27	講義内容	喘息の状態等に応じた指導上の合理的配慮の検討■		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	喘息の状態と合理的配慮について理解する。	1.5 時間
28	講義内容	てんかんの状態等に応じた指導上の合理的配慮の検討		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	てんかんの状態と合理的配慮について理解する。	1.5 時間
29	講義内容	病弱児を支える社会とテクノロジーに関するまとめ		
	該当到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	病弱児を支える社会とテクノロジーについて自分の考えをまとめる。	1.5 時間
30	講義内容	実践事例を踏まえた病弱児の合理的配慮に関する報告会		
	該当到達目標	予習	発表資料を準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	病弱児の合理的配慮について再確認する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				90 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	視覚障害・聴覚障害教育総論(特別支援)							科目 ナンバリング	CEE101	
英文名	Education for Children with Visual and Hearing Impairments							講義形態	講義	
担当教員	金澤 貴之 中村 保和									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	3451016									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	視覚障害教育および聴覚障害教育の概要と特徴について理解し、視覚障害児および聴覚障害児の指導の基本について理解を深め、こうした子どもたちに対する特別支援教育の視点を養う。 講義中に適宜、質問の時間を確保したり、講義後にリプライカードを配付したりして、受講生の授業に対する理解度を把握し、定着を図りながら講義を進めていく。									
到達目標	1.視覚障害および聴覚障害の生理・病理の基礎的事項について説明することができる。 2.視覚障害児および聴覚障害児の心理について理解し、教育場面や生活場面における心理面への対応を説明することができる。 3.視覚障害教育および聴覚障害教育の歴史や制度等について、保育や教育に関する基礎的事項を説明することができる。 4.視覚障害教育および聴覚障害教育の特徴を踏まえて、こうした子どもたちの教育課程や指導法の概要について説明することができる。									
使用教材	講義のスライドを随時プリントして配布する。									
参考文献										
評価方法	視覚障害教育に関する最終レポート(50%)と聴覚障害教育に関する最終レポート(50%)を総合して評価し、総合評価60%以上を合格とする。なお、これらの最終レポートは本講義数(全15回)の2／3以上を出席した者が提出できるものとし、出席回数が満たない者のレポートは評価の対象としない。									
課題・評価に対す る フィードバック方法	特に行わない。質問等があれば個別に応じる。									
オフィスアワー (研究室)	質問等がある場合は授業の前後に応じる。				メールアドレス (#→@)		ynakamr#gunma-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバス内容を読んで講義の目標等を理解する。							1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与の方針、成績評価方法などを確認する。							1.5 時間
2	講義内容	視覚障害Ⅰ: 視覚障害教育とは? 視覚障害の定義、視覚障害教育の歴史と変遷、教育課程								
	該当到達目標	予習	視覚障害教育の概要を文献等で調べ確認する。							1.5 時間
		3	復習	視覚障害の定義を踏まえたうえで、視覚障害教育の概要を理解する。						
3	講義内容	視覚障害Ⅱ: 視覚障害の理解① ものを見る仕組みとその障害								
	該当到達目標	予習	通常の目の働きについて、図書やインターネットを通して把握しておく。							1.5 時間

	1	復習	目のしくみやその障害について、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	視覚障害Ⅲ：視覚障害の理解② 見え方の個人差と視機能評価		
	該当到達目標	予習	ものの見え方や視力検査の方法などについて図書やインターネットで調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	眼疾患ごとの見え方の違いについて理解し、視機能評価の種類について知る。	1.5 時間
5	講義内容	視覚障害Ⅳ：シミュレーションレンズによる弱視疑似体験、体験の振り返りと共有		
	該当到達目標	予習	屈折異常や視野狭窄など種々の視覚障害の種類や程度について調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	疑似体験で感じたことを振り返り、視覚障害の程度や種類の理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	視覚障害Ⅴ：視覚障害の子どもが日常生活および学校生活で遭遇する困難とそれへの配慮		
	該当到達目標	予習	視覚障害児の抱える困難について調べておく。	1.5 時間
	2	復習	視覚障害がもたらす生活・学習上の困難とそれへの配慮について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	視覚障害Ⅵ：視覚重複障害—盲ろう二重障害を中心に—		
	該当到達目標	予習	知的障害や肢体不自由病弱などの他の障害種の特徴について確認しておく。	1.5 時間
	3	復習	視覚障害に他の障害を有する子ども達の発達上の困難について理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	視覚障害Ⅶ：初期学習と概念形成—点字導入に向けて—		
	該当到達目標	予習	盲学校（視覚特別支援学校）における学習内容や教育課程について調べておく。	1.5 時間
	4	復習	触覚による概念形成の特徴や点字学習の基礎について理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	聴覚障害Ⅰ：「聴覚障害」とは？		
	該当到達目標	予習	「聴覚障害」の概要を文献等で調べ確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	聴覚障害の定義、特性を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	聴覚障害Ⅱ：聴覚特別支援学校（聾学校）の教育課程・指導法		
	該当到達目標	予習	聾学校（聴覚特別支援学校）の教育課程と指導法について文献で調べておく。	1.5 時間
	3	復習	聾学校（聴覚特別支援学校）の教育課程の構造を確認し、指導法を整理する。	1.5 時間
11	講義内容	聴覚障害Ⅲ：乳幼児期の関わり方		
	該当到達目標	予習	乳幼児期の聴覚障害児への関わり方について、インターネット等で調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	乳幼児期の関わりにおいて大切なことを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	聴覚障害Ⅳ：言語獲得の課題（話し言葉）		
	該当到達目標	予習	聴覚障害児の話し言葉の獲得を巡る諸課題について、インターネット等で調べておく。	1.5 時間
	3	復習	言語指導の変遷および言語獲得のポイントを整理し、理解する。	1.5 時間
13	講義内容	聴覚障害Ⅴ：言語獲得の課題（書き言葉）		
	該当到達目標	予習	聴覚障害児の書記日本語の習得を巡る諸課題について、インターネット等で調べておく。	1.5 時間
	3	復習	書記日本語の獲得を巡る課題および改善に向けた方策について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	聴覚障害Ⅵ：手話の位置づけ		
	該当到達目標	予習	「手話」について、文献およびインターネット等で調べる。	1.5 時間
	3	復習	言語としての手話について理解を深め、その使用を巡る聾教育での課題について整理し、理解する。	1.5 時間
15	講義内容	聴覚障害Ⅶ：重複障害児者の教育および卒後の支援		
	該当到達目標	予習	「聾重複」について、文献およびインターネット等で調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	聾重複障害児者の教育および卒後の支援について、構造的に理解する。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				45 時間
備考	講義時および講義後の質問は積極的に受け付ける。講義担当者は非常勤講師のため、講義外での質問はメールで受け付ける。 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	知的障害者教育総論(特別支援)							科目ナンバリング	CEE102	
英文名	Education for Children with Intellectual Disabilities							講義形態	講義	
担当教員	浦崎 源次									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目： 特別支援学校教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と教養				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	4	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	適宜、反転授業と課題への解答をもとに授業を進めるとともに、小学校第一学年以前の教科内容の実例をもとに教科内容について考える機会を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	後に履修する知的障害に関する心理・生理・病理や教育課程・指導法などの各論を学習するための基礎学習として、知的障害教育にかかる全般についての概念や用語など基礎的な知識を得る。 パワーポイントを利用しながら講義形式で進める。									
到達目標	1. 知的障害の概念を理解する。 2. 知的障害教育の現状を理解する。 3. 知的障害児の行動特性を理解する。 4. 知的障害の原因を理解する。 5. 特別支援教育史における知的障害児教育の歴史の特徴を理解する。 6. 知的障害児教育の教育課程の特徴を理解する。									
使用教材	教科書は使用しない。 なお、第10回以降の講義では予習課題や授業の資料として、以下の資料を使用するので、各自購入されたい。 特別支援学校教育要領・小学部中学部学習指要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 その他、適宜紹介する。									
参考文献										
評価方法	定期試験 90%、授業中の発言等 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	講義中にコメントする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる(8号館 4 階 407)					メールアドレス (#→@)	g-urasaki#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	「知的障害」の概念と定義								
	該当到達目標	予習	アメリカ知的・発達障害協会(AAIDD)、国際疾病分類(ICD)、精神疾患の分類と診断の手引き(DSM)における知的障害の定義を調べ、表にする。						1.5 時間	

	1,3	復習	知的障害の定義と分類、診断についてまとめる。	1.5 時間
2	講義内容	知的障害児の心理Ⅰ－知覚と記憶		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで理解する。	1.5 時間
	1,3	復習	知的障害児の知覚や記憶の特徴についてまとめる。	1.5 時間
3	講義内容	知的障害児の心理Ⅱ－言語と認知		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで理解する。	1.5 時間
	1,3	復習	知的障害児の言語や認知の特徴についてまとめる	1.5 時間
4	講義内容	知的障害の原因Ⅰ－出生前		
	該当到達目標	予習	ダウン症候群(ダウン症)と出生前診断について調べる。	1.5 時間
	4	復習	知的障害の出生前における原因をまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	知的障害の原因－周産期、出生後		
	該当到達目標	予習	配付資料を読んで理解する。	1.5 時間
	4	復習	知的障害の周産期、出生後の原因をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	欧米の知的障害教育史		
	該当到達目標	予習	エドゥアール・セガンの人と業績について調べる。 優生思想について調べる	1.5 時間
	1,5	復習	欧米における知的障害教育の創始と発展を他の障害と比較しながらまとめる	1.5 時間
7	講義内容	日本の知的障害教育史－第二次大戦前		
	該当到達目標	予習	石井亮一の人と業績について調べる。	1.5 時間
	1,5	復習	日本における知的障害教育の創始を他の障害や欧米と比較しながらまとめる	1.5 時間
8	講義内容	日本の知的障害教育史－第二次大戦後		
	該当到達目標	予習	糸賀一雄の人と業績について調べる。 コロニーについて調べる。	1.5 時間
	1,5	復習	知的障害教育の義務化の過程を他の障害と比較しながらまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	知的障害教育・福祉の現状		
	該当到達目標	予習	配付の統計資料から分かることをまとめる。	1.5 時間
	2	復習	知的障害者の就学前、就学後の生活の問題についてまとめる	1.5 時間
10	講義内容	知的障害特別支援学校の教育課程－履修の原則と例外		
	該当到達目標	予習	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)331～344頁を読む。	1.5 時間
	6	復習	知的障害特別支援学校に適用される例外をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	知的障害特別支援学校の教育課程－生活科と自立活動		
	該当到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)40～75 頁を読む。	1.5 時間
	5,6	復習	知的障害生活科と小学校生活科との異同、知的障害の自立活動と他の障害の自立活動との異同をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	知的障害教育における教科別の指導		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。	1.5 時間
	5,6	復習	知的障害特別支援学校の教育課程と教科の特徴を他の障害と比較しながらまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	各教科等を合わせた指導		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。	1.5 時間
	3,5,6	復習	「合わせた指導」と「教科別の指導」の長短についてまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	知的障害教育方法史		
	該当到達目標	予習	配付資料を読む。	1.5 時間

	5,6	復習	学習指導要領の変遷を、「合わせた指導」重視か「教科別の指導」重視かという視点で整理する。	1.5 時間
15	講義内容	個別の教育支援計画と指導計画		
	該当到達目標	予習	個別の指導計画の例を2つ検索して、異同を調べる。	1.5 時間
	1,3,6	復習	予習課題を加除修正する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	重複障害児教育総論(特別支援)							科目ナンバリング	CEE103	
英文名	Education for Children with Multiple Handicaps							講義形態	講義	
担当教員	小竹 利夫									
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
	2	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学生が重複障害児に対して、個々の実態に適した支援のあり方を具体的に理解すること。 授業は教科書・資料等を読み、映像を見て、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。									
到達目標	1. 重複障害児の多様性を踏まえて教育課程を理解する。 2. 重複障害児の実態を把握する際の心理学的、医学的な視点を疑似体験も踏まえて理解する。 3. 重複障害児に対して具体的な支援方法を理解する。■									
使用教材	教科書「障害のある子どもとの教育的係わり合い」・小竹・川島書店・2016 年・2200 円。									
参考文献	「特別支援学校学習指導要領」を随時参照する。									
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のプリントまたはレポート(60%)、作品(10%)を総合して評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回のプリントまたはレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想・意見を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。(8 号館 403 号室)				メールアドレス (#→@)		kotake#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	重複障害という概念について								
	該当到達目標	予習	重複障害児についてインターネットで調べる。						1.5 時間	
	1	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5 時間	
2	講義内容	重複障害児の状態像								
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。						1.5 時間	
	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5 時間	
3	講義内容	重複障害児教育の歴史と現状								
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。						1.5 時間	
	1	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5 時間	
4	講義内容	重複障害児の就学と教育課程								
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。						1.5 時間	
	1,	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5 時間	
5	講義内容	重複障害児の実態把握(医学的側面)								
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。						1.5 時間	
	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。						1.5 時間	
6	講義内容	重複障害児の実態把握(心理的側面) 疑似体験を含む								
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。						1.5 時間	

	2	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	重複障害児の指導計画－指導計画の具体例		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	重複障害児の教材・教具の制作■		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	重複障害児の探索活動■		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	重複障害児のコミュニケーション活動(その 1)－受信面■(手話・点字を含む)		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	重複障害児のコミュニケーション活動(その 2)－発信面■(手話・点字を含む)		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	医療的ケアを必要とする重複障害児の支援		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	重複障害児の就学前の支援■		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	重複障害児の卒業後の支援■		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書等を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		発達障害児教育総論(特別支援)						科目 ナンバリング	CEE104		
英文名		Education for Children with Developmental Disabilities						講義形態	講義		
担当教員		五十嵐 一徳 村田 美和									
科目に関連した 実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格		免許・資格指定科目: 特別支援学校教諭									
学位授与方針 との対応		2	豊かな人間性と教養				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
		2	専門的知識				2	自律的・意欲的に学習する力			
		2	問題発見・解決力								
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		「見えない障害」と称される発達障害の概念や具体的な障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害など)の特性について理解することにより、幼稚園・保育所および通常学級に通う子どもたちの多様性を捉える力をもつようになる。そして、子どもの実態を捉える方法(アセスメント)の結果に基づき指導方法・指導の手立てについて、ディスカッションも交えながら検討していくことで、基礎的な実践力を身につけていくことを目的とする。									
到達目標		1.発達障害の定義や障害種について説明できる。 2.発達障害に対するアセスメントについて説明できる。 3.発達障害に対する支援方法について説明できる。									
使用教材		講義のスライド等を随時プリントして配付する									
参考文献		・参考図書① 学校での ICT 利用による読み書き支援(金子書房)近藤武夫 編著 ・参考図書②「行動問題」解決ケーススタディ やさしく学べる応用行動分析(中央法規出版)小笠原恵 編著 ・その他の参考図書については、ガイダンス等で紹介する。									
評価方法		試験の成績を 90%、レポート・授業態度 10%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対す る フィードバック方法		随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。									
オフィスアワー (研究室)		五十嵐(8号館5階506):木曜日2限 目、金曜日2限目 村田(8号館5階502):火曜2限、金曜 2限				メールアドレス (#→@)		五十嵐:igarashi-k#takasaki-u.ac.jp 村田:murata-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス 発達障害とは (五十嵐・村田)									
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。							1.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針などを確認する。 発達障害の定義について理解する。							1.5	時間
2	講義内容	発達障害児の理解Ⅰ(ADHD) (五十嵐)									
	該当到達目標 1	予習	参考図書に目を通す。							1.5	時間
		復習	ADHD について理解する。							1.5	時間
3	講義内容	発達障害児の理解Ⅱ(自閉症スペクトラム障害) (五十嵐)									
	該当到達目標 1	予習	参考図書に目を通す。							1.5	時間
		復習	自閉症スペクトラム障害について理解する。							1.5	時間

4	講義内容	発達障害児の理解Ⅲ(LD) (村田)		
	該当到達目標	予習	参考図書に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	LD について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	学習面におけるアセスメントⅠ(読み書きの速度と ICT の評価) (村田)		
	該当到達目標	予習	参考図書①第 3、4 章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	学習面においてなぜアセスメントが必要なのか理解する。	1.5 時間
6	講義内容	学習面におけるアセスメントⅡ(認知機能の評価) (村田)		
	該当到達目標	予習	参考図書①第 2 章に目を通す	1.5 時間
	2	復習	学習面におけるアセスメントの内容と種類について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	学習面における支援方法Ⅰ(学校のリソースと ICT について) (村田)		
	該当到達目標	予習	参考図書①第 5,6,10 章に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	支援方法の根拠となる資料の解釈について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	学習面における支援方法Ⅱ(小中学校における事例) (村田)		
	該当到達目標	予習	参考図書①第 7、8 章に目を通す	1.5 時間
	3	復習	ICT を活用した支援方法について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	学習面における支援のまとめ (村田)		
	該当到達目標	予習	参考図書①第 1 章に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	学習面の困難さの多様性について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	社会的コミュニケーションに対するアセスメント (五十嵐)		
	該当到達目標	予習	参考図書に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	社会的コミュニケーションに対するアセスメントを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	社会的コミュニケーションに対する支援方法 (五十嵐)		
	該当到達目標	予習	参考図書に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	社会的コミュニケーションに対する支援方法について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	行動問題に対するアセスメント (五十嵐)		
	該当到達目標	予習	参考図書②に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	行動問題に対するアセスメントについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	行動問題に対する支援方法 (五十嵐)		
	該当到達目標	予習	参考図書②に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	行動問題に対する支援方法について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	社会的コミュニケーション・行動問題に対する支援のまとめ (五十嵐)		
	該当到達目標	予習	参考図書②に目を通す。	1.5 時間
	2,3	復習	社会的コミュニケーションと行動問題に対する支援について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ (五十嵐・村田)		
	該当到達目標	予習	14 回目までの講義内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	14 回までの講義内容を振り返り、発達障害に対する支援の全体像を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・オンラインで実施する場合、c-learning 等を通じて課題を提示する。			

科目名	学校経営と学校図書館(司書教諭)						科目 ナンバリング	-		
英文名	School Management and School Library						講義形態	講義		
担当教員	秋山 美和子									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目:司書教諭									
学位授与方針 との対応	-	豊かな人間性と教養				-	多様な社会・背景を理解し対応する能力 (多様性理解)			
	-	専門的知識				-	自律的・意欲的に学習する力			
	-	問題発見・解決力								
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実 施方法	PBL (課題解決型学 習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グルー プワ ーク	プレゼン テー ション	演習、実験 実習、実技	フィール ドワ ーク	指導案作成、 模擬授業	リアクシ ョン ペー パー	その他
			○	○	○					
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学校経営の視点を重視し、学校図書館の読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を現場の状況に即して学習する。教師と司書教諭、学校図書館職員の連携・協働の大切さを理解し、学校の教育活動における学校図書館活動の課題と展望を考察する。 ②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、第3回～第13回講義では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。									
到達目標	1.学校教育における学校図書館活動の重要性を理解する。 2.実際の学校教育に生かす方法を考え、実践できるようになる。									
使用教材	中村百合子編著『学校経営と学校図書館』(樹村房) ISBN978-4-88367-251-6 必要に応じて資料を配付									
参考文献	「探究 学校図書館学」編集委員会編著『学校経営と学校図書館』(探究 学校図書館学第1巻)全国学校図書館協議会 ISBN978-4-7933-2274-7 授業中に提示									
評価方法	最終レポート・プレゼンテーション 20%、授業毎のディスカッション、グループワークの課題 60%。授業への参加態度 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	各授業終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス(学習の方法・授業評価)、								
	該当到達目標 1	予習	シラバス、授業の進め方、教科書の監修者の言葉、序文、第1章を読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。						1 時間	
		復習	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。司書教諭の資格について理解する。						2 時間	
2	講義内容	災害、パンデミック後の世界と新しい知的社会								
	該当到達目標	予習	第2章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。						1 時間	

	1	復習	専門的知識の限界、現代社会の知のあり方について理解する。	2 時間
3	講義内容	これからの学校教育とあるべき学びの形		
	該当到達目標	予習	第 3 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	新しい知を実現するための学校教育のあり方と学び方を理解する。	2 時間
4	講義内容	メディアと人間の循環		
	該当到達目標	予習	第 4 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	学校教育において、学校図書館はどうあるべきかを理解する。	2 時間
5	講義内容	学校の中の図書館		
	該当到達目標	予習	第 5 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	日本における図書館制度及び学校図書館のあり方について理解する。	2 時間
6	講義内容	学校図書館の歴史		
	該当到達目標	予習	第 6, 7 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	日本とアメリカの学校図書館史を学び、近年の課題について理解する。	2 時間
7	講義内容	日本の学校図書館の現状		
	該当到達目標	予習	第 8 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	日本の学校図書館の現状を把握し、学校図書館のあり方について理解する。	2 時間
8	講義内容	学校図書館の目的と機能		
	該当到達目標	予習	第 9 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	近代的学校教育の目的、機能を総合的に理解する。	2 時間
9	講義内容	学校図書館の図書館サービス		
	該当到達目標	予習	第 10 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	学校図書館で行われる各種サービスについて理解する。	2 時間
10	講義内容	学校図書館の教育活動		
	該当到達目標	予習	第 11 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	「読み」の教育、教育内容の改革、教育方法の改革の観点から、学校図書館に期待される教育活動について理解する。	2 時間
11	講義内容	学校図書館の担当者		
	該当到達目標	予習	第 12 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1	復習	学校図書館職員の現状を理解し、学校内の協力体制と、学校図書館専門職の成立の可能性について理解する。	2 時間
12	講義内容	学校図書館のマネジメント		
	該当到達目標	予習	第 13 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1, 2	復習	学校図書館の「マネジメント」と活動の「評価」について理解する。	2 時間
13	講義内容	学校図書館の設計		
	該当到達目標	予習	第 14 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する	1 時間

			る文献・資料などで調べておく。	
	1, 2	復習	学校図書館の目的・機能・活動を実現するための施設について理解する。	2 時間
14	講義内容	最終レポートのプレゼンテーション及びディスカッション(発表に対する質問・意見・感想)		
	該当到達目標	予習	最終レポート(詳細は講義の中で発表)を作成し、発表の準備をする。	1 時間
	1, 2	復習	最終レポートについて発表し、学生同士でディスカッションした結果を反映して内容を修正する。	2 時間
15	講義内容	学校図書館研究と学校図書館の発展、まとめ		
	該当到達目標	予習	第 15 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 教科書、配付資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師にメールで連絡する。	2 時間
	1, 2	復習	学校図書館の発展のため社会的課題は何か、何をなすべきか自分なりの学校図書館像を考えてみる。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業では、積極的に発言することを期待する。 ※オンライン(オンデマンド)で授業を行う場合 ①教材のデータを授業日の前日までに C-learning に配信する。 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートを C-learning で提出する。 ③提出されたレポートについては、コメントをつけてフィードバックする。 ④レポートの提出をもって「出席」とする。			

科目名	学校図書館メディアの構成(司書教諭)							科目ナンバリング	-	
英文名	Selection and Organization of School Library Media Resources							講義形態	講義	
担当教員	小柳 聡美									
科目に関連した実務経験	学校図書館司書として公立小中学校に勤務(現在) 教務職員として進学塾に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 司書教諭									
学位授与方針との対応	-	豊かな人間性と教養				-	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	-	専門的知識				-	自律的・意欲的に学習する力			
	-	問題発見・解決力								
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	司書教諭として、学校図書館メディアの構成が出来るようになることを目的とする。そのために学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を習得する。									
到達目標	1.学校図書館メディアの構成について、基本的な知識を身につける。 2.日本十進分類法による分類を説明できる。■ 3.学校図書館メディアを日本十進分類法により、組織化できる。■ 4.学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。■ 5.学校図書館メディアの配架ができる。■									
使用教材	『学校図書館メディアの構成』探究 学校図書館学 第2巻「探究 学校図書館学」編集委員会 編著 (全国学校図書館協議会) ISBN9784793322754									
参考文献	『情報資源組織法 第2版』志保田務 高鷲忠美 編著 平井尊士 共著(第一法規) ISBN9784474054301									
評価方法	筆記試験60%、授業時間内発表及び提出物30%、授業参加度10%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは講義内で発表時間を設け、講評する。 筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。									
オフィスアワー (研究室)	質問には講義開始前もしくは終了後に 教室等で応じます				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回に提示します。			
1	講義内容	学校図書館メディアの意義・役割								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書教諭免許を取得しようと思ったか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。							1.5 時間
	1	復習	学校図書館メディアの構成とは何かを理解する。							1.5 時間
2	講義内容	学校図書館メディアの種類・特性 ■								
	該当到達目標	予習	奥付とは何かを理解し、実例を挙げられるようにしておく。							1.5 時間
	1	復習	学校図書館メディアの定義・種類・特性を理解する。							1.5 時間
3	講義内容	学校図書館メディアの選択と構成								
	該当到達目標	予習	「図書館の自由に関する宣言」(日本図書館協会)を調べ、目を通しておく。							1.5 時間

	1,4	復習	資料選択方針について、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	学校図書館メディアの組織化(1)分類の意義と機能		
	該当到達目標	予習	分類とは何か、自分なりに説明できるようにしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類法の歴史について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	学校図書館メディアの組織化(2)日本十進分類法の概要		
	該当到達目標	予習	これまでに日本十進分類法を活用した経験について考える。	1.5 時間
	1,2	復習	類目表、綱目表、要目表について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	第1章 高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア		
	該当到達目標	予習	教科書 p9～18。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校図書館メディアについて復習する。	1.5 時間
7	講義内容	第2章 学校図書館メディアの種類と特性		
	該当到達目標	予習	教科書 p19～37。	1.5 時間
	1,2,3	復習	関連資料を読む。	1.5 時間
8	講義内容	第3章 学校図書館のコレクション構築		
	該当到達目標	予習	教科書 p38～58。	1.5 時間
	1,2,3	復習	選書において大切なことは何か説明できるようにしておく。	1.5 時間
9	講義内容	第3章 学校図書館のコレクション構築		
	該当到達目標	予習	教科書 p59～78。	1.5 時間
	1,4	復習	ファイル資料について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	第4章 学校図書館メディア組織化の意義と展開		
	該当到達目標	予習	教科書 p79～89。	1.5 時間
	1,4	復習	配架の原則、目録とは何かを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	第5章 学校図書館メディア組織化の実際:目録法		
	該当到達目標	予習	教科書 p90～114。	1.5 時間
	1,4	復習	目録規則の意義と構成について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	第6章 学校図書館メディア組織化の実際:主題索引法		
	該当到達目標	予習	教科書 p116～144。	1.5 時間
	1,4	復習	分類法、件名標目法について理解する。演習問題。	1.5 時間
13	講義内容	学校図書館メディアの組織化に伴う発表		
	該当到達目標	予習	発表準備。	1.5 時間
	1,4	復習	自分以外の発表について考察する。	1.5 時間
14	講義内容	学校図書館メディアの組織化に伴う発表		
	該当到達目標	予習	発表準備。	1.5 時間
	1,4	復習	自身の振り返りと自分以外の発表についての考察。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置 ■		
	該当到達目標	予習	自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長、改善点について考察する。NDC 第2次区分を暗記する。	1.5 時間
	1,5	復習	全講義、振り返り。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	第2回より、導入で前回の講義内容を400字でまとめて提出。 対面講義を前提としています。オンライン等で実施の場合は、改めてご連絡します。基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信します。連絡・相談にも随時応じます。 日本十進分類法 第2次区分表を暗記すること(教科書 p119 に収録されています)。 一昨年度とは使用教材が違いますので、ご注意下さい。 ■実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	学習指導と学校図書館(司書教諭)							科目ナンバリング	-	
英文名	School Curriculum and School Library							講義形態	講義	
担当教員	秋山 美和子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目:司書教諭									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と教養				—	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	—	専門的知識				—	自律的・意欲的に学習する力			
	—	問題発見・解決力				—				
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○					○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ゲストスピーカー(司書教諭、元新聞記者など)による実践的な学習を実施。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①司書教諭として、児童生徒の学習指導に学校図書館を活用し、教師の学習指導に対して支援ができるようになることを目指す。 ②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、第 3 回～第 13 回講義では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。									
到達目標	1.児童生徒が、発達段階に応じて学校図書館メディアを活用できる。 2.学習指導において、教師の学校図書館メディア活用を支援できる。									
使用教材	齋藤泰則編集『学習指導と学校図書館』(樹村房) ISBN978-4-88367-253-0 必要に応じて資料を配付									
参考文献	「探究 学校図書館学」編集委員会編著『学習指導と学校図書館』(探究 学校図書館学第 3 巻)全国学校図書館協議会 ISBN978-4-7933-2276-1 授業中に提示									
評価方法	講義ごとのディスカッション、グループワークの課題 60%。講義への参加態度 40%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各講義終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次の講義で解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。				メールアドレス (#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス(学習の方法・授業評価について説明する)、学習と図書館								
	該当到達目標	予習	シラバス、授業の進め方、教科書の監修者の言葉から第 1 章を読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。						1 時間	
	1,2	復習	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。学習と図書館の役割について理解する。						2 時間	
2	講義内容	『学習指導要領』と学校図書館								
	該当到達目標	予習	第 2 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。						1 時間	
	2	復習	学習指導要領における学校図書館について理解する。						2 時間	
3	講義内容	探求的な学習の理論と学校図書館の情報資源								
	該当到達目標	予習	第 3 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する						1 時間	

			文献・資料などで調べておく。	
	1, 2	復習	探求的な学習の理論と学校図書館の役割について理解する。	2 時間
	講義内容	学習指導における問題点の設定		
4	該当到達目標	予習	第 4 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	探求的な学習における問題の設定について理解する。	2 時間
	講義内容	情報リテラシーの内容と指導方法		
5	該当到達目標	予習	第 5 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	情報リテラシーを身につけるための指導方法について理解する。	2 時間
	講義内容	情報リテラシーと探求的な学習 1 ゲストスピーカー(元新聞記者)による特別講義		
6	該当到達目標	予習	第 6 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	探求的な学習における図書館の情報資源の活用について理解する。	2 時間
	講義内容	情報リテラシーと探求的な学習 2		
7	該当到達目標	予習	第 7 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	情報の探索方法について理解する。	2 時間
	講義内容	情報リテラシーと探求的な学習 3		
8	該当到達目標	予習	第 8 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	情報の加工・整理・発信の方法について理解する。	2 時間
	講義内容	レファレンスサービスによる学習支援		
9	該当到達目標	予習	第 9 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	レファレンスサービスとレファレンス協同データベースの活用方法について理解し、活用できるようにする。	2 時間
	講義内容	教職員の学校図書館活用		
10	該当到達目標	予習	第 10 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	2	復習	教育課程の展開に寄与する学校図書館の作り方、活用方法について理解する。	2 時間
	講義内容	小学校における学校図書館の活用 1 ゲストスピーカー(司書教諭)による特別講義		
11	該当到達目標	予習	第 11 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。ゲストスピーカーの実践事例について調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	司書教諭の学校内における役割、教科における ICT の活用、紙資料とデジタル資料のベストミックスの考え方について理解する。	2 時間
	講義内容	小学校における学校図書館の活用 2		
12	該当到達目標	予習	第 12 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2	復習	小学校の総合的な学習の時間、探求学習における学校図書館の活用について理解する。特別講義のふりかえりを行い、他の学生の意見を参考にしながら自分の意見をまとめる。	2 時間

13	講義内容	中学校・高等学校における学校図書館の活用			
	該当到達目標 1,2	予習	第 13、14 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間	
		復習	小学校と中学校・高等学校における学校図書館の活用方法の違いについて理解する。また、教科連携事例について理解する。	2 時間	
14	講義内容	探求的な学習成果の評価			
	該当到達目標 2	予習	第 15 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間	
		復習	探求的な学習成果の評価と図書館の情報資源の活用について理解する。	2 時間	
15	講義内容	講義のまとめ			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書、配布資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師に事前に連絡する。	2 時間	
		復習	学習指導に学校図書館を活用し、教職員に対して指導できるようになる。	1 時間	
合計時間(予習・復習)				45 時間	
備考	講義では、積極的に発言することを期待する。 学習指導に学校図書館を活用する意義を理解し、現場で応用できるスキルを身につけること。 ※オンライン(オンデマンド)で授業を行う場合 ①教材のデータを授業日の前日までに C-learning に配信する。 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートを C-learning で提出する。 ③提出されたレポートについては、コメントをつけてフィードバックする。 ④レポートの提出をもって「出席」とする。				

科目名	読書と豊かな人間性(司書教諭)							科目ナンバリング	-	
英文名	Theories of Reading and Personal Development in Schools							講義形態	講義	
担当教員	秋山 美和子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
関連資格	免許・資格指定科目: 司書教諭									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と教養				—	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	—	専門的知識				—	自律的・意欲的に学習する力			
	—	問題発見・解決力								
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ゲストスピーカー(作家など)による実践的な学習を実施。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①学校図書館の読書センターとしての役割の実際を把握し、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解することができるようになることを目指す。 ②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、第 3 回～第 13 回講義では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッション、実技を行い、課題の提出を求める。									
到達目標	1.読書の意義と目的を理解し、生涯にわたる読書習慣を身につけるための指導ができる。 2.発達段階に応じた読書の指導と計画の立案ができる。 3.児童生徒に適した資料(紙・デジタル)を理解し、有効活用を図るための支援ができる。									
使用教材	朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』(樹村房) ISBN978-4-88367-093-2 必要に応じて資料を配布									
参考文献	「探究 学校図書館学」編集委員会編著『読書と豊かな人間性』(探究 学校図書館学第 4 巻)全国学校図書館協議会 ISBN978-4-7933-2277-8 授業中に提示									
評価方法	最終課題・プレゼンテーション 20%、授業毎のディスカッション、グループワークの課題 60%。授業への参加態度 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各授業終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。									
オフィスアワー(研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。				メールアドレス(#→@)	メールアドレスは初回授業時に提示する。				
1	講義内容	現代における読書の意義								
	該当到達目標 1	予習	シラバス、授業の進め方、教科書の監修者の言葉、序文、第 1 章を読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。						1 時間	
		復習	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。現代における読書の意義について理解する。						2 時間	
2	講義内容	学校教育における読書(1)識字教育、心の教育、文学教育としての読書								
	該当到達目標 1	予習	第 2 章 1.2.3 を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。						1 時間	
		復習	識字教育、心の教育、科学教育としての読書について理解する。						2 時間	
3	講義内容	学校教育における読書(2)科学教育としての読書、探求のための読書								

	該当到達目標 1	予習	教科書の第2章4を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	科学教育、探求のための読書について理解する。本の構成を知り、読書のレベルに応じた読み方を理解する。	2 時間
4	講義内容		発達段階と読書(1) 発達課題と読書興味、幼少期の読書とその指導	
	該当到達目標 1,2,3	予習	第3章1,2を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	発達課題と読書興味について理解するとともに、幼少期における読み聞かせ等の重要性について理解する。	2 時間
5	講義内容		発達段階と読書(2) 小学校期・中学校期・高等学校期の読書とその指導 ゲストスピーカー(作家等)による特別講義	
	該当到達目標 1,2,3	予習	第3章3,4,5及びゲストスピーカーに関する資料を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	小・中・高校期の読書とその指導について理解する。また、ゲストスピーカーの講義から、この時期の読書が、その人の人生にどのような影響を与えるのかも理解する。	2 時間
6	講義内容		読書指導の実際(読書環境の整備、読書指導計画、教科指導と読書指導)	
	該当到達目標 2	予習	第4章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	読書環境の整備、読書指導計画、教科指導・生活指導と読書指導について理解する。	2 時間
7	講義内容		読書指導の方法(1) パネルシアター・読み聞かせ・ブックトーク	
	該当到達目標 1,2,3	予習	第5章1.2.3を読み、読書指導の方法・効果を理解した上で、実演のための準備をする。	2 時間
		復習	実演を経験することで、実際の現場で活用できるようにする。	1 時間
8	講義内容		読書指導の方法(2) アニメーション・読書会	
	該当到達目標 1,2,3	予習	第5章4を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	読書指導の方法としてのアニメーションと読書会の意義について理解し、自らが運営できるようにする。	2 時間
9	講義内容		読書指導の方法(3) 読書感想文・読書感想画・朝読書	
	該当到達目標 1,2,3	予習	第5章5.6.7.8を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	読書感想文の意義・課題等を理解し、適切に指導できるようにする。朝読書の有効性を実施方法を理解する。	2 時間
10	講義内容		生涯学習への読書(選択能力の育成、批判能力・討論能力の育成)	
	該当到達目標 1,3	予習	第6章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
		復習	読書材の選択能力・批判能力・討論能力について理解し、指導できるようにする。また、家庭・地域、公共図書館との連携について理解する。	2 時間
11	講義内容		読書材の選択	
	該当到達目標 1,2,3	予習	第7章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	2 時間
		復習	読書材の選択の方法を理解し、適切にテーマを選び、読書材が提供できるようにする。	1 時間

12	講義内容	読書活動における司書教諭の役割		
	該当到達目標	予習	第 8 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	3	復習	学校図書館の整備と司書教諭による読書指導のあり方について理解する。	2 時間
13	講義内容	子どもの読書活動の推進		
	該当到達目標	予習	第 9 章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1 時間
	1,2,3	復習	子どもの読書活動を推進するための「読書旬間」の取組について、企画できるようにする。	2 時間
14	講義内容	最終課題のプレゼンテーション及びディスカッション（発表に対する質問・意見・感想）		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションの準備	2 時間
	1,2,3	復習	各グループのプレゼンテーションを聞き、ディスカッションを行うことにより、司書教諭としての事業の企画力を身につける。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書、配布資料、ノート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師にメールで連絡する。	2 時間
	1,2,3	復習	読書の意義と目的を理解し、資料を使った適切な読書指導ができるようにする。	1 時間
合計時間（予習・復習）				45 時間
備考	授業では、積極的に発言することを期待する。 読書の意義を理解し、現場で応用できるスキルを身につけること。 ※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合 ①教材のデータを授業日の前日までに C-learning に配信する。 ②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートを C-learning で提出する。 ③提出されたレポートについては、コメントをつけてフィードバックする。 ④レポートの提出をもって「出席」とする。			

科目名	情報メディアの活用(司書教諭)							科目ナンバリング	-	
英文名	Utilization of School Library Media							講義形態	講義	
担当教員	太田 克子									
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験) 司書として県総合教育センター教育専門図書館を担当(経験)									
学年・開講期	4 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
関連資格	免許・資格指定科目: 司書教諭									
学位授与方針との対応	-	豊かな人間性と教養				-	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	-	専門的知識				-	自律的・意欲的に学習する力			
	-	問題発見・解決力								
SDGs との関連	① ③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 講義の目標 1 学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用法を理解する。 2 知的財産権や情報リテラシー、社会的連携や特別支援など情報を活用する上で必要な知識を身につける。 ② 講義の実施方法 配付資料と PowerPoint の提示、参考図書など実物の使用法を示して説明する。復習として、情報資源を活用した情報検索等の課題を課す。課題 1・2 については、POP 制作、リーフレット制作、PowerPoint 制作、紙芝居実演から選択するものとする。受講生にはそれらの成果を互いに共有し、意見交換の時間を設ける。毎回、振り返りを行う。									
到達目標	1. 情報メディアの特性を理解し選択できる。■ 2. 個人情報保護など情報に関連した権利やモラル(情報リテラシー)について説明できる。■ 3. 視聴覚メディアの活用ができる。■ 4. 教育活動において、インターネット情報資源や紙媒体の情報資源を活用できる。■ 5. 学校図書館メディアと著作権について理解する。■									
使用教材	C-learning または講義中に資料を配付する。									
参考文献	『10 代からの情報キャッチボール入門』下村健一著 岩波書店 2015 年 『みんなでつくろう学校図書館』成田康子著 岩波書店 2012 年									
評価方法	平常点 70% (毎回の課題、授業貢献度)、課題 30% 総合評価 60%以上で合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	得点または、コメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木 2 限(研究室 1 号館5階 509)				メールアドレス (#→@)	ota-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	学校図書館との関わりを考えてくる。						1.5	時間
	1,2	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。						1.5	時間
2	講義内容	情報化社会における情報リテラシー ■								
	該当到達目標	予習	身の回りのメディアをどう活用しているか考えてくる。						1.5	時間
	1,2	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。						1.5	時間
3	講義内容	情報メディアの特性 ■								

	該当到達目標 1,2	予習	大学図書館内を巡って,どのようなメディアを備えているか確認する。	1.5	時間
		復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	1.5	時間
4	講義内容	情報検索の基礎■			
	該当到達目標	予習	論理演算子を確認する。	1.5	時間
	1,2,4	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	1.5	時間
5	講義内容	伝統的な情報資源の特性と活用法■			
	該当到達目標	予習	紙媒体の辞書・事典の特性を考えてくる。	1.0	時間
	1,4	復習	課題1の制作をする。C-learning で講義の振り返りを行う。	2.0	時間
6	講義内容	課題1のプレゼンテーション■			
	該当到達目標	予習	課題1の制作をする。	2.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	0.5	時間
7	講義内容	図書・雑誌・新聞の探し方■			
	該当到達目標	予習	大学図書館で新聞 DB を使う。	1.5	時間
	1,4	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。大学図書館契約の e-book を使う。	1.5	時間
8	講義内容	情報通信の基盤の技術的背景(インターネットの歴史を含む) ■			
	該当到達目標	予習	インターネット利用上の情報セキュリティの例を考える。	1.5	時間
	1,2	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	1.5	時間
9	講義内容	言葉・事柄・統計の探し方 ,歴史・日時の探し方■			
	該当到達目標	予習	大学図書館で百科事典、年鑑等を確認する	1.5	時間
	1,4	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。大学図書館契約の DB を使う。	1.5	時間
10	講義内容	課題解決学習のテーマの決め方 ■			
	該当到達目標	予習	KJ 法を調べる。	1.5	時間
	1,4	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	1.5	時間
11	講義内容	地理・地名・地図の探し方,人物・企業・団体の探し方■			
	該当到達目標	予習	大学図書館で地名辞典や人名事典を確認する。	1.5	時間
	1,4	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	1.5	時間
12	講義内容	学校教育と著作権■			
	該当到達目標	予習	学校教育における著作権の問題を 3 つ以上考えてくる。	2.5	時間
	2,5	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	0.5	時間
13	講義内容	特別支援教育と学校図書館、学校図書館で備えるメディア機器■			
	該当到達目標	予習	学校図書館における特別支援を考える。	1.5	時間
	1,3,4,5	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	1.5	時間
14	講義内容	法令・判例・特許の探し方■			
	該当到達目標	予習	著作権に関する判例を調べてくる。	0.5	時間
	1,4	復習	課題 2 の制作をする。C-learning で講義の振り返りを行う。	2.5	時間
15	講義内容	課題2 制作物の発表■			
	該当到達目標	予習	課題 2 の制作をする。	2.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	C-learning で講義の振り返りを行う。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間
備考	この科目は、提出課題が多い科目です。受講者は提出課題が多いことを理解のうえ受講してください。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)				